元総社蒼海遺跡群

元総社小見Ⅳ遺跡

平成15年度一般県道足門前橋線バイパス（西毛広域幹線道路国分寺工区）
緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社蒼海遺跡群

元総社小見Ⅳ遺跡

平成15年度一般県道足門前橋線バイパス（西毛広域幹線道路国分寺工区）
緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社小見Ⅳ遺跡　調査区南側全景（北から）

元総社小見Ⅳ遺跡出土遺物

元総社小見Ⅳ遺跡調査区中央全景（南から）

元総社小見Ⅳ遺跡出土瓦

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背景に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世・近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡・遺物が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域には800余基の存在が伝えられています。その中には大室４古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も９基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府の存在が示すとおり政治、宗教、経済の中心地として花開き一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東４名城の一つに数えられる前橋城が築かれました。まさに、前橋市はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

今年度発掘調査を行いました元総社小見Ⅳ遺跡は、前橋市の西部、国分僧寺と国分尼寺の中間南に位置します。主に竪穴住居跡が検出され、律令期以前、律令期、律令期以後の国分僧寺・国分尼寺周辺の集落の変遷を考える上で貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたり、ご理解とご協力を賜りました市関係部局、地元関係者の方々、厳しい気候の中調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。本報告書が市史究明の一助となることを祈念して序といたします。

平成16年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長　**阿　部　明　雄**

例　　言

1．本報告書は、平成15年度一般県道足門前橋線バイパス（西毛広域幹線道路　国分寺工区）緊急地方道路整備事業に伴う元総社小見Ⅳ遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3．発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市元総社町地内
発掘調査期間	平成15年６月18日～平成15年８月１日
整理・報告書作成期間	平成15年８月４日～平成16年３月12日
発掘・整理担当者	髙橋一彦・高坂麻子（発掘調査係員）

4．本書の原稿執筆・編集は髙橋・高坂が行った。
5．瓦について松田猛氏（群馬郡倉渕村立川浦小学校教頭）にご教示をいただいた。
6．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
石原義夫・岩木　操・大澤俊夫・大嶋洋平・岸フクエ・斉藤亀寿・白石　晃・須田博治・角田　愷
渡木秋子・中澤光江・平林しのぶ・湯浅たま江・湯浅道子・阿部シゲ子・神澤とし江・橋本　茂
7．発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。
2．挿図に建設省国土地理院発行の１/200,000地形図（宇都宮、長野）、１/25,000地形図（前橋）、１/2,500前橋市現形図を使用した。
3．遺跡の略称は、元総社小見Ⅳ遺跡：15Ａ107である。
4．本遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
Ｊ…縄文時代の竪穴住居跡　　Ｈ…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　　Ｗ…溝跡
Ｄ…土坑　　Ｏ…落ち込み　　Ｐ…ピット・貯蔵穴（住居内P_5を貯蔵穴とした。）
5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺構　住居跡・溝跡・土坑・落ち込み・ピット…１/60　竈断面図…１/30　全体図…１/200
遺物　土器・鉄製品…１/３、１/４　石器・石製品…１/３、１/４　瓦…１/５　銭貨…１/１
6．計測値については、（　　）は現存値、［　　］は復元値を表す。
7．セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示す。
◎は非常に締まり・粘性あり、○は締まり・粘性あり、△は締まり・粘性ややあり、×は締まり・粘性なしを表す。
8．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。
遺構平面図　焼　土…　　灰…
遺構断面図　構　築　面…
遺物実測図　須恵器断面…　　炭化物（煤付着など）…　　黒色処理…
灰釉陶器断面…　　灰釉陶器内面…
9．火山降下物の略称と年代は次のとおりである。
As―B　（浅間Ｂ軽石：供給火山・浅間山、1108年）
Hr―FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）
Hr―FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）
As―C　（浅間Ｃ軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半～中葉）

目　次

序 …… i

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地 …… 1

2　歴史的環境 …… 1

Ⅲ　調査の経過

1　調査方針 …… 7

2　調査経過 …… 7

Ⅳ　基本層序 …… 8

Ⅴ　遺構と遺物

1　竪穴住居跡 …… 9

2　溝跡 …… 19

3　落ち込み …… 19

4　土坑・柱穴 …… 19

5　グリッド等出土遺物 …… 19

Ⅵ　考察 …… 37

図　　版

口絵　1　調査区南側全景（北から）
　　2　元総社小見Ⅳ遺跡出土遺物
　　3　調査区中央全景（南から）
　　4　元総社小見Ⅳ遺跡出土瓦

ＰＬ．1　調査区中央部全景、Ｊ－１～３号住居跡、Ｈ－２号住居跡
　　2　Ｈ－３～５・７号住居跡全景
　　3　Ｈ－６・８・９号住居跡全景
　　4　Ｈ－10・11号住居跡全景
　　5　Ｈ－12～16号住居跡全景
　　6　Ｈ－17～22号住居跡全景
　　7　Ｈ－22～26号住居跡全景
　　8　Ｈ－27～31号住居跡全景、Ｗ－２号溝跡全景
　　9　Ｊ－１～３号住居跡出土の土器
　　10　遺構外、Ｈ－２～６号住居跡出土の土器
　　11　Ｈ－３・６・８・９号住居跡出土の土器
　　12　Ｈ－９・10号住居跡出土の土器
　　13　Ｈ－10～12号住居跡出土の土器
　　14　Ｈ－12～15号住居跡出土の土器
　　15　Ｈ－15・17・20～22号住居跡出土の土器
　　16　Ｈ－17・22～28・31号住居跡出土の土器
　　17　Ｈ－29・31号住居跡、グリッド出土の土器、Ｈ－４・８号住居跡出土の土器
　　18　Ｈ－８～10号住居跡出土の瓦
　　19　Ｈ－10号住居跡出土の瓦
　　20　Ｈ－10号住居跡出土の瓦
　　21　Ｈ－10・11号住居跡出土の瓦
　　22　Ｈ－10・11～13・24号住居跡出土の瓦
　　23　Ｈ－22～25・28号住居跡、遺構外出土の瓦
　　24　Ｊ－１・３、Ｈ－10～12・14・17・20～22号住居跡、グリッド出土の鉄器、古銭、石器

挿　　図

Fig.　1　元総社蒼海遺跡群位置図
　　2　周辺遺跡図
　　3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
　　4　調査経過図
　　5　基本層序
　　6　時期別の竪穴住居配置図
　　7　文字瓦・記号瓦・瓦当文様
　　8　元総社小見Ⅳ遺跡全体図
　　9　Ｊ－１・２号住居跡
　　10　Ｊ－３・Ｈ－１・２号住居跡
　　11　Ｈ－３～５号住居跡
　　12　Ｈ－６～８号住居跡
　　13　Ｈ－９・10号住居跡
　　14　Ｈ－10・11号住居跡
　　15　Ｈ－12～14号住居跡
　　16　Ｈ－15～17号住居跡
　　17　Ｈ－18～21号住居跡
　　18　Ｈ－22～24号住居跡
　　19　Ｈ－25～27号住居跡
　　20　Ｈ－28～31号住居跡
　　21　Ｗ－１・２号溝跡、Ｏ－１号落ち込み、Ｄ－１号土坑、Ｐ－１・２号ピット
　　22　Ｊ－１～３号住居跡出土縄文土器
　　23　遺構外出土縄文土器、Ｈ－２～３号住居跡出土土器
　　24　Ｈ－３～８号住居跡出土土器
　　25　Ｈ－８・９号住居跡出土土器、Ｈ－８号住居跡出土土錘

26　H－10号住居跡出土土器
27　H－10・11号住居跡出土土器
28　H－11・12号住居跡出土土器
29　H－12・13号住居跡出土土器
30　H－13～15号住居跡出土土器
31　H－15・17号住居跡出土土器
32　H－19～23号住居跡出土土器
33　H－23～26号住居跡出土土器、
　　H－24号住居跡出土土錘
34　H－26～29・31号住居跡、D－1号
　　土坑出土土器、グリッド出土土錘
35　瓦1～7
36　瓦8～15
37　瓦16～23
38　瓦24～31
39　瓦32～35
40　瓦36～38
41　瓦39～42
42　瓦43～50
43　瓦51～61
44　瓦62～70
45　瓦71・72・74・75
46　瓦73・76～78
47　瓦79～84
48　瓦85～94
49　瓦95～102
50　瓦103～113
51　瓦114～123
52　瓦124～132
53　瓦133～139・141
54　瓦140・142～148
55　瓦149～155
56　瓦156～162
57　鉄製品、古銭、石器
58　石器

表

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群　周辺遺跡概要一覧表
2　住居跡一覧表
3　竈跡一覧表
4　溝跡計測表
5　土坑・ピット・落ち込み計測表
6　出土遺物観察表（縄文）
7　出土遺物観察表（奈良・平安）
8　瓦観察表
9　鉄器・鉄製品観察表
10　石器・石製品観察表
11　瓦叩き具の種類別出土瓦片
12　瓦の種類と胎土
13　文字・記号瓦

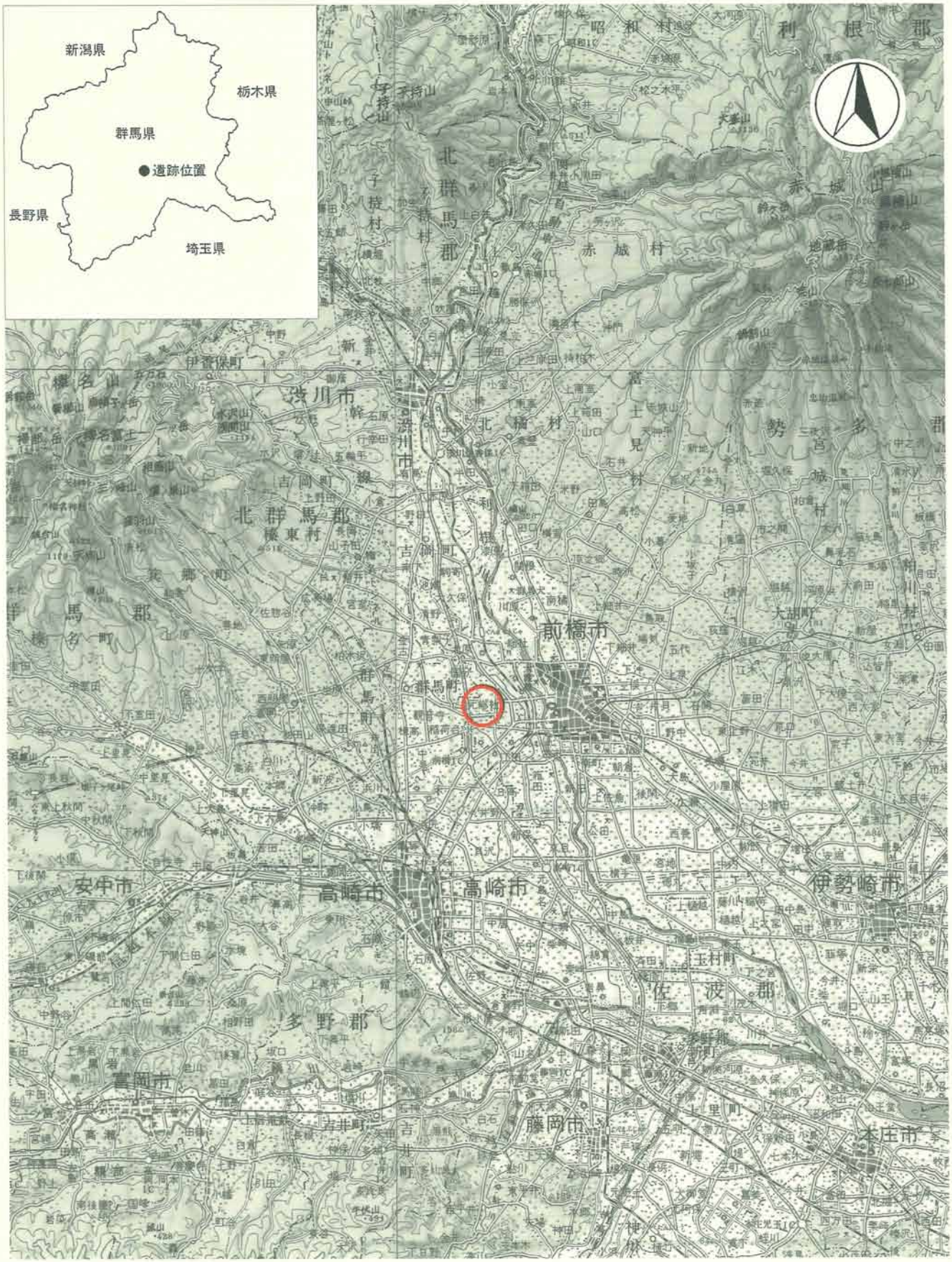


Fig.1　元総社蒼海遺跡群位置図

I　調査に至る経緯

平成15年２月18日付けで、群馬県高崎土木事務所より県道足門前橋線バイパス（西毛幹線道路国分寺工区）緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄に対し、調査実施を通知し、調査団はこれを受諾した。

平成15年５月29日、調査依頼者である群馬県高崎土木事務所と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、６月18日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社小見Ⅳ遺跡」の「小見」は旧地籍の小字名を採用し、ローマ数字の「Ⅳ」は過年度に調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

II　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地（洪積台地）利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯（洪積低地）の4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24，000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高３ｍ～5ｍを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約4kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。関越自動車道の側道脇に位置しており、交通量の多い場所である。遺跡地の南側には国道17号・主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。

2　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡のおもに北に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の総社二子山古墳、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳・蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。

奈良・平安時代に至ると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や、「國厨」・「曹司」・「国」・「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元総社宅地遺跡がある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東外郭線が想定されるに至った。さらに、元総社小見内Ⅲ遺跡からは、国分尼寺の東南隅から国府に向かうと思われる溝跡が検出されており、昨年度調査が行われた元総社小見内Ⅳ遺跡からもこの溝の延長と思われる溝跡が検出されている。また、元総社小見内Ⅲ遺跡からは官人の用いたと考えられる円面硯、巡方（腰帯具）も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約１km南の地点にN－64°－E方向の東山道（国府ルート）があることが推定される。また、日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年（1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われていく。これにより、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

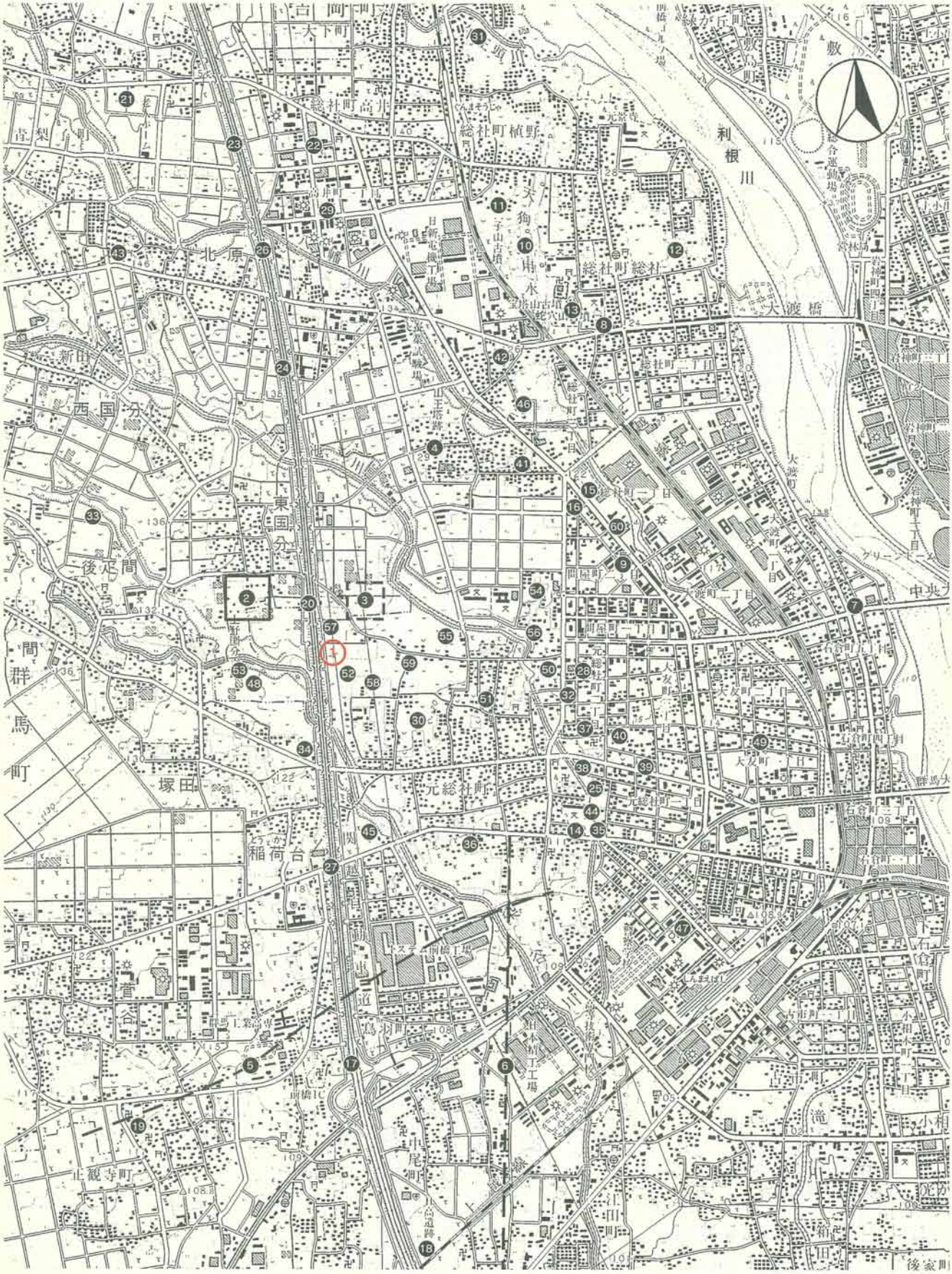

利根川
大渡橋
総社町植野
総社町総社
元総社町
稲荷台
北原
西国分
東国分
後疋間
塚田
馬
群
町
1:25,000
500m
0
500
1000
1500

Fig.2　周辺遺跡図

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表　　※年代の（　　）は調査開始年度

番号	遺　跡　名	調査年度	時　代：主な遺構・出土遺物
1	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980 ～ 1988	奈　良：金堂基壇、塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈　良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	古　墳：塔心礎、根巻石
5	東山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	王山古墳	1972	古　墳：前方後円墳（６Ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古　墳：方墳（８Ｃ初）
9	稲荷山古墳	1988	古　墳：円墳（６Ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古　墳：円墳（７Ｃ初）
11	総社二子山古墳	未調査	古　墳：前方後円墳（６Ｃ末～７Ｃ初）
12	遠見山古墳	未調査	古　墳：前方後円墳（５Ｃ後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古　墳：方墳（７Ｃ末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平　安：掘立柱建物跡、柱穴群、周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄　文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄　文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良･平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥　生：水田跡、方形周溝墓、住居跡、木製農耕具 平　安：条里制水田跡
19	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979 ～ 1981	弥　生：住居跡 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡 中　世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域 (事業団)	1980 ～ 1983	縄　文：住居跡、配石遺構 弥　生：住居跡、方形周溝墓 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡 中　世：掘立柱建物跡、溝状遺構、道路状遺構
21	清里南部遺跡群 清里南部遺跡群Ⅲ	1980	縄　文：ピット 奈良･平安：住居跡、溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良･平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980 ～ 1984	縄　文：屋外埋甕 弥　生：住居跡 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡、柵列 中　世：住居跡、溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡
	国分境Ⅱ遺跡	1991	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡
	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、畠跡 中　世：土坑墓
25	元総社明神遺跡　Ⅰ～ⅩⅢ	1982 ～ 1996	古　墳：住居跡、水田跡、堀跡 奈良･平安：住居跡、溝跡、大形人形 中　世：住居跡、溝跡、天目茶碗
26	北原遺跡（群馬町）	1982	縄　文：土坑、集石遺構 古　墳：水田跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡（事業団）	1978 ～ 1983	古　墳：住居跡、鍛冶場跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡（神殿跡）
28	閑泉樋遺跡	1983	奈良･平安：溝跡（上幅6.5~７ｍ、下幅3.24ｍ、深さ２ｍ）
29	柿木遺跡	1983	奈良･平安：住居跡、溝跡
	柿木Ⅱ遺跡	1988	
30	草作遺跡	1984	古　墳：住居跡 平　安：住居跡 中　世：井戸跡(蒼海城に伴う)
31	桜ヶ丘遺跡		弥　生：住居跡
	総社桜ヶ丘遺跡	1985	平　安：住居跡
	総社桜ヶ丘Ⅱ遺跡	1987	奈良･平安：住居跡
32	閑泉樋南遺跡	1985	古　墳：住居跡（鬼高期） 奈良･平安：溝跡
33	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985 ～ 1987	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡 中　世：道路状遺構
34	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平　安：住居跡
35	寺田遺跡	1986	平　安：溝跡、木製品

	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
36	天神遺跡 天神Ⅱ遺跡	1986 1988	奈良･平安：住居跡
37	屋敷遺跡 屋敷Ⅱ遺跡	1986 1995	古　墳：住居跡 平　安：住居跡 中　世：堀跡、石敷遺構
38	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古　墳：住居跡 平　安：住居跡、溝跡、地下式土坑
39	堰越遺跡	1987	奈良･平安：住居跡、溝跡
40	堰越Ⅱ遺跡	1988	平　安：住居跡
41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良･平安：住居跡
42	村東遺跡	1988	古　墳：住居跡、溝跡 奈良･平安：住居跡 中　世：堀跡
43	熊野谷遺跡 熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1988 1989	縄　文：住居跡 平　安：住居跡、溝跡 平　安：住居跡
44	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ (事業団)	1988 ～ 1991	古　墳：水田跡、溝跡 奈良･平安：住居跡、溝跡、人形、斎串、墨書土器 中　世：溝跡
45	弥勒遺跡 弥勒Ⅱ遺跡	1989 1995	古　墳：住居跡 平　安：住居跡
46	大屋敷遺跡　Ⅰ～Ⅵ	1992 ～ 2000	縄　文：住居跡 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡 中　世：掘立柱建物跡、地下式土坑、溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄　文：土坑 平　安：住居跡、瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古　墳：住居跡 平　安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平　安：水田跡
50	総社閑泉明神北遺跡 総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	1999 2001	古　墳：畠跡、水田跡、溝 中　世：溝跡 古　墳：住居跡、溝跡 平　安：住居跡、溝跡
51	元総社宅地遺跡　1～23ﾄﾚﾝﾁ	2000	古　墳：住居跡 平　安：住居跡、掘立柱建物跡、鍛冶場跡、溝跡、道路状遺構 中　世：溝跡 近　世：住居跡、(五輪塔の一部、埦類)
52	元総社小見遺跡	2000	縄　文：住居跡 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、道路状遺構
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古　墳：住居跡、畠跡 奈良･平安：住居跡、溝跡
54	総社甲稲荷塚大道西遺跡 総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001 2001	奈良･平安：住居跡、溝跡 中　世：畠跡 近　世：溝跡 古　墳：住居跡、 奈良･平安：住居跡、溝跡 近　世：溝跡
55	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古　墳：住居跡、溝跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡、溝跡 中　世：掘立柱建物跡、溝跡
56	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡 総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002 2002	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、畠跡、溝跡 縄　文：住居跡 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡
57	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄　文：住居跡 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡 中　世：溝跡、道路状遺構
58	元総社小見Ⅲ遺跡 元総社草作Ⅴ遺跡	2002 2002	縄　文：住居跡 古　墳：住居跡、 奈良･平安：住居跡、溝跡 中　世：溝跡、道路状遺構 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡 中　世：溝跡
59	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡、溝跡 中　世：土坑墓、掘立柱建物跡、溝跡
60	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、溝跡、竈構築材採掘痕、井戸跡

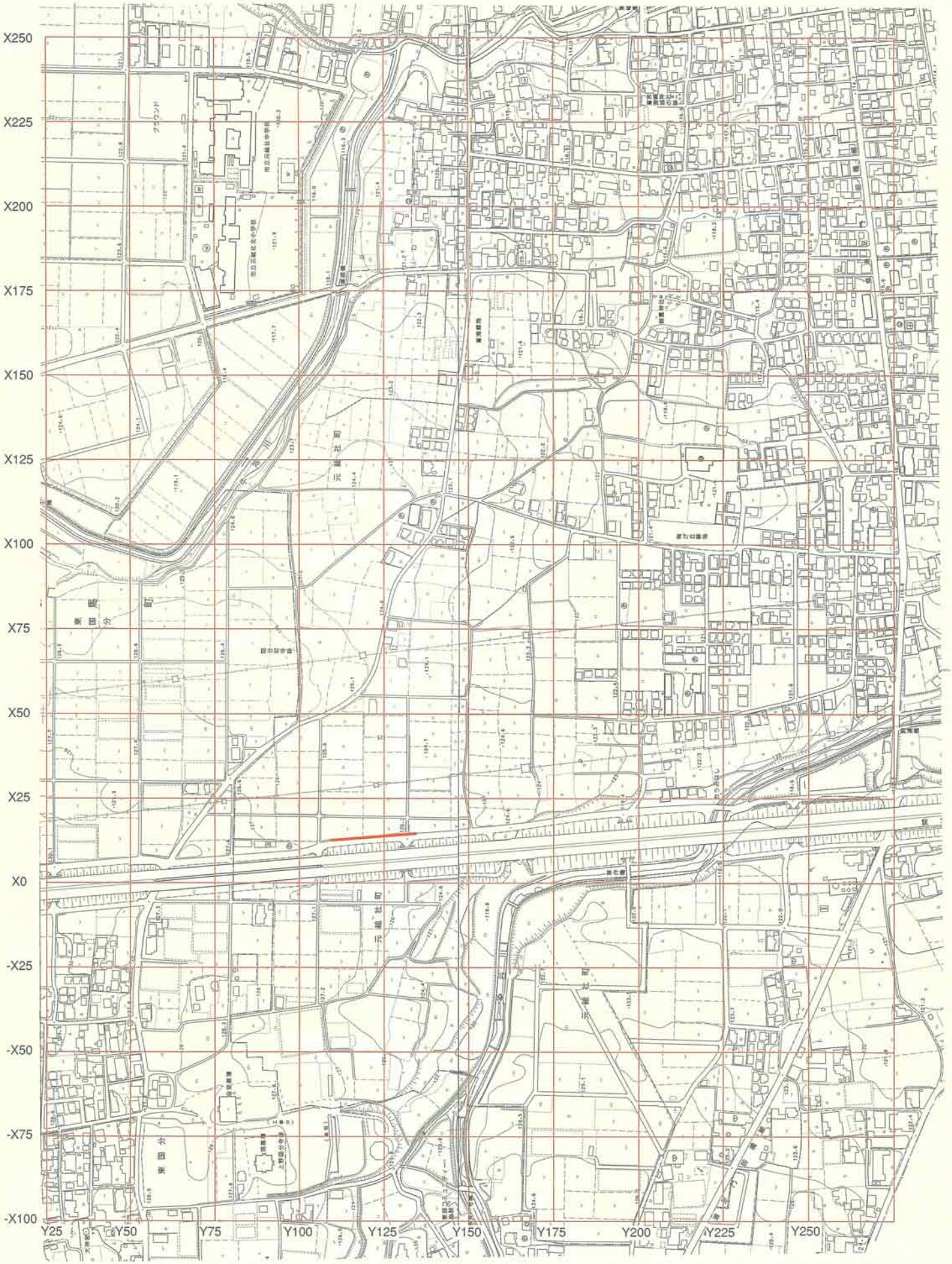


Fig.3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査方針

委託調査箇所は、県道足門前橋線バイパス（西毛幹線道路国分寺工区）緊急地方道路整備事業の道路予定地で、本調査が必要とされた地域（586.56㎡）である。グリッドについては、４ｍピッチで西から東へＸ14、Ｘ15、Ｘ16…と、北から南へＹ106、Ｙ107、Ｙ108…と付番し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のＸ15・Ｙ116の公共座標は次のとおりである。

世界測地系	Ｘ＝＋43890.9079	Ｙ＝－72431.7512	［新座標］
	Ｘ＝＋43536.000	Ｙ＝－72140.000	［旧座標］
緯　　度	36°23′34″．28496	経　　度	139°01′33″．24395
子午線収差角	28′44″．707	増　大　率	0.99996462

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の順で行った。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として１/20、住居跡竈は１/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過

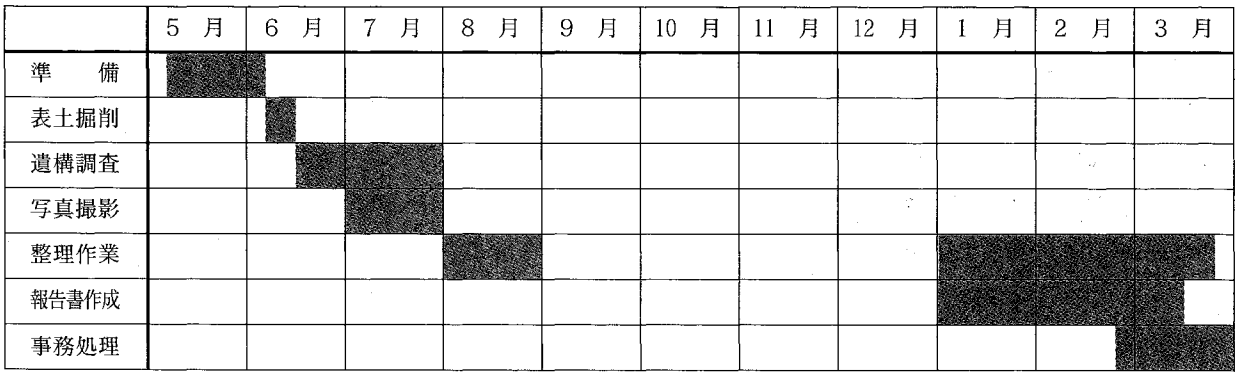
本遺跡の発掘調査は、委託契約を５月29日に締結し、６月18日より現地調査を開始した。

調査区は高速道路の側道沿いで交通量が激しいため、安全対策には万全を期した。はじめに調査区の南側から重機（バックフォー0.4㎥）で表土掘削を行った。それと並行して、鋤簾による遺構確認を行った。調査区は南北に長く、最北部は幅1.5～２ｍと非常に狭いため、その後小型の重機（バックフォー0.25㎥）によって表土掘削を行った。20日に杭打ちを行い、遺構の掘下・精査に入った。当初、住居跡を把握するのに苦労したものの、10数軒の住居を確認し調査に取りかかった。しかし、梅雨時期であったため数回にわたって作業中断を余儀なくされた。その後調査は順調に進み、７月25日に高所作業車で調査区全景の写真撮影を行い、一旦調査を終了した。

７月29日、重機（バックフォー0.4㎥）でさらに下層の表土掘削を行った結果、住居数軒を確認したため2面目の調査に取りかかり、８月１日に調査を終了した。その後、８月３日より現場事務所において土器洗いや図面整理等を行った。

11月27日より文化財保護課に戻り、遺物、図面、写真等の整理作業に取り組んだ。その後も整理作業を続行し、３月12日までにすべての作業を完成させる運びとなった。

Fig4. 調査経過図



Ⅳ　基本層序

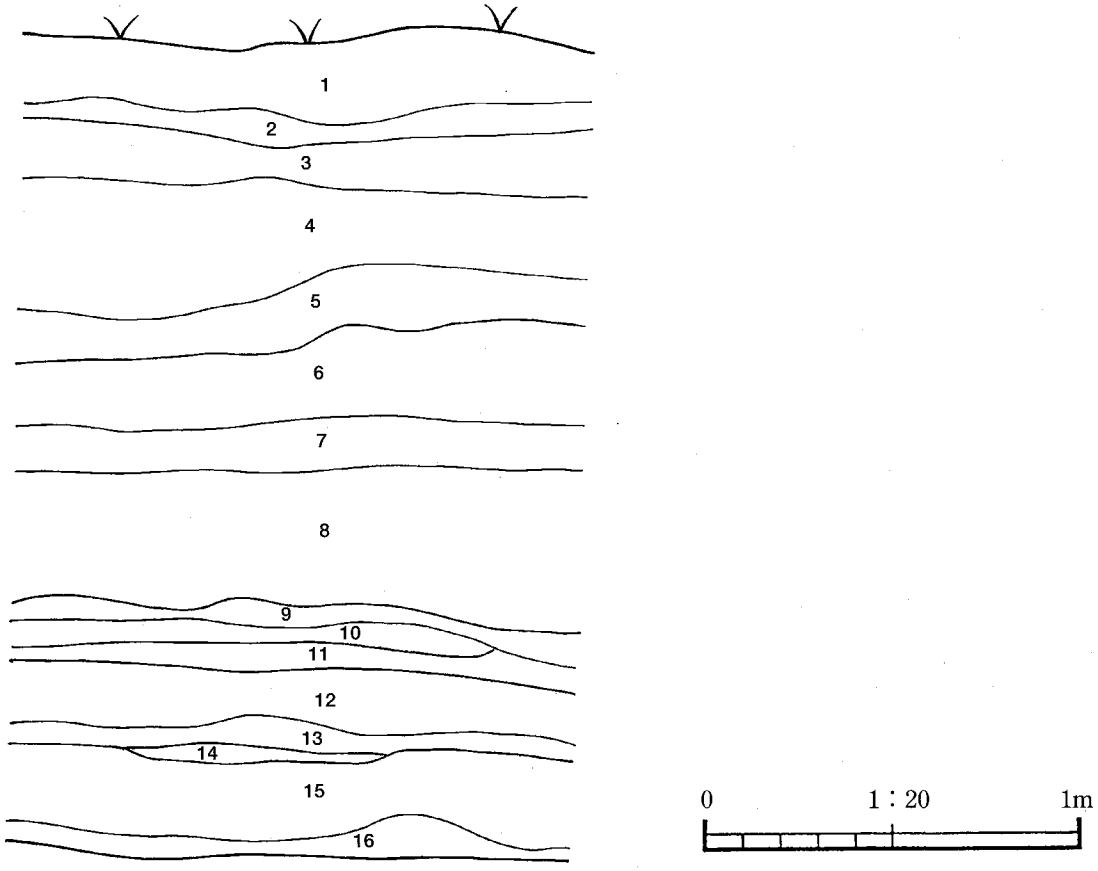


Fig.5　基本層序

本遺跡地内の地層の堆積は、以下の通りである。

1　10 YR 3/3　暗褐色細砂層　○×
現耕作土。〈厚さ20cm前後。〉

2　5 YR 5/6　明赤褐色細砂層　○×
鉄分凝集層。〈厚さ10cm前後。〉

3　10 YR 4/2　灰黄褐色細砂層　○×
As-B混じる、Hr-FP1%含む。
〈厚さ15cm前後。〉

4　10 YR 3/2　黒褐色細砂層　○△
As-C5%、Hr-FP1%含む。〈厚さ30cm前後。〉

5　10 YR 2/2　黒褐色細砂層　△○
As-C7%含む。〈厚さ15cm前後。〉

6　10 YR 2/3　黒褐色細砂層　○○
As-C2%含む。〈厚さ20cm前後。〉

7　10 YR 3/4　暗褐色細砂層　○○
ローム漸移層。〈厚さ15cm前後。〉

8　10 YR 4/6　褐色細砂層　○◎
粘質の地山。〈厚さ30cm前後。〉

9　10 YR 5/6　黄褐色微砂層　○×
サラサラの砂層。〈厚さ5cm前後。〉

10　10 YR 6/4　にぶい黄橙色細砂層　○◎
粘質土。〈厚さ5cm前後。〉

11　10 YR 6/6　明黄褐色微砂層　○○
〈厚さ5cm前後。〉

12　10 YR 6/3　にぶい黄橙色細砂層　○○
〈厚さ15cm前後。〉

13　10 YR 5/3　にぶい黄褐色粗砂層　○×
総社砂層。〈厚さ5cm前後。〉

14　10 YR 6/4　黄橙色微砂層　○○
粘土層。〈厚さ5cm前後。〉

15　10 YR 5/4　にぶい黄褐色粗砂層　○×
砂利と粘土の混土層。〈厚さ20cm前後。〉

16　10 YR 6/3　にぶい黄橙色細砂層　○○
粘土層。

V　遺構と遺物

1　竪穴住居跡

（住居跡の出土遺物の項目については、遺構の重複からどの住居跡の遺物か特定できないものがあるため、所属する住居跡が特定でき本報告書で図示した遺物のみの記述とした。）

Ｊ－１号住居跡（Fig. 9、PL. 1）

位　置　X15～17、Y126・127グリッド　**主軸方向**　（N－70°－E）　**面　積**　（14.91）㎡

形状等　楕円形と推定される。東西（4.78）m、南北4.48m、壁現高50.0cmを測る。

床　面　ローム層を掘り込んだ堅緻な床面を検出。中央やや東寄りに炉と思われる落ち込みを検出したが、焼土・炭化物などは検出されなかった。P_1（長軸×短軸×深さ、形状：33×28×35cm、円形）、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：40×27×34cm、楕円形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：33×28×29.5cm、円形）、P_4（長軸×短軸×深さ、形状：30×25×40.5cm、円形）、P_5（長軸×短軸×深さ、形状：28×26×27cm、円形）、P_6（長軸×短軸×深さ、形状：28×25×23.5cm、円形）の６基を検出した。

時　期　埋土や出土遺物から縄文中期と考えられる。

遺　物　総数407点。そのうち深鉢10点、打製石斧１点を図示した。

Ｊ－２号住居跡（Fig. 9、PL. 1）

位　置　X15、Y113・114グリッド　**主軸方向**　（N－８°－W）　**面　積**　（10.78）㎡

形状等　大部分が調査区外のため全容は不明であるが楕円形と推定される。東西（2.70）m、南北3.50m、壁現高29.0cmを測る。

床　面　ローム層を掘り込んだ堅緻な床面を検出。中央部に川原石などで組まれた炉と思われる集石あり。その周辺は特に堅緻である。炉の東半分は調査区外のため詳細は不明である。P_1（長軸×短軸×深さ、形状：33×28×22.5cm、円形）、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：40×34×16cm、円形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：40×34×15cm、円形）の３基を検出した。

時　期　埋土や出土遺物から縄文中期と考えられる。

遺　物　総数66点。そのうち深鉢４点、土製円盤１点を図示した。

Ｊ－３号住居跡（Fig.10、PL. 1）

位　置　X15～17、Y123～125グリッド　**主軸方向**　（N－31°－W）　**面　積**　（13.67）㎡

形状等　大部分が調査区外のため全容は不明であるが円形と推定される。東西（3.90）m、南北（4.72）m、壁現高31.0cmを測る。

床　面　ローム層を掘り込んだ堅緻な床面を検出。P_1（長軸×短軸×深さ、形状：30×27×28cm、円形）、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：30×26×37.5cm、円形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：44×32×33cm、楕円形）の３基を検出した。

時　期　埋土や出土遺物から縄文中期と考えられる。

遺　物　総数193点。そのうち深鉢４点、鉢１点、磨製石斧１点を図示した。

H－1号住居跡（Fig.10、PL.－）

位　置　X14、Y105・106グリッド　**主軸方向**　竈先端のみの検出のため不明である。　**面　積**　(1.20) ㎡

形状等　竈先端のみの検出のため不明である。

床　面　竈先端のみの検出のため不明である。

竈　東壁南隅より検出され、主軸方向（N－85°－E）であり、全長（25）cm、最大幅（48）cm、焚口部幅（30）cmを測る。袖石の構築材として灰白色粘土を使用している。

重　複　なし。

時　期　時期を確定する遺物の出土がなく、埋土からも不明である。

遺　物　なし。

H－2号住居跡（Fig.10、PL.1）

位　置　X14、Y106・107グリッド　**主軸方向**　（N－86°－E）　**面　積**　(6.95) ㎡

形状等　大部分が調査区外のため全容は不明であるが、西壁隅は丸みを帯びる。東西（0.45）m、南北3.00m、壁現高10.0cmを測る。

床　面　一部のみの検出のため全容は不明であるが、竈の前に堅緻な床面がわずかに確認された。

竈　東壁南寄りより検出され、主軸方向N－88°－Eであり、全長40cm、最大幅56cm、焚口部幅32cmを測る。竈の前に灰を多く散らす。

重　複　H－21・H－22と重複し、新旧関係はH－21→H－22→本遺構の順である。

時　期　埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

遺　物　総数89点。そのうち土師坏1点を図示した。

H－3号住居跡（Fig.11、PL.2）

位　置　X14、Y107・108グリッド　**主軸方向**　（N－86°－E）　**面　積**　(10.27) ㎡

形状等　一部が調査区外のため全容は不明であるが東壁隅は丸みを帯び、方形と推定される。東西（1.88）m、南北3.34m、壁現高29.5cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面で、堅緻な部分は2/3程度確認。

竈　東壁中央より検出され、主軸方向N－96°－Eであり、全長64cm、最大幅69cm、焚口部幅35cmを測る。角柱状に加工された凝灰岩の天井石が竈の前に落ちた状態で検出された。袖石には角柱状に加工した凝灰岩を、壁面の補強材として石及び瓦を、支柱石には河原石を使用する。

重　複　H－26と重複し、新旧関係はH－26→本遺構の順である。

時　期　埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

遺　物　総数547点。そのうち須恵坏３点、（８世紀後半の流れ込みと思われる１点を含む）、須恵高台埦２点、須恵足高高台埦１点、羽釜４点、平瓦２点を図示した。

H－4号住居跡（Fig.11、PL.2）

位　置　X14、Y110グリッド　**主軸方向**　（N－105°－E）　**面　積**　(5.95) ㎡

形状等　大部分が調査区外のため全容は不明である。東西（1.80）m、南北（3.06）m、壁現高12.0cmを測る。

床　面　竈の前に非常に堅緻な床面を残す。

竈　東壁南隅より検出され、主軸方向［N－107°－E］であり、全長（50）cm、最大幅（62）cm、焚口部幅（40）cmを測る。右袖石の構築材は角柱状に加工した凝灰岩を使用する。竈の前に灰を多く散らす。

貯蔵穴　住居の南東隅に１基（長軸×短軸×深さ、形状：77×61×24cm、楕円形）を検出。

重　複　なし。

時　期　埋土や出土遺物から9世紀中葉以降と考えられる。

遺　物　総数64点。そのうち土師坏２点、平瓦１点、丸瓦１点、軒丸瓦１点を図示。

Ｈ－５号住居跡（Fig.11、PL.２）

位　置　X14・15、Y110・111グリッド　**主軸方向**　（N－５°－W）　**面　積**　(8.67) ㎡

形状等　一部調査区外のため全容は不明であるが、西壁隅は丸みを帯び、方形と推定される。東西（1.71）m、南北［2.90］m、壁現高8.0cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。堅緻な床面はわずかに残る。

竈　調査区外のため検出されず。

重　複　なし。

時　期　埋土や出土遺物から10世紀後半～末期と考えられる。

遺　物　総数44点。そのうち須恵高台埦１点、須恵足高高台埦１点、平瓦１点を図示した。

Ｈ－６号住居跡（Fig.12、PL.３）

位　置　X14・15、Y111グリッド　**主軸方向**　（N－87°－E）　**面　積**　(8.19) ㎡

形状等　大部分が調査区外である上に、W－１に切られ全容は不明である。東西（1.12）m、南北（2.40）m、壁現高33.0cmを測る。

床　面　部分的な検出のため明確ではないが、一部に堅緻な床面が残る。竈の前は特に堅緻である。

竈　東壁より検出され、やや長い煙道を持つ。主軸方向N－72°－Eであり、全長123cm、最大幅75cm、焚口部幅34cmを測る。右袖石に円柱状の石、左袖石に８世紀後半のものと思われる長胴甕を伏せた状態で使用する。

重　複　W－２と重複し、新旧関係は本遺構→W－２の順である。

時　期　埋土や出土遺物から７世紀末～８世紀初頭と考えられる。

遺　物　総数107点。そのうち土師坏１点、土師台付甕１点、土師長胴甕３点を図示した。

Ｈ－７号住居跡（Fig.12、PL.２）

位　置　X14・15、Y114・115グリッド　**主軸方向**　竈先端のみ検出のため不明である。　**面　積**　(1.59) ㎡

形状等　竈先端のみ検出のため不明である。

床　面　竈先端のみ検出のため不明である。

竈　東壁より検出され、主軸方向（N－83°－E）であると考えられ、全長（35）cm、最大幅（57）cm、焚口部幅（34）cmを測る。先端部より壁の補強材として使用されたと思われる石を検出する。

重　複　H－８と重複し、新旧関係はH－８→本遺構の順である。

時　期　埋土や出土遺物に乏しく時代判定は難しいが、重複関係から９世紀後半以降のものと考えられる。

遺　物　総数21点。

Ｈ－８号住居跡（Fig.12、PL.３）

位　置　X14・15、Y114～116グリッド　**主軸方向**　（N－87°－E）　**面　積**　(17.65) ㎡

形状等　一部調査区外のため全容は不明であるが東壁隅は丸みを帯び、方形と推定される。東西（3.30）m、南北［4.93］m、壁現高30.0cmを測る。

床　面　他の住居に切られすべてを確認できないが、堅緻な床面がわずかに残る。竈の前は特に締まりが強い。

竈　東壁中央北寄りより検出され、主軸方向（N－84°－E）であり、全長（90）cm、最大幅92cm、焚口部幅60cmを測る。構築材（補強材）として瓦を、左袖石には角柱状に加工された凝灰岩を使用する。竈および竈周辺の壁は粘土を貼り補強する。

重　複　H－7・H－10・H－24・H－27と重複し、新旧関係はH－27→本遺構→H－10→H－24→H－7の順である。

時　期　埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

遺　物　総数575点。そのうち須恵坏1点、須恵蓋2点、土師甕1点、土錘1点、平瓦8点（うち、「山田」の押印と「干」の篦書き記号をもつもの1点、「五子」の押印をもつもの1点）、丸瓦8点を図示した。

H－9号住居跡（Fig.13、PL.3）

位　置　X15・16、Y118・119グリッド　**主軸方向**　（N－86°－E）　**面　積**　（17.21）㎡

形状等　一部調査区外である上重複も激しく、全容は不明であるが東壁隅は直角的に曲がり、方形と推定される。東西（3.90）m、南北［4.74］m、壁現高31.5cmを測る。

床　面　住居が複雑に重複しているため判然としないが、堅緻な床面をわずかに確認した。

竈　東壁中央より検出され、主軸方向N－85°－Eであり、全長（75）cm、最大幅（76）cm、焚口部幅（43）cmを測る。

貯蔵穴　住居の南東隅に1基（長軸×短軸×深さ、形状：86×80×30cm、円形）を検出。

重　複　H－11・H－23・H－31と重複し、新旧関係はH－31→本遺構→H－23→H－11の順である。

時　期　埋土や出土遺物から9世紀初頭と考えられる。

遺　物　総数803点。そのうち土師坏2点、須恵坏6点（10世紀前半の流れ込みと思われる1点を含む）、須恵高台埦2点、土師甕2点、紡錘車1点、平瓦2点（うち「山田」の押印をもつもの1点）、丸瓦2点を図示した。

H－10号住居跡（Fig.13・14、PL.4）

位　置　X14～16、Y116・117グリッド　**主軸方向**　（N－85°－E）　**面　積**　（17.10）㎡

形状等　一部調査区外である上重複しているため全容は不明であるが、方形と推定される。東西（3.34）m、南北（4.97）m、壁現高48.5cmを測る。

床　面　住居が複雑に重複し、全体的に柔らかく安定しないが、一部に堅緻な床面を残し、竈の前南寄りに灰層を検出。湿気除けと考えられる。住居内北東部に床下土坑P_4（長軸×短軸×深さ、形状：75cm×61cm×24cm、円形）を検出。

竈　東壁南中央より検出され、主軸方向N－92°－Eであり、全長（124）cm、最大幅（99）cm、焚口部幅（62）cmを測る。壁の構築材としてとして瓦（20点）を、右袖石・支柱石に角柱状に加工された凝灰岩を、左袖石には石を使用する。竈周辺の壁も数枚の瓦で補強している。

重　複　H－8と重複し、新旧関係はH－8→本遺構の順である。

時　期　埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

遺　物　総数2,334点（うち瓦片354点）。そのうち土師坏2点、土師甕1点、須恵坏7点、須恵高台埦4点、須

恵蓋２点、須恵長頸壺２点、須恵大甕２点、打製石斧１点、鏃１点、古銭（隆平永宝：795年、皇朝十二銭）１点、平瓦29点（うち「干」の篦書きをもつもの2点、「里士」の篦書きをもつもの1点、「圖」の押印をもつもの1点、「十」の篦書き記号もつもの1点、「二」の篦書き記号をもつもの1点）、軒平瓦３点（右偏行唐草文の瓦当をもつもの２点、三重弧文をもつもの1点）、丸瓦23点を図示した。

Ｈ－11号住居跡（Fig.14、PL.４）

位　置　Ｘ15・16、Ｙ119・120グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－84°－Ｅ）　**面　積**　（16.75）㎡

形状等　一部調査区外のため全容は不明であるが、東壁北隅は丸みを帯び、隅丸方形と推定される。東西（4.0）m、南北4.86m、壁現高35.5cmを測る。

床　面　全体的に柔らかく安定しないが、堅緻な床面をわずかに確認。竈の前南寄りに灰層を確認。

竈　東壁中央より検出され、主軸方向Ｎ－82°－Ｅであり、全長（66）cm、最大幅（84）cm、焚口部幅（47）cmを測る。

重　複　Ｈ－９・Ｈ－28・Ｈ－31と重複し、新旧関係はＨ－31→Ｈ－９→Ｈ－23→本遺構の順である。

時　期　埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

遺　物　総数1,610点。そのうち須恵坏６点（９世紀後半の流れ込みと思われる４点を含む）、須恵高台埦２点、須恵蓋１点（９世紀後半の流れ込みと思われる）、須恵広口甕１点、須恵羽釜３点、土師甕２点、打製石斧１点、石鏃１点、石突状金具１点、平瓦19点（うち「伴一」の篦書きをもつもの１点、「手」の篦書きをもつもの１点、「万？」の篦書き記号をもつもの１点）、丸瓦13点を図示した。

Ｈ－12号住居跡（Fig.15、PL.５）

位　置　Ｘ15、Ｙ120・121グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－84°－Ｅ）　**面　積**　（13.85）㎡

形状等　大部分が調査区外のため全容は不明であるが方形と推定される。東壁竈南には棚として使用されたと思われる粘土で固められた高まりが検出された。東西（2.12）m、南北4.50m、壁現高43.5cmを測る。

床　面　堅緻な床面を1/2程度確認。竈の前に扁平な川原石を置く。

竈　東壁中央南寄りより検出され、主軸方向Ｎ－91°－Ｅであり、全長（85）cm、最大幅（100）cm、焚口部幅（48）cmを測る。両袖石に角柱状に加工された凝灰岩を使用する。左袖石は残存状態が悪い。

貯蔵穴　住居の南東隅に1基（長軸×短軸×深さ、形状：107×64×22.5cm、楕円形）を検出。

重　複　なし。

時　期　埋土や出土遺物から10世紀半ばと考えられる。

遺　物　総数445点。そのうち須恵坏１点、須恵高台埦４点、灰釉高台埦１点、須恵羽釜１点、土師甕２点、石鏃１点、丸瓦２点（うち「石」の篦書きをもつもの１点）を図示した。

Ｈ－13号住居跡（Fig.15、PL.５）

位　置　Ｘ15・16、Ｙ121・122グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－84°－Ｅ）　**面　積**　（12.83）㎡

形状等　一部調査区外のため全容は不明であるが方形と推定される。東西4.40m、南北（2.15）m、壁現高49.5cmを測る。

床　面　平坦な床面。竈の前及び北西部は締まりが強い。

竈　東壁中央より検出され、主軸方向（Ｎ－76°－Ｅ）であり、全長89cm、最大幅66cm、焚口部幅40cmを測る。両袖石に角柱状に加工した凝灰岩を、壁の補強材として凝灰岩を使用する。

重　複　なし。

時　期　埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

遺　物　総数393点。そのうち土師坏１点、須恵坏１点、須恵蓋１点、須恵大甕１点、土師甕１点、鉄製工具１点、平瓦１点、丸瓦３点を図示した。

Ｈ－14号住居跡（Fig15、PL.５）

位　置　Ｘ15・16、Ｙ122・123グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－ 86°－Ｅ）　**面　積**　(9.84) ㎡

形状等　一部分のみの検出のため不明である。東西（2.10）ｍ、南北（2.81）ｍ、壁現高19.0cmを測る。

床　面　平坦な床面。竈の前は締まりが強い。

竈　東壁南寄りより検出され、主軸方向Ｎ－ 101°－Ｅであり、全長70cm、最大幅55cm、焚口部幅31cmを測る。竈突き出し部南には支柱石として使用されたと思われる川原石を残す。

貯蔵穴　住居の南東隅に（長軸×短軸×深さ、形状：57×45×40.5cm、楕円形）の１基を検出。

重　複　なし。

時　期　埋土や出土遺物から10世紀半ばと考えられる。

遺　物　総数180点。そのうち須恵坏２点、須恵高台椀２点、須恵羽釜３点、打製石斧１点、丸瓦１点を図示した。

Ｈ－15号住居跡（Fig.16、PL.５）

位　置　Ｘ16、Ｙ122・123グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－ 75°－Ｗ）　**面　積**　(13.52) ㎡

形状等　一部調査区外のため全容は不明であるが、西壁隅は丸みを帯び、方形と推定される。東西（3.15）ｍ、南北4.48ｍ、壁現高40.5cmを測る。北壁西半分から住居西壁、南壁西半分にかけて周溝を検出。

床　面　全体的に堅緻な床面を確認。

竈　調査区外のため検出されず。

重　複　なし。

時　期　埋土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

遺　物　総数243点。そのうち土師坏２点、須恵坏２点、須恵蓋１点を図示した。

Ｈ－16号住居跡（Fig.16、PL.５）

位　置　Ｘ15、Ｙ124グリッド　**主軸方向**　竈先端のみの検出のため不明である。　**面　積**　(2.02) ㎡

形状等　竈先端のみの検出のため不明である。

床　面　竈先端のみの検出のため不明である。

竈　東壁より検出され、主軸方向（Ｎ－ 84°－Ｅ）であり、全長（41）cm、最大幅（76）cm、焚口部幅（50）cmを測る。

重　複　Ｈ－17と重複し、新旧関係はＨ－17→本遺構の順である。

時　期　一部分のみの検出で出土遺物に乏しく確認しづらいが、埋土や重複関係から７世紀前半以降と考えられる。

遺　物　総数11点。

H－17号住居跡（Fig.16、PL.6）

位　置　X15・16、Y124・125グリッド　**主軸方向**　（N－25°－W）　**面　積**　（15.94）㎡

形状等　一部調査区外のため全容は不明であるが方形と推定される。東西（4.35）m、南北4.60m、壁現高35.5cmを測る。

床　面　全体的にきわめて堅緻な床面を確認。中央に炉が崩れたものと思われる集石あり。P_2（長軸48cm×短軸44cm×深さ46.5cm、形状：円形）、P_3（長軸40cm×短軸34cm×深さ69cm、形状：円形）、P_4（長軸42cm×短軸51cm×深さ45.5cm、形状：楕円形）の３基を検出した。

貯蔵穴　住居の南東隅に１基（長軸×短軸×深さ、形状：75×63×45.5cm、楕円形）を検出。

重　複　H－16・H－19と重複し、新旧関係は本遺構→H－16→H－19の順。

時　期　埋土や出土遺物から古墳時代末期、７世紀前半と考えられる。

遺　物　総数412点。そのうち土師坏４点、土師甑２点、須恵高坏１点、土師甕３点、打製石斧２点を図示した。

H－18号住居跡（Fig.17、PL.6）

位　置　X16、Y125グリッド　**主軸方向**　竈のみの検出のため不明である。　**面　積**　（3.57）㎡

形状等　遺構確認面より下を掘り下げたため大部分を削平され、竈のみの検出のため不明である。

床　面　竈のみの検出のため不明であるが、竈前に堅緻な粘土の貼り床が残る。

竈　東壁より検出され、主軸方向N－104°－Eであり、全長114cm、最大幅67cm、焚口部幅34cmを測る。内壁の補強材に石および凝灰岩を使用し、粘土で袖を固める。

重　複　H－20・W－２と重複し、新旧関係はH－20→W－２→本遺構の順。

時　期　竈のみの検出のため出土遺物に乏しく、時代判定は難しいが、重複関係から8世紀以降と考えられる。

遺　物　総数29点。

H－19号住居跡（Fig.17、PL.6）

位　置　X15、Y125グリッド　**主軸方向**　（N－88°－E）　**面　積**　（8.47）㎡

形状等　一部分のみの検出のため不明であるが、東壁隅は丸みを帯びる。東西（0.47）m、南北（3.47）m、壁現高22.5cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。竈の前は締まりが強い。

竈　東壁南寄りより検出され、主軸方向N－82°－Eであり、全長102cm、最大幅65cm、焚口部幅39cmを測る。構築材として袖石に円柱状の石を使用。竈の側面より炭化物を検出。

重　複　H－17と重複し、新旧関係はH－17→本遺構の順である。

時　期　埋土や出土遺物から９世紀後半～10世紀初頭と考えられる。

遺　物　総数47点。そのうち須恵羽釜１点を図示した。

H－20号住居跡（Fig.17、PL.6）

位　置　X16・17、Y124・125グリッド　**主軸方向**　（N－5°－E）　**面　積**　（11.06）㎡

形状等　一部調査区外のため全容は不明であるが方形と推定される。東西（2.67）m、南北［3.57］m、壁現高21.0cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面で締まりの強い部分をわずかに確認。P_2（長軸×短軸×深さ、形状：47cm×46cm×23.5cm、円形）を検出した。

竈　調査区外のため検出されず。

重　複　H－18・W－２と重複し、新旧関係は本遺構→W－２→H－18の順である。

時　期　埋土や出土遺物から７世紀末～８世紀初頭と考えられる。

遺　物　総数219点。そのうち土師坏２点、土師甕１点、鉄鏃１点を図示した。

H－21号住居跡（Fig.17、PL.６）

位　置　X14、Y106・107グリッド　**主軸方向**　（N－31°－W）　**面　積**　(9.14) ㎡

形状等　一部調査区外のため全容は不明であるが、東壁南隅は丸みを帯びる。東西［2.10］m、南北［3.35］m、壁現高40.0cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面だが、一部に堅緻な部分を確認。

竈　調査区外のため検出されず。

重　複　H－２・H－22・H－26と重複し、新旧関係はH－26→本遺構→H－22→H－２の順である。

時　期　埋土や出土遺物、重複関係から9世紀前半と考えられる。

遺　物　総数185点。そのうち土師坏２点、須恵蓋１点、須恵高台椀２点、窪み石１点、鉄釘１点を図示した。

H－22号住居跡（Fig.18、PL.６・７）

位　置　X14、Y106・107グリッド　**主軸方向**　（N－86°－E）　**面　積**　(11.50) ㎡

形状等　一部分のみの検出のため、全容は不明であるが、東隅は丸みを帯び、方形と推定される。東西［1.10］m、南北［4.73］m、壁現高13.0cmを測る。

床　面　平坦ではあるが、堅緻な部分は確認されず。

竈　上部を削平され判然としないが、東壁南寄りより検出され、主軸方向N－86°－Eであり、全長42cm、最大幅47cm、焚口部幅31cmを測る。

貯蔵穴　住居の南東隅に１基（長軸×短軸×深さ、形状：96×53×35cm、楕円形）を検出。

重　複　H－２・H－21・H－26と重複し、新旧関係はH－26→H－21→本遺構→H－２の順である。

時　期　埋土や出土遺物、重複関係から9世紀前半と考えられる。

遺　物　総数131点。そのうち土師坏２点、土師台付甕１点、打製石斧１点、平瓦２点、丸瓦１点を図示した。

H－23号住居跡（Fig.18、PL.７）

位　置　X15、Y118グリッド　**主軸方向**　（N－86°－E）　**面　積**　(11.42) ㎡

形状等　大部分は調査区外である上、遺構検出面を大幅に掘り下げたため削平が著しく、全容は不明であるが、方形と推定される。東西（1.45）m、南北［3.51］m、壁現高46.0cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。竈前にやや締まりが強い。

竈　東壁中央より検出され、やや長い煙道を持ち、主軸方向N－95°－Eであり、全長143cm、最大幅80cm、焚口部幅39cmを測る。構築材として支柱石に円柱状に加工した石を使用する。

重　複　H－９・H－25・H－29と重複し、新旧関係はH－25→H－９→H－29→本遺構の順である。

時　期　埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

遺　物　総数472点。そのうち須恵高台椀１点、須恵皿１点、須恵蓋１点（９世紀前半の流れ込みと思われる）、土師甕２点、平瓦３点、丸瓦３点、軒丸瓦１点を図示した。

H－24号住居跡（Fig.18、PL.7）

位　置　X14・15、Y114・115グリッド　**主軸方向**　（N－109°－E）　**面　積**　（10.46）㎡

形状等　大部分は調査区外であるうえ重複が激しく全容は不明であるが、方形と考えられ、東壁隅は丸みを帯びる。東西［2.15］m、南北［3.16］m、壁現高38.0cmを測る。

床　面　全体的に平坦だが遺構確認面より掘り下げてしまったため、わずかな床面確認するのみである。竈の前は締まりが強い。

竈　東壁中央より検出され、主軸方向N－102°－Eであり、全長（105）cm、最大幅82cm、焚口部幅60cmを測る。壁の補強材に凝灰岩を、両袖石に角柱状に加工された凝灰岩を使用する。

重　複　H－7・H－8・H－27と重複し、新旧関係は切り合いからH－27→H－8→本遺構→H－7の順である。

時　期　埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

遺　物　総数164点。そのうち土師坏1点、須恵高台埦1点、土錘1点、平瓦5点、丸瓦6点を図示した。

H－25号住居跡（Fig.19、PL.7）

位　置　X15・16、Y117・118グリッド　**主軸方向**　（N－84°－E）　**面　積**　（15.37）㎡

形状等　四隅が調査区外のため全容は不明である。東西（4.20）m、南北［3.68］m、壁現高51.0cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面で所々に締まりの強い面を確認。全体的に焼土を多く散らす。

竈　調査区外のため検出されず。

重　複　H－23・H－25・H－29・H－30と重複し、新旧関係は切り合いからH－30→本遺構→H－29→H－23の順である。

時　期　埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

遺　物　総数36点。そのうち須恵坏1点、須恵高台埦1点、須恵短頸壺1点、平瓦3点（うち「日」の篦書きを持つもの1点）を図示した。

H－26号住居跡（Fig.19、PL.7）

位　置　X14、Y107・108グリッド　**主軸方向**　（N－5°－W）　**面　積**　（10.06）㎡

形状等　大部分が調査区外のため全容は不明である。東西（2.28）m、南北（2.92）mを測る。壁現高は床面のみ検出のため測定不可能。

床　面　全体的に平坦だが、住居北西部は締まりが強い。

竈　調査区外のため検出されず。

重　複　H－3・H－21・H－22と重複し、新旧関係は本遺構→H－21→H－22→H－3の順である。

時　期　埋土や出土遺物から8世紀末と考えられる。

遺　物　総数257点。そのうち土師坏2点、須恵盤1点、土師甕1点を図示した。

H－27号住居跡（Fig.19、PL.8）

位　置　X15、Y114・115グリッド　**主軸方向**　（N－87°－E）　**面　積**　（9.70）㎡

形状等　2面目の調査で確認。一部調査区外のうえ遺構確認面以下に掘り下げてしまったため大部分が削平され、全容は不明であるが、西壁隅は丸みを帯び東西に延びる長方形と推定される。東西（2.68）m、南北（2.52）mを測り、壁現高は床面のみ検出のため測定不可能。

床　面　全体的に平坦だが、大部分が削平され判然としない。調査区内東際の竈前に堅緻な床面を確認。

竈　調査区外のため検出されず。

重　複　H－８・H－24と重複し、新旧関係は切り合いから本遺構→H－８→H－24の順である。

時　期　埋土や出土遺物から９世紀前半と考えられる。

遺　物　総数45点。そのうち須恵坏１点、土師坩１点、土師甕１点を図示した。

H－28号住居跡（Fig.20、PL.８）

位　置　X15・16、Y116・117グリッド　**主軸方向**　（N－３°－W）　**面　積**　（12.40）㎡

形状等　２面目の調査で確認。東半分がが調査区外のため、全容は不明であるが、西壁隅はやや丸みを持ち、方形と推定される。東西（2.06）m、南北［4.68］m、壁現高18.5cmを測る。

床　面　全体的に平坦だが住居内西部に堅緻な床面を確認。

竈　調査区外のため検出されず。

重　複　H－11と重複し、新旧関係は本遺構→H－11の順である。

時　期　埋土や出土遺物から９世紀前半と考えられる。

遺　物　総数256点。そのうち須恵坏１点、平瓦１点を図示した。

H－29号住居跡（Fig.20、PL.８）

位　置　X15・16、Y117・118グリッド　**主軸方向**　（N－84°－E）　面積　（13.50）㎡

形状等　重複により全容は不明であるが、方形と推定される。東西（3.22）m、南北（3.57）m、壁現高9.0cmを測る。

床　面　全体的に平坦で堅緻な面をわずかに確認。

竈　後世の住居（H－30）に削平され、底部を残すのみである。東壁南寄りより検出され、主軸方向（N－80°－E）であり、全長（60）cm、最大幅（63）cmを測る。

重　複　H－30と重複し、新旧関係はH－30→本遺構の順である。

時　期　埋土や出土遺物、重複関係から9世紀前半と考えられる。

遺　物　総数105点。そのうち須恵坏１点を図示した。

H－30号住居跡（Fig.20、PL.８）

位　置　X15・16、Y117・118グリッド　**主軸方向**　（N－７°－W）　**面　積**　（10.30）㎡

形状等　２面目の調査で確認。東半分が調査区外のため、全容は不明だが西壁隅は丸みを帯び、方形と推定される。東西（1.73）m、南北（3.73）m、壁現高13.0cmを測る。

床　面　全体的に平坦だが一部に堅緻な面を確認。

竈　調査区外のため検出されず。

重　複　H－25・H－29と重複し、新旧関係は切り合いから本遺構→H－25→H－29の順である。

時　期　出土遺物が少ないため、埋土および重複関係からの判断となるが9世紀前半以前と考えられる。

遺　物　総数３点。そのうち丸瓦1点を図示した。

H－31号住居跡（Fig.20、PL.８）

位　置　X16、Y118・119グリッド　**主軸方向**　（N－５°－W）　**面　積**　（11.08）㎡

形状等　２面目の調査で確認。東半分が調査区外のため全容は不明であるが、西壁隅は丸みを帯び、方形と推定される。東西1.33m、南北（4.62）m、壁現高17.0cmを測る。

床　面　全体的に平坦で一部に堅緻な床面を確認。

竈　調査区外のため検出されず。

重　複　Ｈ－９・Ｈ－11と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－９→Ｈ－11の順である。

時　期　埋土や出土遺物から８世紀末～９世紀初頭と考えられる。

遺　物　総数47点。そのうち土師坏１点、須恵坏１点、須恵壺１点、平瓦１点を図示した。

2　溝　　跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.21、PL.８）

位　置　Ｘ14・15、Ｙ111・112グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－82°－Ｅ）

形状等　断面形は埦底状を呈する。

時　期　埋土や出土遺物から中世と考えられる。

遺　物　総数19点。

備　考　セクションより硬化面を確認、道として使用された可能性あり。

Ｗ－２号溝跡（Fig.21、PL.８）

位　置　Ｘ15～17、Ｙ125・126グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－74°－Ｅ）

形状等　断面形はＵ字形を呈する。

重　複　Ｈ－18・Ｈ－20と重複し、新旧関係はＨ－20→本遺構→Ｈ－18の順である。

時　期　埋土にＡｓ－Ｂ軽石を含むことや出土遺物および重複関係から11世紀代と考えられる。

遺　物　総数23点。

3　落ち込み

1号落ち込み（Fig.21、PL.－）

位　置　Ｘ15・16、Ｙ127グリッド

形状等　大部分が調査区外のため全容は不明であるが、円形と推定される。２面目の調査で検出。

時　期　埋土や出土遺物から縄文時代ぐらいと考えられるが、それ以上の特定は難しく、不明である。

遺　物　総数９点。

4　土坑・ピット

土坑・ピットについては、Tab.５土坑・ピット計測表（P.22）を参照のこと。

5　グリッド等出土遺物

総数点941が検出された。そのうち飾り金具１点、土錘1点、平瓦８点（うち「十」の篦書きを持つもの１点、上部欠損で「ハ？」と読める篦書きを持つもの１点）、軒平瓦２点を図示した。

Tab. 2　住居跡一覧表

遺構名	位　　置	主軸方向	規模（m）	壁現高	面　積	竈または炉	主な出土遺物		
			東西×南北	(cm)	(㎡)	位　置	土師器	須恵器	その他
J－1	X15～17、Y126・127	N－70°－E	(4.78)×4.48	50.0	(14.91)	炉・中央やや東寄り			深鉢・打製石斧
J－2	X15、Y113・114	N－8°－W	(2.70)×3.50	29.0	(10.78)	中央			深鉢・土製円盤
J－3	X15～16、Y123～125	N－31°－W	(3.90)×(4.72)	31.0	(13.67)	—			深鉢・磨製石斧
H－1	X14、Y105・106	—	—	—	(1.2)	[東壁]			
H－2	X14、Y106・107	N－86°－E	(0.45)×3.00	10.0	(6.95)	東壁南寄り	坏		
H－3	X14、Y107・108	N－86°－E	(1.88)×3.34	29.5	(10.27)	東壁中央		坏・足高高台埦・羽釜	
H－4	X14、Y110	N－105°－E	(1.80)×(3.06)	12.0	(5.95)	[東壁]	坏		
H－5	X14・15、Y110・111	N－5°－W	(1.71)×[2.90]	8.0	(8.67)	—		高台埦 足高高台埦	
H－6	X14・15、Y111	N－87°－E	(1.12)×(2.40)	33.0	(8.19)	(東壁)	台付甕・長胴甕		
H－7	X14・15、Y114・115	—	—	—	(1.59)	(東壁)			
H－8	X14・15、Y114～116	N－87°－E	(3.30)×[4.93]	30.0	(17.65)	東壁中央北寄り	甕	坏・蓋	土錘
H－9	X15・16、Y118・119	N－86°－E	(3.90)×[4.74]	31.5	(17.21)	東壁中央	坏・甕	坏・高台埦	紡錘車
H－10	X14～16、Y116・117	N－85°－E	(3.34)×4.97	48.5	(17.1)	東壁南寄り	坏・甕	坏・蓋・高台埦・壺	鎹・古銭
H－11	X15・16、Y119・120	N－84°－E	(4.00)×4.86	35.5	(16.75)	東壁中央		蓋・高台埦 広口甕	石鏃・石突状金具
H－12	X15、Y120・121	N－84°－E	(2.12)×4.50	43.5	(13.85)	東壁中央南寄り	甕	高台埦・羽釜	灰釉高台埦・石鏃
H－13	X15・16、Y121・122	N－84°－E	4.40×(2.15)	49.5	(12.83)	東壁	坏・甕	蓋・大甕	鉄製工具
H－14	X15・16、Y122・123	N－86°－E	(2.10)×(2.81)	19.0	(9.84)	東壁南寄り		高台埦・羽釜・鉢	打製石斧
H－15	X16、Y122・123	N－75°－W	(3.15)×4.48	40.5	(13.52)	—	坏	坏・蓋	
H－16	X15、Y124	—	—	—	(2.02)	(東壁)			
H－17	X15・16、Y124・125	N－25°－W	(4.35)×4.60	35.5	(15.94)	—	坏・甑・甕・高坏	坏	打製石斧
H－18	X16、Y125	—	—	—	(3.57)	東壁			
H－19	X15、Y125	N－88°－E	(0.47)×(3.43)	22.5	(8.47)	東壁南寄り		羽釜	
H－20	X16・17、Y124・125	N－5°－E	(2.67)×[3.57]	21.0	(11.06)	—	坏・甕		鉄鏃
H－21	X14、Y106・107	N－31°－W	[2.10]×[3.35]	40.0	(9.14)	—	坏	蓋・高台埦	釘
H－22	X14、Y106・107	N－86°－E	[1.10]×[4.73]	13.0	(11.5)	東壁南寄り	坏・台付甕		打製石斧
H－23	X15、Y118	N－86°－E	(1.45)×[3.51]	46.0	(11.42)	東壁中央	甕	蓋・高台埦	
H－24	X14・15、Y114・115	N－109°－E	[2.15]×[3.16]	38.0	(10.46)	東壁中央	坏	高台埦	土錘
H－25	X15・16、Y117・118	N－84°－E	(4.20)×[3.68]	51.0	(15.37)	—		坏・高台埦 短頸壺	
H－26	X14、Y107・108	N－5°－W	(2.28)×(2.92)	床面のみ	(10.06)	—	坏・甕	盤	
H－27	X15、Y114・115	N－87°－E	(2.68)×(2.52)	床面のみ	(9.7)	—	坩・甕	坏	
H－28	X15・16、Y116・117	N－3°－W	(2.06)×[4.68]	18.5	(12.4)	—		坏	
H－29	X15・16、Y117・118	N－84°－E	(3.22)×(3.57)	9.0	(13.5)	(東壁南寄り)		坏・大甕	
H－30	X15・16、Y117・118	N－7°－W	(1.73)×(3.73)	13.0	(10.3)	—			
H－31	X16、Y118・119	N－5°－W	1.33×(4.62)	17.0	(11.08)	—	坏	坏・壺	

Tab. 3　竈一覧表

遺構名	主　軸　方　向	全長(cm)	最大幅(cm)	焚口部幅(cm)	構築材	備　考
H－1	(N－ 85°－E)	(25)	(48)	(30)	粘土	
H－2	N－ 88°－E	40	56	32	—	
H－3	N－ 96°－E	64	69	35	瓦・河原石・凝灰岩	瓦２点
H－4	[N－107°－E]	(50)	(62)	(40)	凝灰岩	
H－5	—	—	—	—	—	
H－6	N－ 72°－E	123	75	34	石・長胴甕	観察表No.19
H－7	(N－ 83°－E)	(35)	(57)	(34)	石	
H－8	(N－ 84°－E)	(90)	92	60	瓦・粘土・凝灰岩	瓦１点
H－9	N－ 85°－E	(75)	(76)	(43)	—	
H－10	N－ 92°－E	(124)	(99)	(62)	瓦・凝灰岩	瓦20点
H－11	N－ 82°－E	(66)	(84)	(47)	—	
H－12	N－ 91°－E	(85)	(100)	(48)	凝灰岩	
H－13	(N－ 76°－E)	89	66	40	凝灰岩	
H－14	N－101°－E	70	55	31	河原石	
H－15	—	—	—	—	—	
H－16	(N－ 84°－E)	(41)	(76)	(50)	—	
H－17	—	—	—	—	—	
H－18	N－104°－E	114	67	34	凝灰岩・粘土	
H－19	N－ 82°－E	102	65	39	石	
H－20	—	—	—	—	—	
H－21	—	—	—	—	—	
H－22	N－ 86°－E	42	47	31	—	
H－23	N－ 95°－E	143	80	39	石	
H－24	N－102°－E	(105)	82	60	凝灰岩	
H－25	—	—	—	—	—	
H－26	—	—	—	—	—	
H－27	—	—	—	—	—	
H－28	—	—	—	—	—	
H－29	(N－80°－E)	(60)	(63)	—	—	
H－30	—	—	—	—	—	
H－31	—	—	—	—	—	

Tab. 4　溝跡計測表

遺構名	位　　置	主軸方向	長　さ	最大幅（m）		深　さ	底面レベル差	断面形
			(m)	上幅	下幅	(m)	(m)	
W－1	X14・15 、Y111・112	N－82°－E	3.1	3.5	1.0	0.41	0.03	椀底状
W－2	X15～17、Y125・126	N－74°－E	6.35	0.82	0.25	0.25	0.15	U字形

Tab. 5　土坑・ピット計測表

遺構名	位　　置	規　　模　（cm）			形　　状	遺物総数	出土遺物
		長　軸	短　軸	深　さ			
D－1	X16、Y123	137.0	105.0	(30.0)	楕円形	25	
P－1	X16、Y124	55.0	48.0	29.5	円形		
P－2	X16、Y123	42.0	46.0	39.5	円形		

Tab. 6　土器観察表　（縄文）

番号	遺構／層位	器　種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形・文様・整形の特徴	備　考
1	J－1 埋土	深　鉢	①［17.8］ ②（13.5）	①中粒②良好 ③にぶい赤褐色 ④口縁～胴部（1/4）	平口縁で、口縁部に隆帯による区画、隆帯渦巻文。区画内に充填縄文ＲＬ。胴部に２条単位の平行沈線が垂下。	加曽利Ｅ２
2	J－1 埋土	深　鉢	①［31.0］ ②（6.7）	①中粒②良好③にぶい黄橙色④口縁部	波状口縁で波頂部が外反。口縁部文様帯は幅広沈線化。区画内に充填縄文ＬＲ。	加曽利Ｅ２
3	J－1 埋土	深　鉢	①　- ②　-	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色 ④頸部～胴部	頸部に隆帯による区画、隆帯渦巻文を施す。上部に刺突文を施す。	加曽利Ｅ２
4	J－1 埋土	深　鉢	①［36.0］ ②（7.0）	①中粒②良好③にぶい黄橙色④口縁部	平口縁で、２条の沈線による弧文で区画、区画内に羽状構成による施文。縄文ＬＲ・ＲＬ。	加曽利Ｅ４
5	J－1 埋土	深　鉢	①［34.4］ ②（3.8）	①中粒②良好③にぶい黄橙色④口縁部	口縁部は外反平口縁。横位の隆帯が廻り、その下に沈線が垂下。	加曽利Ｅ２
6	J－1 埋土	深　鉢	①　- ②　-	①中粒②良好③にぶい赤褐色④頸部	頸部に２条の並行隆帯の上に波状の浮線文が上下２本施されている。施文は縄文ＲＬ。	諸磯ｂ
7	J－1 埋土	深　鉢	①　- ②（5.0）	①中粒②良好 ③橙色④口縁部突起	口縁突起頂部に沈線で渦巻を施文。	加曽利Ｅ２
8	J－1 埋土	深　鉢	①　- ②　-	①中粒②良好 ③灰褐色④頸部	頸部に２条の横位並行沈線を廻らし、上部に斜位の刺突文。下部に縦位の条線文。	加曽利Ｅ３
9	J－1 埋土	深　鉢	①［21.0］ ②（4.2）	①中粒②良好 ③褐灰色④口縁部	口縁部は平口縁。平行沈線施文後に２条の鎖状貼付文を斜位に施している。加曽利Ｅ２	加曽利Ｅ２
10	J－1 埋土	深　鉢	①　- ②　-	①中粒②良好 ③灰黄褐色④胴部	ＬＲ斜縄文。３条の縦位平行沈線が垂下。	加曽利Ｅ２
11	J－2 埋土	深　鉢	①　- ②　-	①中粒②良好 ③にぶい褐色④胴部	2条の並行隆帯が横位に廻り、その下にＬＲ斜縄文を施している。	加曽利Ｅ２
12	J－2 床直	深　鉢	①　- ②　-	①中粒②良好 ③褐灰色④頸部	2条の並行隆帯が横位に廻り、その上にＬＲ斜縄文を施している。	加曽利Ｅ２
13	J－2 埋土	深　鉢	①　- ②　-	①中粒②良好③にぶい赤褐色④胴部	文様帯中の渦巻間の区画内に縄文ＬＲを施す。その上に列点を施している。	称名寺Ⅰ
14	J－2 埋土	深　鉢	①［32.6］ ②（3.9）	①中粒②良好 ③褐灰色④口縁部	口縁部は平口縁。２条の隆帯の間に縄文ＬＲが施されている。	加曽利Ｅ２
15	J－2 埋土	土　製 円　盤	①長　径　3.7　②短　径　3.5　③最大厚　1.3　④重　さ　14.6 ⑤胎　土　中粒　⑥焼　成　良好　⑦色調　黒褐色　⑧遺存度　ほぼ完形		縁辺は７面の研磨面を有する。	加曽利Ｅ２
16	J－3 埋土	鉢	①［14.0］ ②（28.0）	①中粒②良好③明黄褐色④胴部～口縁部	口縁部横撫で、外傾平口縁。頸部に隆帯渦巻文による区画、隆帯内は縦位の並行沈線を施す。胴部下位に条線文が垂下。	加曽利Ｅ３
17	J－3 床直	深　鉢	①　- ②　-	①中粒②良好③にぶい黄褐色④胴部	ＬＲ斜縄文。胴部に２条単位の平行沈線が垂下。	加曽利Ｅ３
18	J－3 埋土	深　鉢	①［31.4］ ②（3.8）	①中粒②良好 ③黒色④口縁部	口縁部は平口縁。１条の横位沈線を廻らし、その下に縦位の集合沈線を施す。	加曽利Ｅ３
19	J－3 埋土	深　鉢	①　- ②　-	①中粒②良好 ③褐灰色④胴部	ＬＲ斜縄文。胴部に１条の沈線が垂下。	加曽利Ｅ２
20	J－3 床直	深　鉢	①　- ②　-	①中粒②良好 ③にぶい橙色④胴部	胴部に撚糸条痕文が垂下。上部に横位の並行沈線が廻っている。	早期中葉
21	遺構外	深　鉢	①［44.4］ ②（6.8）	①中粒②良好③灰黄褐色④口縁部	口縁部は平口縁。２条の横位並行沈線が廻り、その下に楕円形の沈線による区画。区画内にＲＬ斜縄文を施している。	加曽利Ｅ３
22	遺構外	深　鉢	①［38.0］ ②（9.6）	①中粒②良好 ③灰黄褐色④口縁部	口縁部に隆帯による区画、隆帯渦巻文。その下に集合沈線が垂下。	加曽利Ｅ２
23	遺構外	深　鉢	①　- ②　-	①中粒②良好 ③褐灰色④胴部	2条単位の沈線渦巻文内に沈線を施している。	加曽利Ｅ２
24	遺構外	深　鉢	①［23.0］ ②（3.4）	①中粒②良好③にぶい黄橙色④口縁部	口縁部は平口縁。１条の横位沈線を廻らし、その上に綾杉状沈線を施している。	加曽利Ｅ２
25	遺構外	深　鉢	①［35.0］ ②（6.0）	①中粒②良好③灰褐色④口縁部	口縁部は平口縁。１条の横位隆帯を廻らし、その下にＲＬ斜縄文を施す。	加曽利Ｅ２
26	遺構外	深　鉢	①［41.4］ ②（6.0）	①中粒②良好③にぶい橙色④口縁部	口縁部は平口縁。楕円形の区画内にＬＲ斜縄文を施す。	加曽利Ｅ２

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。炉内の検出については「炉」と記載した。
②口径、器高の単位はcmであり、重さ単位はｇである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab. 7　土器観察表　（古墳・奈良・平安）

番号	遺構／層位	器　種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
1	H－2 竈、床直	坏 土師器	① [11.2] ② 3.8	①粗粒②良好 ③黄橙色④1/4	口縁・体部：内彎して立ち上がり中位から緩やかに外反する。外面横位の篦削り。内面撫で。底部：欠損。平底と推測	
2	H－3 床直	坏 須恵器	① 12.2 ② 3.5	①粗粒②良好 ③灰色④2/3	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整	流れ込み H－26か
3	H－3 竈、床直	坏 須恵器	① 11.5 ② 4.0	①中粒②良好 ③灰白色④完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部で僅かに外反する。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内外面煤付着。	
4	H－3 竈、床直	坏 須恵器	① 12.5 ② 4.6	①中粒②良好 ③灰黄褐色④完形	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり口縁部で外反する。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。やや突出した底。	酸化焔焼成
5	H－3 床直	高台塊 須恵器	① 11.8 ② 4.5	①粗粒②良好 ③灰黄色④完形	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、外傾した体部から直線的に口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：僅かに「ハ」の字状の外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。内外面煤付着。	酸化焔焼成
6	H－3 埋土	高台塊 須恵器	① 12.6 ② 5.0	①粗粒②良好 ③暗灰黄色 ④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から直線的に口縁部に至り、端部で僅かに外反する。轆轤撫で。底部：僅かに「ハ」の字状の外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。内外面煤付着。	酸化焔焼成 粗雑な作り
7	H－3 埋土	足　高 高台塊 須恵器	① 12.8 ② 6.8	①中粒②良好 ③浅黄橙色 ④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：内彎して立ち上がり、外傾した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：「ハ」の字状の長く外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。内外面煤付着。	酸化焔焼成
8	H－3 竈、埋土	羽　釜 須恵器	① [21.6] ② (5.3)	①中粒②良好 ③灰褐色④口縁部1/4	轆轤成形。口縁部：内傾、端部で短く外反。内外面轆轤撫で。鍔部は三角形状で、水平に張り出す。鍔貼付。胴部から底部：欠損。内外面煤付着。	酸化焔焼成
9	H－3 埋土	羽　釜 須恵器	① [18.6] ② (12.6)	①粗粒②良好 ③黒褐色④1/6	轆轤成形。口縁部：内傾、端部で僅かに内彎。内外面轆轤撫で。鍔部は三角形状で、水平に張り出す。鍔貼付。鍔部器最大径。胴部：外傾気味。横位の撫で。胴部下半から底部：欠損。内外面煤付着。	酸化焔焼成
10	H－3 竈、床直	羽　釜 須恵器	① [20.0] ② (16.1)	①粗粒②良好 ③にぶい橙色④1/3	轆轤成形。口縁部：内傾、端部で短く外反。内外面轆轤撫で。鍔部は三角形状で、水平に張り出す。鍔貼付。鍔部器最大径。胴部：外傾。外面斜位の篦削り。内面撫で。胴部下位から底部：欠損。内外面煤付着。	酸化焔焼成
11	H－3 竈、床直	羽　釜 須恵器	① 20.0 ② 26.5	①粗粒②良好 ③灰褐色④2/3	口縁部：内傾、端部で僅かに外反。内外面横位の撫で。鍔部は三角形状で、水平に張り出す。鍔貼付。鍔部器最大径。胴部：外傾して立ち上がり胴部上位で張りをもち、緩やかに内彎する。外面斜位の篦削り。内面撫で、輪積み痕有。底部：平底。内外面煤付着。	酸化焔焼成
12	H－4 床直	坏 土師器	① [12.0] ② 3.6	①中粒②良好 ③にぶい褐色④1/2	口縁・体部：外傾して立ち上がり口縁部に至る。口縁部は内外面横位の撫で。体部は外面横位の篦削り。内面撫で。底部：平底。	全体的に歪んでいる
13	H－4 埋土	坏 土師器	① [13.0] ② (4.1)	①細粒②不良 ③明赤褐色④1/8	口縁・体部：緩やかに内彎して立ち上がり、外傾した口縁部に至り、端部で外反。変換点に稜有。口縁部は外面横位の撫で。体部は外面横位の篦削り。内面撫で後、放射線状に篦磨き。底部：欠損。丸底と推測。	暗文土器 流れ込み
14	H－5 床直	高台塊 須恵器	① [13.6] ② 4.5	①粗粒②良好 ③にぶい褐色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾した体部から外反した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：短く直立した高台貼付。回転糸切り未調整。内外面煤付着。	酸化焔焼成 粗雑な作り
15	H－5 床直	足　高 高台塊 須恵器	① - ② (5.5)	①粗粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がる。口縁部欠損。体部上位欠損。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状の長く外傾した高台貼付。回転糸切り再調整。	酸化焔焼成
16	H－6 竈、床直	坏 土師器	① 12.0 ② 3.3	①中粒②良好 ③にぶい黄褐色④4/5	口縁・体部：内彎気味に立ち上がり短く直立した口縁部に至る。口径が小さい。交換点に弱い稜有。口縁部は内外面横位の撫で。体部は外面篦削り。内面撫で。底部：浅い丸底。	小振り
17	H－6 埋土	台付甕 土師器	① [11.8] ② (14.5)	①粗粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	口縁部：僅かに外反。内外面撫で。胴部：内彎気味に立ち上がり、胴部上位で張りをもち、緩やかに内彎する。外面縦位の篦削り。内面撫で。台部：欠損。	
18	H－6 床直	長胴甕 土師器	① 21.0 ② (22.0)	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	口縁部：外反。器最大径。頸部に明確なくびれ無。内外面撫で、指圧痕有。胴部：内彎気味に立ち上がり、胴部上位で小さな張りをもち、僅かに内彎する。外面斜位の篦削り。内面撫で、篦押さえ痕有。胴部下位から底部：欠損。	
19	H－6 竈、床直	長胴甕 土師器	① 23.4 ② (24.5)	①粗粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	口縁部：外反。器最大径。頸部に明確なくびれ有。内外面撫で、指圧痕有。胴部：内彎気味に立ち上がり、胴部上位で小さな張りをもち、僅かに内彎する。外面斜位の篦削り。内面撫で。胴部下位から底部：欠損。	竈の袖に使用
20	H－6 埋土	長胴甕 土師器	① 21.4 ② (25.0)	①粗粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/2	口縁部：外反。器最大径。頸部に明確なくびれ有。内外面撫で。胴部：内彎気味に立ち上がり、胴部上位で小さな張りをもち、僅かに内彎する。外面縦位の篦削り。内面撫で、篦押さえ痕有。胴部下位から底部：欠損。	
21	H－8 埋土	坏 須恵器	① 12.8 ② 3.9	①中粒②良好 ③灰色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：僅かに内彎して立ち上がり外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
22	H－8 埋土	蓋 須恵器	① 16.4 ② 3.9	①粗粒②良好 ③灰白色④2/3	轆轤成形。天井部：平坦。内外面篦調整。摘み：ボタン状摘み。体部：緩やかに外傾。口縁部：短く内傾。	
23	H－8 埋土	蓋 須恵器	① [17.6] ② (3.4)	①中粒②良好 ③灰色④1/3	轆轤成形。天井部：緩やかに膨らむ。回転篦削り。摘み：欠損。体部：緩やかに外傾。口縁部：内傾。	
24	H－8 床直	甕 土師器	① [19.0] ② (15.8)	①中粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/8	口縁部：外反。頸部はほぼ直立。内外面撫で。胴部：内彎気味に立ち上がり、胴部上位で小さな張りをもち、内彎する。胴部上位器最大径。外面篦削り。内面撫で。胴部下位から底部：欠損。	

番号	遺構／層位	器　種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
25	H－8 埋土	土　錘	①　[3.2] ②　1.3	①中粒②良好 ③にぶい赤褐色④2/3	厚さ　1.4　重さ　4.3 紡錘形を呈し、長軸に沿って孔が穿たれている。	
26	H－9 埋土	坏 土師器	①［14.6］ ②　(2.3)	①中粒②良好 ③明褐色④1/4	口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、外傾した口縁部に至り、端部で僅かに内彎。口縁部は内外面横位の撫で。体部は浅く、内外面撫で、指圧痕有り。底部：欠損。平底と推測。	
27	H－9 床直	坏 土師器	①［15.6］ ②　2.7	①中粒②良好 ③橙色④1/3	口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部で外傾。口径が大きい。口縁部は内外面横位の撫で。体部は非常に浅く、内外面撫で。底部：平底。	粗雑な作り
28	H－9 床直	坏 須恵器	①　12.2 ②　3.7	①中粒②良好 ③黄灰色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾から口縁部で外反。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内外面煤付着。	粗雑な作り
29	H－9 床直	坏 須恵器	①　13.8 ②　7.3	①中粒②良好 ③灰白色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾から口縁部に至り、端部で僅かに外反。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
30	H－9 竈、埋土	坏 須恵器	①［14.2］ ②　4.7	①中粒②良好 ③灰黄色④1/8	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、体部中位でやや膨らみをもち、口縁部で外傾。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
31	H－9 床直	坏 須恵器	①［13.0］ ②　3.5	①粗粒②良好 ③褐灰色④2/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾して立ち上がり口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
32	H－9 埋土	坏 須恵器	①　12.6 ②　3.9	①粗粒②良好 ③灰黄色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾して立ち上がり口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内外面煤付着	流れ込み H－23か 酸化焔焼成
33	H－9 埋土	坏 須恵器	①［12.8］ ②　4.8	①中粒②良好 ③褐灰色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾して立ち上がり口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
34	H－9 埋土	高台埦 須恵器	①　14.0 ②　(4.5)	①粗粒②良好 ③灰褐色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：体部中位にやや膨らみをもち、外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：高台貼付欠損。回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
35	H－9 埋土	高台埦 須恵器	①［16.0］ ②　6.0	①中粒②良好 ③灰白色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、外傾した口縁部に至る。口径が大きい。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	
36	H－9 埋土	甕 土師器	①［18.0］ ②　(5.0)	①中粒②良好③にぶい赤褐色④口縁部1/5	口縁部：外反。頸部はほぼ直立。内外面横位の撫で。胴部から底部：欠損。	
37	H－9 埋土	甕 土師器	①［20.0］ ②（11.5）	①中粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/6	口縁部：外反。頸部に指圧痕有。内外面撫で。胴部：胴部上位に小さな張りをもつ。胴部上位器最大径。外面篦削り。内面撫で、篦押さえ痕有。胴部中位から底部：欠損。	
38	H－10 埋土	坏 土師器	①［12.0］ ②　(3.4)	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/4	口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部で短く直立。口縁部は内外面撫で。底部：浅い平底。	
39	H－10 床直	坏 土師器	①［13.0］ ②　3.2	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/4	口縁・体部：緩やかに外傾から口縁部に至り、端部で短く外反。口縁部は内外面横位の撫で。体部は外面篦削り。内面撫で。底部：平底。	
40	H－10 竈、床直	甕 土師器	①［17.0］ ②　(7.0)	①中粒②良好 ③褐色④口縁部1/8	口縁部：外傾。「コ」の字状口縁。内外面撫で。肩部の一部が残存。胴部から底部：欠損。	
41	H－10 埋土	坏 須恵器	①　14.0 ②　3.8	①中粒②良好 ③灰白色④1/2弱	轆轤成形。口縁・体部：緩やかに外傾して立ち上がり口縁部に至り、端部で短く外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
42	H－10 埋土	坏 須恵器	①［13.0］ ②　3.8	①中粒②良好 ③褐灰色④2/5	轆轤成形。口縁・体部：僅かに内彎して立ち上がり外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
43	H－10 埋土	坏 須恵器	①［12.0］ ②　4.8	①中粒②良好 ③褐灰色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：緩やかに外傾して立ち上がり口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
44	H－10 埋土	坏 須恵器	①［13.6］ ②　3.4	①中粒②良好 ③灰白色④2/5	轆轤成形。口縁・体部：僅かに内彎して立ち上がり外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。外面煤付着。	
45	H－10 竈、床直	坏 須恵器	①［13.0］ ②　3.2	①粗粒②良好 ③褐灰色④2/5	轆轤成形。口縁・体部：緩やかに外傾して立ち上がり口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
46	H－10 埋土	坏 須恵器	①［12.4］ ②　3.6	①中粒②良好 ③褐灰色④2/5	轆轤成形。口縁・体部：緩やかに外傾して立ち上がり口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
47	H－10 竈、床直	坏 須恵器	①［14.0］ ②　(3.8)	①中粒②良好 ③褐灰色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：緩やかに外傾して立ち上がり口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
48	H－10 床直	高台埦 須恵器	①［13.0］ ②　4.8	①中粒②良好 ③褐灰色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：短く直立した高台貼付。回転糸切り未調整。	
49	H－10 竈、埋土	高台埦 須恵器	①［15.6］ ②　6.3	①粗粒②良好 ③灰白色④1/5	轆轤成形。口縁・体部：緩やかに外傾して立ち上がり口縁部に至る。口径が大きい。内外面轆轤撫で。体部が深い。底部：「ハ」の字状に外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	
50	H－10 床直	高台埦 須恵器	①［14.0］ ②　6.5	①粗粒②不良 ③灰色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、外傾した口縁部に至り、端部で短く外反。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に短く外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	
51	H－10 竈、埋土	高台埦 須恵器	①［15.0］ ②　6.8	①中粒②良好 ③褐灰色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、外傾した口縁部に至る。口径が大きい。内外面轆轤撫で。体部が深い。底部：「ハ」の字状に短く外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	
52	H－10 床直	蓋 須恵器	①　16.0 ②　3.8	①粗粒②良好 ③灰色④2/3	轆轤成形。天井部：ほぼ平坦。回転糸切り痕。内外面篦調整。摘み：擬宝珠状摘み。体部：緩やかに外傾。口縁部：短く直立。	

番号	遺構／層位	器　種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
53	H－10 埋土	蓋 須恵器	① [13.0] ② 3.3	①細粒②良好 ③灰色④1/4	轆轤成形。天井部：肉厚、緩やかに膨らむ。内外面篦調整。摘み：ボタン状摘み。体部：緩やかに外傾。口縁部：短く直立。	
54	H－10 床直	長頸壺 須恵器	① 6.4 ② (3.5)	①中粒②良好 ③灰色④口縁部のみ	轆轤成形。頸部：直立。口縁部で短く屈曲。口唇部横撫で。胴部から底部：欠損。	
55	H－10 埋土	長頸壺 須恵器	① - ② (6.9)	①粗粒②良好 ③褐灰色④底部のみ	轆轤成形。口縁部から胴部中位：欠損。胴部下位：外傾、厚手。底部：「ハ」の字状に短く外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	
56	H－10 埋土	大　甕 須恵器	① [27.0] ② (7.0)	①細粒②極良 ③灰色④口縁部1/4	轆轤成形。頸部：外反。口縁部：短く屈曲して外傾。内外面回転撫で。胴部から底部：欠損。	
57	H－10 床直	大　甕 須恵器	① - ② (24.1)	①粗粒②良好 ③灰色④1/4	轆轤成形。口縁部から頸部：欠損。胴部：外面平行叩き目、内面同心円状当て目。胴部中位に膨らみをもつ。胴部下位から底部：欠損。	秋間系か
58	H－11 床直	坏 須恵器	① 13.0 ② 3.4	①中粒②良好 ③灰白色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：僅かに内彎して立ち上がり外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	流れ込み
59	H－11 床直	坏 須恵器	① 13.0 ② 3.3	①中粒②良好 ③褐灰色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：僅かに内彎して立ち上がり外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	流れ込み
60	H－11 埋土	坏 須恵器	① [12.6] ② 3.2	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：内彎して立ち上がり外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内外面煤付着	酸化焔焼成
61	H－11 床直	坏 須恵器	① [14.0] ② 4.4	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：僅かに内彎して立ち上がり外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
62	H－11 埋土	坏 須恵器	① [14.4] ② 3.3	①中粒②良好 ③灰色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：緩やかに外傾して立ち上がりそのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	流れ込み
63	H－11 床直	坏 須恵器	① [12.8] ② 3.3	①中粒②良好 ③灰白色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：僅かに内彎して立ち上がり外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り再調整。	流れ込み
64	H－11 埋土	高台埦 須恵器	① [14.0] ② 5.5	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④3/5	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、外傾した口縁部に至る内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に短く外傾した高台貼付。回転糸切り再調整。	酸化焔焼成
65	H－11 竈、埋土	高台埦 須恵器	① [12.4] ② 4.9	①粗粒②不良 ③にぶい黄橙色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾気味に立ち上がり、口縁部り端部で外反。内外面轆轤撫で。底部：短く直立した高台貼付。回転糸切り未調整。	酸化焔焼成 粗雑な作り
66	H－11 床直	蓋 須恵器	① [17.2] ② 4.6	①中粒②良好 ③灰白色④1/3	轆轤成形。天井部：緩やかに膨らむ。回転糸切り痕。内外面篦調整。摘み：ボタン状摘み。体部：緩やかに外傾。口縁部：短く直立。	酸化焔焼成
67	H－11 床直	広口甕 須恵器	① 22.4 ② 16.5	①粗粒②良好 ③灰黄色④ほぼ完形	口縁部：外反、端部で僅かに内彎。内外面撫で。胴部：胴部上位に張りをもつ。胴部上位器最大径。胴部下位：外面篦削り。底部：回転糸切り再調整。	
68	H－11 埋土	羽　釜 須恵器	① 18.0 ② (24.0)	①粗粒②良好 ③にぶい褐色④1/2	口縁部：内傾。横位の撫で。鍔部は三角形状で、水平に張り出す。鍔貼付。鍔部器最大径。胴部：外傾して立ち上がり胴部上位で張りをもち、緩やかに内彎する。外面斜位の篦削り。内面撫で。底部：欠損。	酸化焔焼成
69	H－11 埋土	羽　釜 須恵器	① [23.0] ② (14.0)	①中粒②良好 ③灰白色④1/8	口縁部：内傾。横位の撫で。鍔部は三角形状で、水平に張り出す。鍔貼付。鍔部器最大径。胴部上位：外傾気味。胴部中位から底部：欠損。内外面煤付着。	
70	H－11 埋土	羽　釜 須恵器	① [29.0] ② (8.9)	①粗粒②良好③にぶい橙色④口縁部1/7	口縁部：内傾。横位の撫で。鍔部は三角形状で、水平に張り出す。鍔貼付。鍔部器最大径。胴部上位：外傾気味。胴部中位から底部：欠損。	酸化焔焼成
71	H－11 床直	甕 土師器	① 20.2 ② (12.0)	①中粒②良好 ③橙色④1/5	口縁部：外反。頸部はほぼ直立。内外面撫で。胴部上位に弱い膨らみをもつ。外面篦削り。内面撫で。胴部中位から底部：欠損。内外面煤付着。	
72	H－11 竈、床直	甕 土師器	① [20.4] ② (16.4)	①中粒②良好 ③橙色④1/5	口縁部：外反。頸部は直立。内外面撫で。胴部上位に弱い膨らみをもつ、器最大径。外面篦削り。内面撫で。胴部中位から底部：欠損。	
73	H－12 埋土	坏 須恵器	① [13.4] ② 3.7	①中粒②不良 ③灰黄褐色④2/5	轆轤成形。口縁・体部：僅かに内彎して立ち上がり外傾した口縁部に至り、端部で僅かに外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内外面煤付着。	酸化焔焼成
74	H－12 竈、床直	高台埦 須恵器	① [14.2] ② 4.8	①粗粒②良好 ③灰白色④2/5	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：短く直立した高台貼付。回転糸切り未調整。	
75	H－12 床直	高台埦 須恵器	① [7.6] ② 5.0	①粗粒②良好 ③灰色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：幾つかの弱い段をもちながら、外傾した口縁部に至り、端部で僅かに外反。内外面轆轤撫で。底部：短く直立した高台貼付回転糸切り未調整。	
76	H－12 竈、埋土	高台埦 須恵器	① - ② (5.5)	①中粒②良好 ③オリーブ黒色④1/2	轆轤成形。口縁部：欠損。体部：僅かに内彎して立ち上がり胴部中位に至る。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に短く外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。内外面煤付着。	
77	H－12 埋土	高台埦 須恵器	① [14.1] ② 5.4	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：緩やかに外傾して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：短く直立した高台貼付。回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
78	H－12 埋土	高台埦 灰　釉 陶　器	① [17.0] ② 3.7	①極粒②良好 ③灰白色④1/4弱	轆轤成形。口縁・体部：緩やかに内彎気味に立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：短く直立した高台貼付。回転糸切り未調整。	刷毛塗り
79	H－12 床直	羽　釜 須恵器	① 20.0 ② (14.0)	①粗粒②良好 ③黒褐色④2/3	口縁部：内傾。横位の撫で。鍔部は三角形状で、水平に張り出す。鍔貼付。鍔部器最大径。胴部：胴部上位に弱い膨らみをもつ。外面縦位の篦削り。内面撫で。胴部下半から底部：欠損。内外面煤付着。	酸化焔焼成

番号	遺構／層位	器　種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
80	H－12 床直	甕 土師器	① 19.4 ② (26.0)	①中粒②良好 ③にぶい橙色④2/3	口縁部：外反。頸部はほぼ直立。内外面撫で。胴部：外傾気味に立ち上がり、胴部上位で張りをもち、内彎する。胴部上位器最大径。外面篦削り。内面刷毛目後撫で。底部：欠損。薄手。	
81	H－12 床直	甕 土師器	① 16.8 ② (7.6)	①中粒②良好 ③にぶい褐色④1/5	口縁部：外反。頸部はほぼ直立。内外面撫で、指圧痕有。胴部上位：外面横位の篦削り。内面刷毛目後撫で。胴部中位から底部：欠損。内外面煤付着。	
82	H－13 埋土	坏 土師器	① 11.6 ② 3.7	①中粒②不良 ③橙色④1/2	口縁・体部：内彎から口縁部で直立。口縁部は内外面横位の撫で。体部は外面斜位の篦削り。内面撫で。底部：浅い平底。	
83	H－13 竈、埋土	坏 須恵器	① [10.8] ② (3.8)	①細粒②良好 ③灰色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾して立ち上がりそのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。体部厚手。底部：欠損。	
84	H－13 床直	蓋 須恵器	① 14.7 ② 2.9	①中粒②良好 ③灰色④2/3	轆轤成形。天井部：肉厚、平坦。回転糸切り痕。内外面篦調整。摘み：ボタン状摘み。体部：緩やかに外傾。口縁部：短く外傾。	
85	H－13 床直	大甕 須恵器	① - ② (9.3)	①中粒②良好③にぶい褐色④頸部～胴部	轆轤成形。口縁部：欠損。頸部：外反。内外面轆轤撫で。胴部：外面平行叩き目紋。内面青海波状紋。胴部中位から底部：欠損。	酸化焔焼成
86	H－13 竈、埋土	甕 土師器	① [23.4] ② (5.5)	①中粒②良好 ③明赤褐色④口縁部1/4	口縁部：外反。内外面撫で。頸部直立。外面篦削り。胴部から底部：欠損。	
87	H－14 竈、床直	坏 須恵器	① [12.3] ② 3.6	①粗粒②良好 ③にぶい黄橙色④3/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾して立ち上がり、口縁部で外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成 粗雑な作り
88	H－14 竈、床直	坏 須恵器	① [14.0] ② 3.8	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④2/3	轆轤成形。口縁・体部：外傾して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
89	H－14 竈、床直	高台塊 須恵器	① [12.3] ② 5.0	①粗粒②良好 ③褐灰色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾して立ち上がり、口縁部で外反。内外面轆轤撫で。底部：短く直立した高台貼付。回転糸切り未調整。	酸化焔焼成 粗雑な作り
90	H－14 竈、埋土	高台塊 須恵器	① 12.6 ② 5.0	①中粒②良好 ③にぶい黄褐色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：幾つか段をもちながら外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に短く外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。内外面煤付着。	酸化焔焼成
91	H－14 竈、床直	羽釜 須恵器	① - ② (14.5)	①粗粒②良好 ③灰白色④1/5	口縁部から胴部上半：欠損。胴部下位：外面縦位の篦削り。内面横位の撫で、輪積み痕有。底部：平底。	酸化焔焼成
92	H－14 竈、埋土	羽釜 須恵器	① [20.4] ② (13.1)	①中粒②良好③にぶい黄色④口縁部1/7	口縁部：内傾。横位の撫で。鍔部は三角形状で、水平に張り出す。鍔貼付。胴部：内外面横位の撫で。胴部中位から底部：欠損。	酸化焔焼成
93	H－14 床直	羽釜 須恵器	① [19.0] ② (13.5)	①中粒②良好 ③灰色④口縁部1/6	口縁部：内傾、端部で短く外反。横位の撫で。鍔部は三角形状で、水平に張り出す。鍔貼付。鍔部器最大径。胴部：内外面横位の撫で。胴部中位から底部：欠損。	
94	H－15 床直	坏 土師器	① 12.0 ② 3.8	①中粒②良好 ③明赤褐色④完形	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部で短く直立。口縁部は内外面撫で。体部は外面斜位の篦削り。内面横位の撫で。底部：浅い丸底。	
95	H－15 床直	坏 土師器	① 11.8 ② 3.8	①中粒②良好 ③橙色④完形	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部で短く直立。口縁部は内外面横位の撫で。体部は外面斜位の篦削り。内面撫で。底部：浅い丸底。	
96	H－15 床直	坏 須恵器	① [14.6] ② 4.2	①中粒②良好 ③灰白色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾して立ち上がりそのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
97	H－15 床直	坏 須恵器	① [14.0] ② 4.2	①中粒②良好 ③黄灰色④2/3	轆轤成形。口縁・体部：緩やかに外傾して立ち上がりそのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
98	H－15 床直	蓋 須恵器	① [15.4] ② (2.1)	①細粒②良好 ③褐灰色④1/3	轆轤成形。天井部：肩部に僅かな膨らみをもつ。内外面篦調整。摘み：欠損。体部：緩やかに外傾。口縁部：返り有。	
99	H－17 埋土	坏 土師器	① [13.0] ② 3.6	①中粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/3	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部で直立。交換点に稜有。口縁部は内外面撫で。体部は外面斜位の篦削り。内面撫で。底部：浅い平底気味。	
100	H－17 埋土	坏 土師器	① [10.4] ② (5.3)	①中粒②良好 ③橙色④1/5	口縁・体部：内彎して立ち上がり、屈曲して３つの段をもちながら、僅かに外反した口縁部に至る。交換点に稜有。口縁部は内外面横位の撫で。体部は外面斜位の篦削り。内面撫で。底部：欠損。丸底と推測。	
101	H－17 埋土	坏 土師器	① [13.8] ② (4.7)	①中粒②良好 ③黄橙色④1/6	口縁・体部：内彎して立ち上がり、屈曲して、外傾した口縁部に至る。交換点に稜有。口縁部は内外面横位の撫で。体部は外面篦削り。内面撫で。底部：欠損。丸底と推測。	
102	H－17 埋土	坏 土師器	① [13.2] ② (3.9)	①中粒②良好 ③橙色④1/8	口縁・体部：内彎して立ち上がり、屈曲して、内傾した口縁部に至る。口径が大きい。交換点に稜有。口縁部は内外面横位の撫で。体部は外面篦削り。内面撫で。底部：欠損。丸底と推測。	
103	H－17 埋土	甑 土師器	① [13.0] ② 5.7	①粗粒②不良 ③にぶい黄橙色④1/4	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部に至る。口縁部は内外面撫で。体部は外面篦削り。内面撫で。底部：丸底。単孔甑。	
104	H－17 床直	甑 土師器	① - ② (4.0)	①中粒②良好③にぶい黄橙色④底部のみ	口縁部から体部：欠損。内外面篦削り。底部：平底。単孔甑。	
105	H－17 埋土	高坏 須恵器	① - ② (11.1)	①中粒②良好 ③暗灰色④1/2	坏部：欠損。台部：「ハ」の字状に外傾し、端部で短く直立した高台貼付。二段の透かしが３ヶ所有。外面櫛状の工具による沈線。内面撫で。	
106	H－17 埋土	甕 土師器	① [26.4] ② 34.5	①中粒②良好 ③橙色④1/3	口縁部：外反。頸部はほぼ直立。内外面撫で。胴部：内彎気味に立ち上がり、胴部中位で張りをもち、内彎する。胴部中位器最大径。外面篦削り。内面撫で、篦撫で痕有。底部：欠損。平底と推測。内外面煤付着。	

番号	遺構／層位	器　種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
107	H－17 埋土	甕 土師器	①　20.0 ②　(9.4)	①中粒②良好 ③橙色④1/3	口縁部：外反。頸部はほぼ直立。内外面横位の撫で。胴部：肩部残存。外面篦削り。内面撫で。胴部上位から底部：欠損。	
108	H－17 埋土	甕 土師器	①[19.0] ②　(8.0)	①中粒②良好 ③橙色④口縁部1/3	口縁部：外反。頸部は短く直立。内外面横位の撫で。胴部：肩部残存。外面篦削り。内面篦撫で、輪積み痕有。胴部上位から底部：欠損。	
109	H－19 床直	羽　釜 須恵器	①[18.4] ②　(4.0)	①中粒②良好 ③灰色④口縁部1/5	口縁部：内傾。横位の撫で。鍔部は三角形状で、水平に張り出す。鍔貼付。胴部から底部：欠損。	
110	H－20 床直	坏 土師器	①　12.2 ②　3.7	①中粒②良好 ③にぶい赤褐色④4/5	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部で直立。口径が小さい。口縁部は内外面撫で。体部は外面斜位の篦削り。内面撫で。底部：浅い丸底。	
111	H－20 埋土	坏 土師器	①[12.8] ②　(3.3)	①中粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/4	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部で短く直立。口縁部は内外面撫で。体部は外面篦削り。内面撫で。底部：浅い丸底と推測。	
112	H－20 埋土	甕 土師器	①[22.8] ②(14.0)	①中粒②良好 ③明褐色④1/8	口縁部：外反。内外面横位の撫で。胴部：外面篦削り。内面撫で、篦押さえ痕有。胴部中位から底部：欠損。	
113	H－21 埋土	坏 土師器	①　12.0 ②　3.8	①中粒②良好 ③褐色④ほぼ完形	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部で外傾。口縁部は内外面撫で。体部は外面横位の篦削り。内面撫で。底部：平底。	流れ込み
114	H－21 埋土	坏 土師器	①[10.6] ②　3.6	①中粒②良好 ③褐色④1/4	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部で短く内傾。口径が小さい。交換点に弱い稜有。口縁部は内外面撫で。体部は外面斜位の篦削り。内面撫で。底部：浅い丸底。	
115	H－21 埋土	蓋 須恵器	①[20.4] ②　(2.8)	①中粒②良好 ③灰色④1/6	轆轤成形。天井部：肩部に僅かな膨らみをもつ。内外面篦調整。摘み：欠損。体部：緩やかに外傾。口縁部：短く直立。	
116	H－21 埋土	高台埦 須恵器	①[11.0] ②　5.7	①中粒②良好 ③黄灰色④2/3	轆轤成形。口縁・体部：僅かに内彎して立ち上がり外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に短く外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
117	H－21 埋土	高台埦 須恵器	①[16.6] ②　(6.0)	①粗粒②良好 ③黒褐色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：緩やかに外傾して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：高台欠損。回転糸切り未調整。	酸化焔焼成 流れ込み
118	H－22 床直	坏 土師器	①[13.2] ②　(3.1)	①粗粒②良好 ③にぶい黄褐色④1/5	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部で直立。口縁部は内外面撫で。体部は外面篦削り。内面撫で。底部：欠損。浅い平底と推測。内外面煤付着。	
119	H－22 床直	坏 土師器	①[14.0] ②　3.3	①中粒②良好 ③橙色④1/6	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部の端部で短く直立。口縁部は内外面撫で。体部は外面篦削り。内面撫で。底部：浅い平底気味。	
120	H－22 床直	台付甕 土師器	①[13.0] ②　18.1	①中粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/2	口縁部：外反。内外面撫で。胴部：内彎に立ち上がり、胴部上位で膨らみをもち、内彎する。胴部上位器最大径。外面篦削り。内面撫で、篦押さえ痕有。底部：「ハ」の字状に外反した高台貼付。	
121	H－23 埋土	高台埦 須恵器	①[14.2] ②　5.4	①中粒②良好 ③灰黄褐色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：僅かに内彎して立ち上がり外傾した口縁部に至り、端部で短く外反。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に短く直立した高台貼付。回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
122	H－23 埋土	蓋 須恵器	①[17.6] ②　3.0	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤成形。天井部：肩部に僅かな膨らみをもつ。回転糸切り痕。内外面篦調整。摘み：ボタン状摘み。体部：緩やかに外傾。口縁部：短く直立。	流れ込み H－9か
123	H－23 埋土	皿 須恵器	①[14.0] ②　(2.3)	①中粒②良好 ③灰色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：緩やかに外傾して立ち上がり口縁部の端部で僅かに外反。内外面轆轤撫で。底部：高台欠損。回転糸切り未調整。	
124	H－23 埋土	甕 土師器	①[24.0] ②(22.1)	①粗粒②良好 ③にぶい褐色④1/4	口縁部：外反。口縁部器最大径。頸部はほぼ直立。内外面横位の撫で。胴部：内傾に立ち上がり、胴部中位で膨らみをもち、内彎する。外面上位縦位の篦削り、下位斜位の篦削り。内面撫で。底部：欠損。丸底と推測。	
125	H－23 埋土	甕 土師器	①[21.0] ②　(7.0)	①中粒②良好 ③橙色④口縁部1/4	口縁部：外反。頸部はほぼ直立。内外面撫で。胴部：肩部残存。外面篦削り。内面撫で。胴部上位から底部：欠損。	
126	H－24 埋土	坏 土師器	①[13.6] ②　(3.7)	①中粒②良好 ③橙色④1/5	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部の端部で短く直立。口縁部は内外面撫で。体部は外面篦削り。内面撫で。底部：欠損。浅い丸底と推測。	
127	H－24 埋土	高台埦 須恵器	①[14.8] ②　(7.3)	①中粒②良好 ③灰白色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：僅かに内彎して立ち上がり外傾した口縁部に至り端部で短く外反。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	
128	H－24 埋土	土　錘	①　(3.9) ②　1.7	①中粒②良好 ③灰褐色④ほぼ完形	厚さ　1.6　重さ　7.0 紡錘形を呈し、長軸に沿って孔が穿たれている。	
129	H－25 埋土	坏 須恵器	①　14.0 ②　3.3	①細粒②良好 ③褐灰色④2/3	轆轤成形。口縁・体部：外傾して立ち上がりそのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
130	H－25 埋土	高台埦 須恵器	①　11.2 ②　4.9	①細粒②良好 ③黄灰色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：僅かに内彎して立ち上がり外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に短く外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	
131	H－25 床直	短頸壺 須恵器	①　- ②(14.9)	①粗粒②良好 ③暗灰色④2/3	口縁部：欠損。頸部：欠損。胴部：緩やかに外傾して立ち上がり、胴部上位で膨らみをもち、内彎する。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に短く外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	
132	H－26 埋土	坏 土師器	①[12.0] ②　(3.1)	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/5	口縁・体部：内彎して立ち上がり口縁部で直立。口縁部は内外面撫で。体部は外面篦削り。内面撫で。底部：欠損。浅い平底と推測。	
133	H－26 埋土	坏 土師器	①[12.0] ②　4.0	①中粒②不良 ③黒褐色④1/4	口縁・体部：僅かに内彎して立ち上がり外傾した口縁部に至る。口縁部は内外面撫で。体部は外面斜位の篦削り。内面撫で。底部：平底気味。内外面煤付着。	

番号	遺構／層位	器　種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
134	H－26 床直	盤 須恵器	①　21.3 ②　3.7	①細粒②良好 ③灰色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：僅かに内彎して立ち上がり外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：僅かに「ハ」の字状に外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	
135	H－26 埋土	甕 土師器	①[22.0] ②　(9.2)	①中粒②良好③にぶい褐色④口縁部1/4	口縁部：外反。内外面撫で。胴部上位：外面篦削り。内面刷毛目後撫で。胴部上位から底部：欠損。	
136	H－27 床直	坏 須恵器	①　13.0 ②　3.6	①中粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：僅かに内彎して立ち上がり、外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
137	H－27 埋土	坩 土師器	①　[8.0] ②　(5.5)	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	口縁部：欠損。体部：内彎して立ち上がり、体部中位で膨らみをもち、内彎する。外面篦撫で。内面撫で、篦押さえ痕有。底部：中央落ち込む。平底気味。指押さえ。内外面煤付着。	流れ込み
138	H－27 床直	甕 土師器	①[20.0] ②(13.5)	①中粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/5	口縁部：外反。頸部はほぼ直立。内外面撫で。胴部：中位器最大径。外面篦削り。内面撫で、篦押さえ痕有。胴部下位から底部：欠損。	
139	H－28 埋土	坏 須恵器	①[14.0] ②　3.2	①中粒②不良 ③にぶい黄橙色④1/5	轆轤成形。口縁・体部：緩やかに外傾して立ち上がりそのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
140	H－29 床直	坏 須恵器	①[13.0] ②　(3.7)	①粗粒②良好 ③灰黄褐色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：欠損。	酸化焔焼成
141	H－29 床直	大　甕 須恵器	①　- ②　(8.5)	①中粒②良好 ③灰色④頸部のみ	口縁部：外反。内外面轆轤撫で。胴部上位から底部：欠損。	秋間系か
142	H－31 埋土	坏 土師器	①　13.0 ②　(3.3)	①中粒②良好 ③明赤褐色④1/3	口縁・体部：僅かに内彎して立ち上がり、口縁部で短く直立。口縁部は内外面撫で。体部は外面斜位の篦削り。内面撫で。底部：欠損。浅い丸底と推測。	
143	H－31 埋土	坏 須恵器	①　12.7 ②　3.2	①細粒②良好 ③黄灰色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
144	H－31 床直	壺 須恵器	①　11.8 ②(11.0)	①細粒②良好 ③灰色④1/3	轆轤成形。口縁部から体部上位：欠損。体部：内彎して立ち上がり中位で膨らみをもつ。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に外反した高台貼付。回転糸切り未調整。	
145	D－1 埋土	長頸瓶 須恵器	①　- ②　(9.6)	①細粒②極良 ③灰白色④1/8	轆轤成形。口縁部から頸部：欠損。体部：外傾して立ち上がり上位で膨らみをもつ。内外面轆轤撫で。底部：欠損。	
146	X15Y118	土　錘	①　5.4 ②　1.5	①細粒②良好③にぶい赤褐色④完形	厚さ　1.4　重さ　7.3 紡錘形を呈し、長軸に沿って孔が穿たれている。	

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。竈内の検については「竈」と記載した。
②口径、器高の単位はcmであり、重さ単位はｇである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab. 8　瓦観察表

番号	遺構／層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形・技術等の特徴	備　考
1	H－3 竈、床直	平　瓦	(20.5)	(15.5)	2.5	①粗粒②良好 ③灰色④1/4	凹面：布目（やや密）。模骨痕。凸面：撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成
2	H－3 竈、埋土	平　瓦	(16.7)	(14.1)	2.4	①粗粒②良好 ③灰白色④1/5	凹面：布目（やや密）。凸面：横位の撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成
3	H－4 埋土	丸　瓦	(28.7)	(11.0)	2.0	①細粒②良好 ③灰白色④1/3	行基葺式。凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：横位の撫で。広端部面取り１面。二次被熱。	還元焔焼成
4	H－4 埋土	平　瓦	(17.2)	(17.3)	1.7	①中粒②良好 ③灰色④1/6	凹面：布目擦り消し。粘土板糸切り痕。凸面：正格子叩き後擦り消し。側部面取り２面。広端部面取り２面。	還元焔焼成
5	H－4 床直	軒丸瓦	(15.0)	(12.4)	2.4	①中粒②良好 ③灰黄色④1/3	一枚作り。凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成
6	H－5 床直	平　瓦	(11.8)	(10.5)	2.8	①細粒②良好 ③褐灰色④1/12	凹面：布目（粗）。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。広端部面取り１面。	還元焔焼成
7	H－8 床直	平　瓦	(26.5)	33.0	2.1	①細粒②良好 ③橙色④1/4	凹面：布目擦り消し。粘土板糸切り痕。凸面：縦位の撫で。押印文字瓦「山田」（凸面）、篦書き記号瓦「干」（凸面）。側部面取り２面。広端部面取り２面。	酸化焔焼成 文字瓦①
8	H－8 床直	平　瓦	(16.0)	(12.8)	3.1	①細粒②良好 ③灰白色④1/6	凹面：布目擦り消し。粘土板糸切り痕（鮮明）。凸面：撫で。押印文字瓦「五子（鏡文字）」（凸面）	酸化焔焼成 文字瓦②
9	H－8 床直	平　瓦	(15.2)	(10.5)	2.1	①細粒②良好 ③灰褐色④1/10	凹面：布目。凸面：板目痕。側部面取り１面。広端部面取り２面。二次被熱。	酸化焔焼成
10	H－8 埋土	平　瓦	(23.1)	(11.7)	1.5	①中粒②良好 ③灰褐色④1/10	凹面：布目擦り消し。凸面：正格子叩き。側部面取り１面。広端部面取り２面。薄手の瓦。	還元焔焼成
11	H－8 埋土	丸　瓦	(12.0)	(10.8)	1.5	①中粒②良好 ③褐灰色④1/6	行基葺式か。凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：縄叩き（鮮明）。側部面取り２面。薄手の瓦。	還元焔焼成
12	H－8 床直	丸　瓦	(9.2)	(10.8)	1.1	①細粒②良好 ③灰黄褐色④1/8	行基葺式。凹面：布目擦り消し。粘土板糸切り痕。凸面：横位の撫で。狭端部面取り２面。薄手の瓦。	酸化焔焼成
13	H－8 床直	丸　瓦	(16.0)	(7.5)	1.7	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/5	行基葺式。凹面：布目（密）。布の合わせ目痕。凸面：撫で。側部面取り３面。狭端部面取り２面。	酸化焔焼成
14	H－8 埋土	平　瓦	(11.0)	(12.4)	1.7	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/10	凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り２面。狭端部面取り１面。	酸化焔焼成
15	H－8 床直	平　瓦	(10.9)	(14.8)	2.3	①細粒②良好 ③にぶい褐色④1/6	凹面：布目（粗）後一部撫で。凸面：縄叩き後横位の撫で。側部面取り１面。二次被熱。	還元焔焼成
16	H－8 床直	丸　瓦	36.8	16.7	1.3	①細粒②良好 ③灰白色④完形	行基葺式。凹面：布目。両面粘土板糸切り痕。布の合わせ目痕。凸面：縦位の撫で。側部面取り２面。狭端部面取り１面。薄手の瓦。広端部面取り１面。	還元焔焼成
17	H－8 埋土	丸　瓦	(10.8)	(10.4)	1.9	①粗粒②良好 ③黄灰色④1/6	行基葺式か。凹面：布目（密）。凸面：横位撫で。狭端部面取り１面。	還元焔焼成
18	H－8 埋土	平　瓦	(12.6)	(10.3)	1.4	①細粒②良好 ③黄灰色④1/8	桶巻き作り。凹面：布目。模骨痕。凸面：横位の撫で。側部面取り２面。狭端部面取り２面。薄手の瓦。	還元焔焼成
19	H－8 埋土	丸　瓦	(28.7)	19.0	2.4	①中粒②良好 ③褐灰色④3/4	行基葺式か。凹面：布目擦り消し。粘土板糸切り痕。凸面：布目擦り消し後縄叩き。側部面取り３面。広端部面取り１面。	還元焔焼成
20	H－8 床直	丸　瓦	(19.5)	(14.8)	2.0	①中粒②良好 ③灰白色④1/4	行基葺式。凹面：布目。粘土板糸切り痕。布の合わせ目痕。凸面：縄叩き後横位撫で。側端部面取り２面。狭端部面取り１面。	還元焔焼成
21	H－8 竈、埋土	丸　瓦	(8.6)	(9.4)	2.9	①粗粒②良好 ③灰白色④1/8	玉縁式。凹面：布目（粗）。凸面：縄叩き後横位の擦り消し。側部面取り２面。	還元焔焼成
22	H－8 床直	平　瓦	(14.5)	(6.8)	1.3	①細粒②良好 ③灰白色④1/12	凹面：布目擦り消し。凸面：縄叩き後擦り消し。側部面取り２面。狭端部面取り２面。薄手の瓦。	還元焔焼成
23	H－9 埋土	平　瓦	(7.6)	(5.0)	2.0	①細粒②良好 ③灰黄褐色④1/40	凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。押印文字瓦「山田」（凸面）	還元焔焼成 文字瓦③
24	H－9 埋土	平　瓦	(14.9)	(9.7)	2.6	①中粒②良好 ③灰色④1/10	凹面：布目擦り消し。凸面：縦位の撫で。側部面取り２面。狭端部面取り１面。整形台の圧痕。	還元焔焼成
25	H－9 埋土	丸　瓦	(12.2)	(13.3)	2.2	①細粒②良好 ③灰色④1/6	行基葺式か。凹面：布目（粗）。凸面：平行叩き（鮮明）。側部面取り１面。	還元焔焼成
26	H－9 埋土	丸　瓦	(9.5)	(7.5)	1.5	①中粒②良好 ③黄橙色④1/8	行基葺式か。凹面：布目（密）。凸面：撫で。側部面取り２面。薄手の瓦。	酸化焔焼成
27	H－10 床直	平　瓦	41.1	(22.8)	2.1	①粗粒②良好 ③橙色④2/3	凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：縦位の撫で。篦書き文字瓦「干」（凸面）。側部面取り１面。広端部面取り１面。煤付着。	酸化焔焼成 文字瓦④
28	H－10 埋土	平　瓦	(32.7)	(17.7)	3.2	①中粒②良好 ③褐灰色④2/5	凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。篦書き文字瓦「里士」（凹面）。凸面：縦位の撫で。側部面取り１面。広端部面取り１面。	還元焔焼成 文字瓦⑤

番号	遺構／層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形・技術等の特徴	備　考
29	H－10 埋土	平　瓦	(14.0)	(15.5)	2.7	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/6	凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：縦位の撫で。押印文字瓦「蓋」（凸面）。側部面取り３面。狭端部面取り２面。二次被熱。	酸化焔焼成 文字瓦⑥
30	H－10 埋土	平　瓦	(7.8)	(12.0)	1.9	①粗粒②良好 ③灰色④1/16	凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：横位の撫で。篦書き記号瓦「十」（凸面）。側部面取り１面。広端部面取り１面。	還元焔焼成 記号瓦⑦
31	H－10 埋土	丸　瓦	(5.9)	(6.8)	2.3	①細粒②良好 ③灰色④1/30	凹面：布目。凸面：撫で。篦書き文字瓦「千」（凸面）。側部面取り１面。狭端部面取り１面。	還元焔焼成 文字瓦⑧
32	H－10 床直	平　瓦	(18.2)	28.5	1.4	①細粒②良好 ③褐灰色④1/3	凹面：布目擦り消し。凸面：縄叩き。側部面取り２面。広端部面取り１面。篦書き記号瓦「二」（凹面）。二次被熱。薄手の瓦。	還元焔焼成 記号瓦⑨
33	H－10 床直	平　瓦	(31.1)	35.8	2.2	①細粒②良好 ③灰白色④2/3	粘土紐巻き上げか。凹面：布目（密）。凸面：横位の撫で。側部面取り１面。広端部面取り１面。二次被熱。	酸化焔焼成
34	H－10 竈、埋土	平　瓦	(34.3)	(15.4)	1.6	①細粒②良好 ③にぶい褐色④1/3	凹面：布目擦り消し（密）。凸面：撫で整形後斜格子叩き。側部面取り１面。広端部面取り１面。二次被熱。	酸化焔焼成
35	H－10 床直	平　瓦	38.3	(12.8)	2.9	①粗粒②良好 ③暗灰色④1/2	凹面：布目（粗）。凸面：平行叩き。側部面取り２面。広端部面取り１面。狭端部面取り１面。	還元焔焼成
36	H－10 埋土	平　瓦	(22.3)	(22.5)	2.7	①粗粒②良好 ③灰白色④1/3	凹面：布目（粗）。粘土板糸切り痕。凸面：縦位の撫で。側部面取り２面。狭端部面取り２面。二次被熱。	還元焔焼成
37	H－10 床直	平　瓦	[41.5]	[28.2]	2.4	①細粒②良好 ③褐灰色④1/2	１枚作りか。凹面：布目擦り消し。凸面：縄叩き。側部面取り２面。広端部面取り１面。二次被熱。	酸化焔焼成
38	H－10 竈、埋土	平　瓦	(32.0)	(21.5)	2.7	①細粒②良好 ③黄灰色④1/3	桶巻き作り。凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。布の合わせ目痕。模骨痕。凸面：縄叩き（鮮明）。側部面取り２面。狭端部面取り２面。	還元焔焼成
39	H－10 竈、床直	平　瓦	(23.8)	(25.6)	2.6	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/3	桶巻き作り。凹面：布目（粗）。模骨痕。凸面：縄叩き擦り消し。側部面取り２面。広端部面取り２面。二次被熱。	酸化焔焼成
40	H－10 床直	平　瓦	(15.0)	(17.5)	2.5	①粗粒②良好 ③褐灰色④1/5	凹面：布目（粗）。粘土板糸切り痕。凸面：縦位の撫で。側部面取り１面。狭端部面取り１面。	還元焔焼成
41	H－10 床直	平　瓦	(22.5)	(13.8)	2.1	①粗粒②良好 ③灰色④1/4	凹面：布目（粗）。凸面：撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。	還元焔焼成
42	H－10 竈、埋土	平　瓦	(18.0)	(24.0)	2.8	①細粒②良好 ③青灰色④1/3	桶巻き作り。凹面：布目。模骨痕。凸面：縄叩き擦り消し。側部面取り２面。狭端部面取り２面。	還元焔焼成
43	H－10 床直	平　瓦	(26.3)	(16.5)	2.3	①細粒②良好 ③灰黄色④1/4	凹面：布目（粗）。凸面：縦位の撫で。側部面取り１面。広端部面取り１面。二次被熱。	還元焔焼成
44	H－10 埋土	平　瓦	(15.0)	(15.5)	2.3	①粗粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/6	凹面：布目（粗）。凸面：撫で。側部面取り１面。狭端部面取り２面。	酸化焔焼成
45	H－10 埋土	平　瓦	(14.2)	(17.4)	2.2	①細粒②良好 ③灰褐色④1/6	桶巻き作り。凹面：布目（粗）。粘土板糸切り痕。模骨痕。凸面：布目擦り消し。側部面取り２面。広端部面取り２面。二次被熱。	酸化焔焼成
46	H－10 床直	平　瓦	(25.1)	(11.5)	2.1	①粗粒②良好 ③灰色④1/5	凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：縦位の撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成
47	H－10 竈、床直	平　瓦	(18.4)	(12.0)	2.3	①粗粒②良好 ③にぶい褐色④1/6	凹面：布目擦り消し。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り１面。狭端部面取り１面。	酸化焔焼成
48	H－10 竈、床直	平　瓦	(9.2)	(15.5)	2.3	①中粒②良好 ③褐灰色④1/8	凹面：布目（粗）。粘土板糸切り痕。凸面：平行叩き。側部面取り３面。二次被熱。	還元焔焼成
49	H－10 竈、埋土	平　瓦	(10.5)	(15.6)	2.1	①細粒②良好 ③灰色④1/4	凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：斜向縄叩き。側部面取り２面。	還元焔焼成
50	H－10 床直	平　瓦	(30.5)	(14.0)	2.2	①粗粒②良好 ③にぶい橙色④1/4	凹面：布目（粗）。凸面：撫で。側部面取り１面。広端部面取り２面。二次被熱	酸化焔焼成
51	H－10 床直	平　瓦	(17.0)	(16.0)	2.4	①粗粒②良好 ③灰褐色④1/4	凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。二次被熱。	還元焔焼成
52	H－10 床直	平　瓦	(11.5)	(16.5)	2.5	①細粒②良好 ③灰黄褐色④1/8	凹面：布目。粘土板糸切り痕。布の合わせ目痕。凸面：正格子叩き。広端部面取り２面。	酸化焔焼成
53	H－10 床直	丸　瓦	(15.2)	(9.3)	2.0	①中粒②良好 ③橙色④1/5	行基葺式か。凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り１面。二次被熱。	酸化焔焼成
54	H－10 埋土	平　瓦	(18.6)	(10.5)	2.4	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/8	凹面：布目。凸面：縦位の撫で。側部面取り１面。二次被熱。	酸化焔焼成
55	H－10 竈、床直	平　瓦	(14.0)	(10.5)	1.7	①中粒②良好 ③黄灰色④1/8	凹面：横位の撫で。凸面：撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成
56	H－10 竈、床直	平　瓦	(16.0)	(13.0)	2.4	①粗粒②良好 ③灰色④1/6	凹面：布目擦り消し（やや粗）。凸面：篦削り後撫で。広端部面取り２面。	還元焔焼成
57	H－10 竈、埋土	平　瓦	(10.5)	(13.5)	1.7	①細粒②良好 ③灰色④1/8	桶巻き作り。凹面：布目。粘土板糸切り痕。模骨痕。凸面：縄叩き擦り消し。側部面取り２面。	還元焔焼成

番号	遺構／層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形・技術等の特徴	備　考
58	H－10 床直	平　瓦	(13.0)	(12.5)	1.8	①細粒②良好 ③灰色④1/6	凹面：布目（粗）。凸面：撫で。側部面取り１面。狭端部面取り２面。	還元焔焼成
59	H－10 床直	丸　瓦	(7.9)	(7.8)	3.0	①細粒②良好 ③灰白色④1/10	行基葺式か。凹面：布目（粗）。凸面：撫で。広端部面取り２面。	酸化焔焼成
60	H－10 竈、埋土	平　瓦	(10.2)	(9.4)	1.1	①細粒②良好 ③橙色④1/10	凹面：布目擦り消し。凸面：縄叩き。側部面取り２面。狭端部面取り１面。二次被熱。薄手の瓦。	酸化焔焼成
61	H－10 埋土	平　瓦	(10.5)	(10.0)	1.8	①細粒②良好 ③灰黄褐色④1/10	凹面：布目擦り消し。凸面：縄叩き。側部面取り２面。広端部面取り２面。二次被熱。	還元焔焼成
62	H－10 埋土	平　瓦	(8.5)	(7.5)	2.3	①粗粒②良好 ③灰色④1/20	凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り３面。	還元焔焼成
63	H－10 埋土	丸　瓦	(10.0)	(8.6)	1.3	①中粒②良好 ③褐灰色④1/6	行基葺式。凹面：布目。凸面：撫で。側部面取り２面。狭端部面取り１面。薄手の瓦。	酸化焔焼成
64	H－10 床直	平　瓦	(10.0)	(10.4)	1.8	①中粒②良好 ③灰色④1/10	凹面：布目（粗）。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り３面。	還元焔焼成
65	H－10 竈、埋土	平　瓦	(10.5)	(15.2)	2.2	①粗粒②良好 ③褐灰色④1/8	凹面：布目。凸面：撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成
66	H－10 竈、床直	丸　瓦	(12.9)	(10.1)	1.4	①細粒②良好 ③橙色④1/6	行基葺式か。凹面：布目。凸面：撫で。二次被熱。薄手の瓦。	酸化焔焼成
67	H－10 竈、床直	平　瓦	(10.1)	(6.6)	1.6	①細粒②良好 ③褐灰色④1/20	凹面：布目。両面粘土板糸切り痕。凸面：斜格子叩き（鮮明）。	還元焔焼成
68	H－10 床直	軒平瓦	(10.2)	(10.0)	4.7	①中粒②良好 ③褐灰色④1/10	瓦当意匠は右偏行唐草文。瓦当部：無顎に近い。凹面：斜め方向の削り。凸面：縦方向の細かい削り後縄叩き	還元焔焼成 宇瓦。国分寺創建期瓦
69	H－10 床直	軒平瓦	(14.0)	(9.0)	4.7	①細粒②良好 ③灰色④1/8	瓦当意匠は右偏行唐草文。瓦当部：断面が三角形になる顎。凹面：布目擦り消し。凸面：縦位ないし斜め方向の削り。側部面取り２面。二次被熱。	還元焔焼成 宇瓦。国分寺創建期瓦
70	H－10 竈、埋土	軒平瓦	(26.0)	27.8	4.0	①中粒②良好 ③灰色④1/2	瓦当意匠は三重弧文。１枚作り。瓦当部：横位の削り。凹面：布目擦り消し。凸面：縦位の撫で。ベンガラ付着。側部面取り２面。	還元焔焼成 宇瓦。国分寺創建期以降の瓦
71	H－10 竈、埋土	丸　瓦	(37.5)	17.1	2.7	①中粒②良好 ③暗青灰色④2/3	行基葺式か。凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。	還元焔焼成
72	H－10 竈、床直	丸　瓦	(27.7)	18.9	2.2	①中粒②良好 ③灰白色④9/10	半截作り。行基葺式。凹面：布目。粘土板糸切り。凸面：縄叩き擦り消し。側部面取り２面。広端部面取り１面。二次被熱。	還元焔焼成
73	H－10 竈、床直	平　瓦	42.1	26.3	2.4	①細粒②良好 ③赤色④ほぼ完形	１枚作り。凹面：布目。凸面：縦位の撫で。側部面取り２面。広端部面取り１面。狭端部面取り１面。二次被熱。	酸化焔焼成
74	H－10 竈、埋土	丸　瓦	(30.8)	(13.3)	1.8	①粗粒②良好 ③明黄褐色④2/3	行基葺式か。凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：縄叩き後撫で。側部面取り３面。広端部面取り１面。	酸化焔焼成
75	H－10 床直	丸　瓦	(31.0)	(13.5)	1.6	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	行基葺式。凹面：布目（密）。布の合わせ目痕。凸面：縄叩き後縦位の撫で。側部面取り２面。狭端部面取り３面。	還元焔焼成
76	H－10 竈、埋土	丸　瓦	(31.5)	19.1	2.7	①中粒②良好 ③灰色④3/4	半截作り。行基葺式か。凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：縄叩き後撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。	還元焔焼成
77	H－10 床直	丸　瓦	(16.5)	(14.0)	2.1	①中粒②良好 ③灰白色④1/2	行基葺式。凹面：布目（粗）。凸面：縦位の撫で。側部面取り２面。狭端部面取り１面。	還元焔焼成
78	H－10 床直	丸　瓦	(25.0)	19.0	2.1	①細粒②良好 ③灰色④1/3	行基葺式。凹面：布目。凸面：縦位の撫で。側部面取り２面。狭端部面取り１面。	還元焔焼成
79	H－10 竈、床直	丸　瓦	(16.0)	(14.7)	2.3	①中粒②良好 ③灰色④1/5	行基葺式。凹面：布目。凸面：平行叩き。側部面取り２面。狭端部面取り２面。	還元焔焼成
80	H－10 床直	丸　瓦	(8.5)	(14.2)	2.3	①中粒②良好 ③灰色④1/8	行基葺式か。凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：縄叩き後横位の撫で。側部面取り１面。	還元焔焼成
81	H－10 埋土	丸　瓦	(14.0)	16.7	2.5	①細粒②良好 ③灰色④1/4	行基葺式。凹面：布目。凸面：縦位の撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成
82	H－10 竈、埋土	丸　瓦	(20.0)	(21.8)	2.7	①中粒②良好 ③灰色④1/2	行基葺式か。凹面：布目。凸面：縦位の撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。	還元焔焼成
83	H－10 埋土	丸　瓦	(22.3)	(16.0)	2.2	①細粒②良好 ③灰色④1/2	行基葺式。凹面：布目。凸面：平行叩き（鮮明）。側部面取り２面。広端部面取り２面。	還元焔焼成
84	H－10 埋土	平　瓦	(9.3)	(12.0)	2.2	①細粒②良好 ③灰色④1/10	凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。	還元焔焼成
85	H－10 竈、床直	丸　瓦	(23.5)	17.5	3.1	①細粒②良好 ③褐灰色④1/2	玉縁式。凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：縄叩き後撫で。	酸化焔焼成

番号	遺構／層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形・技術等の特徴	備　考
86	H－10 竈、床直	丸　瓦	(20.6)	(13.3)	2.4	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/4	行基葺式。凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：横位の撫で。側部面取り１面。狭端部面取り１面。	還元焔焼成
87	H－10 埋土	丸　瓦	(15.5)	(16.4)	4.1	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/4	玉縁式。凹面：布目擦り消し。凸面：横位の撫で。側部面取り２面。狭端部面取り２面。	酸化焔焼成
88	H－10 竈、埋土	丸　瓦	(12.5)	(16.0)	1.3	①中粒②良好 ③灰色④1/4	行基葺式か。凹面：布目（密）。凸面：横位の撫で。側部面取り１面。薄手の瓦。	還元焔焼成
89	H－10 床直	丸　瓦	(13.5)	(12.0)	2.1	①粗粒②良好 ③灰白色④1/8	行基葺式。凹面：布目（粗）。凸面：縦位の撫で。側部面取り１面。狭端部面取り１面。	還元焔焼成
90	H－10 埋土	丸　瓦	(8.1)	(12.0)	1.6	①中粒②良好 ③橙色④1/4	行基葺式。凹面：布目。凸面：撫で。側部面取り２面。狭端部面取り２面。二次被熱	酸化焔焼成
91	H－10 竈、埋土	丸　瓦	(14.5)	(9.5)	1.4	①中粒②良好 ③灰色④1/6	行基葺式。凹面：布目。凸面：横位の撫で。側部面取り１面。狭端部面取り１面。薄手の瓦。	還元焔焼成
92	H－10 埋土	平　瓦	(19.6)	(6.8)	2.2	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/8	凹面：布目（密）。凸面：撫で。篦書き文字瓦「伴一」（凸面）。側部面取り２面。	酸化焔焼成 文字瓦⑩
93	H－10 床直	平　瓦	(9.8)	(11.0)	2.4	①中粒②良好 ③灰白色④1/16	凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。篦書き文字瓦「手」(凸面)。	還元焔焼成 文字瓦⑪
94	H－10 埋土	丸　瓦	(7.5)	(6.0)	2.2	①中粒②良好 ③浅黄橙色④1/15	行基葺式か。凹面：布目。凸面：撫で。篦書き文字瓦「万？」(凸面)。二次被熱。	酸化焔焼成 文字瓦⑫
95	H－11 床直	平　瓦	(23.5)	(14.4)	1.8	①中粒②良好 ③褐灰色④1/4	桶巻き作り。凹面：布目。模骨痕。凸面：縄叩き。側部面取り２面。狭端部面取り２面。二次被熱。	酸化焔焼成
96	H－11 竈、埋土	平　瓦	(32.0)	(11.0)	1.7	①中粒②良好 ③黒褐色④1/3	凹面：布目擦り消し。凸面：正格子叩き。側部面取り２面。広端部面取り１面。	還元焔焼成
97	H－11 埋土	平　瓦	39.0	(11.0)	1.8	①粗粒②良好 ③灰色④1/3	粘土紐巻き上げか。凹面：布目（密）。凸面：縦位の撫で。側部面取り１面。	還元焔焼成
98	H－11 床直	平　瓦	(15.5)	(12.5)	2.0	①粗粒②良好 ③褐灰色④1/4	凹面：布目（粗）。凸面：平行叩き。側部面取り１面。広端部面取り１面。二次被熱。	還元焔焼成
99	H－11 床直	平　瓦	(23.5)	(9.7)	2.2	①中粒②良好 ③浅黄橙色④1/6	凹面：布目（粗）。凸面：撫で。側部面取り２面。二次被熱。	酸化焔焼成
100	H－11 床直	丸　瓦	(18.3)	(13.5)	1.8	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/4	行基葺式か。凹面：布目。粘土板糸切り痕。布の合わせ目痕。凸面：撫で。側部面取り２面。二次被熱。	酸化焔焼成
101	H－11 埋土	平　瓦	(13.5)	(14.7)	2.7	①細粒②良好 ③橙色④1/6	凹面：布目擦り消し。凸面：縄叩き後縦位の撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。二次被熱。	酸化焔焼成
102	H－11 床直	丸　瓦	(14.7)	(11.0)	2.0	①中粒②良好 ③灰色④1/6	行基葺式。凹面：布目（密）。凸面：縦位の撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。	還元焔焼成
103	H－11 竈、埋土	平　瓦	(12.0)	(14.5)	1.6	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/8	凹面：布目。凸面：縄叩き擦り消し。側部面取り１面。煤付着。	酸化焔焼成
104	H－11 床直	平　瓦	(12.0)	(15.8)	1.9	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/8	凹面：布目擦り消し。粘土板糸切り痕。凸面：横位の撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成
105	H－11 竈、埋土	丸　瓦	(15.5)	(9.7)	2.1	①粗粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/9	行基葺式。凹面：布目。凸面：撫で。側部面取り３面。広端部面取り２面。	酸化焔焼成
106	H－11 床直	平　瓦	(19.0)	(10.5)	1.9	①中粒②良好 ③褐灰色④1/8	凹面：布目。凸面：縦位の撫で。側部面取り３面。狭端部面取り１面。	還元焔焼成
107	H－11 竈、床直	平　瓦	(8.8)	(14.5)	2.5	①細粒②良好 ③にぶい褐色④1/8	凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り１面。二次被熱。	酸化焔焼成
108	H－11 床直	平　瓦	(8.1)	(14.4)	1.7	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/10	凹面：布目擦り消し。凸面：縄叩き後縦位の撫で。側部面取り１面。広端部面取り１面。二次被熱。	酸化焔焼成
109	H－11 床直	平　瓦	(10.8)	(11.0)	2.8	①中粒②良好 ③灰色④1/8	凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：平行叩き。側部面取り１面。狭端部面取り１面。	還元焔焼成
110	H－11 床直	平　瓦	(11.0)	(12.8)	1.8	①粗粒②良好 ③褐灰色④1/15	凹面：布目擦り消し。両面粘土板糸切り痕。凸面：横位の撫で。側部面取り１面。広端部面取り１面。	還元焔焼成
111	H－11 床直	平　瓦	(10.2)	(11.5)	2.6	①細粒②良好 ③灰色④1/10	凹面：布目。凸面：平行叩き後撫で。側部面取り１面。	還元焔焼成
112	H－11 床直	平　瓦	(21.5)	(9.0)	2.3	①細粒②良好 ③灰白色④1/8	凹面：布目（粗）。両面粘土板糸切り痕。凸面：横位の撫で。狭端部面取り２面。	還元焔焼成
113	H－11 床直	平　瓦	(11.2)	(8.5)	2.5	①細粒②良好 ③灰赤色④1/10	凹面：布目後削り。粘土板合わせ目痕。凸面：撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。二次被熱。	酸化焔焼成
114	H－11 埋土	丸　瓦	(9.0)	(10.5)	1.3	①細粒②良好 ③橙色④1/8	行基葺式か。凹面：布目擦り消し。布の合わせ目痕。凸面：横位の撫で。側部面取り２面。広端部面取り３面。二次被熱。薄手の瓦。	酸化焔焼成
115	H－11 埋土	丸　瓦	(6.7)	(10.5)	2.5	①中粒②良好 ③灰色④1/8	行基葺式か。凹面：布目（粗）。凸面：撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成

番号	遺構／層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形・技術等の特徴	備　考
116	H－11 床直	平　瓦	(7.2)	(12.6)	1.7	①細粒②良好 ③灰黄褐色④1/10	凹面：布目。凸面：縄叩き後横位の撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。二次被熱。	還元焔焼成
117	H－11 竈、床直	丸　瓦	(10.5)	(10.0)	2.6	①中粒②良好 ③灰色④1/16	行基葺式か。凹面：布目。凸面：撫で。側部面取り１面。	酸化焔焼成
118	H－11 床直	丸　瓦	(11.0)	21.0	2.5	①粗粒②良好 ③灰色④1/4	行基葺式。凹面：布目（粗）。粘土板糸切り痕。凸面：縦位の撫で。側部面取り２面。広端部面取り１面。	還元焔焼成
119	H－11 床直	丸　瓦	(13.6)	18.0	2.7	①細粒②良好 ③灰色④1/3	行基葺式。凹面：布目。凸面：縦位の撫で。側部面取り２面。狭端部面取り２面。	還元焔焼成
120	H－11 床直	丸　瓦	(18.7)	(14.5)	1.4	①粗粒②良好 ③灰白色④1/3	行基葺式か。凹面：布目。凸面：縦位の撫で。側部面取り３面。薄手の瓦。	還元焔焼成
121	H－11 床直	丸　瓦	(17.0)	(14.1)	2.1	①細粒②良好 ③灰色④1/3	行基葺式。凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り３面。	還元焔焼成
122	H－11 床直	丸　瓦	(6.8)	(12.7)	3.0	①細粒②良好 ③明褐灰色④1/6	玉縁式。凹面：布目。凸面：撫で。側部面取り２面。二次被熱。	酸化焔焼成
123	H－11 床直	丸　瓦	(7.7)	(10.0)	3.1	①細粒②良好 ③灰白色④1/8	玉縁式。凹面：布目。凸面：撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成
124	H－12 竈、床直	丸　瓦	(26.0)	18.8	2.2	①中粒②良好 ③灰褐色④9/10	粘土紐巻き上げか。行基葺式か。凹面：布目（密）。凸面：横位撫で。箆書き文字瓦「石」（凸面）。側部面取り１面。広端部面取り１面。	還元焔焼成 文字瓦⑬
125	H－12 竈、床直	丸　瓦	(19.9)	(12.7)	3.2	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/4	行基葺式か。凹面：布目。凸面：横位の撫で。側端部面取り３面。狭端部面取り２面。二次被熱。	酸化焔焼成
126	H－13 床直	平　瓦	(7.3)	(13.3)	2.0	①細粒②良好 ③灰色④1/10	凹面：布目。凸面：縄叩き擦り消し。側部面取り３面。広端部面取り３面。	還元焔焼成
127	H－13 床直	丸　瓦	(21.3)	(11.7)	2.0	①細粒②良好 ③灰色④1/3	行基葺式。凹面：布目。粘土板の合わせ目痕。凸面：撫で側部面取り１面。狭端部面取り１面。	還元焔焼成
128	H－13 床直	丸　瓦	(9.6)	(10.7)	2.4	①細粒②良好 ③灰白色④1/8	行基葺式。凹面：布目擦り消し。粘土板糸切り痕。凸面：縦位の撫で。側部面取り２面。広端部面取り１面。	還元焔焼成
129	H－13 床直	丸　瓦	(8.3)	(9.5)	1.8	①細粒②良好 ③灰白色④1/8	行基葺式。凹面：布目擦り消し。凸面：横位の撫で。側部面取り２面。狭端部面取り２面。	還元焔焼成
130	H－14 竈、埋土	丸　瓦	(14.8)	(13.5)	2.4	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/5	行基葺式。凹面：布目（密）。凸面：縄叩き擦り消し。側部面取り２面。広端部面取り２面。	酸化焔焼成
131	H－22 床直	平　瓦	(16.3)	(14.5)	1.7	①細粒②良好 ③褐灰色④1/6	凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：縦位の撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。	還元焔焼成
132	H－22 竈、床直	平　瓦	(13.5)	(14.0)	1.9	①中粒②良好 ③褐灰色④1/4	桶巻き作り。凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。模骨痕。凸面：横位の撫で。側部面取り１面。広端部面取り２面。	還元焔焼成
133	H－22 埋土	丸　瓦	(12.0)	(10.0)	1.5	①細粒②良好 ③灰白色④1/8	行基葺式。凹面：布目。凸面：縄叩き擦り消し。側部面取り２面。狭端部面取り２面。薄手の瓦。	還元焔焼成
134	H－23 埋土	丸　瓦	(17.5)	(15.0)	1.8	①中粒②良好 ③灰色④1/3	行基葺式か。凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：横位の撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成
135	H－23 埋土	平　瓦	(17.5)	(12.5)	2.3	①中粒②良好 ③灰色④1/5	凹面：布目（粗）。凸面：平行叩き。側部面取り２面。狭端部面取り２面。	還元焔焼成
136	H－23 埋土	平　瓦	(20.3)	(7.0)	3.3	①細粒②良好 ③灰白色④1/8	凹面：布目（粗）。凸面：縦位の撫で。狭端部面取り２面。二次被熱。	還元焔焼成
137	H－23 埋土	丸　瓦	(11.0)	(12.2)	3.3	①細粒②良好 ③灰白色④1/4	玉縁式。凹面：布目擦り消し。凸面：横位の撫で。	還元焔焼成
138	H－23 竈、埋土	平　瓦	(8.8)	(9.5)	2.3	①中粒②良好 ③灰色④1/16	凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：縄叩き擦り消し。側部面取り３面。狭端部面取り２面。	還元焔焼成
139	H－23 床直	丸　瓦	(7.0)	(11.4)	1.7	①粗粒②良好 ③にぶい橙色④1/16	行基葺式か。凹面：布目擦り消し。凸面：横位の撫で。広端部面取り１面。	酸化焔焼成
140	H－23 埋土	軒丸瓦	(8.2)	(9.4)	2.8	①粗粒②良好 ③灰色④1/16	単弁４葉蓮華文。子葉のないやや長い連弁。文様はすべて隆線。間弁はＴ字形。瓦当裏面：無絞りの布目。凹面：布目。凸面：撫で。	還元焔焼成 鐙瓦。国分寺創建期以降の瓦
141	H－24 床直	平　瓦	45.8	(19.0)	3.1	①細粒②良好 ③明赤褐色④2/3	凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：横位の撫で。側部面取り３面。広端部面取り２面。	酸化焔焼成
142	H－24 床直	平　瓦	(23.0)	(17.0)	2.4	①中粒②良好 ③灰色④1/4	凹面：布目（密）。凸面：縦位の撫で。狭端部面取り２面。二次被熱。	還元焔焼成
143	H－24 床直	平　瓦	(27.4)	(12.0)	2.7	①中粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/5	凹面：布目（粗）。凸面：縄叩き擦り消し。狭端部面取り２面。二次被熱。	酸化焔焼成
144	H－24 床直	丸　瓦	(14.0)	(15.6)	2.0	①細粒②良好 ③黒褐色④1/5	行基葺式か。凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：横位の撫で。側部面取り２面。二次被熱	酸化焔焼成

番号	遺構／層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形・技術等の特徴	備　考
145	H－24 埋土	丸　瓦	(13.3)	(11.8)	1.5	①粗粒②良好 ③灰色④1/5	行基葺式。凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：横位の撫で。側部面取り３面。広端部面取り２面。薄手の瓦。	還元焔焼成
146	H－24 床直	平　瓦	(13.8)	(16.6)	2.1	①細粒②良好 ③灰赤色④1/6	凹面：布目。粘土板糸切り痕。布の合わせ目痕。凸面：縄叩き擦り消し。側部面取り２面。広端部面取り２面。二次被熱。	酸化焔焼成
147	H－24 床直	平　瓦	(17.9)	(12.7)	2.4	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/6	凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り１面。狭端部面取り１面。二次被熱。	酸化焔焼成
148	H－24 埋土	丸　瓦	(8.5)	(11.8)	2.2	①細粒②良好 ③灰色④1/10	行基葺式か。凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：横位の撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成
149	H－24 埋土	丸　瓦	(12.7)	(14.5)	2.8	①細粒②良好 ③褐灰色④1/6	行基葺式。凹面：布目（密）。布の合わせ目痕。凸面：撫で。側部面取り１面。狭端部面取り１面。二次被熱。	酸化焔焼成
150	H－24 埋土	丸　瓦	(9.4)	(9.7)	3.0	①中粒②良好 ③灰色④1/5	玉縁式。凹面：布目。凸面：縦位の撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成
151	H－24 埋土	丸　瓦	(25.5)	18.8	2.2	①細粒②良好 ③灰色④1/2	行基葺式か。凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：縦位の撫で。側部面取り３面。広端部面取り１面。	還元焔焼成
152	H－25 床直	平　瓦	(7.3)	(15.5)	1.7	①細粒②良好 ③灰黄褐色④1/10	凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：縄叩き。側部面取り２面。二次被熱。	酸化焔焼成
153	H－25 床直	平　瓦	(17.0)	(11.0)	2.0	①中粒②良好 ③灰白色④1/8	凹面：布目擦り消し。両面粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り２面。広端部面取り１面。二次被熱。	還元焔焼成
154	H－25 床直	平　瓦	(17.4)	(9.2)	2.2	①中粒②良好 ③灰色④1/10	凹面：布目（粗）。粘土板糸切り痕。凸面：平行叩き。広端部面取り２面。篦書き文字瓦「日」（凸面）。	還元焔焼成 文字瓦⑭
155	H－28 埋土	平　瓦	(12.5)	(17.5)	1.8	①細粒②良好 ③黄灰色④1/4	１枚作り。凹面：布目擦り消し。凸面：撫で後斜格子叩き。側部面取り２面。	還元焔焼成
156	H－30 埋土	丸　瓦	(17.0)	(12.7)	2.0	①細粒②良好 ③灰白色④1/4	行基葺式か。凹面：布目。凸面：縄叩き後縦位の撫で。側部面取り１面。広端部面取り１面。	還元焔焼成
157	H－31 埋土	平　瓦	(9.5)	(19.5)	2.5	①中粒②良好 ③灰色④1/5	桶巻き作り。凹面：布目。粘土板糸切り痕。模骨痕。凸面：縄叩き擦り消し。側部面取り３面。	還元焔焼成
158	遺構外１	平　瓦	(11.8)	(8.3)	2.0	①中粒②良好③にぶい黄橙色④1/16	凹面：布目。篦書き記号瓦「十」（凹面）。凸面：縄叩き後撫で。二次被熱。	酸化焔焼成 記号瓦⑮
159	遺構外２	丸　瓦	(8.8)	(9.5)	1.5	①中粒②良好 ③浅黄橙色④1/8	行基葺式か。凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：横位撫で。篦書き判読不能文字瓦（凸面）。薄手の瓦。	酸化焔焼成 文字瓦⑯
160	遺構外３	平　瓦	(28.2)	(11.6)	2.1	①細粒②良好 ③橙色④1/4	凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：縄叩き後撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。二次被熱。	酸化焔焼成
161	遺構外４	平　瓦	37.0	(12.5)	1.5	①細粒②良好 ③灰褐色④1/2	粘土紐巻き上げか。凹面：布目（密）。凸面：横位の撫で。側部面取り２面。広端部面取り１面。二次被熱。薄手の瓦。	還元焔焼成
162	遺構外５	軒平瓦	(9.0)	(8.9)	4.3	①中粒②良好③にぶい黄橙色④1/10	瓦当意匠は右偏行唐草文。瓦当部：無顎に近い。凹面：布目擦り消し。凸面：縦位撫で。	酸化焔焼成 宇瓦。国分寺創建期瓦

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。竈内の検出については「竈」と記載した。
②長さ、厚さの単位はcmである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab.9　鉄器・鉄製品・古銭観察表

番号	遺構・層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	備　考
1	H－9・埋土	紡錘車	(11.3)	4.2	0.3	30.6	2/3	軸部両端欠損。紡輪部は扁平、銹化している。
2	H－10・床直	鋏	(7.5)	3.9	0.7	24.2	2/3	断面方形状を呈し、片方の端部側欠損。
3	H－10・床直	銅　銭	径 2.4	孔　径 0.7	0.1	2.4	ほぼ完形	名称「隆平永寶」。年代延暦15年。西暦796年。皇朝十二文銭。山王廃寺跡からも２点出土。
4	H－11・埋土	石突状金具	(9.2)	2.4	1.9	54.0	1/2	先端部欠損。全体的に袋状挿入部をもつ先端の尖った金具。基部径2.6cm（内径1.9cm）先端丸味径0.9cm
5	H－13・埋土	馬具か	(7.7)	4.8	0.3	32.6	3/4	鏡板か。銹化著しい。
6	H－20・床直	鉄　鏃	(9.1)	2.6	0.3	15.2	1/2	刃先端及び両側の腸抉、茎下端部欠損。銹化著しい。
7	H－21・床直	角　釘	(11.4)	9.0	0.8	41.6	2/3	方形状を呈し、下端部欠損は先細りする。銹化著しい。
8	X15Y118	飾金具	5.1	3.0	0.2	12.2	完形	調度品の飾金具。青銅製。端部寄りに幅0.2cm前後の孔、穿たれる。

注）大きさの単位はcmであり、重さ単位はｇである。現存値を（　）で示した。

Tab.10　石器・石製品観察表

番号	遺構・層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	備　考
1	J－1・埋土	打製石斧	15.7	8.6	2.5	450.5	黒色頁岩	完形	撥形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。表面一部に自然面を残す。
2	J－3・埋土	敲き石	14.1	6.7	4.4	610.0	閃緑岩	完形	棒状の端部に敲打による潰れが認められる。
3	H－10・埋土	打製石斧	8.4	4.0	1.4	77.0	頁岩	2/3	短冊形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。裏面一部に自然面を残す。
4	H－11・埋土	石　鏃	(2.8)	2.1	0.3	1.5	チャート	ほぼ完形	凹基無茎鏃。先端部僅かに欠損。基部の湾入が丸く、微細な調整が丁寧。
5	H－11・埋土	打製石斧	14.0	6.1	2.4	220.0	玄武岩	完形	短冊形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。
6	H－12・埋土	石　鏃	1.5	1.4	0.4	0.9	黒曜石	完形	凹基無茎鏃。基部の湾入が丸く浅い。微細な調整が丁寧。
7	H－14・埋土	打製石斧	12.2	4.2	1.1	70.0	硬質頁岩	完形	短冊形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。裏面一部に自然面を残す。
8	H－17・埋土	打製石斧	10.2	4.5	1.5	86.0	黒色頁岩	完形	短冊形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。
9	H－17・埋土	打製石斧	10.3	4.6	1.3	68.5	黒色頁岩	完形	短冊形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。両面一部に自然面を残す。
10	H－21・埋土	窪み石	10.2	8.8	3.3	350.0	安山岩	完形	両面に窪みを有する。
11	H－22・埋土	打製石斧	9.3	3.5	1.0	47.0	黒色頁岩	完形	短冊形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。両面一部に自然面を残す。

注）大きさの単位はcmであり、重さ単位はｇである。現存値を（　）で示した。

Ⅵ 考　　察

平成15年度一般県道足門前橋線バイパス（西毛広域幹線道路　国分寺工区）緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査では、現耕作土より約50cm程掘削したところで遺構面を確認した。調査の結果、竪穴住居跡34軒（うち３軒が縄文時代の竪穴住居跡）、溝跡２条、土坑１基、落ち込み１基を検出することができた。出土遺物からみると、加曽利Ｅ式期を中心とする縄文時代中期の土器片や石器から古墳時代・奈良時代・平安時代の土器片に至るまでの広い時期に渡っている。中でも、８世紀後半から10世紀後半にかけての遺物が、殆どの割合を占めていた。また、破片を含めた遺物総数の約１割にあたる1,264点もの瓦片が出土している。本遺跡は国府推定域の北西側に位置し、調査区の北西側には国分僧寺、北側には国分尼寺が隣接する地域である。周縁の遺跡との関連でみると、「上野国分僧寺・尼寺中間地域」で検出された集落の縁辺部にあたると考えられる。

ここでは今回の調査によって明らかになった遺構・遺物について、Ⅰ期（～７世紀前半、律令期以前）、Ⅱ期（７世紀後半～10世紀初頭、律令期）、Ⅲ期（10世紀前半～、律令期以後）の３期に大別して、特徴的なことを中心に考察していきたい。また今後、今回の調査結果を周辺遺跡の調査事例と合わせ、より詳細な総社・元総社地区の歴史解明に寄与したい。

Ⅰ期（～７世紀前半、律令期以前）

縄文時代の竪穴式住居が３軒検出された。このうち２軒が調査区南側から検出された。隅丸方形を呈するもので、炉は検出されなかったが、出土遺物から縄文時代中期（加曽利Ｅ式期）と考えられる。昨年度調査を実施した元総社小見Ⅱ遺跡でも縄文時代中期の竪穴住居跡が２軒検出されていることから、関連する集落である可能性が高い。近隣の耕作地では、土器や石器なども採集されており、どのような集落形成がなされていたかについては、今後の調査に期待したい。

今回の調査で検出されたのは、縄文時代の竪穴式住居以外では、Ⅰ期はＨ－17号竪穴住居跡１軒のみであった。この住居からは、土師器坏、甑、甕、須恵器高坏が出土し、古墳時代後期（６世紀中頃）のものであることが判明した。この時期の住居は、正方形に近い形状を成し、確認できたもので一辺が４ｍ前後のものが多い。壁高は約35.5cmを測る。炉は確認できなかった。今年度もⅠ期竪穴住居跡の検出数が非常に少なく、特に６世紀末～７世紀前半の遺構は検出されなかった。これらの調査結果は、過去２年間調査を実施した国府推定域北東側の調査同様、国府成立前には国府周辺には大きな集落は形成されていなかったという見解の更なる裏付けとなった。

Ⅱ期（７世紀後半～10世紀初頭、律令期）

本期の竪穴住居跡は19軒あり、調査区の全域にわたって分布が見られる。

竪穴住居の分布でみると、７世紀後半から８世紀中頃にかけての竪穴住居跡は、Ｈ－６号竪穴住居跡の１軒検出のみである。この住居跡は土師器坏、台付甕、長胴甕等の出土遺物から８世紀初頭のものであると考えられる。住居範囲は、西側が調査区域外であることとＷ－１号溝跡に切られていることから一部分のみの検出となった。確認範囲で、壁現高33cm、面積約8.2㎡である。また竈は東壁中央に付設されており、左袖部には長胴甕を逆位に被せた状態で検出され、右袖部には自然石が使用されていた。このように使用されなくなった土器を再利用して竈を構成する手法はやはり過年度の調査からも検出されている。土器の変化を探る上で重要な資料である。

今回この狭い調査範囲の中で、８世紀後半から９世紀前半にかけての竪穴住居跡は16軒と非常に多く検出された。特徴的な住居を挙げると、Ｈ－８号竪穴住居跡は、壁現高約30cmで、竈が東壁中央北寄りに付設され、際袖

部・煙道部等に構築材、構架材として丸瓦、平瓦を転用して構築されていたことが窺える。また、住居内には灰や粘土が散在していた。住居内からは75点もの瓦片が出土しその中に、文字瓦が２点含まれていた。一つは、平瓦（瓦観察表No.７）の凸面に「山田」(山田郡の郡銘瓦）と押印された文字と、同じ面に「干」と篦書きされた記号が検出され、もう一つも、やはり平瓦（瓦観察表No.８）の凸面に「五子」の鏡文字が押印されているのを検出した。この住居跡は須恵器坏、蓋、土師器甕等の出土遺物から９世紀前半のものであることが判明した。Ｈ－10号竪穴住居跡は、壁現高約48.5cmで、竈が東壁南寄りに付設され、両袖部・煙道部、壁際に国分僧寺瓦を再利用して構築されていた。この時期のこの地域の竈には瓦による壁面の補強が一般化していたものと考えられる。この住居からは今回の調査で出土した瓦片のうちの約３割にあたる354点出土した。その中に、文字瓦が６点含まれていた。平瓦（瓦観察表No.27・29・30・31）凸面に「干」「圖」「十」と平瓦（瓦観察表No.28・32）凹面に「里ヒ」「二」と記された文字が検出された。また、国分僧寺創建期に使用されていたと考えられる軒平瓦（瓦観察表No.68・69・70）も検出された。皇朝十二銭の一つである「隆平永寶」の銅銭も検出された。この住居跡は、土師器坏、甕、須恵器坏、蓋、高台埦等の出土遺物から９世紀前半のものであることが判明した。この住居内には数多くの瓦片が散在していた他に竈周辺には灰が特に厚く堆積し、その灰が住居内全体に及んでいた。これは湿気防止の為であると考えられる。

Ｈ－８・９・10・29号竪穴住居跡は、東竈の方向や住居の主軸方向の統一性があることが、住居跡一覧表(Fig.２）や時代別の竪穴住居跡配置図（Fig.６）からも分かる。国府との関連でみると、推定されている国府域の縁辺では土地利用上の規制が及んでいたことが想定され、居住域は限定された中で建て替えが行われていたものとみられる。また、竪穴住居跡の重複が著しく検出されていることからみても、この地が規制の中で住居を建てることが許され、小規模な集落が散在していた様子が窺える。

Ⅲ期（10世紀前半～、律令期以後）

本期の竪穴住居跡は８軒あり、そのうち１軒、Ｈ－11号竪穴住居跡が10世紀前半の住居で、残りの７軒は10世紀後半の住居である。その中で特徴のある住居を挙げると、Ｈ－３号竪穴住居跡は、壁現高約30cmで、竈が東壁中央に付設され、壁面を掘り込んで構築し、凝灰岩質砂岩の加工材を袖石や天井石に用いていた。また、竈の支脚には自然石を用いていた。Ｈ－11号竪穴住居跡は、一辺が約4.9mを測り、方形を呈し、壁現高約36cmで、竈が東壁中央に付設されている。この住居内からも竈や住居の補強に転用された瓦150点が出土した。その中にも、文字瓦が３点含まれていた。平瓦（瓦観察表No.92・93・94）の凸面には「伴一」「手」「万？」と篦書きされていた。Ｈ－12号竪穴住居跡の出土瓦の中には平瓦凸面に「石」と篦書きされた文字瓦も含まれていた。竈の南東側に棚状の遺構を検出した。また、東壁中央南寄りに付設された竈の袖部には凝灰岩質砂岩が使用されていた。

検出された遺構が調査区外にかかっていることもあり住居の一部しか確認できなかったが、竈の方向や住居の主軸方向などの規格に統一性がないことが住居跡一覧表（Fig.２）や時代別の竪穴住居跡配置図（Fig.６）からも分かる。このことは国府機能の衰退と共に規制が緩和され、縁辺部の集落構造が変質したことが想定される。

本遺跡の竪穴住居跡と「上野国分僧寺・尼寺中間地域」の竪穴住居跡を比較してみると、各年代毎に殆どの住居で主軸方向や住居の規模に一致がみられる。このことから本遺跡の住居は、「上野国分僧寺・尼寺中間地域」で検出された集落の縁辺部にあたると考えられる。また長年にわたって集落が形成されていることから、この地が国分僧寺・尼寺と深く関わりをもちながら、その維持管理に関連した工人や農耕に従事した人々の集落として機能してきたものと考えられる。

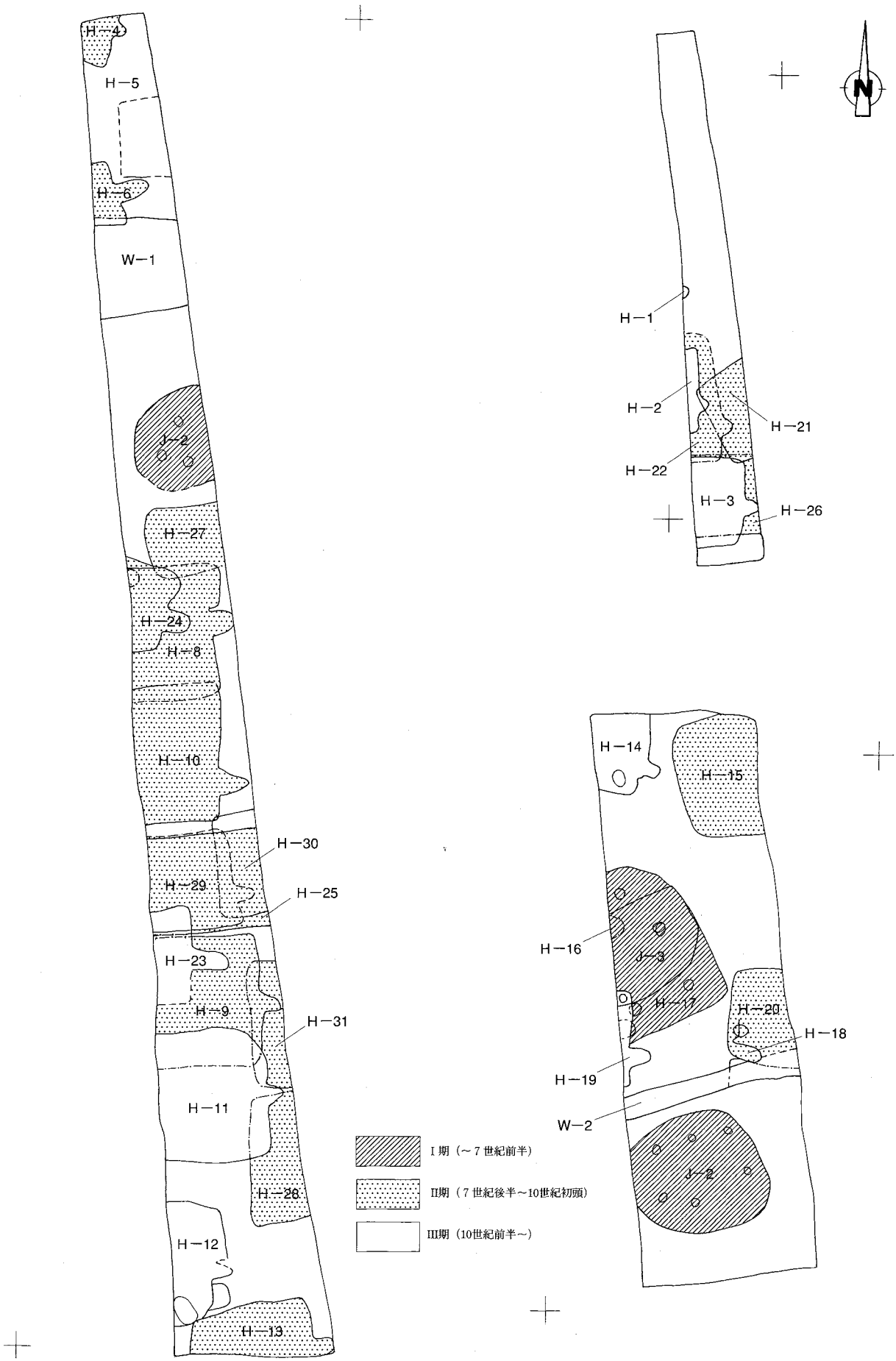


Fig.6　時期別の竪穴住居跡配置図

瓦について

本遺跡では出土した破片を含めた遺物総数の約1割にあたる1,264点もの瓦片が出土した。これらの瓦は竪穴住居の壁面や竈の際袖部・煙道部等の構築材、構架材として使われていた。このような使われ方をしていた当時の社会事情を考えると、(1)近接する瓦葺き建物の破損が進行する中で、それを竪穴住居内に持ち込み、転用する状況が一般化していたという考え方、(2)国分寺の補修・修理を担当する職人など瓦を簡単に持ち出せる立場の人たちがこれらの住居と深い関連をもっていたという考え方が挙げられるのではなかろうか。

今回出土した瓦片のうちの16%にあたる208点の瓦に、凸面に縄叩きや格子叩きなどの叩き板で成形した痕跡が残っていた。その中でも、縄叩きが一番多く139点、次に平行叩き30点、正格子叩き20点、斜格子叩き16点、不定形格子叩き３点の順であった。このように多種多様の叩き具が出てきた背景を考えたとき、産地、窯業集団とのかかわりを推定する根拠となろう。また、今回出土した瓦片のうち主なもの162点を実測し、観察表（Tab.８）に掲載した。掲載した瓦種の内訳は、丸瓦65点（うち７点が玉縁式）、平瓦91点、軒平瓦４点、軒丸瓦２点である。瓦の種類と胎土の表（Tab.12）からも分かるが粗粒の瓦が少なく、中粒から細粒の瓦が多いことが分かる。これらの瓦は側部や広・狭端部に面取りがされていて比較的丁寧に作られており、粘土の粒子が細かいことから国分寺創建期に使用された瓦が多いのではないかと考えられる。

Tab.11　瓦叩き具の種類別出土瓦片

凸面叩き具	縄叩き	正格子叩き	斜格子叩き	不定形格子叩き	平行叩き
瓦片の数	139 (38)	20 (4)	16 (3)	3 (1)	30 (10)

（　）内は実測点数

Tab.12　瓦の種類と胎土

瓦の種類/胎土		細粒	中粒	粗粒	合計
丸瓦	玉縁式	4	2	1	7
	行基葦式	25	25	8	58
平　瓦		46	26	19	91
軒平瓦（宇瓦）		1	3	0	4
軒丸瓦（鐙瓦）		0	1	1	2
合　計		76	57	29	262

注）細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）

次に、特徴のある文字瓦、軒丸瓦（鐙瓦）、軒平瓦（宇瓦）について詳細を述べたい。

1．文字瓦

今回の調査で文字や記号が書かれた瓦が16点出土した。瓦に文字が書かれている瓦種部位について平瓦凸面に書かれていたのが14点、平瓦凹面に書かれていたのが３点あった。丸瓦からは文字は検出されなかった。また、瓦の文字の書かれ方について、印鑑のような同じ定まった形のもの、「押印」（「刻印」）は、４点あり、篦か串のような道具を使って１点ごとに書かれたもの、「篦書き」（「刻字」）は、13点あった。これらの瓦に書かれた文字は、瓦に関わった地域や人々を明らかにするもので、当時の地域社会の様相を知る上でも非常に重要な意味をもっている。以下に述べたい。

①・③「山田」は押印による文字で、平瓦の凸面に書かれていた。①については「山田」という文字が３ヶ所押印してあるのを確認した。この「山田」は山田郡または山田郷を示す。この①・③と類似したものが上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、山王廃寺跡、上植木廃寺跡からも出土している。②「五子」の鏡文字は平瓦の凸面に押印されていた。上野国分寺跡、上植木廃寺跡から出土した瓦には「山田五子」と押印されていたことから改めて確認したところ、この瓦片の端部にも「山田」の文字の一部が記されていた。今回検出された「山田」の文字は５つあったが、同じ「山田」の印でも①・③と②は明らかにその種類が違う。②は平面に彫り込んだだけのもの（線彫り、陰刻）であるのに対し、①と③は文字の部分を残して彫り上げた（面彫り、陽刻）、いわゆる現在の印鑑と同様な手法がとられている。⑤「里亍」は平瓦の凹面に篦書きされていた。「亍」は「麻呂（万呂）」の略体であると「史跡上野国分寺跡」報告書に掲載されている。「里亍」は個人名である。⑥「圖」は平瓦の

凸面に押印されていた。他の押印に比べて線が細く明瞭であることから、金属の笵であると考えられ、「史跡上野国分寺跡」報告書によれば製作過程で付けられた検印という説もある。⑥と類似したものが上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、山王廃寺跡、上植木廃寺跡からも出土していて、⑥の押印に１文字篦書きが書き足された文字瓦も出土している。どんな意味で組み合わされているのか興味深い資料である。これ以外にも凸面に篦書きされた文字瓦④・⑧「干」、⑩「伴一」、⑪「手」、⑬「石」、⑭「日」、⑯「、、？」、凸面に篦書きされた記号瓦①「〒」、⑦「十」、⑫「万？」、凹面に篦書きされた記号瓦⑨「二」、⑮「十」が確認できた。(Tab. 13)

２．軒平瓦

軒平瓦（宇瓦）(瓦観察表No.68）の瓦当意匠は右偏行唐草文。主葉と支葉が各１本ずつで１組となり、比較的整った構成をもっている。それを１単位として10単位からなる、その内３単位確認できた。外区には連珠文が巡っているが、その内１つが認められた。内区との界線は１本で、周縁は無文である。瓦当部はやや厚くなっているだけで、無顎に近く、顎面幅は3.4cmである。凹面は斜め方向の削りである。凸面は縦方向の細かい削り後縄叩き目が残っている。胎土は中粒で砂粒を含む。焼成は良好で、硬質である。色調は褐灰色を呈する。「史跡上野国分寺跡」報告書によれば、この軒平瓦と類似したものが国分寺跡で出土した数が最も多い。国分寺創建期の瓦であると考えられている。

軒平瓦（宇瓦）(瓦観察表No.69）の瓦当意匠は右偏行唐草文。左端部の破片のみのもの。主葉と支葉が各１本ずつで１組となり、比較的整った構成をもっている。それを１単位として10単位からなる、その内２単位を確認できた。左端には双葉状の支葉がつき、外区には連珠文のうち上外区、下外区各１個が残る。界線は１本で、周縁は無文である。顎の断面形は三角形になり、凹面は布目が残る。模骨痕は見られないことから、１枚作りによるものと考えられる。瓦当側は横方向、側面側は縦方向の削りである。凸面は縦ないし斜め方向の削りである。胎土は細粒で砂粒を含む。焼成は良好で、硬質である。色調は灰色を呈する。この軒平瓦も国分寺創建期の瓦であると考えられている。

軒平瓦（宇瓦）（瓦観察表No.70）の瓦当意匠は三重弧文。瓦当部の上弦幅は27.8cm、下弦幅は28.4cm、中央幅は43cmである。顎の断面形は無顎に近く、顎面長は3.2cm、平瓦厚は2.6cmである。凹面は布目が残るが、殆ど撫で消している。側面側は縦方向の削りである。はっきりとした模骨痕は見られないことから、一枚作りによるものと思われる。凸面は縦方向の削りで、瓦当側のみ横方向の削りである。胎土は中粒で砂粒、白色粒子を含み、色調は灰色を呈している。焼成は良好である。この軒平瓦は国分寺創建期以降の瓦であると考えられている。

軒平瓦（宇瓦）（瓦観察表No.162）の瓦当意匠は右偏行唐草文。主葉と支葉が各１本ずつで１組となり、比較的整った構成をもっている。それを１単位として10単位からなる、その内２単位と支葉１本確認できた。外区には連珠文のうち上外区、下外区各２個が認められた。内区との界線は１本で、周縁は無文である。瓦当部はやや厚くなっているだけで、無顎に近く、顎面幅は3.2cm中央幅4.5cm、平瓦厚は3.0cmである。凹面は布目擦り消し後横方向の削りである。凸面は瓦側横方向、側面側縦方向の削りである。胎土は中粒で砂粒を含む。焼成は良好で、硬質である。色調はにぶい黄橙色を呈する。この軒平瓦も国分寺創建期の瓦であると考えられている。

３．軒丸瓦

軒丸瓦（鐙瓦）（瓦観察表No.140）の瓦当意匠は単弁四葉蓮華文。子葉のないやや長い蓮弁をもつ。文様はすべて隆線によって表され、直径は推定15.6cm、内区径は推定9.4cmである。蓮弁は膨らみが少なく橘花状であり、それぞれの形・大きさが違う。間弁はＴ字形である。界線は２本で、周縁幅は1.8cmでやや幅の広い無文である。瓦当裏面には、無絞りの布目が付き、下半部には凸帯が巡ることから、絞り目のない布目がつく技法であると思われる。胎土は粗粒で砂粒、白色粒子を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好である。この軒丸瓦は国分寺創建期以降の瓦であると考えられている。

Tab.13　文字・記号瓦

番号	釈　文	種類区分	瓦種部位	出土位置	備　　考	観察表
①	山田 干	文字瓦、押印 記号瓦、篦書き	平瓦凸面	H－8	瓦1個体に3ヶ所以上に押印。山田郡又は山田郷を示す。上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、山王廃寺跡、上植木廃寺跡からも出土。	7
②	五子 (鏡文字)	文字瓦、押印	平瓦凸面	H－8	鏡文字。「山田五子」の釈文が、上野国分寺跡や上植木廃寺跡から出土。瓦片端部に「山田」文字一部を確認。	8
③	山田	文字瓦、押印	平瓦凸面	H－9	①と同笵	23
④	干	文字瓦、篦書き	平瓦凸面	H－10	意味は不明。細い線で表現。	27
⑤	里亡	文字瓦、篦書き	平瓦凹面	H－10	「亡」は「万呂（麻呂）」の略体か。上野国分寺跡から平瓦の凸面に「里麻呂」と個人名を墨書されていたものが出土。創建期瓦か。	28
⑥	圃	文字瓦、押印	平瓦凸面	H－10	□の中に「當」を書く。上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、山王廃寺跡、上植木廃寺跡からも出土。他の押印に比べて線が細くて明瞭であることから、金属の笵であると考えられる。吉井・藤岡窯群で作製か。製作過程で付けられる検印か。	29
⑦	十	記号瓦、篦書き	平瓦凸面	H－10	上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、山王廃寺跡、上植木廃寺跡、元総社小見Ⅱ遺跡からも出土。非常に細い線で表現。	30
⑧	干	文字瓦、篦書き	平瓦凸面	H－10	意味は不明。太い線で表現。	31
⑨	二	記号瓦、篦書き	平瓦凹面	H－10	上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、上植木廃寺跡、台之原廃寺跡からも出土。国分寺創建期瓦か。太い線で表現。	32
⑩	伴一	文字瓦、篦書き	平瓦凸面	H－11	国分寺に関わった「大伴」のように氏族名か。	92
⑪	手	文字瓦、篦書き	平瓦凸面	H－11	上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、山王廃寺跡からも出土。	93
⑫	万？	記号瓦、篦書き	平瓦凸面	H－11	判読不能。	94
⑬	石	文字瓦、篦書き	平瓦凸面	H－12	上野国分寺跡からも出土。細い線で表現。	124
⑭	日	文字瓦、篦書き	平瓦凸面	H－25	上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域からも出土。細い線で表現。	154
⑮	十	記号瓦、篦書き	平瓦凹面	遺構外	上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、山王廃寺跡、上植木廃寺跡、元総社小見Ⅱ遺跡からも出土。太い線で表現。	158
⑯	，、？	文字瓦、篦書き	平瓦凸面	遺構外	判読不能。文字の可能性がある。	159

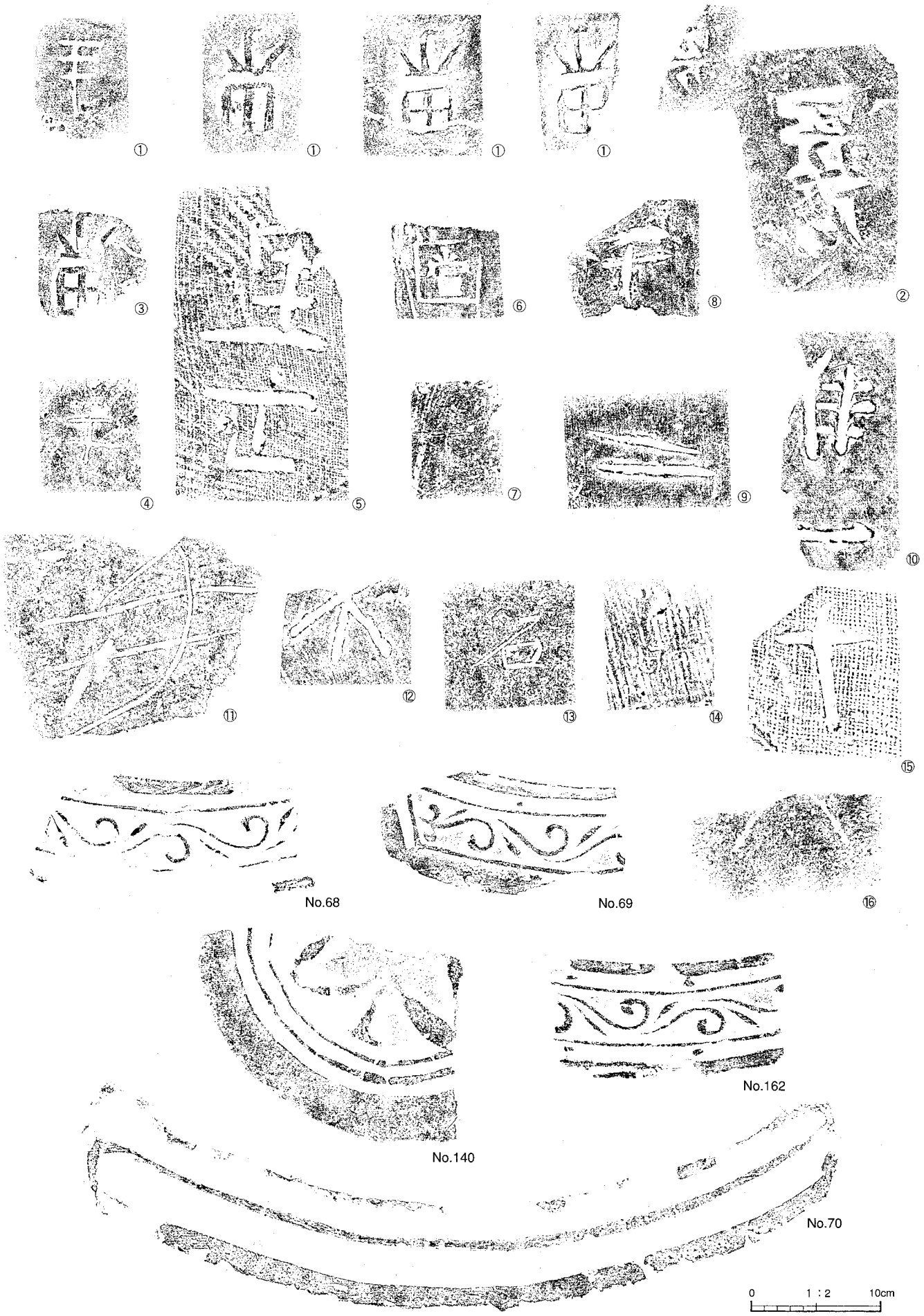


Fig.7　文字瓦、記号瓦、瓦当文様

〈引用参考文献〉

前橋市史編さん委員会編『前橋市史』　第一巻　前橋市　1971年

松島栄治・相沢貞順他４名編『山王廃寺跡第３次発掘調査概報』　前橋市教育委員会　1977年

松島栄治・相沢貞順他４名編『山王廃寺跡第４次発掘調査概報』　前橋市教育委員会　1978年

松島栄治・相沢貞順他４名編『山王廃寺跡第５次発掘調査概報』　前橋文化財研究会　1979年

富沢敏弘・飯塚誠・田口正美編『山王廃寺跡第６次発掘調査報告書』　前橋文化財研究会　1980年

松本浩一・福田紀雄他３名編『山王廃寺跡第７次発掘調査概報』　前橋市教育委員会　1982年

岸田治男編『元総社明神遺跡Ⅰ』　前橋市教育委員会　1982年

岸田治男・福田瑞穂編『元総社明神遺跡Ⅱ』　前橋市教育委員会　1983年

唐澤保之・井野修二他４名編『草作遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1985年

半田勝巳他２名編『台之原廃寺跡Ⅱ』　群馬県新田郡薮塚本町教育委員会　1985年

木暮誠・町田信之・中野覚・加部二生編『元総社明神遺跡Ⅲ・Ⅳ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1986年

原田和博・加部二生編『元総社明神遺跡Ⅴ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1986年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編『上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡』　群馬県教育委員会　1986年

山武考古学研究所編『閑泉樋南遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1986年

スナガ環境測設株式会社編『寺田遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1986年

駒倉秀一・加部二生編『元総社明神遺跡Ⅵ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1988年

群馬県教育委員会事務局文化財保護課編『史跡上野国分寺跡』　群馬県教育委員会　1988年

林喜久夫・前原照子・井野誠一編『芳賀団地遺跡群』第２巻　前橋市教育委員会　1988年

駒倉秀一・鈴木雅浩編『元総社明神遺跡Ⅶ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1989年

前原豊・井上敏夫編『元総社明神遺跡Ⅷ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1990年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編『上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡(4)』　群馬県教育委員会　1990年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編『鳥羽遺跡Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ』　群馬県教育委員会　1990年

井上敏夫・鈴木雅浩編『元総社明神遺跡Ⅸ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1991年

群馬県史編さん委員会編『群馬県史』通史編2　群馬県　1991年

鈴木雅浩・狩野吉弘編『元総社明神遺跡Ⅹ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1992年

須長泰一・早川隆弘編『上植木廃寺－平成２・３年度発掘調査概報』　伊勢崎市教育委員会　1992年

駒倉秀一・加部二生編『元総社明神遺跡ⅩⅠ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1993年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編『元総社寺田遺跡Ⅰ』　群馬県教育委員会　1993年

スナガ環境測設株式会社編『元総社明神遺跡ⅩⅡ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1994年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編『元総社寺田遺跡Ⅲ』　群馬県教育委員会　1996年

戸所慎策・古屋秀登編『元総社明神遺跡ⅩⅢ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1997年

齊藤仁志・吉田聖二編『上野国分寺参道遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1997年

山武考古学研究所編『総社閑泉明神北遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1999年

鈴木雅浩・高橋一彦編『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年

長谷川一郎・折原洋一・湯原勝美編『元総社小見遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年

齊木一敏・近藤雅順編『総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北Ⅱ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年

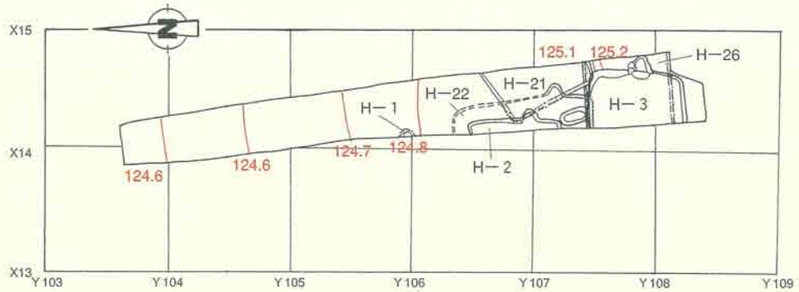
長谷川一郎・土生朗治編『元総社小見内Ⅲ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年

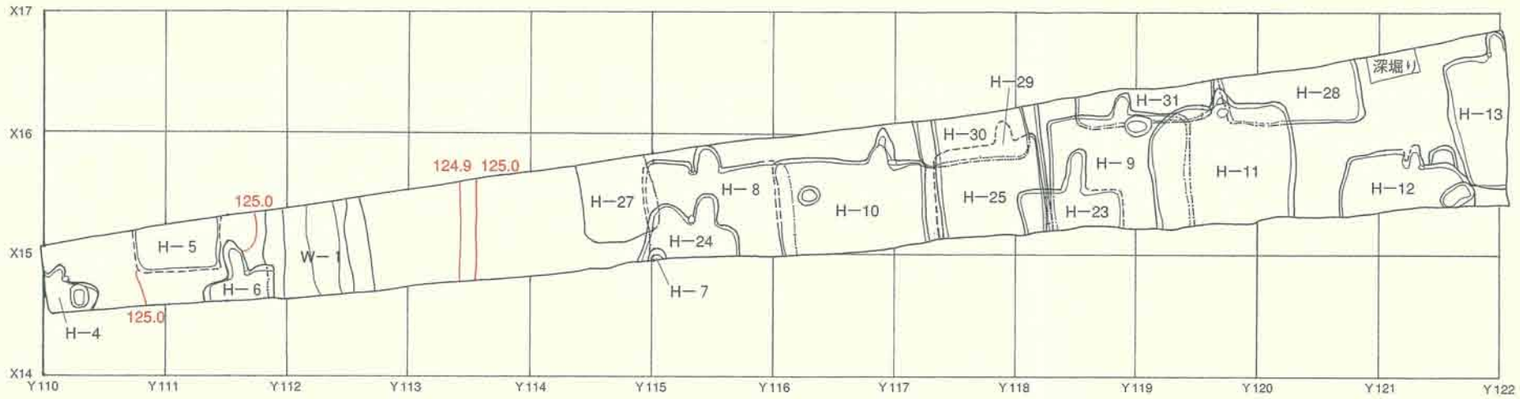
齊木一敏・高坂麻子編『元総社小見内Ⅳ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年

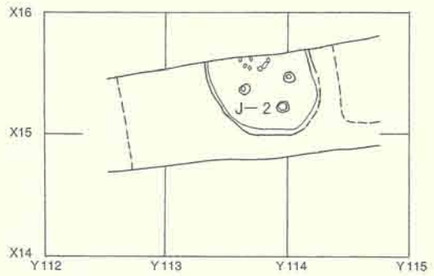
高橋一彦・近藤薫編『総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡・総社閑泉明神北Ⅲ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年

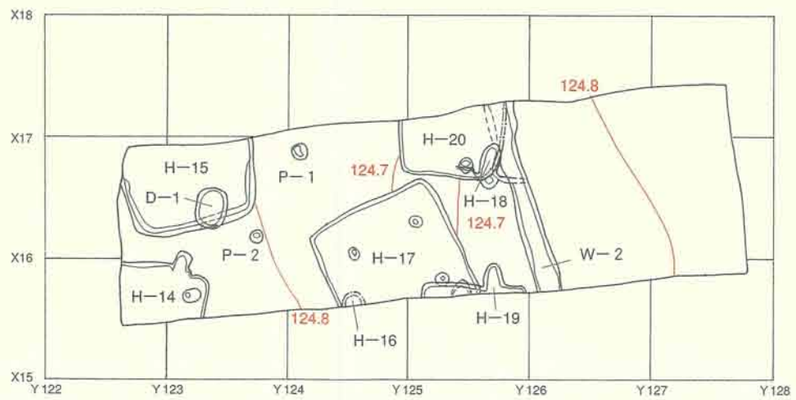
齊木一敏・土生朗治・松川由之編『元総社小見Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年

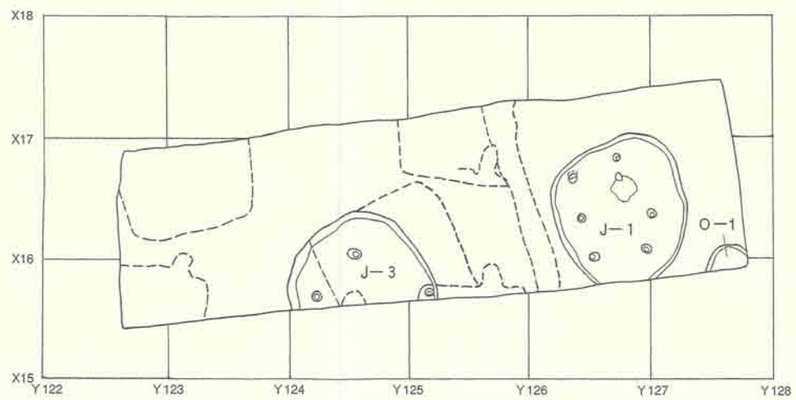
齊木一敏・長谷川一郎・土生朗治・松川由之編『元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡』　2002年





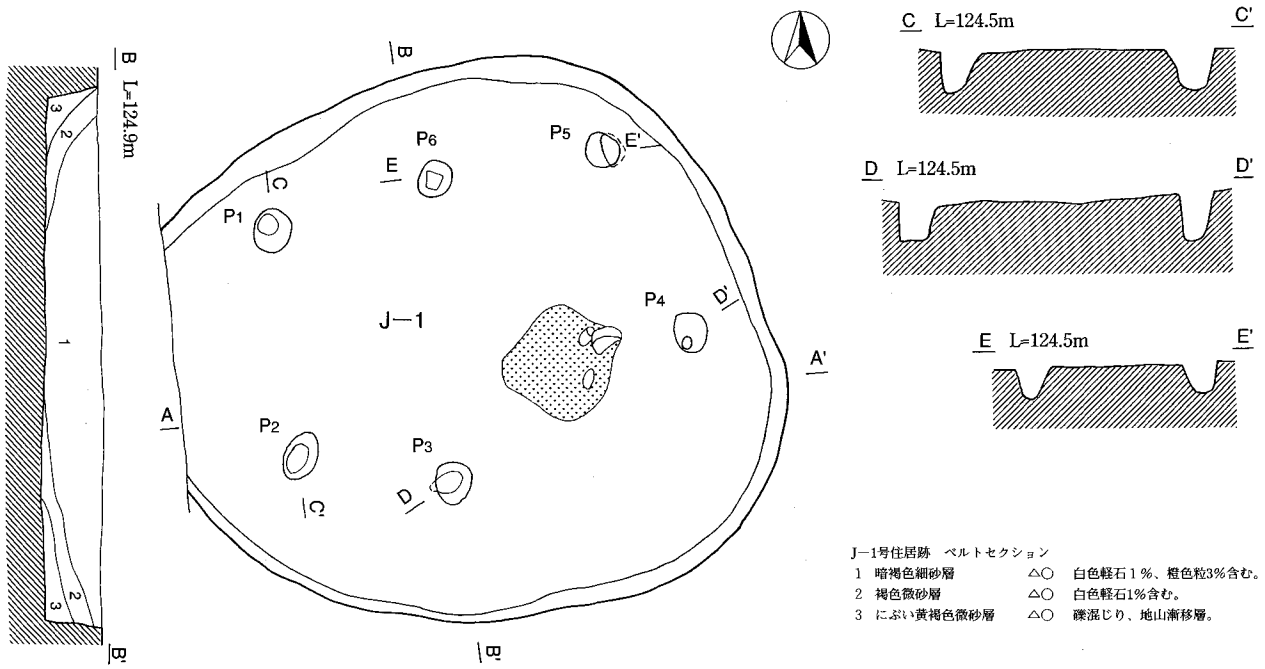






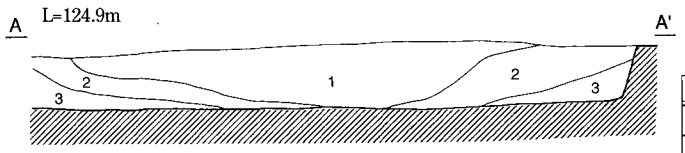
0　1：200　10m

Fig. 8　元総社小見Ⅳ遺跡全体図



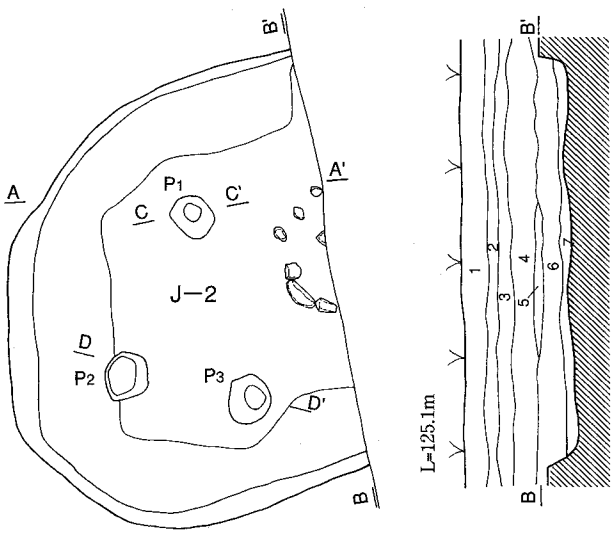
J—1号住居跡　ベルトセクション

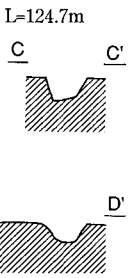
1	暗褐色細砂層	△○	白色軽石１％、橙色粒3%含む。
2	褐色微砂層	△○	白色軽石1%含む。
3	にぶい黄褐色微砂層	△○	礫混じり、地山漸移層。



J—1号住居跡　柱穴　計測表

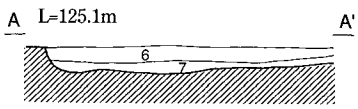
No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P1	円形	33	28	35	
P2	楕円形	40	27	34	
P3	円形	33	28	29.5	
P4	円形	30	25	40.5	
P5	円形	28	26	27	
P6	円形	28	25	23.5	





J—2号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	鉄分凝結層。
3	灰黄褐色微砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	黒褐色細砂層	△×	As-C3%含む。
5	黒褐色細砂層	○×	炭化物わずかに含む。
6	黒褐色細砂層	△×	As-C2%含む。
7	暗褐色細砂層	○×	ロームブロック1%含む。

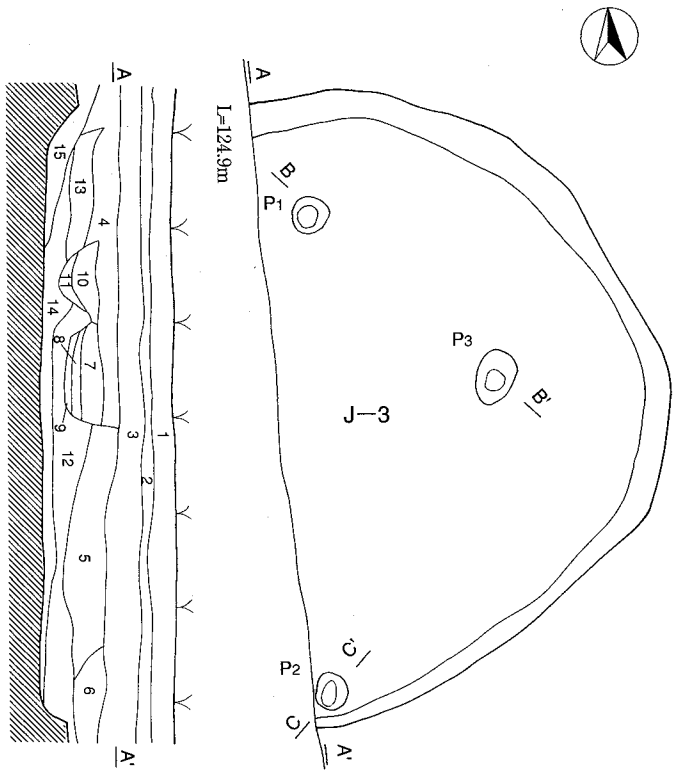


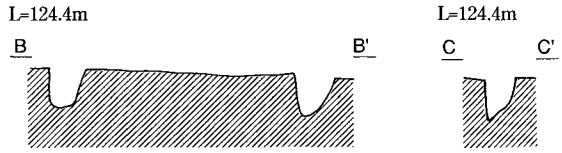
J—2号住居跡　柱穴　計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P1	円形	33	28	22.5	
P2	円形	40	34	16	
P3	円形	40	34	15	

0　1：60　2m

Fig.9　J－１・２号住居跡



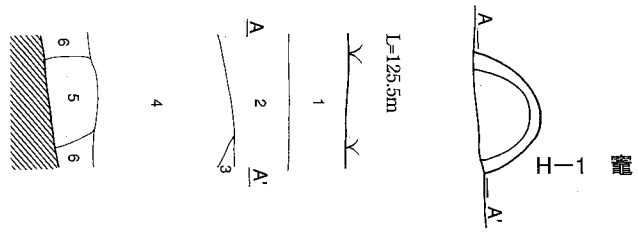


J—3号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	鉄分凝結層。
3	灰黄褐色微砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	黒褐色細砂層	○△	As-C7%、炭化物わずかに含む。
5	黒褐色細砂層	○×	As-C10%含む。
6	黒褐色細砂層	○△	As-C2%含む。
7	暗褐色細砂層	△×	As-C5%、焼土粒わずかに含む。
8	黒褐色細砂層	○○	焼土粒5%、灰わずかに含む。
9	褐灰色細砂層	△○	焼土粒・粘土粒10%、灰5%含む。
10	にぶい赤褐色細砂層	○○	焼土ブロック15%、粘土ブロック10%含む。
11	暗褐色細砂層	△×	焼土ブロック、粘土ブロック5%、灰わずかに含む。
12	黒褐色細砂層	○△	As-C2%、ロームブロックわずかに含む。
13	灰黄褐色微砂層	○×	ローム粒10%含む。
14	褐色微砂層	○×	ローム粒15%含む。
15	褐色微砂層	○×	地山漸移層。

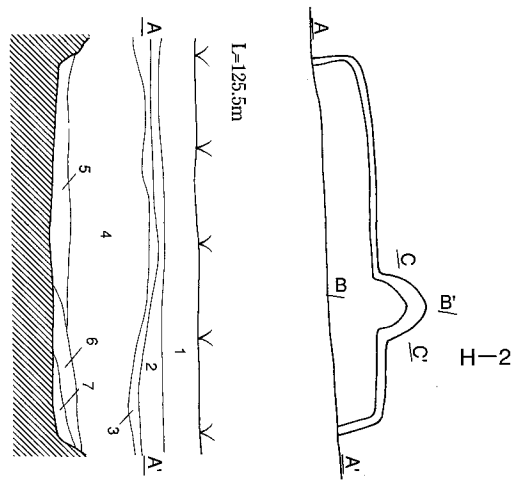
J—3号住居跡　柱穴　計測表

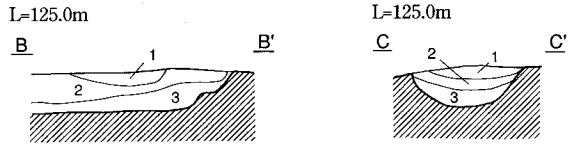
No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P1	円形	30	27	28	
P2	円形	30	26	37.5	
P3	楕円形	44	32	33	



H—1号住居跡　セクション

1	黒褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C7%、Hr-FP1%、炭化物わずかに含む。
3	黒褐色粗砂層	△×	As-B純層。
4	黒褐色細砂層	△×	As-C5%含む。
5	黒褐色細砂層	△○	炭化物・粘土ブロックわずかに含む。
6	黒褐色細砂層	○○	ローム粒わずかに含む。





H—1号住居跡　セクション

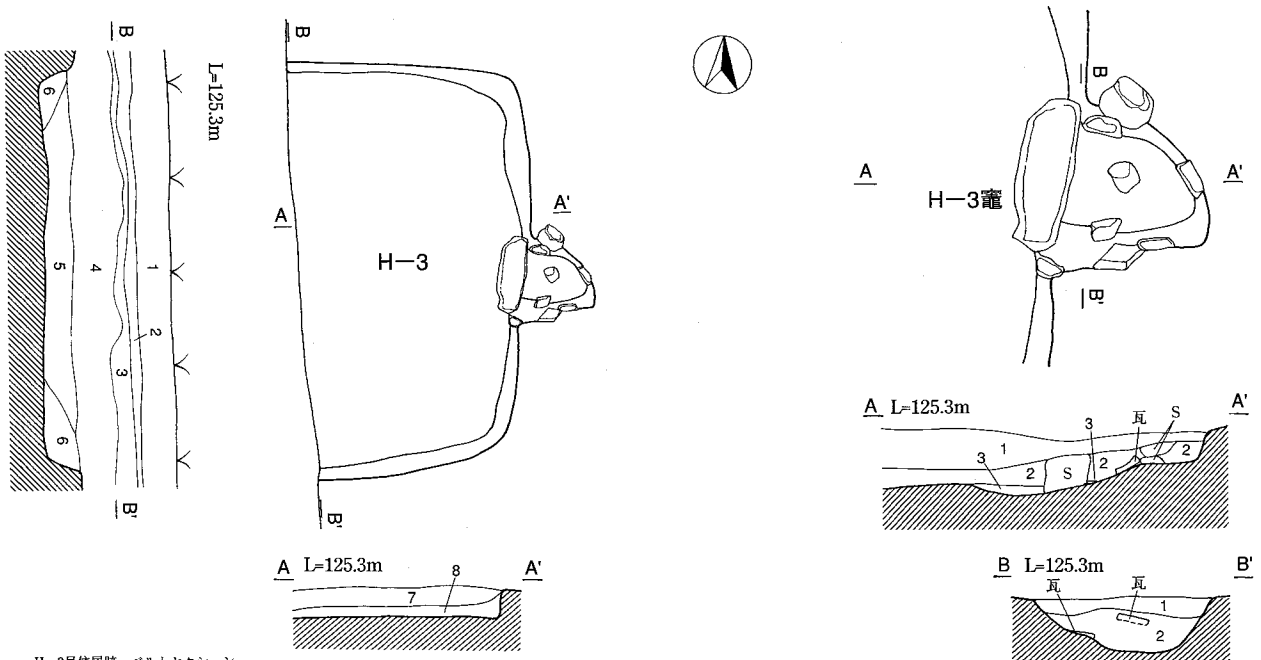
1	黒褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C7%、Hr-FP1%、炭化物わずかに含む。
3	黒褐色粗砂層	△×	As-B純層。
4	黒褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C3%、Hr-FP1%、炭化物わずかに含む。
5	黒褐色細砂層	○△	As-C1%、焼土粒わずかに含む。
6	黒褐色細砂層	○○	焼土粒わずか、灰多量に含む。
7	黒褐色細砂層	○×	ローム粒わずかに含む。

H—1号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	△×	粘土粒、焼土粒わずか、灰含む。
2	黒褐色細砂層	△○	粘土ブロック含む、焼土粒わずかに含む。
3	黒褐色粗砂層	○×	粘土ブロック・焼土粒含む。

0　1：60　2m　　0　1：30　1m

Fig.10　J－3・H－1・2号住居跡

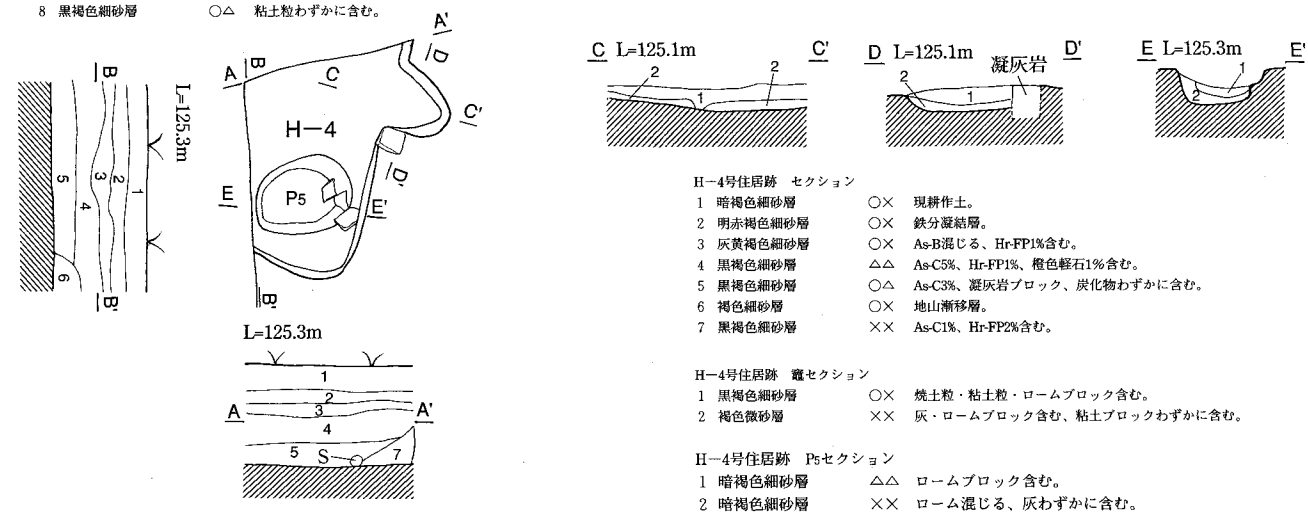


H−3号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C7%、Hr-FP1%、炭化物わずかに含む。
3	黒褐色粗砂層	△×	As-B純層。
4	黒褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C3%、Hr-FP1%、炭化物わずかに含む。
5	黒褐色細砂層	○△	As-C3%含む。
6	黒褐色細砂層	○△	As-C5%含む。
7	黒褐色細砂層	○×	橙色軽石2%、炭化物わずかに含む。
8	黒褐色細砂層	○△	粘土粒わずかに含む。

H−3号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	△○	As-C3%、焼粘土わずかに含む。
2	黒褐色細砂層	○△	粘土ブロック含む。
3	黒褐色細砂層	○○	灰と粘土の層。



H−4号住居跡　セクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	鉄分凝結層。
3	灰黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	黒褐色細砂層	△△	As-C5%、Hr-FP1%、橙色軽石1%含む。
5	黒褐色細砂層	○△	As-C3%、凝灰岩ブロック、炭化物わずかに含む。
6	褐色細砂層	○×	地山漸移層。
7	黒褐色細砂層	××	As-C1%、Hr-FP2%含む。

H−4号住居跡　竈セクション

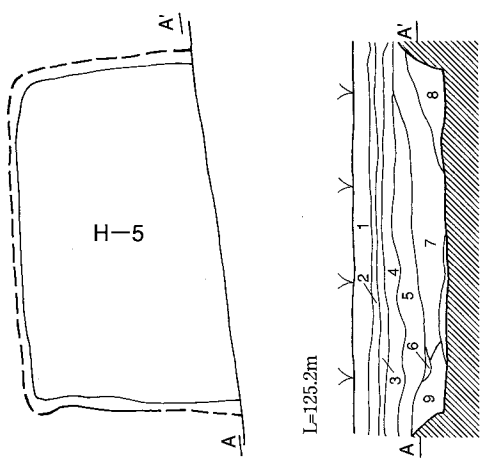
1	黒褐色細砂層	○×	焼土粒・粘土粒・ロームブロック含む。
2	褐色微砂層	××	灰・ロームブロック含む、粘土ブロックわずかに含む。

H−4号住居跡　P5セクション

1	暗褐色細砂層	△△	ロームブロック含む。
2	暗褐色細砂層	××	ローム混じる、灰わずかに含む。

H−4号住居跡　柱穴　計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P5	楕円形	77	61	24	貯蔵穴

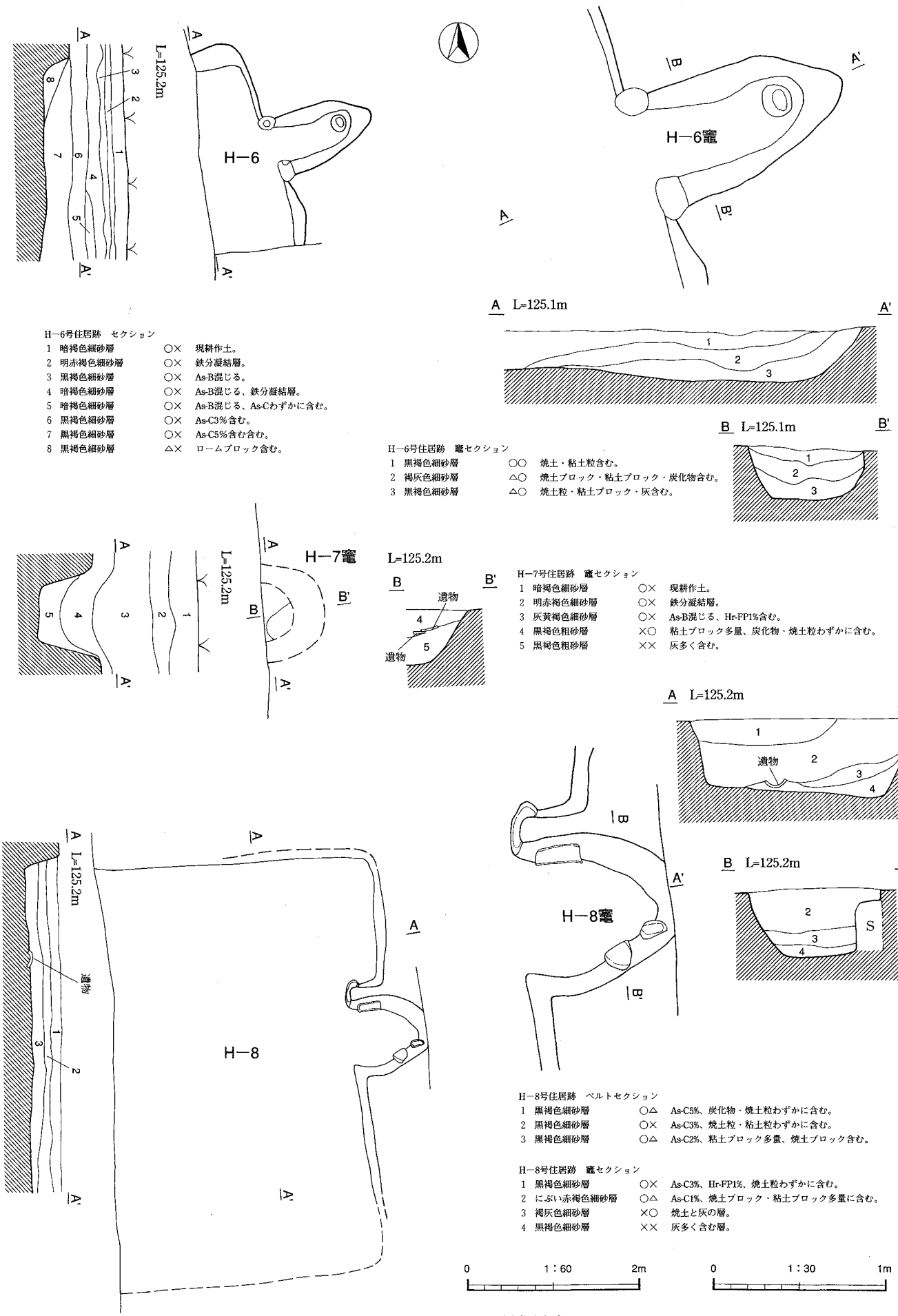


H−5号住居跡　セクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、鉄分凝結層。
3	黒褐色細砂層	○×	As-B混じる。
4	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、鉄分凝結層。
5	黒褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C2%含む。
6	黒褐色細砂層	△△	粘土粒含む。
7	黒褐色細砂層	○△	As-C3%、炭化物わずかに含む。
8	黒褐色細砂層	○△	As-C1%含む。
9	黒褐色細砂層	○×	焼土粒・ロームブロックわずかに含む。
10	灰黄褐色細砂層	○○	焼土粒・灰・粘土含む。

0　1：60　2m　　0　1：30　1m

Fig.11　H−3〜5号住居跡



H−6号住居跡　セクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	鉄分凝結層。
3	黒褐色細砂層	○×	As-B混じる。
4	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、鉄分凝結層。
5	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-Cわずかに含む。
6	黒褐色細砂層	○×	As-C3%含む。
7	黒褐色細砂層	○×	As-C5%含む含む。
8	黒褐色細砂層	△×	ロームブロック含む。

H−6号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	○○	焼土・粘土粒含む。
2	褐灰色細砂層	△○	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物含む。
3	黒褐色細砂層	△○	焼土粒・粘土ブロック・灰含む。

H−7号住居跡　竈セクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	鉄分凝結層。
3	灰黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	黒褐色粗砂層	×○	粘土ブロック多量、炭化物・焼土粒わずかに含む。
5	黒褐色粗砂層	××	灰多く含む。

H−8号住居跡　ベルトセクション

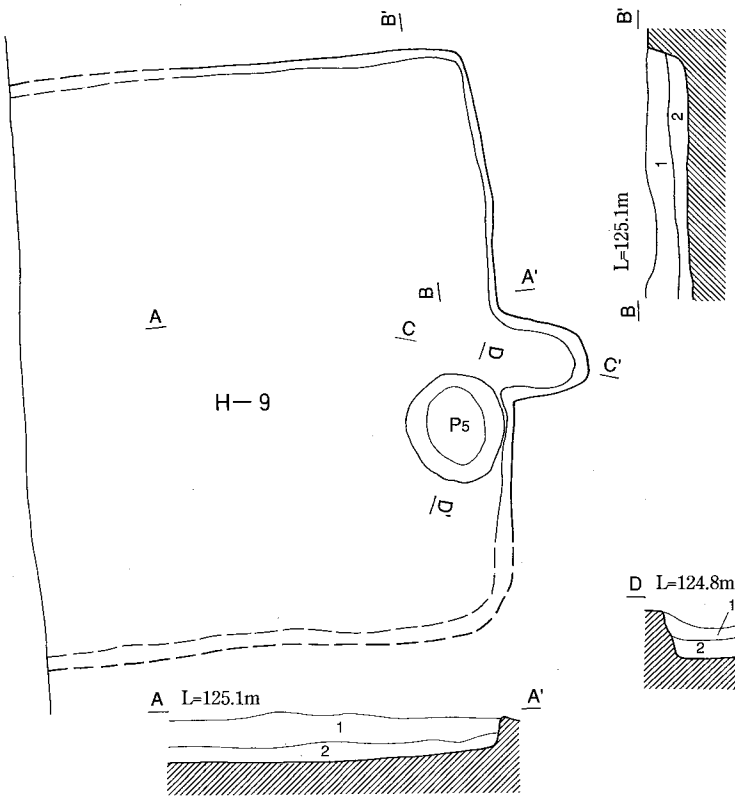
1	黒褐色細砂層	○△	As-C5%、炭化物・焼土粒わずかに含む。
2	黒褐色細砂層	○×	As-C3%、焼土粒・粘土粒わずかに含む。
3	黒褐色細砂層	○△	As-C2%、粘土ブロック多量、焼土ブロック含む。

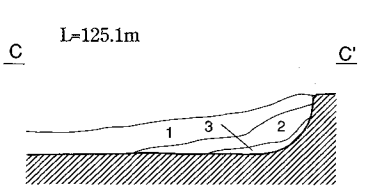
H−8号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	○×	As-C3%、Hr-FP1%、焼土粒わずかに含む。
2	にぶい赤褐色細砂層	○△	As-C1%、焼土ブロック・粘土ブロック多量に含む。
3	褐灰色細砂層	×○	焼土と灰の層。
4	黒褐色細砂層	××	灰多く含む層。

0　1：60　2m　　0　1：30　1m

Fig.12　H−６～８号住居跡





H－9号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	◎△	As-C10%、焼土粒・炭化物わずかに含む。
2	黒褐色細砂層	◎○	As-C5%、焼土粒わずかに含む。

H－9号住居跡　竈セクション

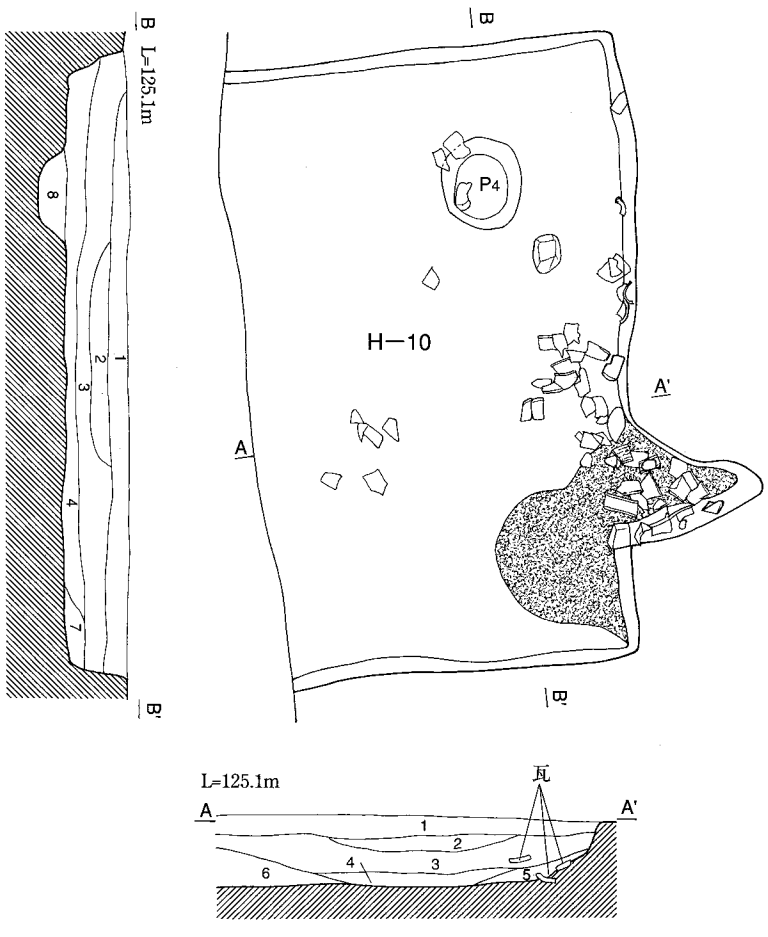
1	黒褐色細砂層	○○	粘土粒多量、炭化物・焼土粒わずかに含む。
2	黒褐色細砂層	○◎	粘土ブロック多量、焼土粒含む。
3	黒褐色細砂層	△○	灰層。

H－9号住居跡　貯蔵穴セクション

1	黒褐色細砂層	○○	As-C3%、焼土粒1%含む。
2	暗褐色細砂層	○◎	焼土粒2%、粘土粒2%含む。

H－9号住居跡　柱穴　計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P5	円形	86	80	30	貯蔵穴



H－10号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○△	As-C10%、Hr-FP1%、炭化物わずかに含む。
2	褐灰色細砂層	○○	As-C2%、炭化物・粘土ブロック・焼土粒わずかに含む。
3	黒褐色細砂層	○○	炭化物・焼土粒わずかに含む。
4	黒褐色細砂層	○△	灰・粘土ブロック・焼土粒含む、炭化物わずかに含む。
5	黒褐色細砂層	○◎	As-C3%、灰・粘土ブロック・炭化物含む。
6	黒褐色細砂層	○○	As-C1%、炭化物わずかに含む。
7	黒褐色細砂層	○○	As-C2%、炭化物わずかに含む。
8	黒褐色細砂層	○◎	炭化物・粘土ブロックわずかに含む。(床下土坑)

H－10号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	○△	As-C2%、焼土粒1%含む。
2	黒褐色細砂層	○○	粘土ブロック・焼土粒含む、灰わずかに含む。
3	暗赤褐色細砂層	○◎	焼土と粘土の層。
4	暗褐色細砂層	○○	粘土多量、灰含む。
5	黒色細砂層	△×	灰層。

H－10号住居跡　柱穴　計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P4	円形	75	61	24	

0　1：60　2m

Fig.13　H－9・10号住居跡

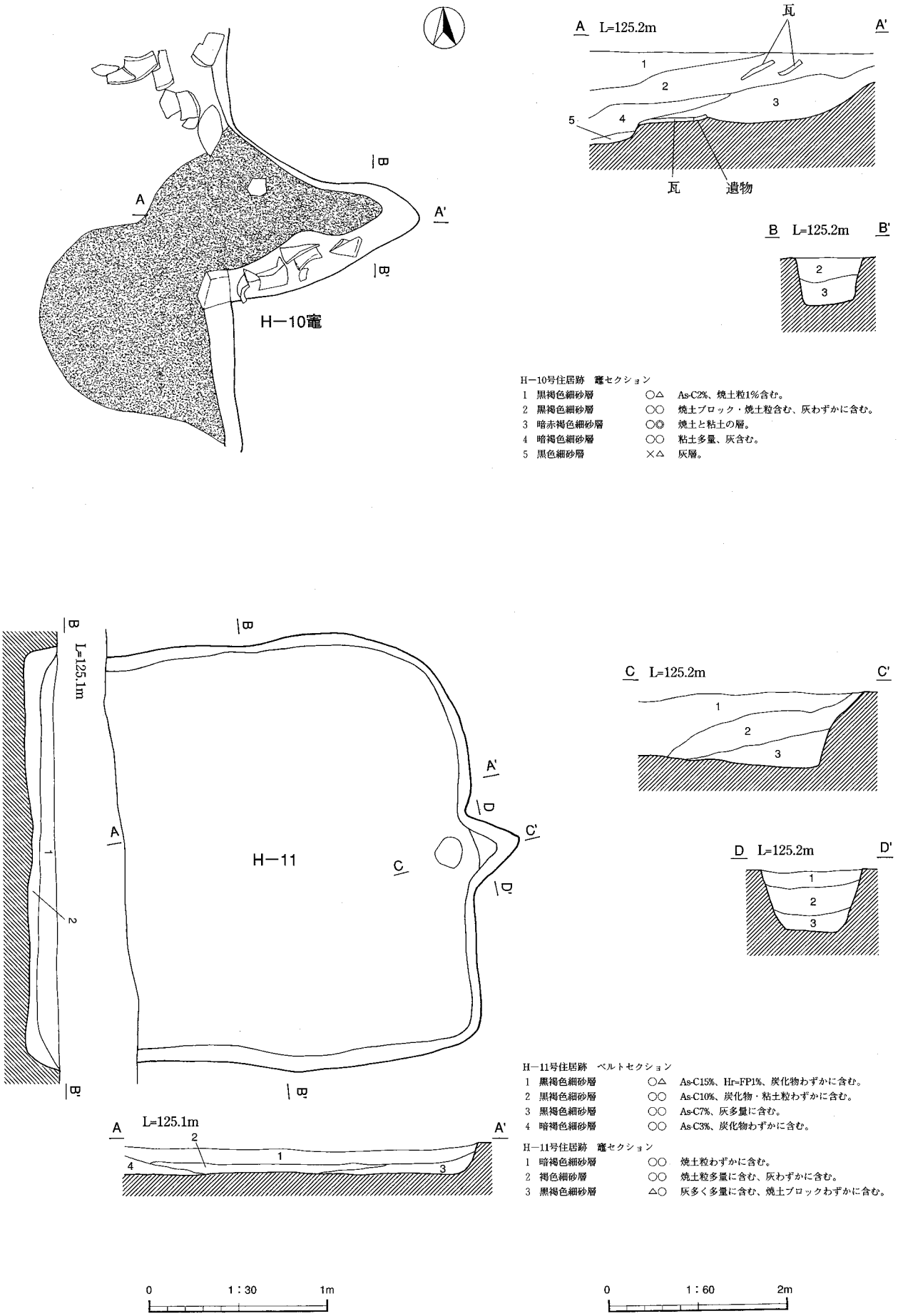
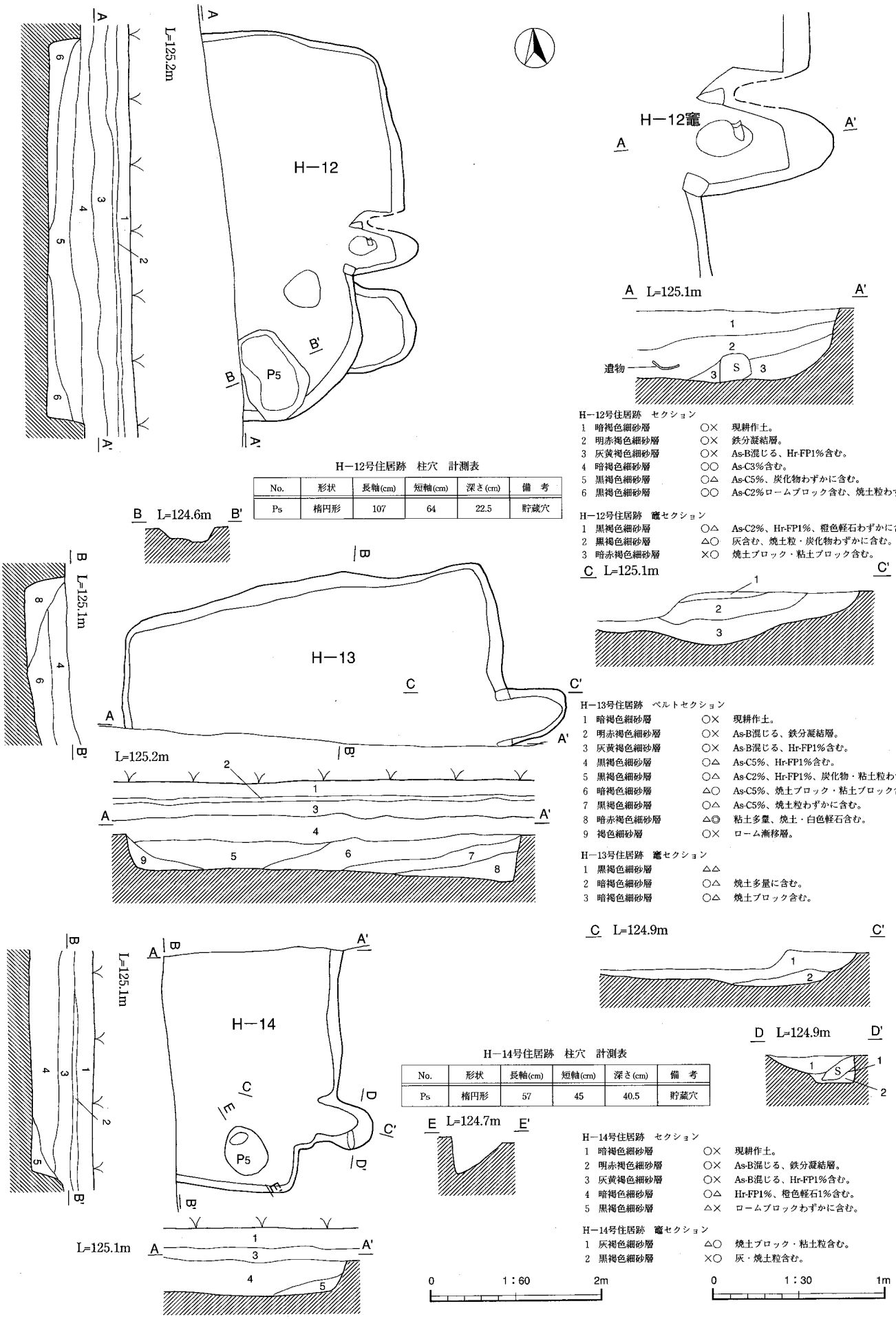


Fig.14　H−10・11号住居跡



H−12号住居跡　柱穴　計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P5	楕円形	107	64	22.5	貯蔵穴

H−12号住居跡　セクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	鉄分凝結層。
3	灰黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	暗褐色細砂層	○○	As-C3%含む。
5	黒褐色細砂層	○△	As-C5%、炭化物わずかに含む。
6	黒褐色細砂層	○○	As-C2%ロームブロック含む、焼土粒わずかに含む。

H−12号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	○△	As-C2%、Hr-FP1%、橙色軽石わずかに含む。
2	黒褐色細砂層	△○	灰含む、焼土粒・炭化物わずかに含む。
3	暗赤褐色細砂層	×○	焼土ブロック・粘土ブロック含む。

H−13号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	As-B混じる、鉄分凝結層。
3	灰黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	黒褐色細砂層	○△	As-C5%、Hr-FP1%含む。
5	黒褐色細砂層	○△	As-C2%、Hr-FP1%、炭化物・粘土粒わずかに含む。
6	暗褐色細砂層	△○	As-C5%、焼土ブロック・粘土ブロック含む。
7	黒褐色細砂層	○△	As-C5%、焼土粒わずかに含む。
8	暗赤褐色細砂層	△◎	粘土多量、焼土・白色軽石含む。
9	褐色細砂層	○×	ローム漸移層。

H−13号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	△△	
2	暗褐色細砂層	○△	焼土多量に含む。
3	暗褐色細砂層	○△	焼土ブロック含む。

H−14号住居跡　柱穴　計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P5	楕円形	57	45	40.5	貯蔵穴

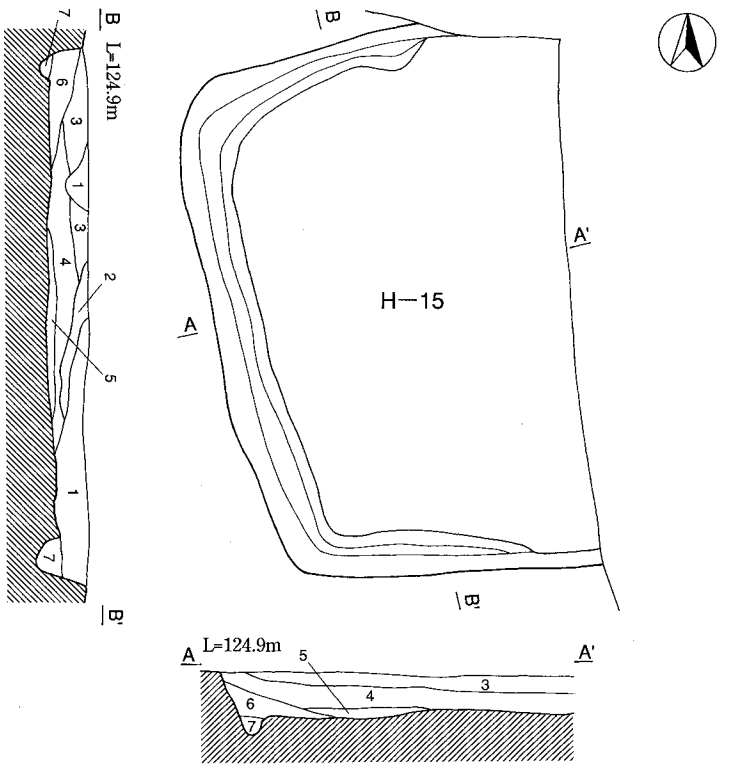
H−14号住居跡　セクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	As-B混じる、鉄分凝結層。
3	灰黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	暗褐色細砂層	○△	Hr-FP1%、橙色軽石1%含む。
5	黒褐色細砂層	△×	ロームブロックわずかに含む。

H−14号住居跡　竈セクション

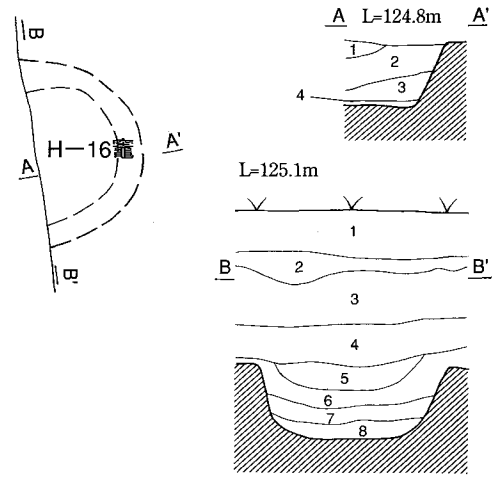
1	灰褐色細砂層	△○	焼土ブロック・粘土粒含む。
2	黒褐色細砂層	×○	灰・焼土粒含む。

Fig.15　H−12～14号住居跡



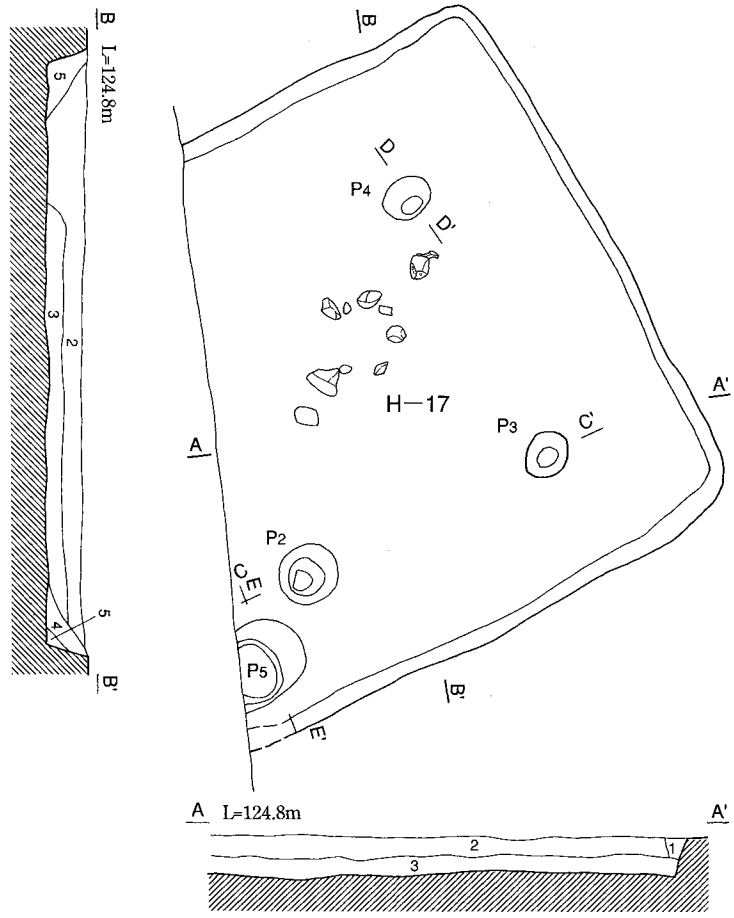
H−15号住居跡　ベルトセクション

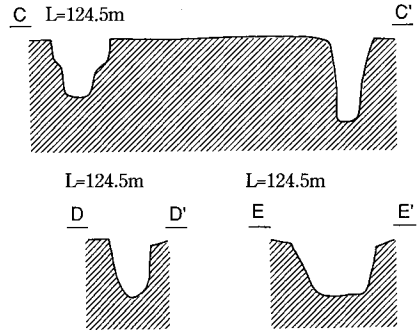
1	黒褐色細砂層	○△	As-C1%含む。
2	黒褐色細砂層	○△	As-C7%含む。
3	褐色細砂層	○○	Hr-FP含む。
4	黒褐色細砂層	△×	As-C2%、炭化物含む。
5	暗褐色細砂層	○×	ロームブロック含む。
6	黒褐色細砂層	△○	As-C2%含む。
7	黄橙色微砂層	△×	ローム混じる、周溝埋土。



H−16号住居跡　竈セクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	As-B混じる、鉄分凝結層。
3	灰黄色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	にぶい黄褐色細砂層	○△	橙色軽石1%含む。
5	暗褐色細砂層	○△	粘土わずかに含む。
6	黒褐色細砂層	○△	焼土粒わずかに含む。
7	黒褐色細砂層	○×	焼土・灰多量に含む。
8	黒褐色細砂層	××	灰多量に含む、炭化物含む。





H−17号住居跡　ベルトセクション

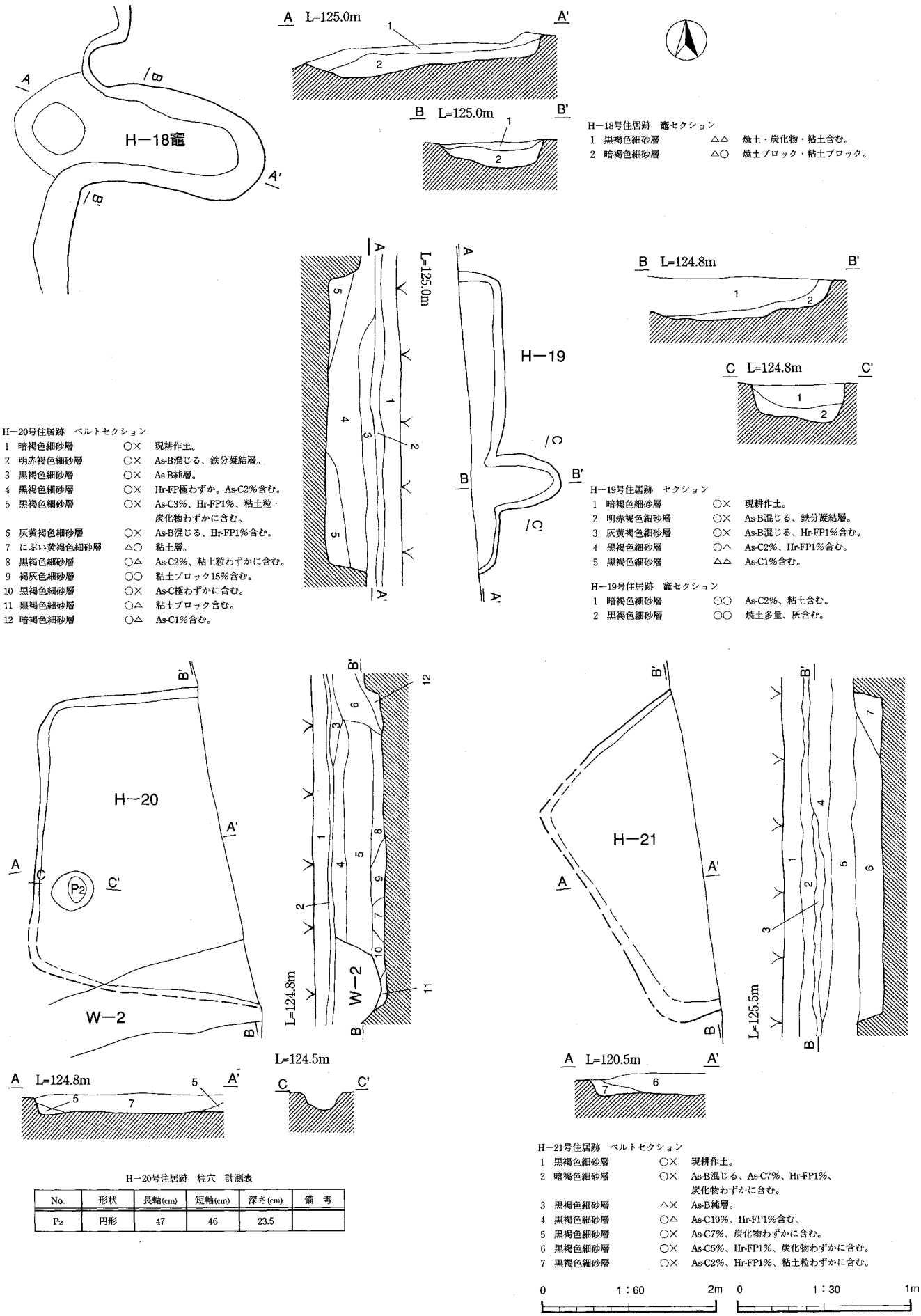
1	黒色細砂層	○△	As-C3%含む。
2	黒褐色細砂層	○×	As-C2%、凝灰岩ブロックわずかに含む。
3	黒褐色細砂層	○△	As-C1%、ロームブロックわずかに含む。
4	黒色細砂層	△△	As-C7%含む。
5	にぶい黄褐色微砂層	××	ローム漸移層。

H−17号住居跡　柱穴　計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P2	円形	48	44	46.5	
P3	円形	40	34	69	
P4	楕円形	42	51	45.5	
P5	(楕円形)	(75)	(63)	45.5	貯蔵穴

0　1：60　2m　0　1：30　1m

Fig.16　H−15～17号住居跡



H−18号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	△△	焼土・炭化物・粘土含む。
2	暗褐色細砂層	△○	焼土ブロック・粘土ブロック。

H−19号住居跡　セクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	As-B混じる、鉄分凝結層。
3	灰黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	黒褐色細砂層	○△	As-C2%、Hr-FP1%含む。
5	黒褐色細砂層	△△	As-C1%含む。

H−19号住居跡　竈セクション

1	暗褐色細砂層	○○	As-C2%、粘土含む。
2	黒褐色細砂層	○○	焼土多量、灰含む。

H−20号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	As-B混じる、鉄分凝結層。
3	黒褐色細砂層	○×	As-B純層。
4	黒褐色細砂層	○×	Hr-FP極わずか。As-C2%含む。
5	黒褐色細砂層	○×	As-C3%、Hr-FP1%、粘土粒・炭化物わずかに含む。
6	灰黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
7	にぶい黄褐色細砂層	△○	粘土層。
8	黒褐色細砂層	○△	As-C2%、粘土粒わずかに含む。
9	褐灰色細砂層	○○	粘土ブロック15%含む。
10	黒褐色細砂層	○×	As-C極わずかに含む。
11	黒褐色細砂層	○△	粘土ブロック含む。
12	暗褐色細砂層	○△	As-C1%含む。

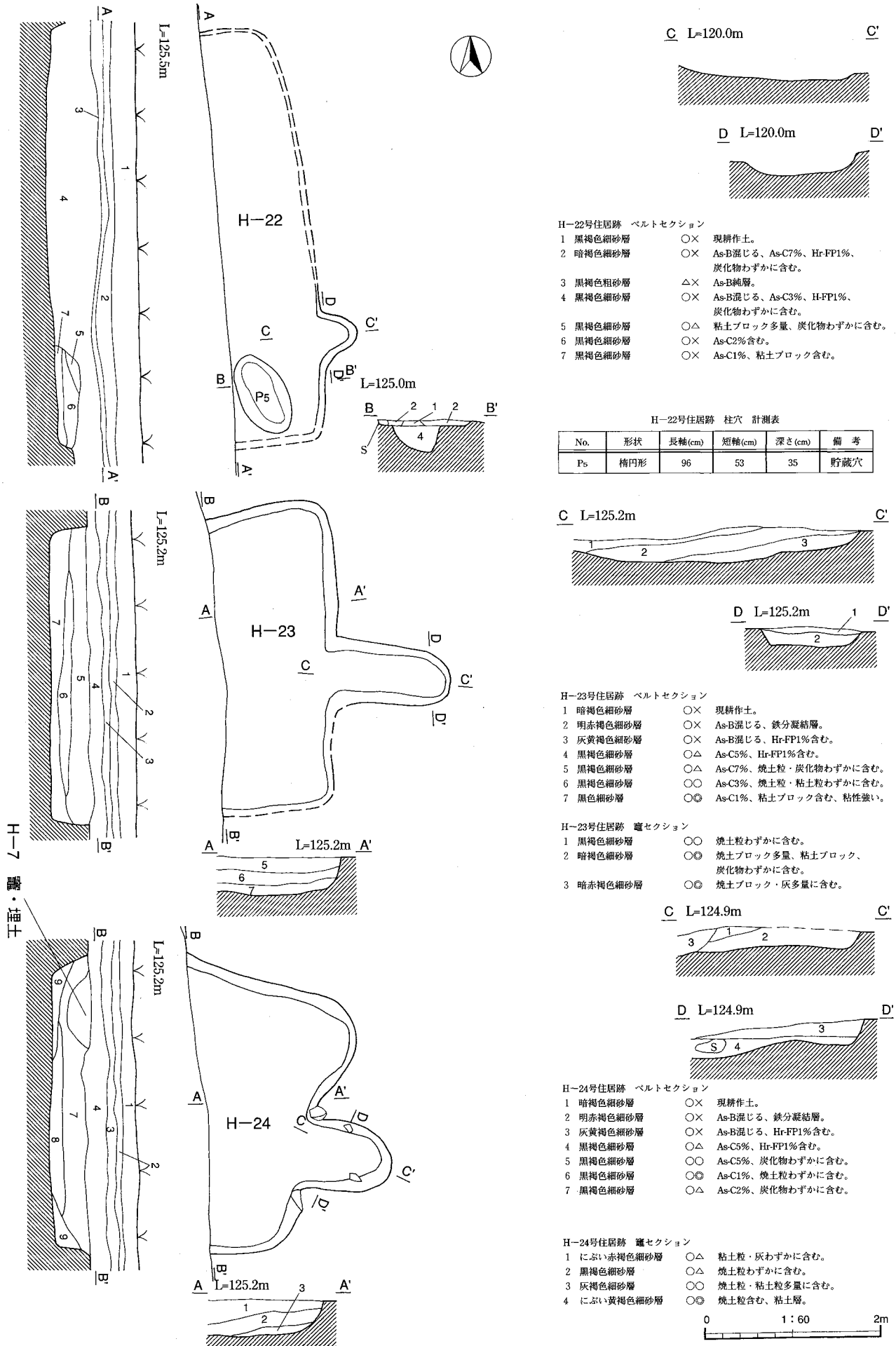
H−20号住居跡　柱穴　計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P2	円形	47	46	23.5	

H−21号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C7%、Hr-FP1%、炭化物わずかに含む。
3	黒褐色細砂層	△×	As-B純層。
4	黒褐色細砂層	○△	As-C10%、Hr-FP1%含む。
5	黒褐色細砂層	○×	As-C7%、炭化物わずかに含む。
6	黒褐色細砂層	○×	As-C5%、Hr-FP1%、炭化物わずかに含む。
7	黒褐色細砂層	○×	As-C2%、Hr-FP1%、粘土粒わずかに含む。

Fig.17　H−18～21号住居跡



H−22号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C7%、Hr-FP1%、炭化物わずかに含む。
3	黒褐色粗砂層	△×	As-B純層。
4	黒褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C3%、H-FP1%、炭化物わずかに含む。
5	黒褐色細砂層	○△	粘土ブロック多量、炭化物わずかに含む。
6	黒褐色細砂層	○×	As-C2%含む。
7	黒褐色細砂層	○×	As-C1%、粘土ブロック含む。

H−22号住居跡　柱穴　計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P5	楕円形	96	53	35	貯蔵穴

H−23号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	As-B混じる、鉄分凝結層。
3	灰黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	黒褐色細砂層	○△	As-C5%、Hr-FP1%含む。
5	黒褐色細砂層	○△	As-C7%、焼土粒・炭化物わずかに含む。
6	黒褐色細砂層	○○	As-C3%、焼土粒・粘土粒わずかに含む。
7	黒色細砂層	○◎	As-C1%、粘土ブロック含む、粘性強い。

H−23号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	○○	焼土粒わずかに含む。
2	暗褐色細砂層	○◎	焼土ブロック多量、粘土ブロック、炭化物わずかに含む。
3	暗赤褐色細砂層	○◎	焼土ブロック・灰多量に含む。

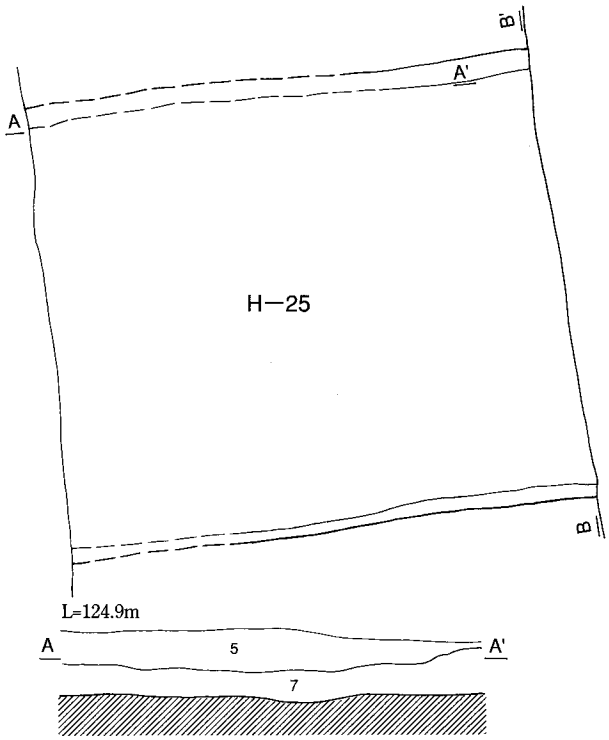
H−24号住居跡　ベルトセクション

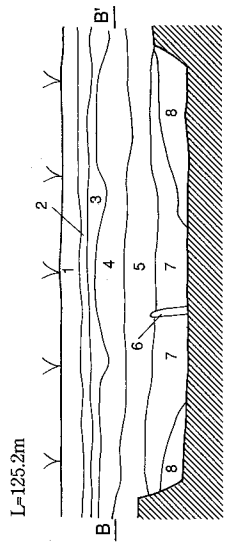
1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	As-B混じる、鉄分凝結層。
3	灰黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	黒褐色細砂層	○△	As-C5%、Hr-FP1%含む。
5	黒褐色細砂層	○○	As-C5%、炭化物わずかに含む。
6	黒褐色細砂層	○◎	As-C1%、焼土粒わずかに含む。
7	黒褐色細砂層	○△	As-C2%、炭化物わずかに含む。

H−24号住居跡　竈セクション

1	にぶい赤褐色細砂層	○△	粘土粒・灰わずかに含む。
2	黒褐色細砂層	○△	焼土粒わずかに含む。
3	灰褐色細砂層	○○	焼土粒・粘土粒多量に含む。
4	にぶい黄褐色細砂層	○◎	焼土粒含む、粘土層。

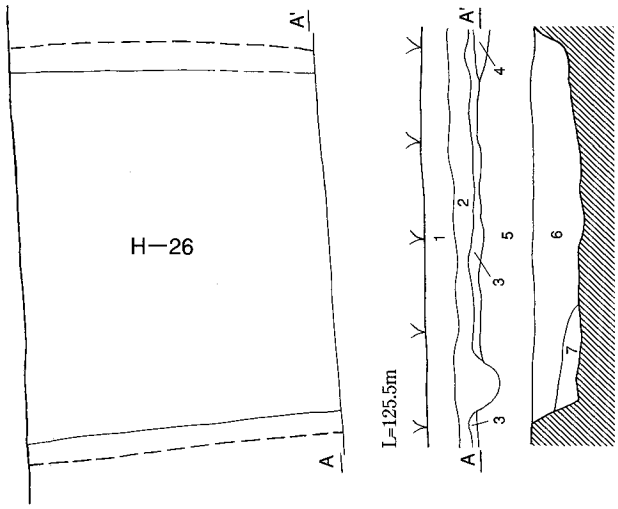
Fig.18　H−22～24号住居跡





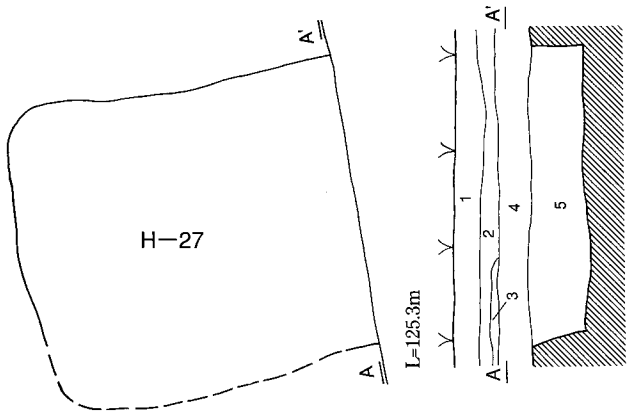
H−25号住居跡　セクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	As-B混じる、鉄分凝結層。
3	灰黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	黒褐色細砂層	○△	As-C5%、Hr-FP1%含む。
5	黒褐色細砂層	○○	As-C3%、Hr-FP1%含む。
6	にぶい黄褐色細砂層	×○	パサパサとした層。
7	黒褐色細砂層	○◎	As-C2%、ロームブロック わずかに含む。
8	黒褐色細砂層	○○	炭化物わずかに含む。



H−26号住居跡　セクション

1	黒褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C7%、Hr-FP1%、炭化物わずかに含む。
3	黒褐色粗砂層	△×	As-B純層。
4	黒褐色細砂層	○×	As-C7%、炭化物わずかに含む。
5	黒褐色細砂層	○×	As-C5%、Hr-FP1%、炭化物わずかに含む。
6	黒褐色細砂層	○×	As-C2%、Hr-FP1%、粘土粒わずかに含む。
7	暗褐色細砂層	△×	As-C2%、ローム粒わずかに含む。

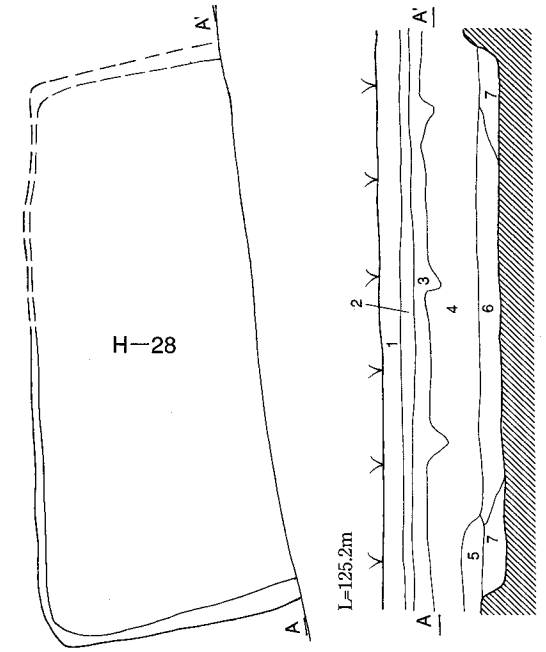


H−27号住居跡　セクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	As-B混じる、鉄分凝結層。
3	灰黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	黒褐色細砂層	○△	As-C5%、Hr-FP1%含む。
5	黒褐色細砂層	○×	As-C5%、Hr-FP1%、炭化物わずかに含む。

0　1：60　2m

Fig.19　H−25〜27号住居跡

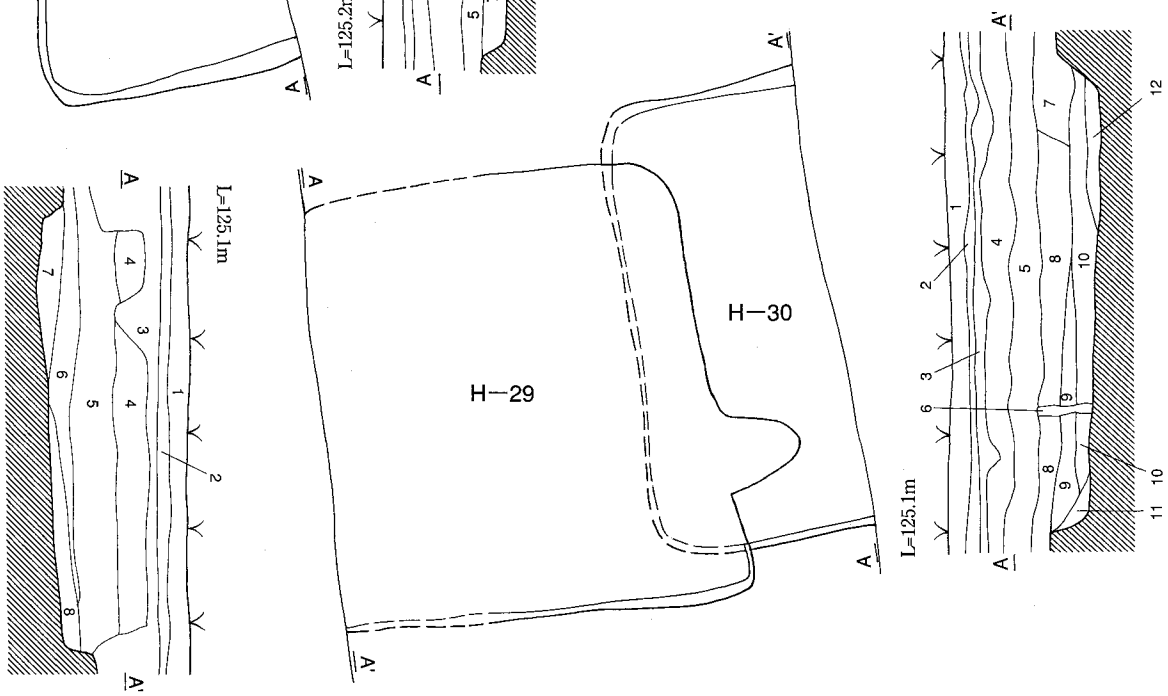


H−28号住居跡　セクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	As-B混じる、鉄分凝結層。
3	灰黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	黒褐色細砂層	○△	As-C5%、Hr-FP1%含む。
5	黒褐色細砂層	○○	As-C2%、ロームブロックわずかに含む。
6	黒褐色細砂層	○△	As-C1%、炭化物・焼土粒わずかに含む。
7	黒褐色細砂層	○○	炭化物・焼土粒・ロームブロックわずかに含む。

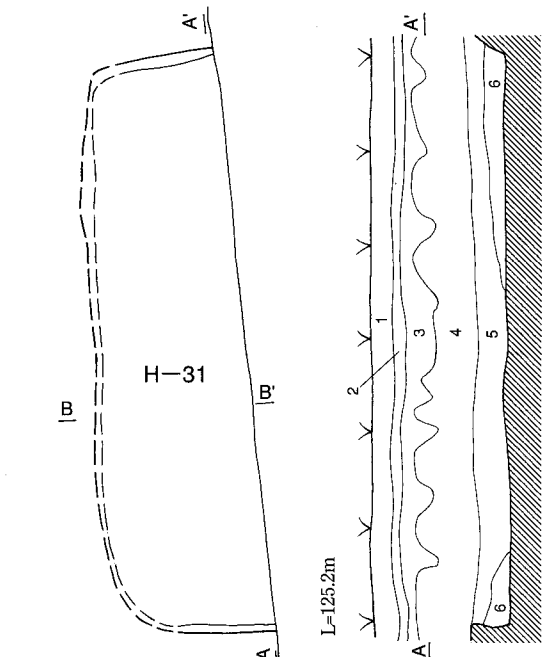
H−29号住居跡　セクション

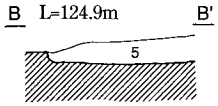
1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	As-B混じる、鉄分凝結層。
3	灰黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	黒褐色細砂層	○△	As-C5%、Hr-FP1%含む。
5	黒褐色細砂層	○△	As-C7%、炭化物、焼土粒わずかに含む。
6	暗褐色細砂層	○○	As-C3%、焼土粒わずかに含む。
7	黒褐色細砂層	○○	粘土ブロック2%、灰わずかに含む。
8	暗褐色細砂層	○◎	地山ブロック含む、粘性強い。



H−30号住居跡　セクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	As-B混じる、鉄分凝結層。
3	灰黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	黒褐色細砂層	○△	As-C5%、Hr-FP1%含む。
5	黒褐色細砂層	○○	As-C3%、焼土粒わずかに含む。
6	にぶい黄橙色細砂層	○×	パサパサの粘土層。
7	暗褐色細砂層	○△	As-C2%、Hr-FP1%、焼土粒わずかに含む。
8	黒褐色細砂層	○◎	As-C5%、焼土粒わずかに含む。
9	黒褐色細砂層	○◎	As-C2%、粘土ブロック2%含む。
10	黒褐色細砂層	○◎	焼土ブロック・粘土・灰わずかに含む。
11	黒褐色細砂層	○△	
12	暗褐色細砂層	△◎	焼土粒・灰わずかに含む。





H−31号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	明赤褐色細砂層	○×	As-B混じる、鉄分凝結層。
3	灰黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP1%含む。
4	黒褐色細砂層	○△	As-C5%、Hr-FP1%含む。
5	黒褐色細砂層	○△	As-C2%、焼土粒・粘土粒・炭化物わずかに含む。
6	黒色細砂層	○◎	As-C2%、焼土粒・粘土粒わずかに含む。

0　1：60　2m

Fig.20　H−28～31号住居跡

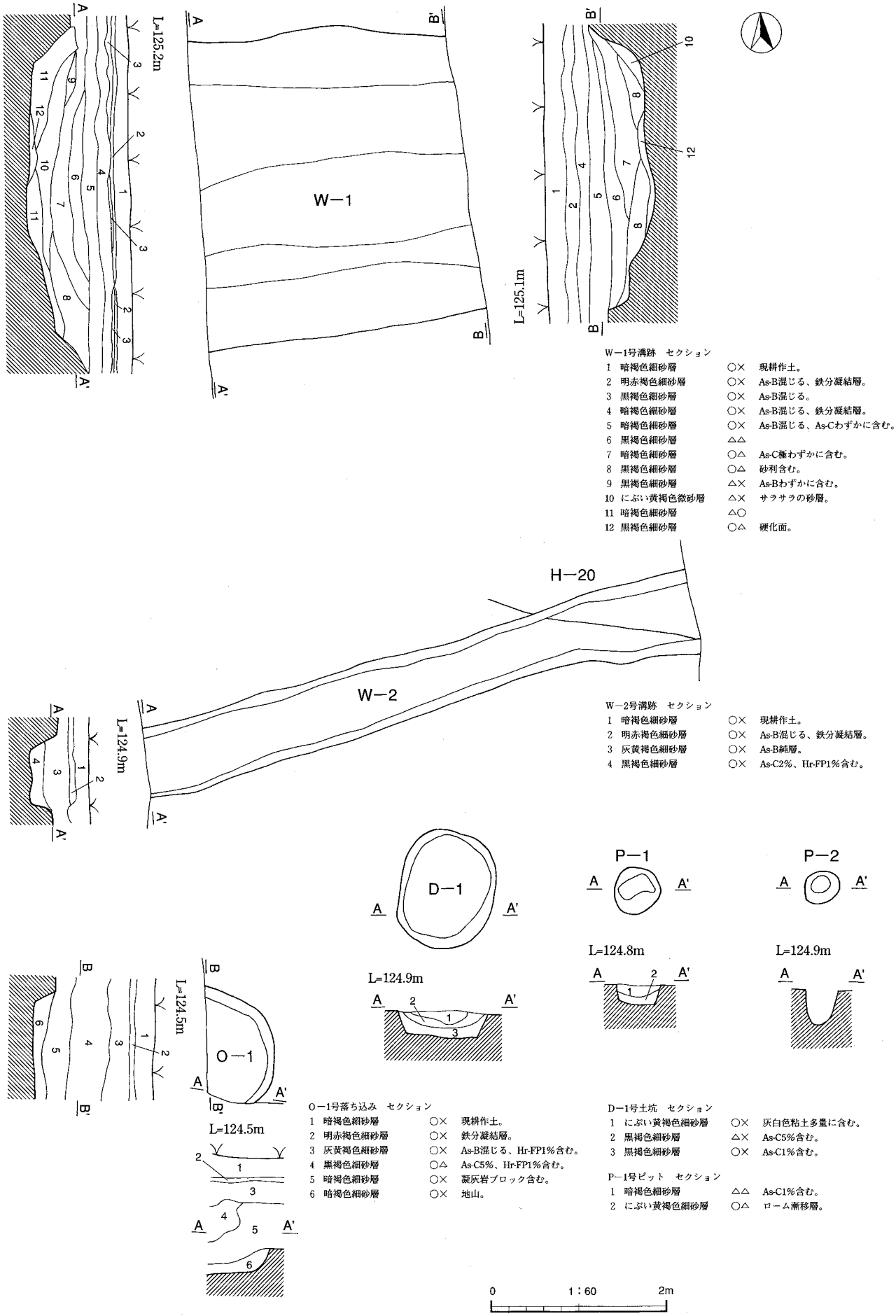


Fig.21　W－１・２号溝跡、O－１号落ち込み、D－１号土坑、P－１・２号ピット

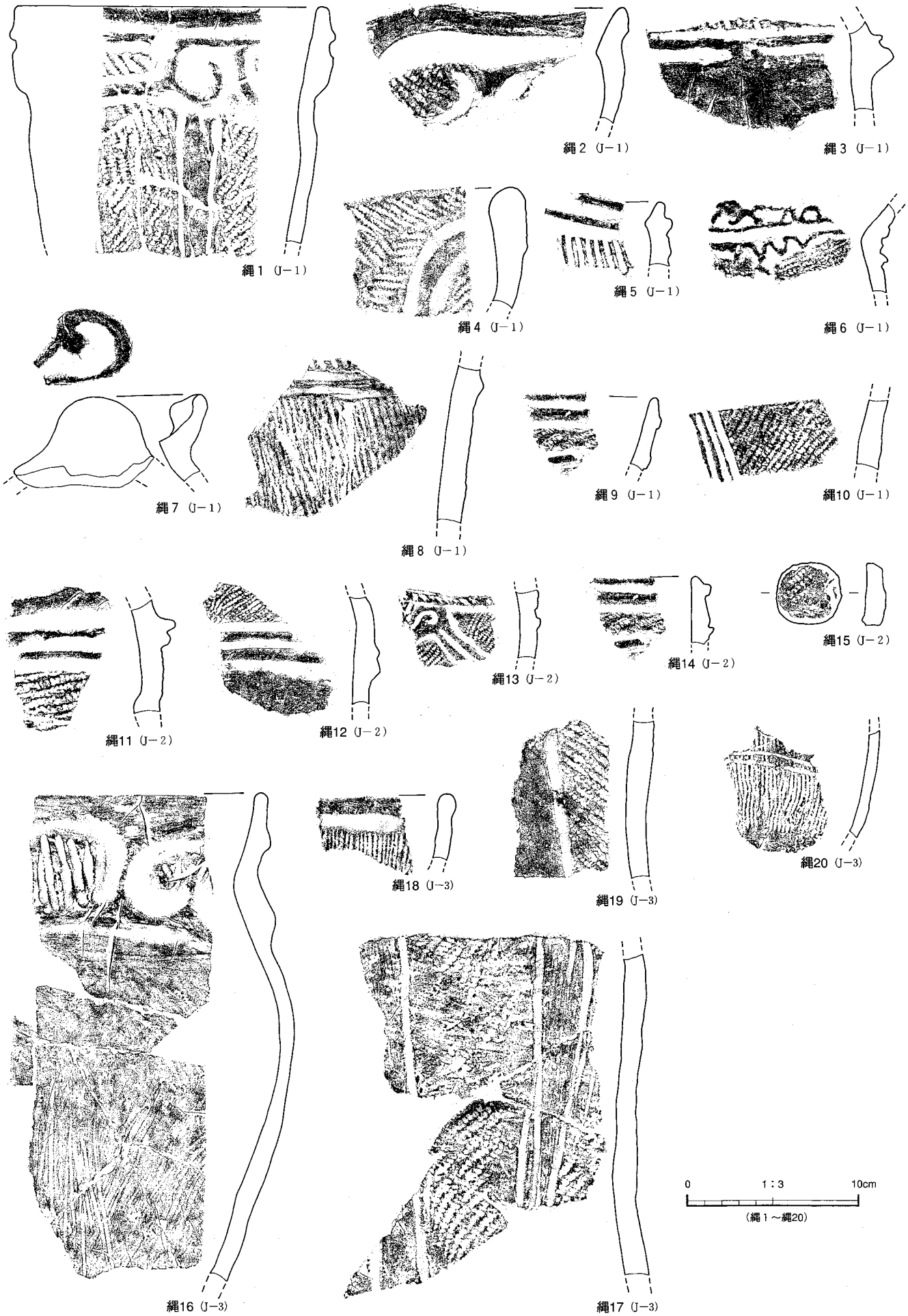


Fig.22　J－1～3号住居跡出土縄文土器

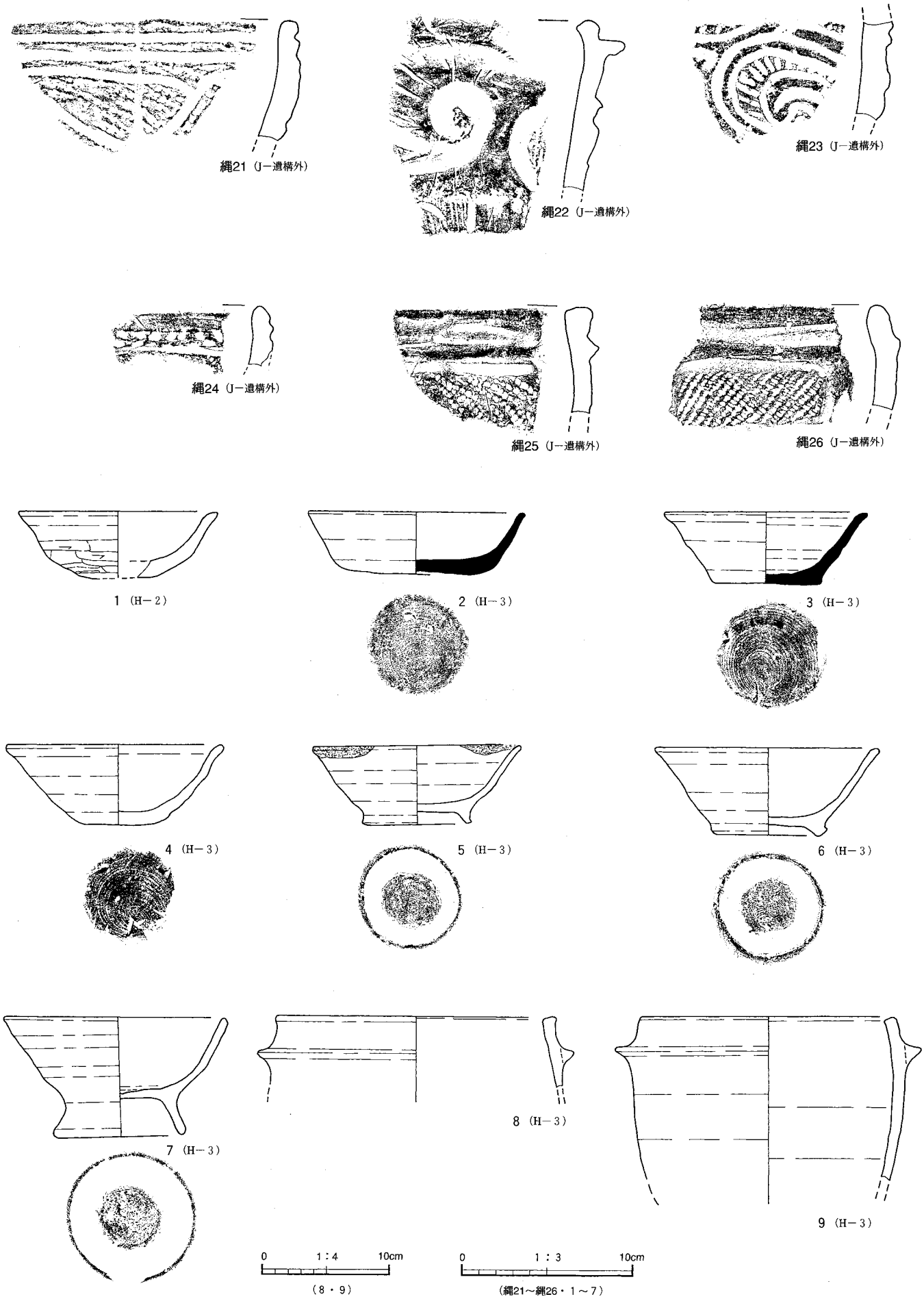


Fig.23　遺構外出土縄文土器、H－2～3号住居跡出土土器

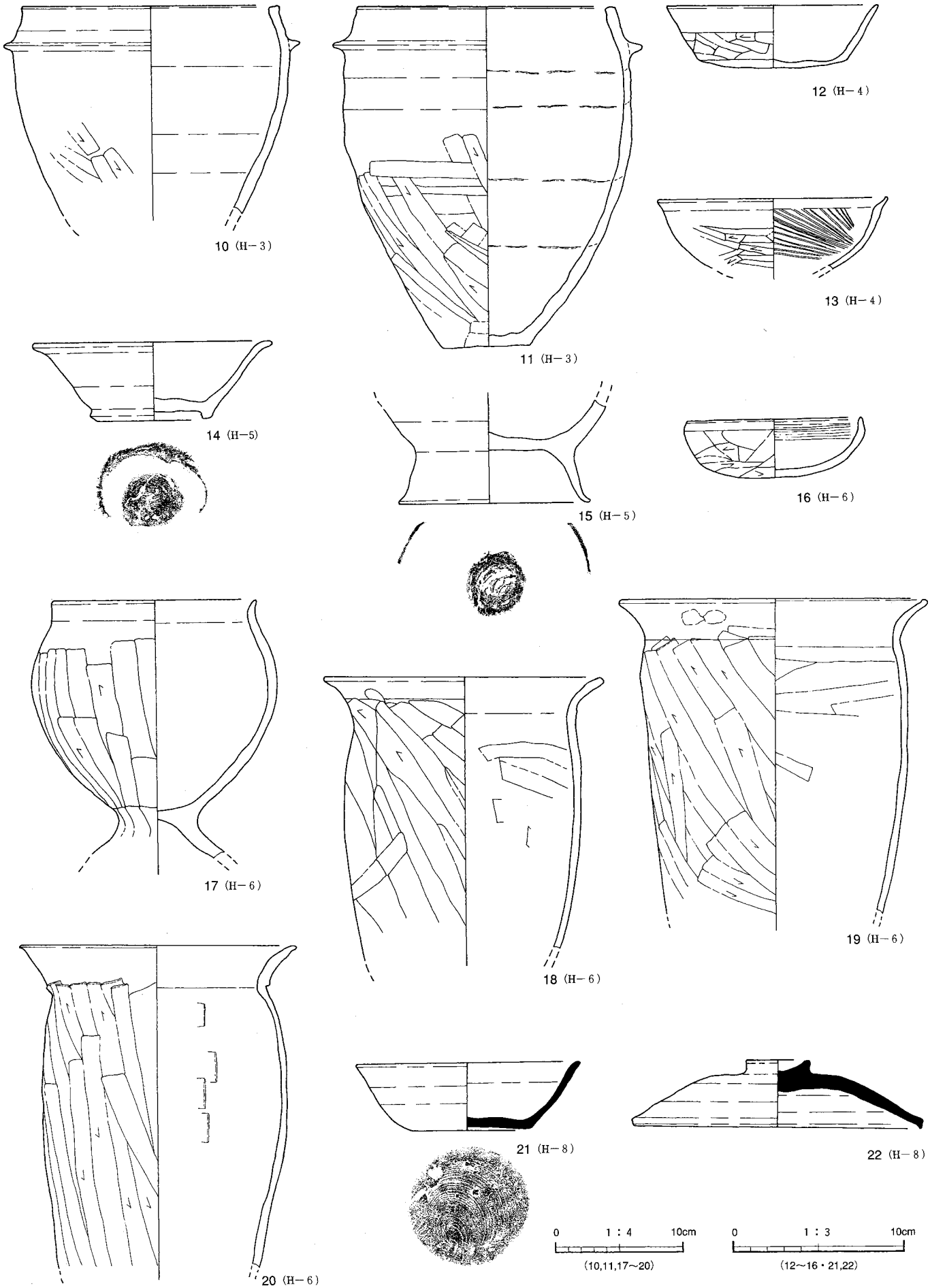


Fig.24 H－３～８号住居跡出土土器

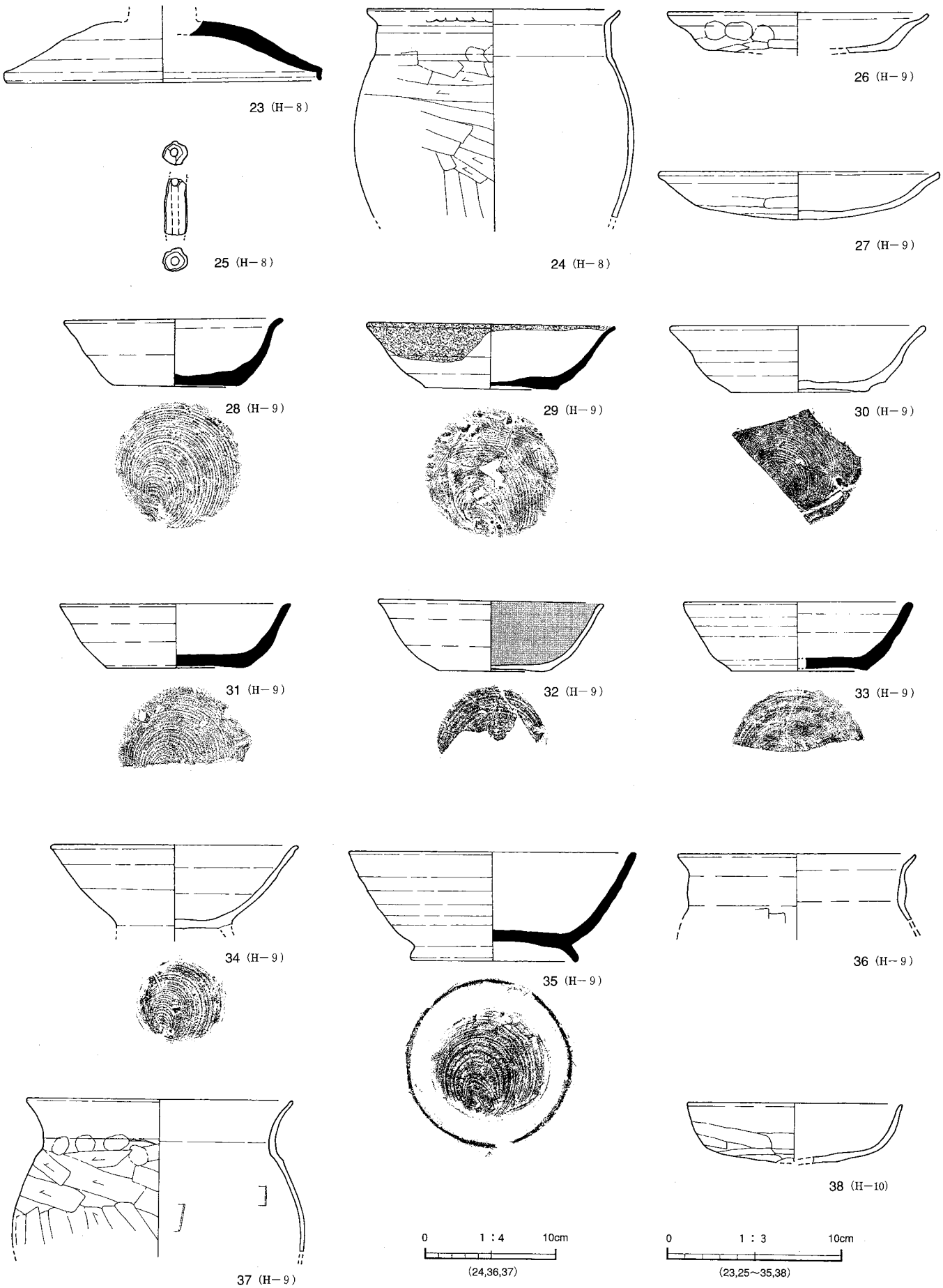


Fig.25　H－８・９号住居跡出土土器、H－８号住居出土土錘

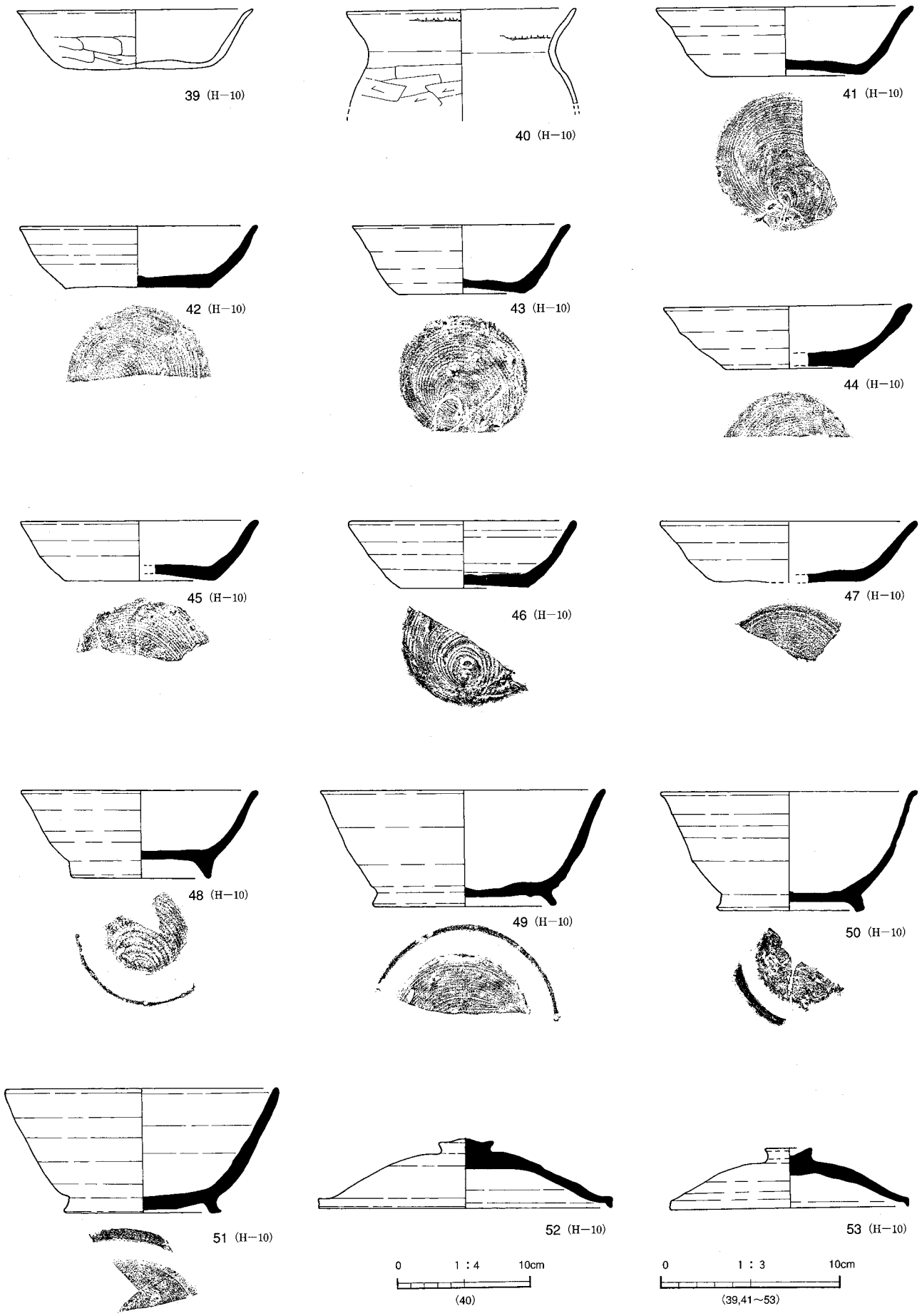


Fig.26　H−10号住居跡出土土器

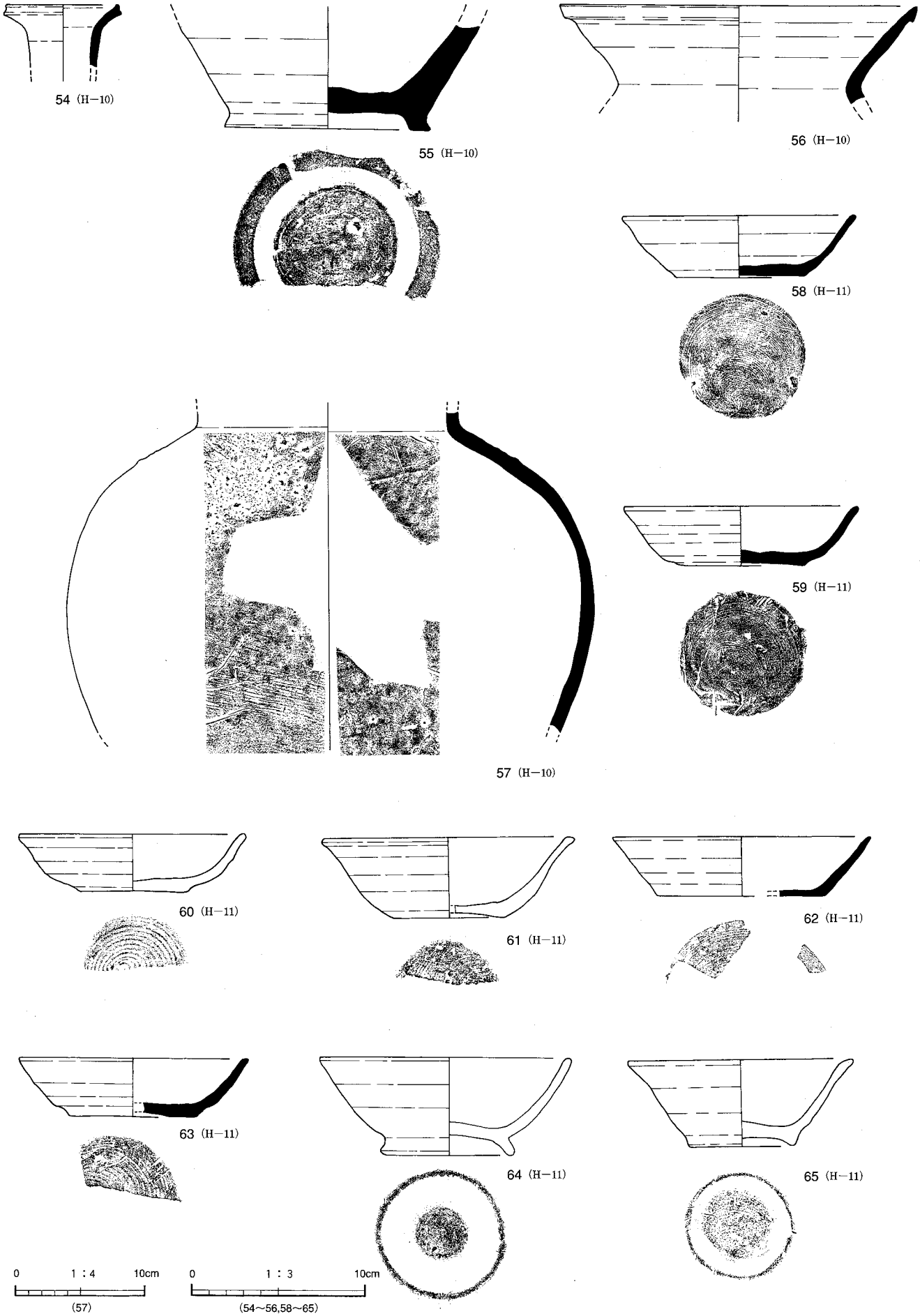
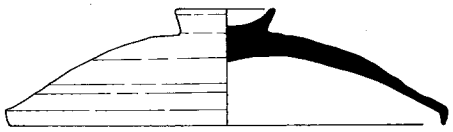
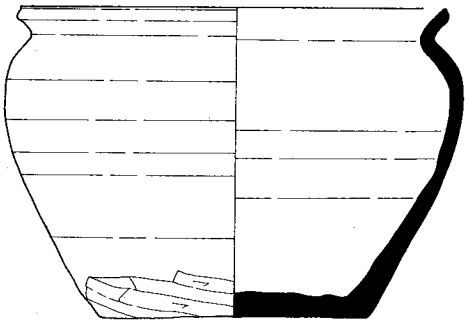


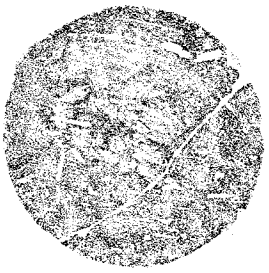
Fig.27 H−10・11号住居跡出土土器

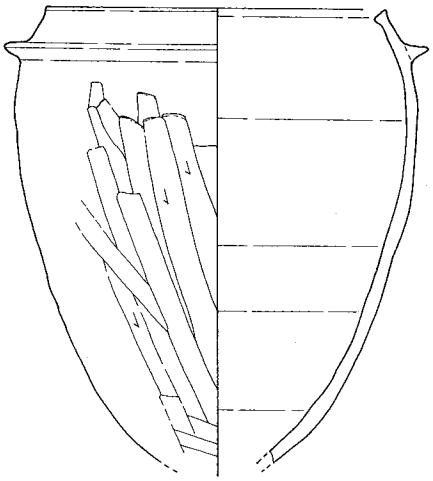


66 (H−11)

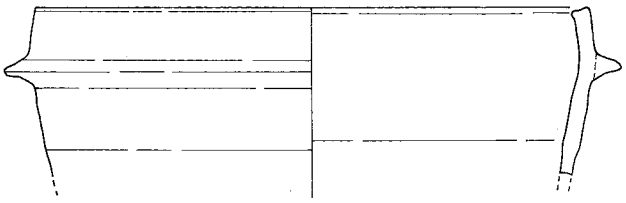


67 (H−11)

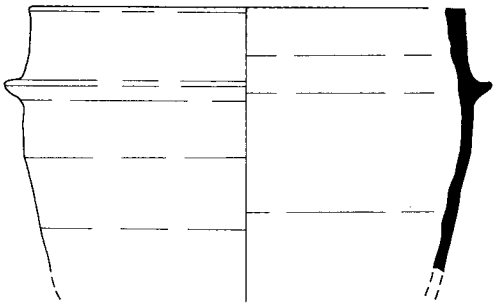




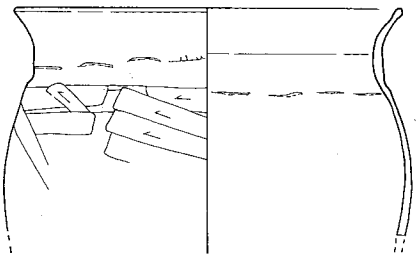
68 (H−11)



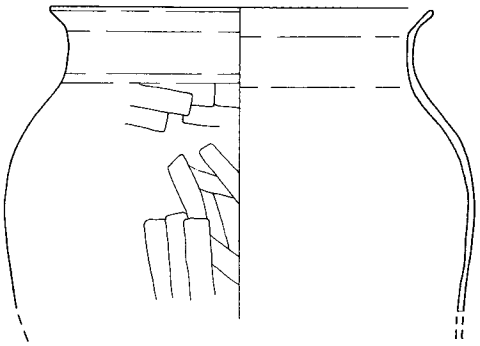
70 (H−11)



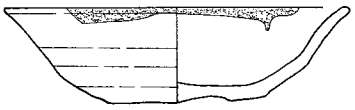
69 (H−11)



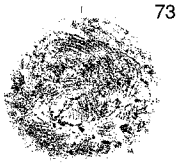
71 (H−11)

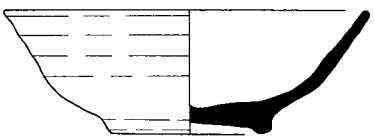


72 (H−11)



73 (H−12)





74 (H−12)

0 1：4 10cm

(67〜72)

0 1：3 10cm

(66,73,74)

Fig.28 H−11・12号住居跡出土土器

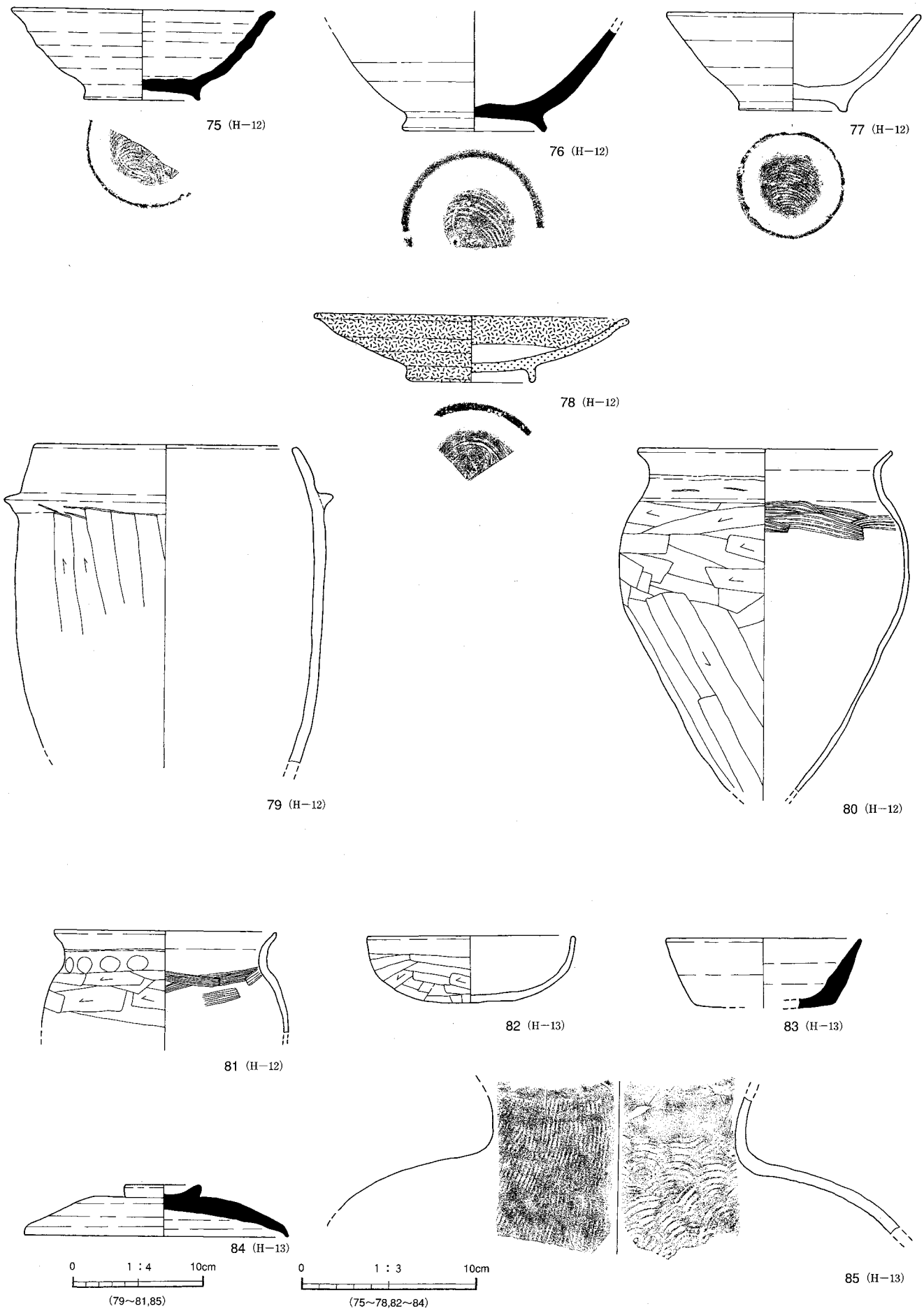


Fig.29 H−12・13号住居跡出土土器

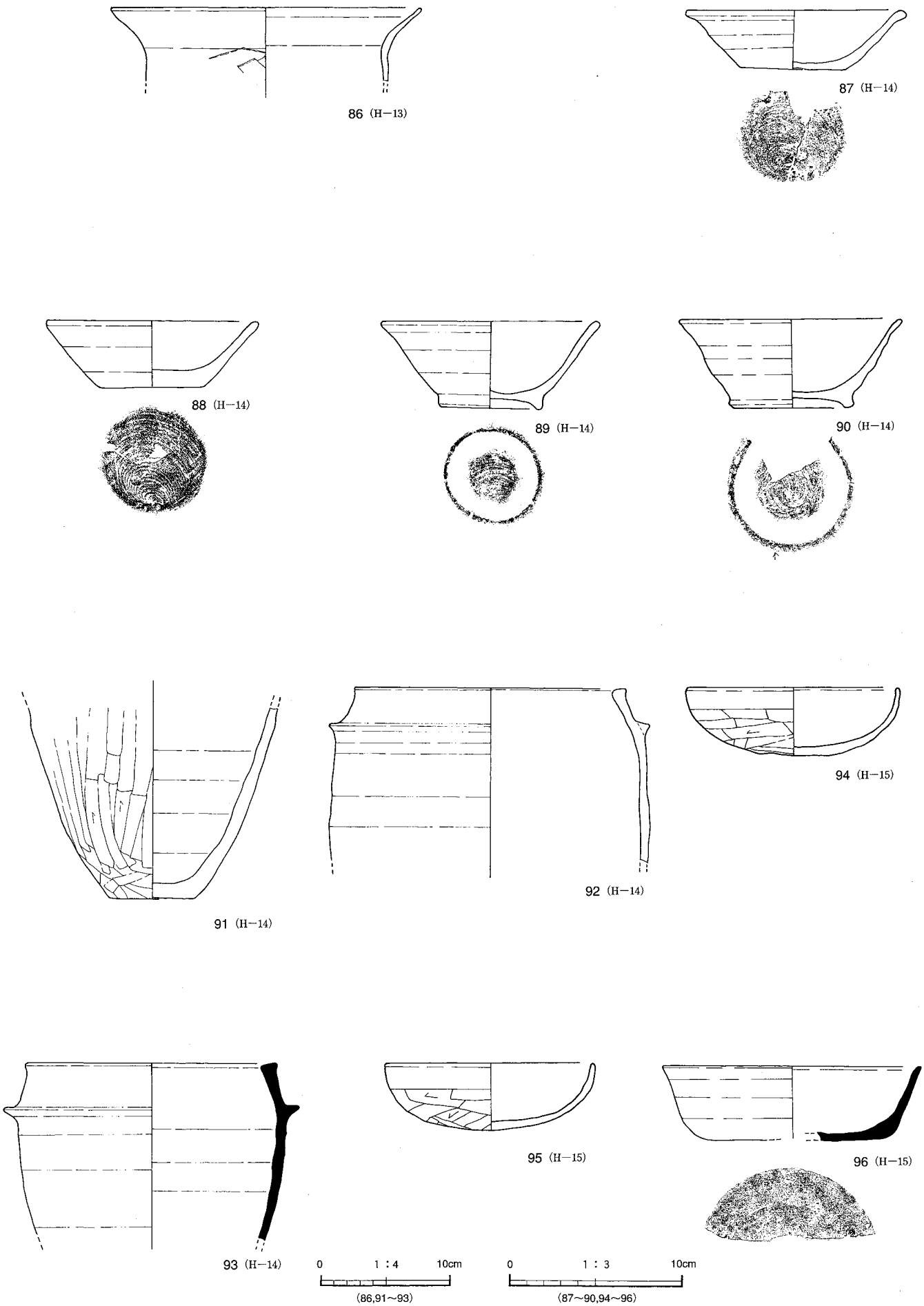


Fig.30 H−13～15号住居跡出土土器

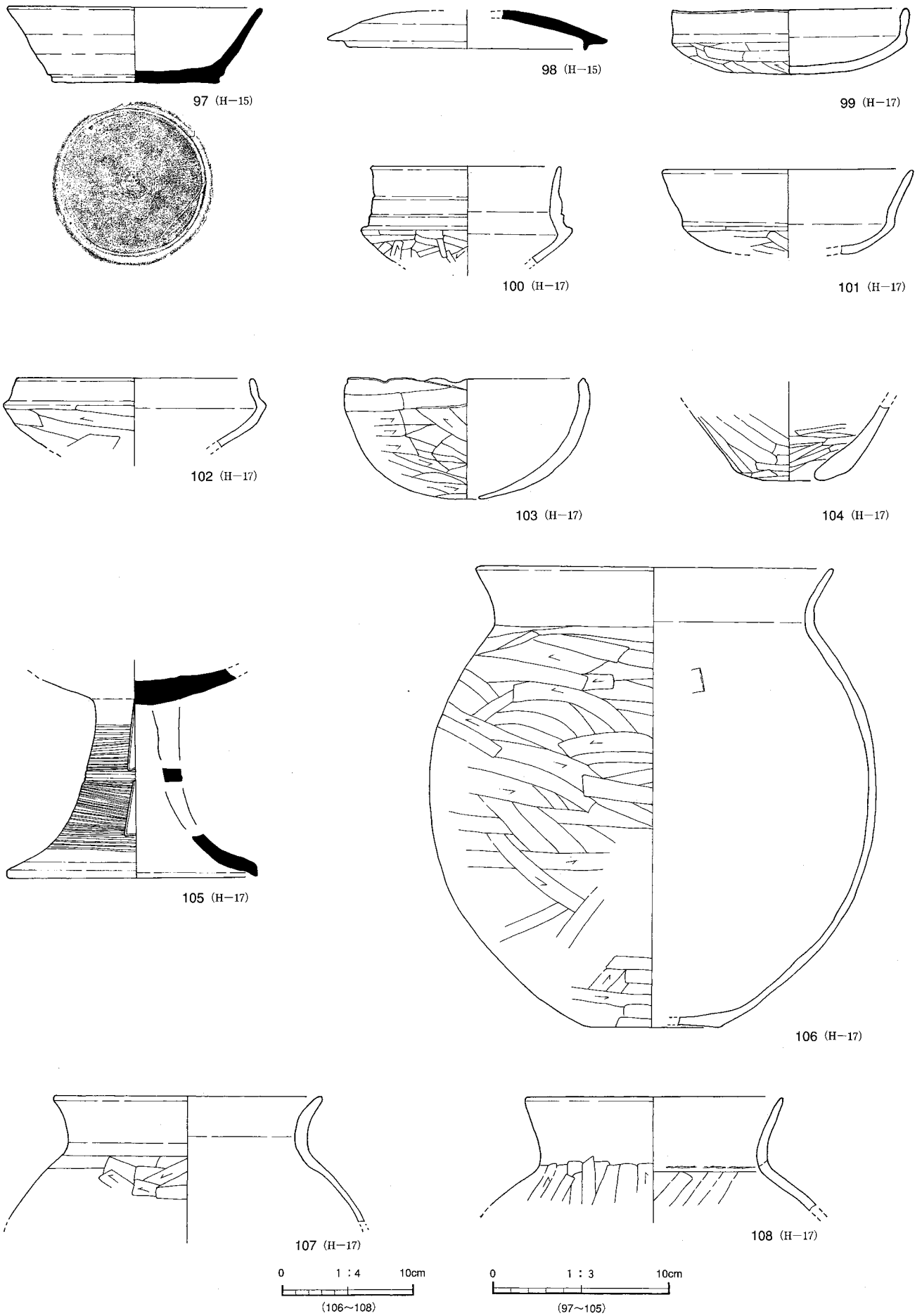


Fig.31 H−15・17号住居跡出土土器

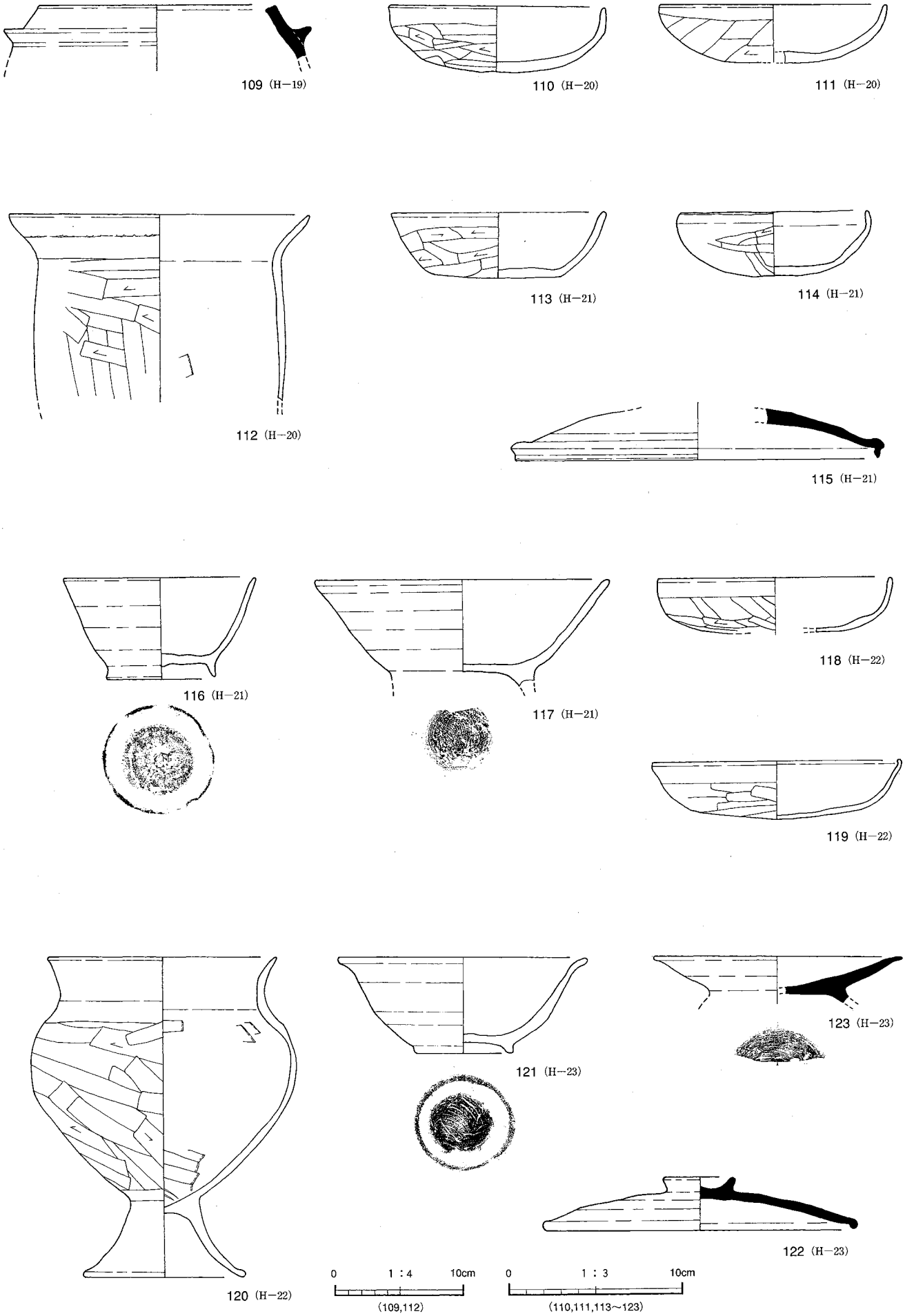
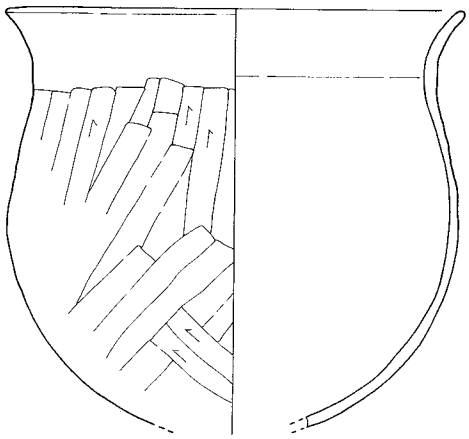
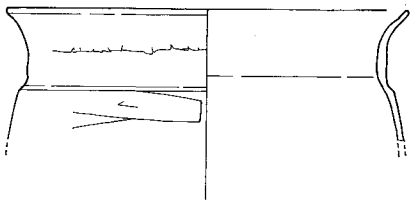


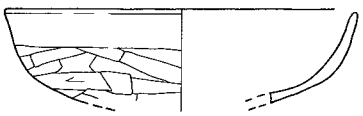
Fig.32 H−19～23号住居跡出土土器



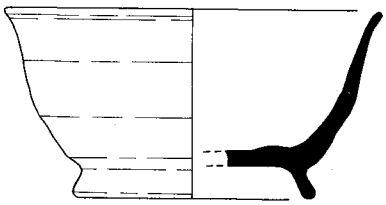
124 (H−23)



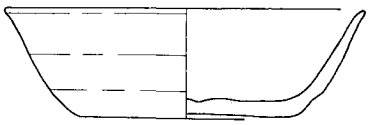
125 (H−23)

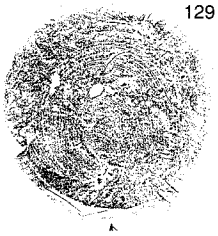


126 (H−24)

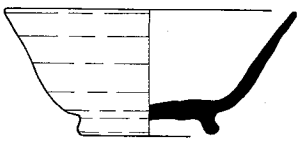


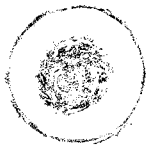
127 (H−24)





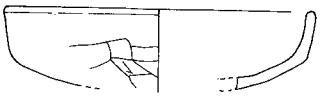
129 (H−25)



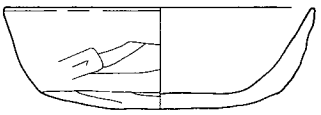


130 (H−25)

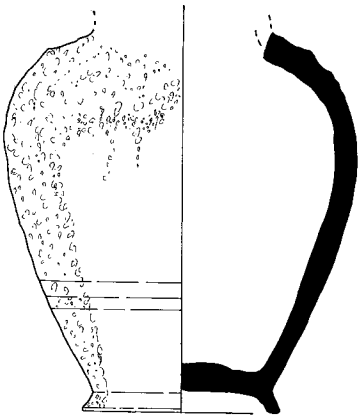
128 (H−24)



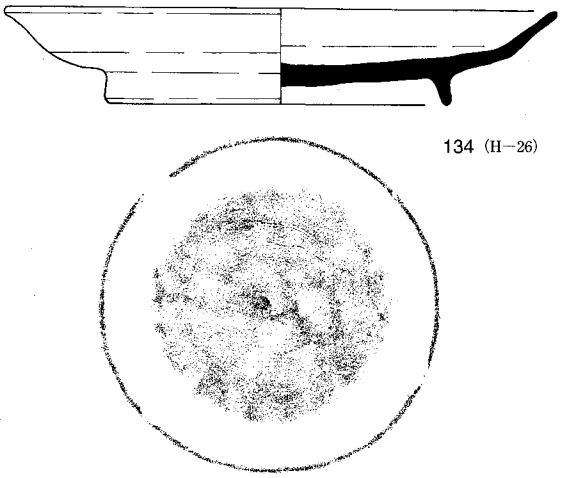
132 (H−26)



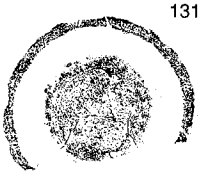
133 (H−26)



131 (H−25)



134 (H−26)



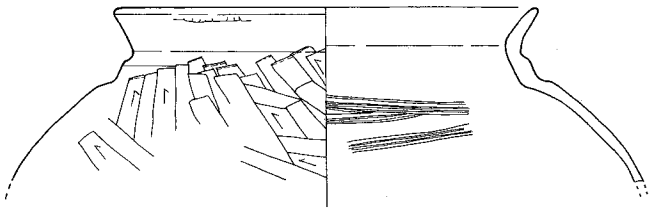
0 1：4 10cm

(124,125,131)

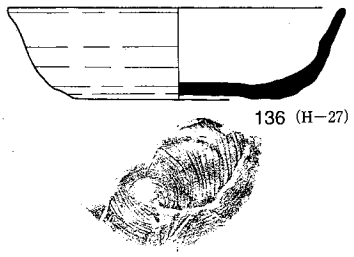
0 1：3 10cm

(126～130,132～134)

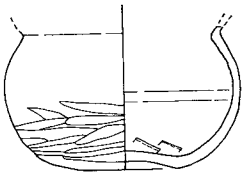
Fig.33 H−23～26号住居跡出土土器、H−24号住居跡出土土錘



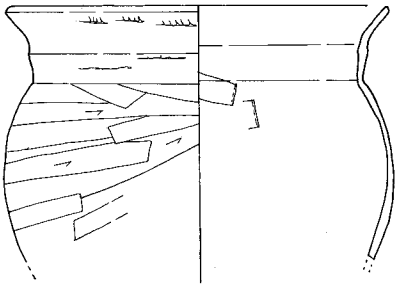
135 (H−26)



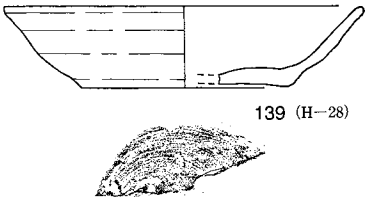
136 (H−27)



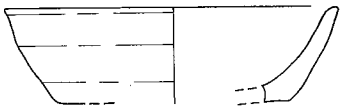
137 (H−27)



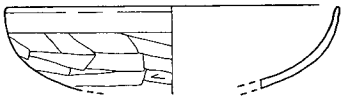
138 (H−27)



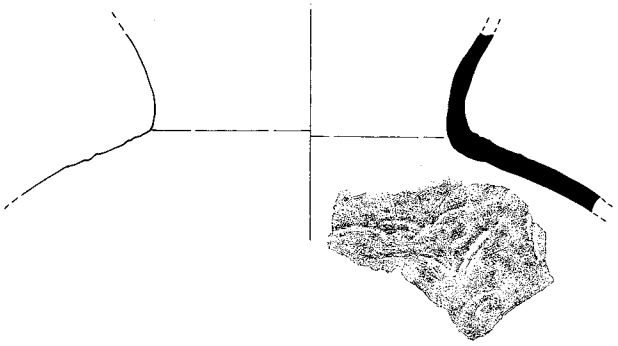
139 (H−28)



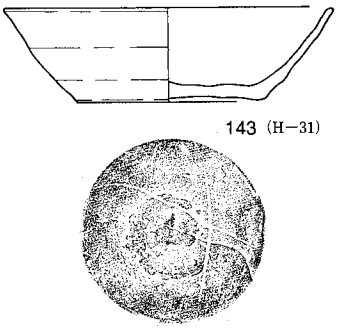
140 (H−29)



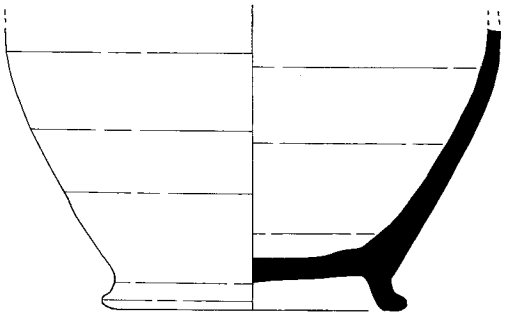
142 (H−31)



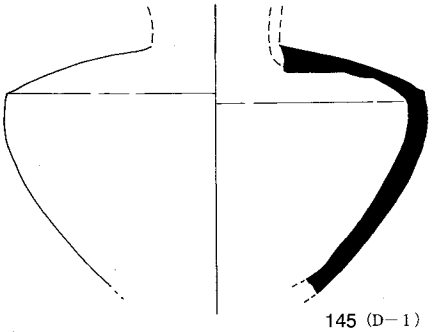
141 (H−29)



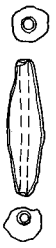
143 (H−31)



144 (H−31)



145 (D−1)



146 (X15,Y118)

0 1：4 10cm

(135,138,141,144,145)

0 1：3 10cm

(136,137,139,140,142,143,146)

Fig.34 H−26～29・31号住居跡・D−1号土坑出土土器、グリッド出土土錘

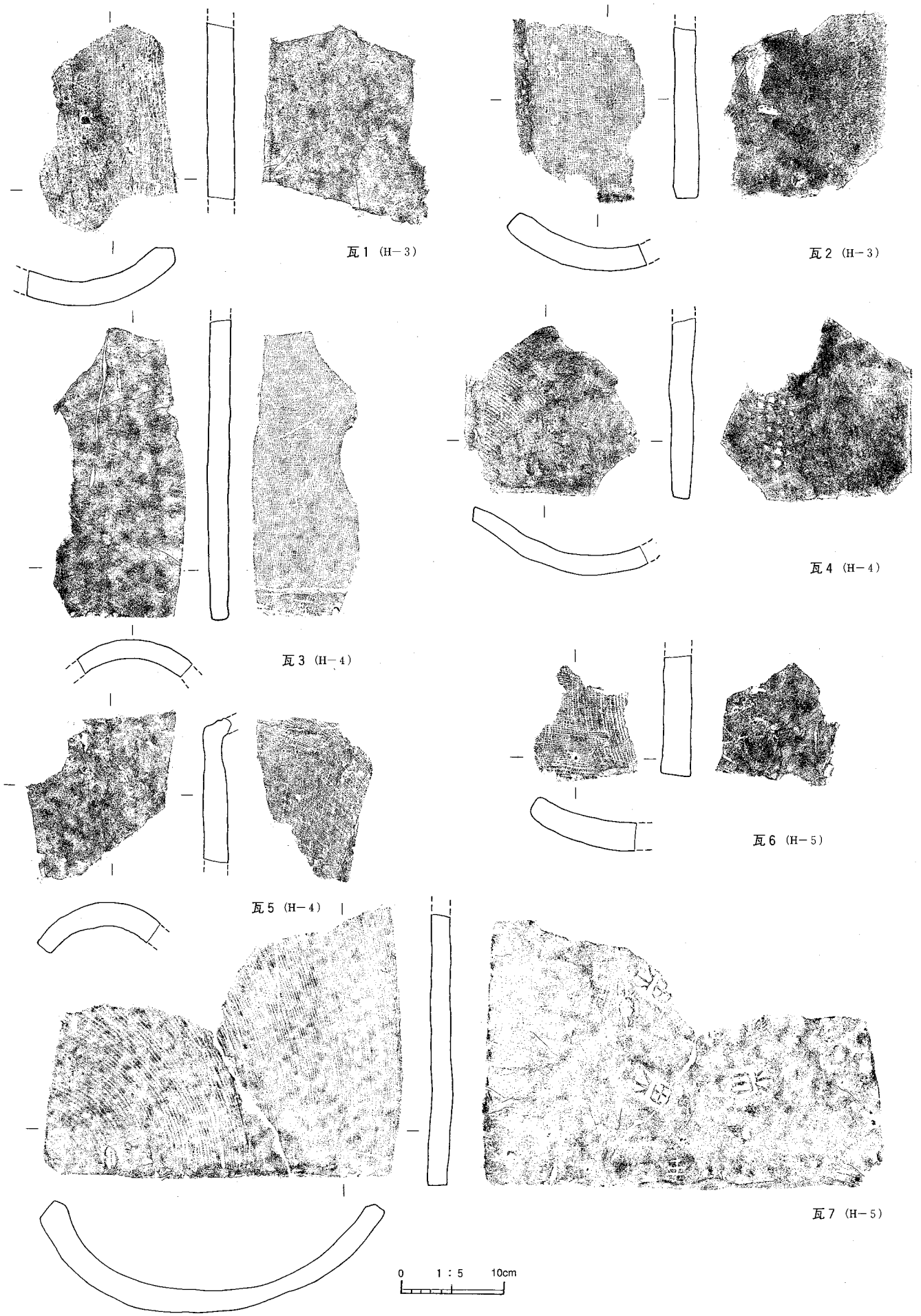
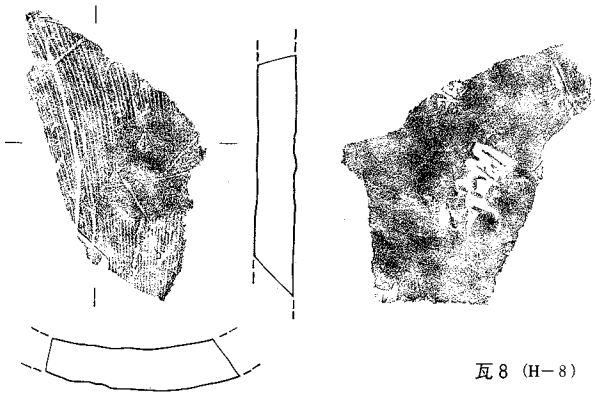
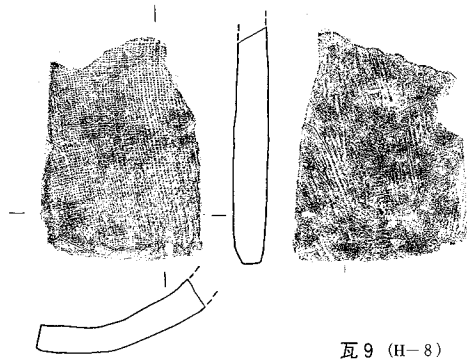


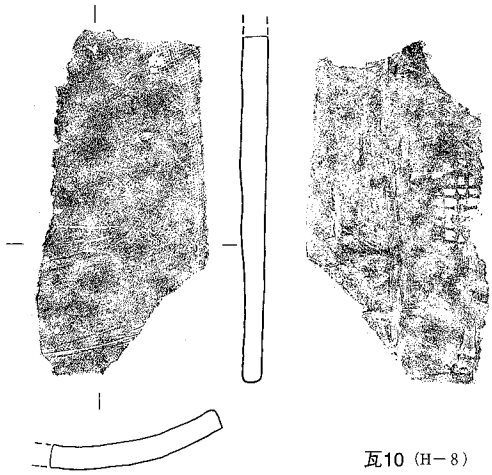
Fig.35 瓦1～7



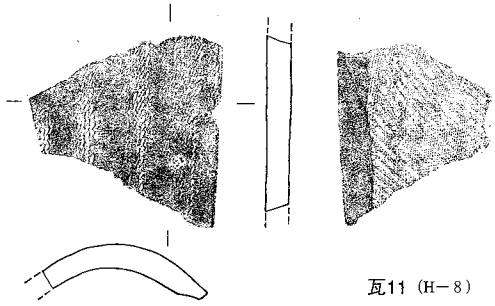
瓦8 (H－8)



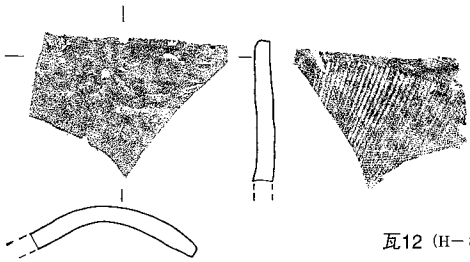
瓦9 (H－8)



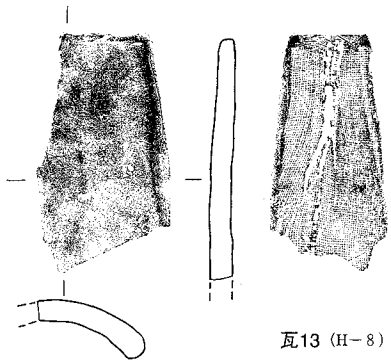
瓦10 (H－8)



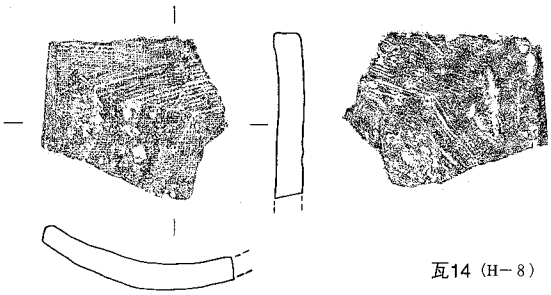
瓦11 (H－8)



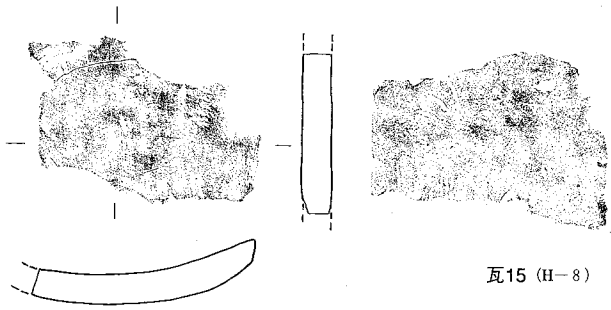
瓦12 (H－8)



瓦13 (H－8)



瓦14 (H－8)



瓦15 (H－8)

0　1：5　10cm

Fig.36　瓦8～15

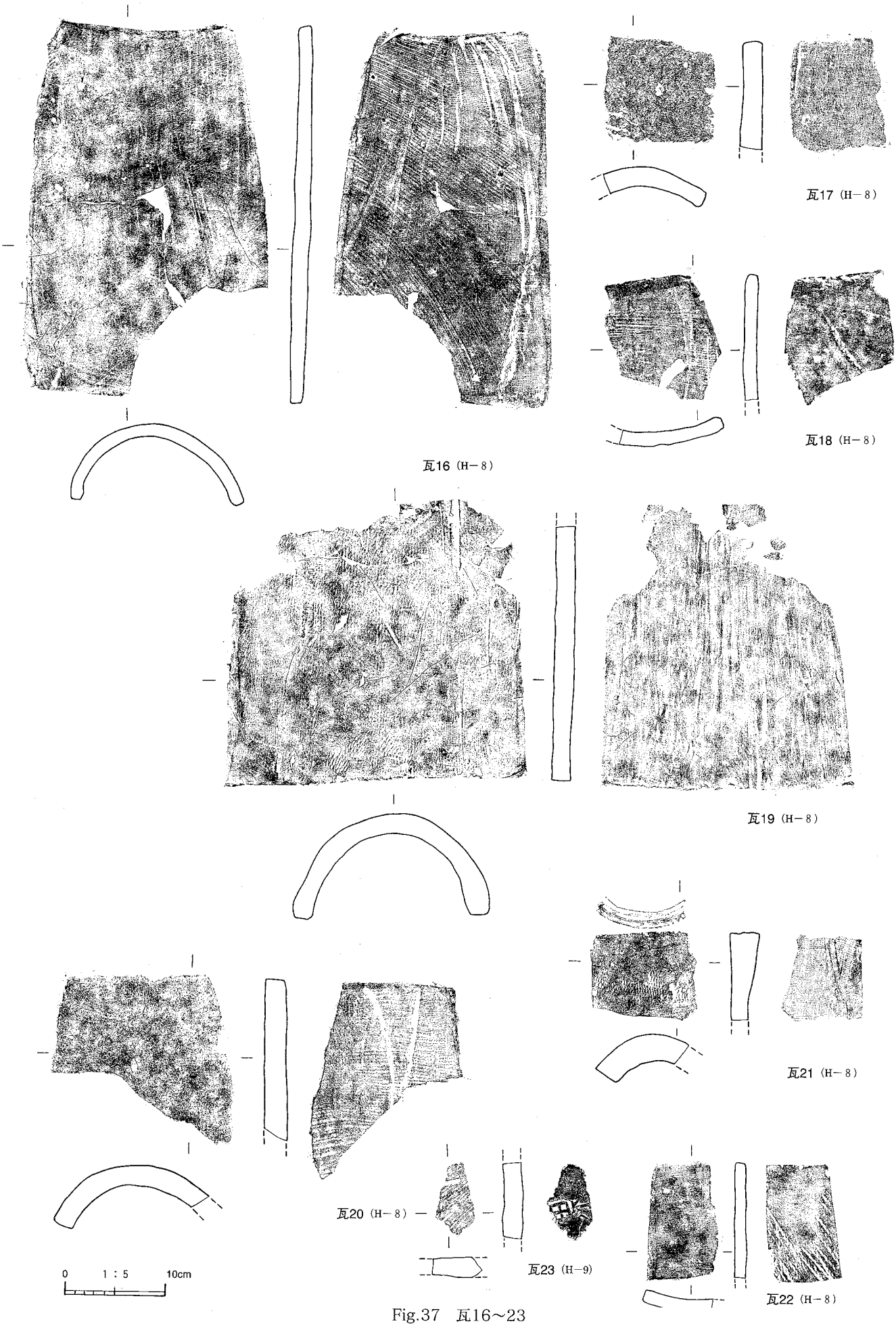


Fig.37 瓦16～23

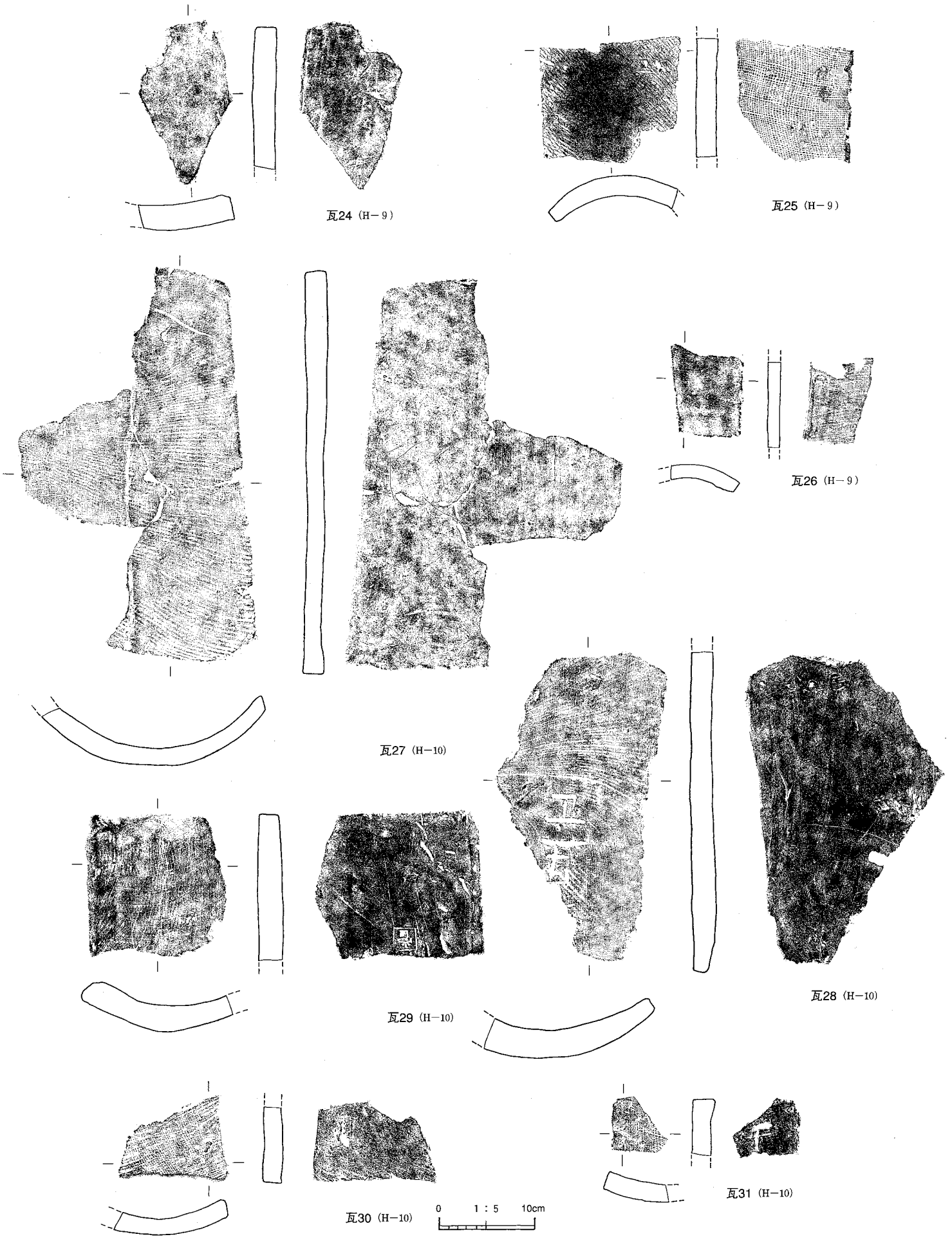

瓦24 (H－9)
瓦25 (H－9)
瓦26 (H－9)
瓦27 (H－10)
瓦28 (H－10)
瓦29 (H－10)
瓦30 (H－10)
瓦31 (H－10)
0 1：5 10cm

Fig.38 瓦24～31

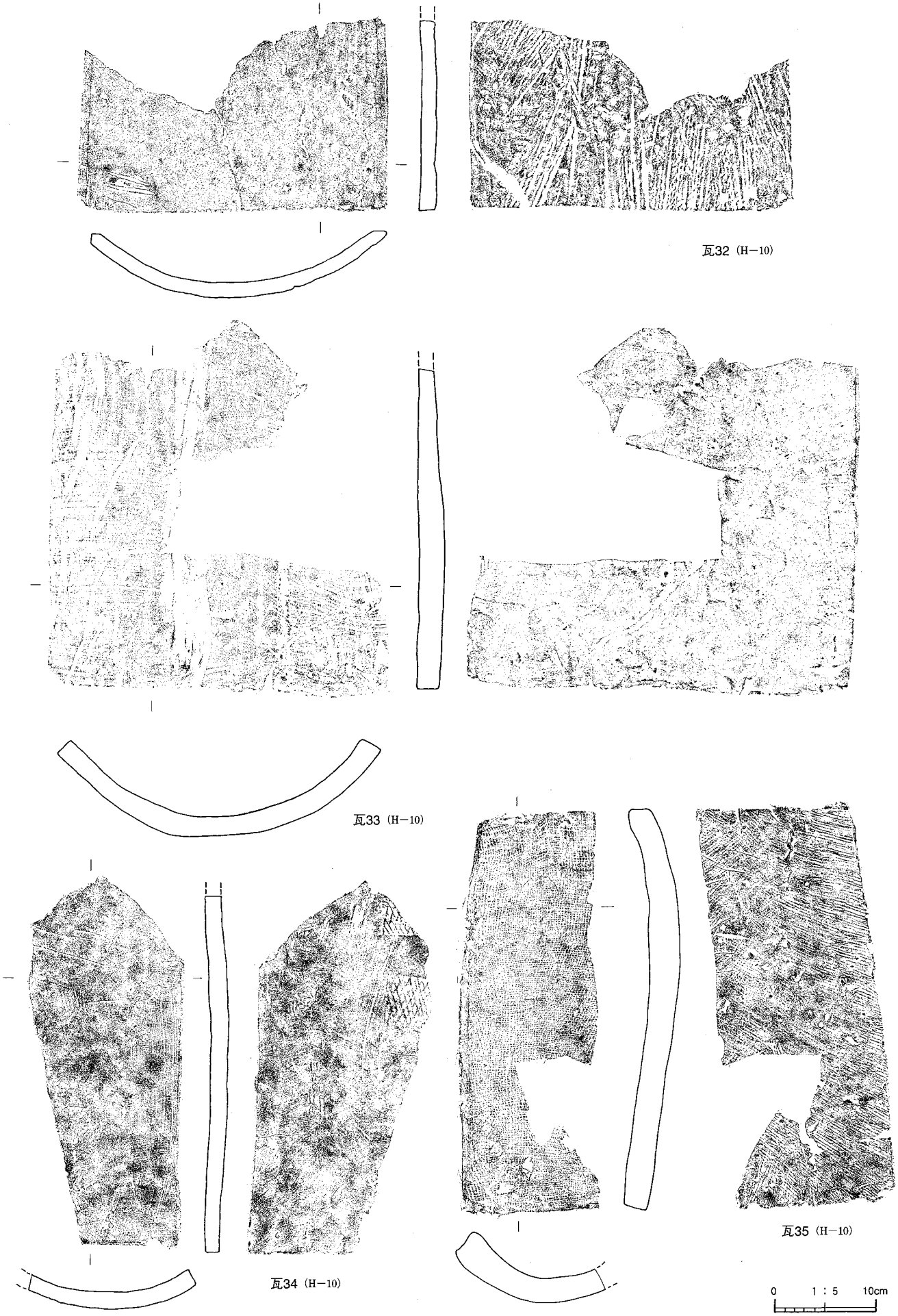


Fig.39 瓦32～35

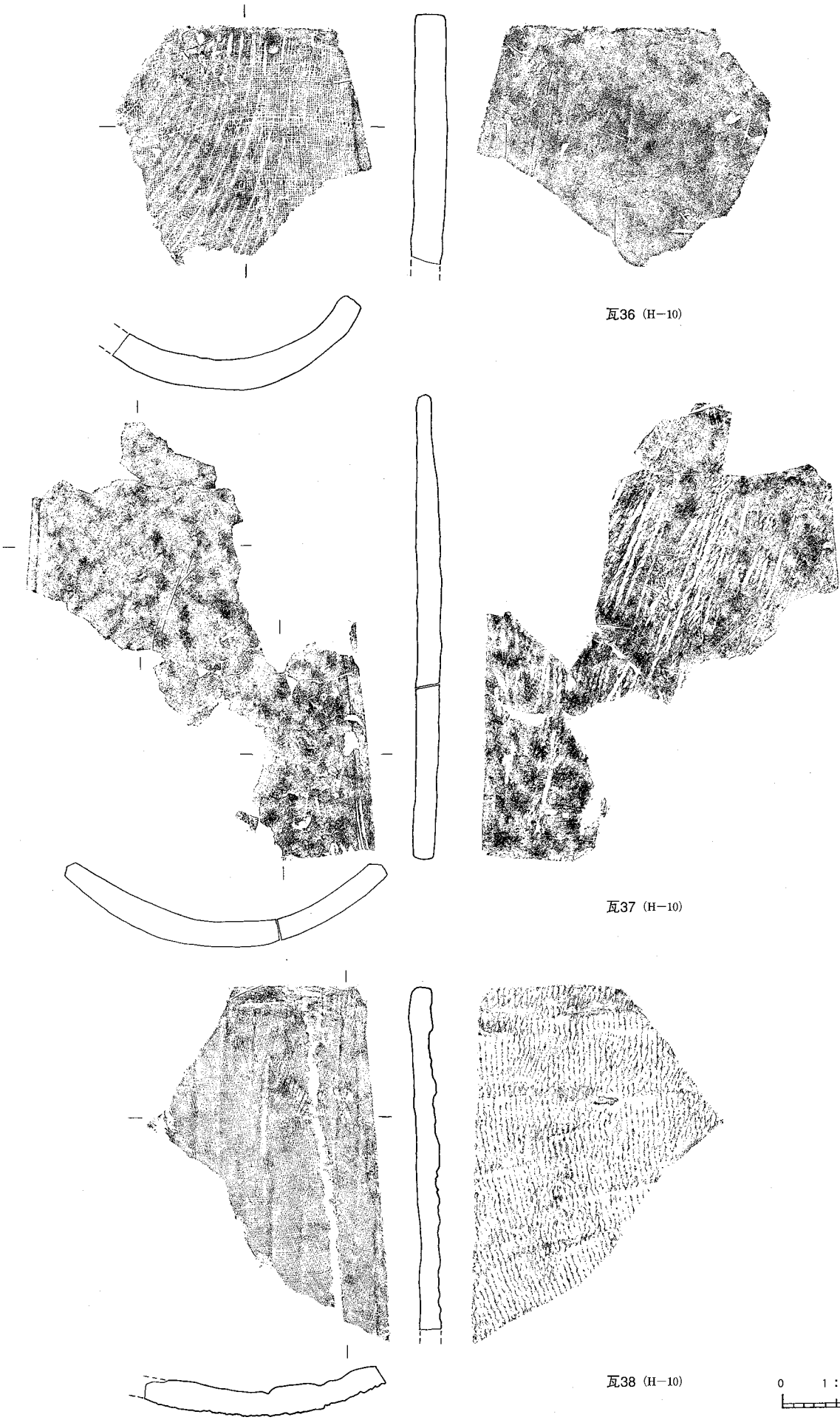


Fig.40 瓦36～38

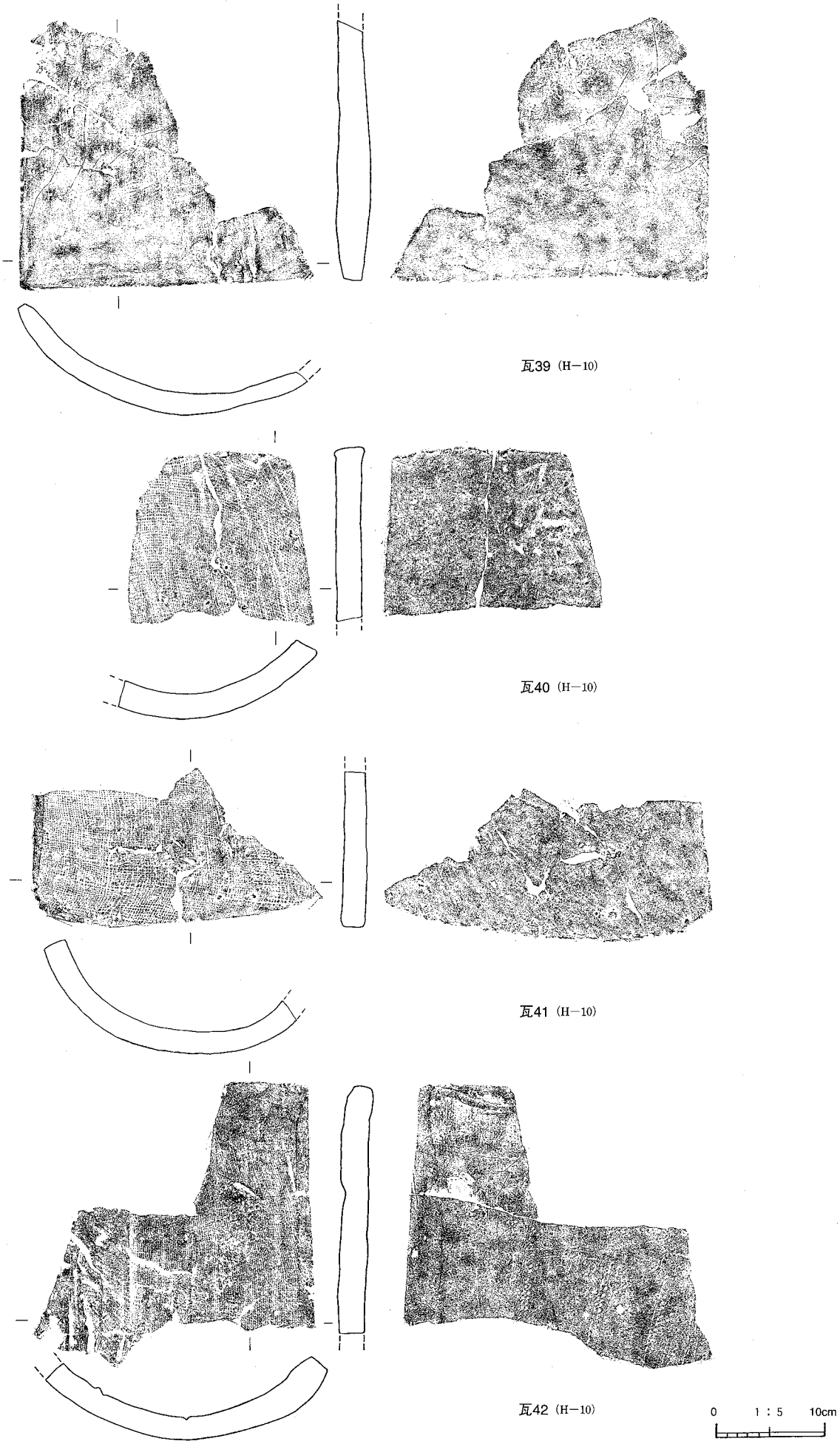


Fig.41 瓦39～42

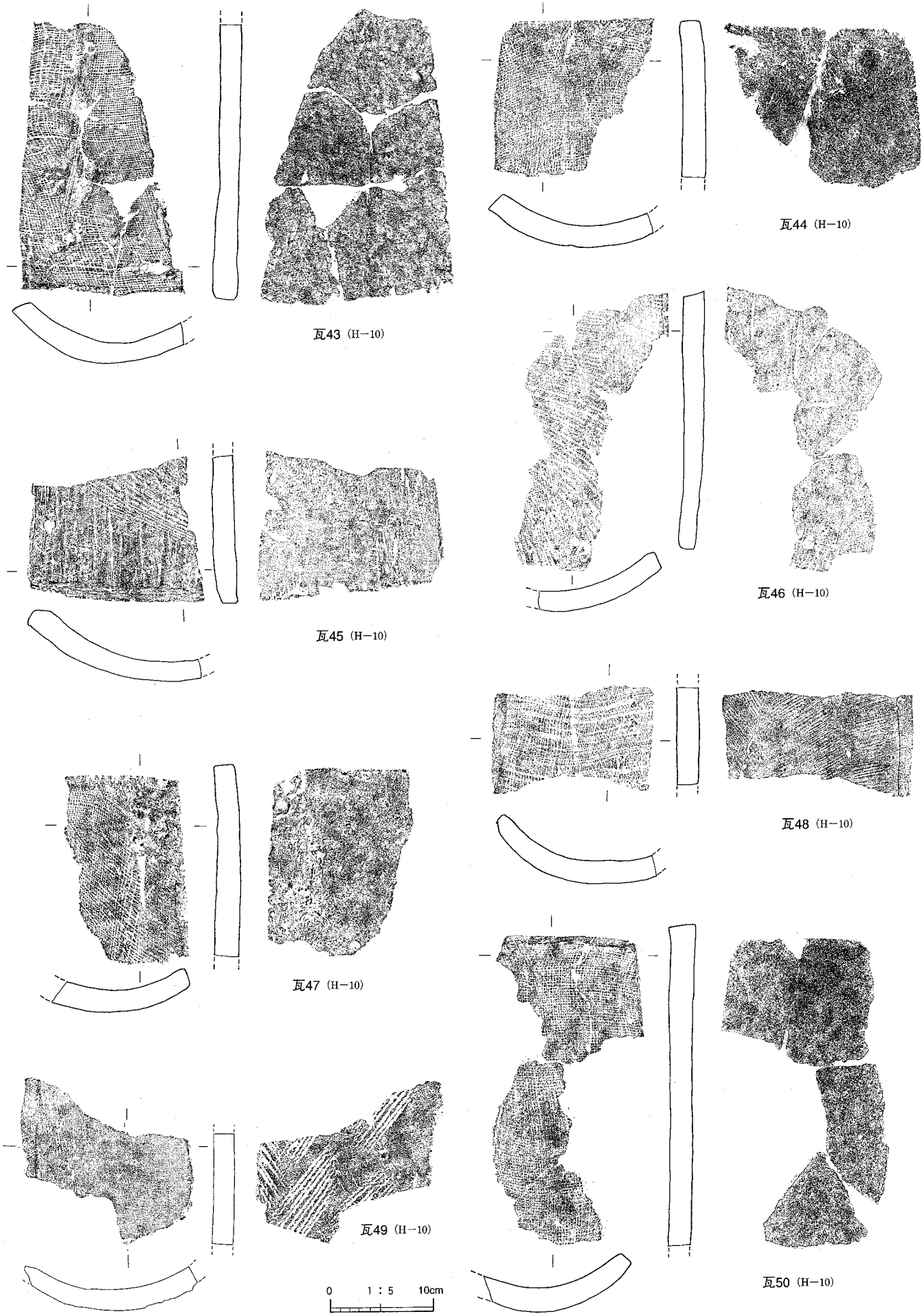

瓦43 (H−10)
瓦44 (H−10)
瓦45 (H−10)
瓦46 (H−10)
瓦47 (H−10)
瓦48 (H−10)
瓦49 (H−10)
瓦50 (H−10)
0 1：5 10cm

Fig.42 瓦43～50

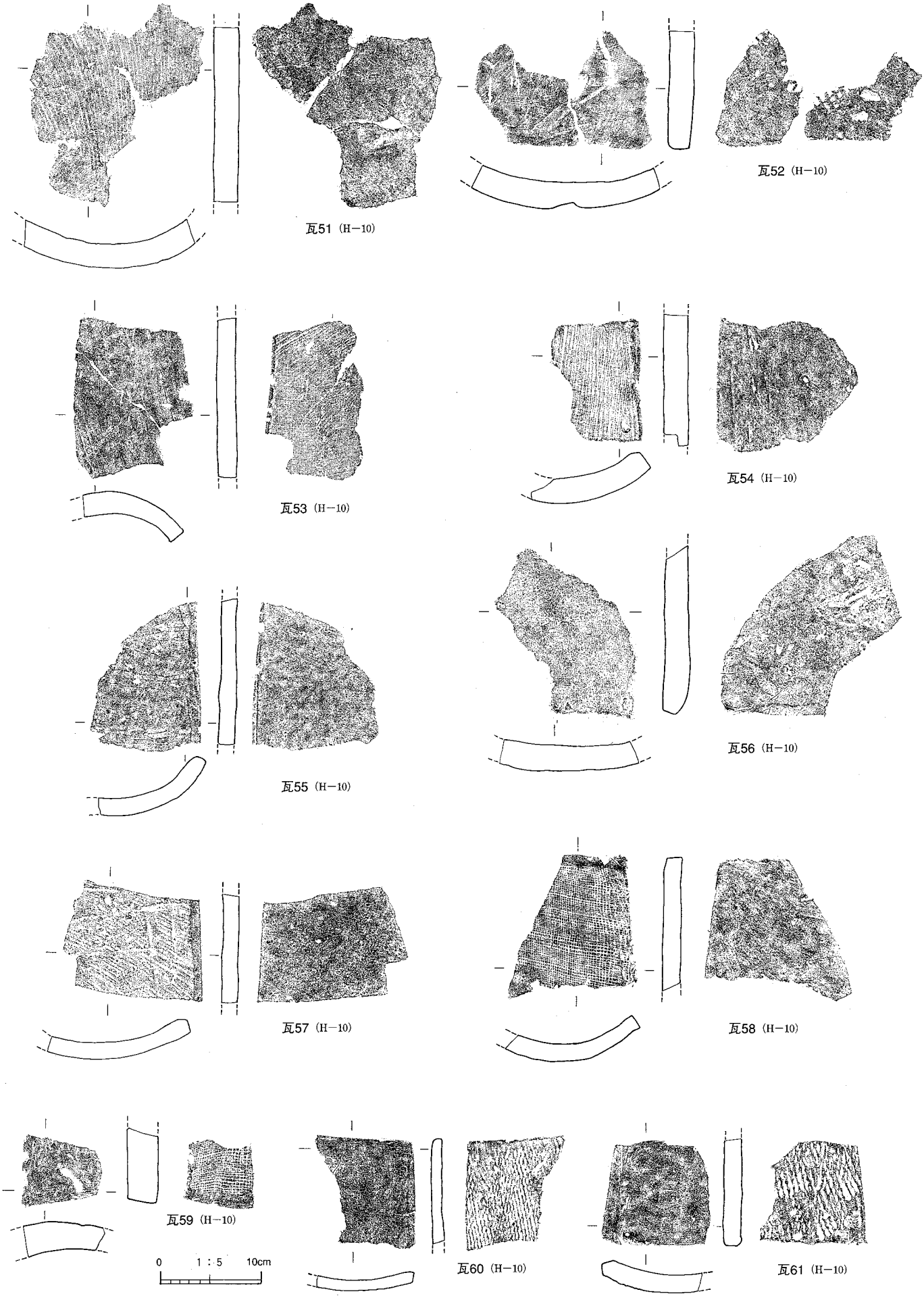

瓦51 (H−10)
瓦52 (H−10)
瓦53 (H−10)
瓦54 (H−10)
瓦55 (H−10)
瓦56 (H−10)
瓦57 (H−10)
瓦58 (H−10)
瓦59 (H−10)
0 1:5 10cm
瓦60 (H−10)
瓦61 (H−10)

Fig.43 瓦51～61

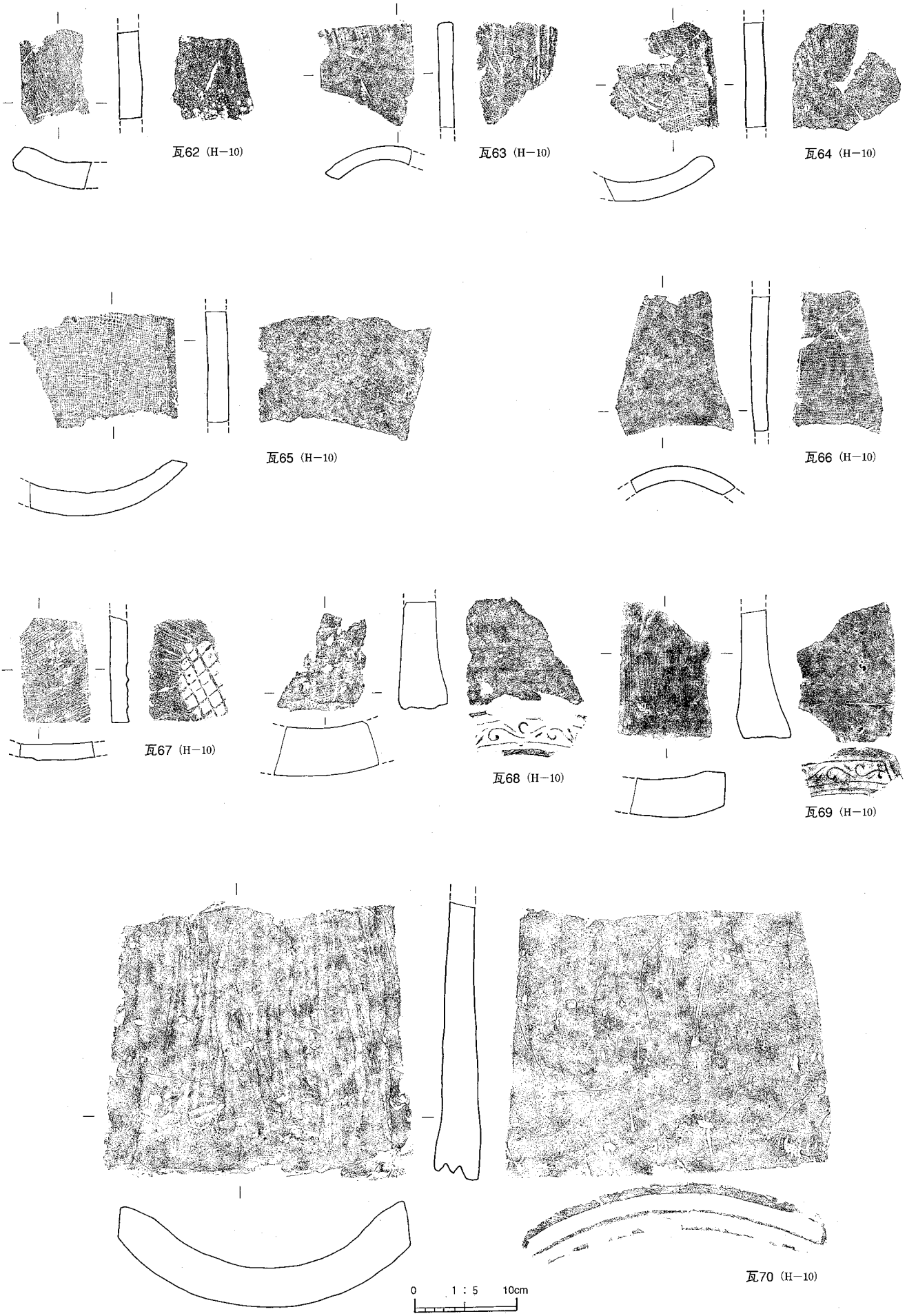
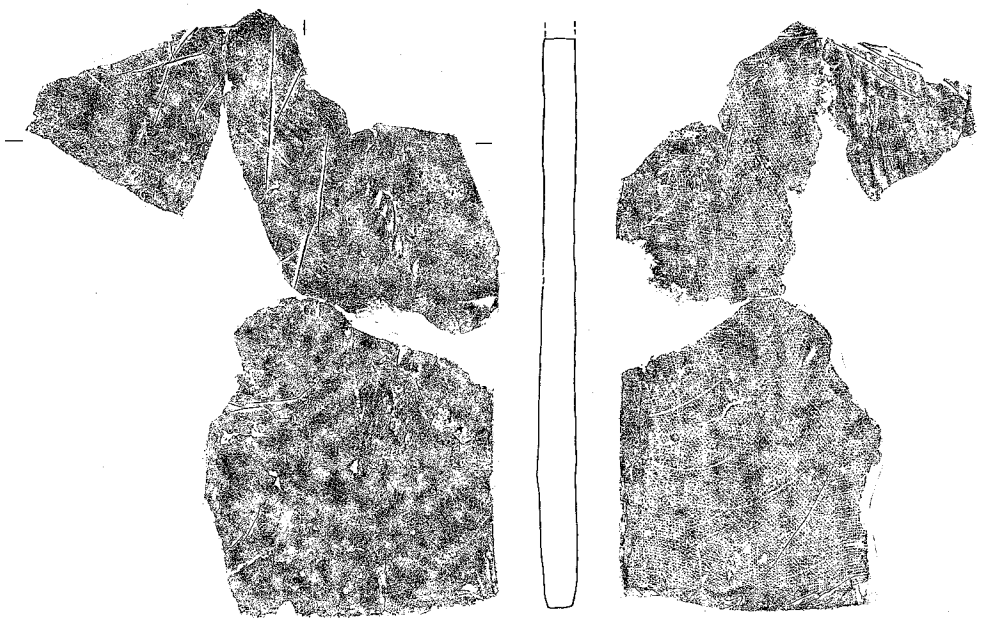
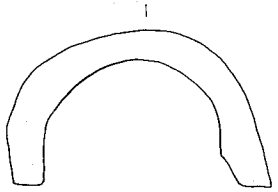
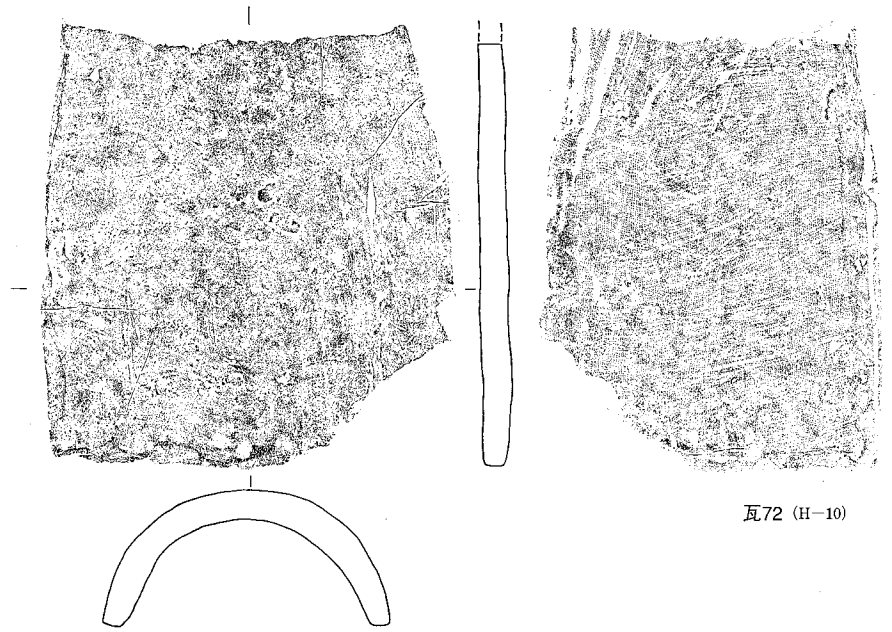

瓦62 (H−10)
瓦63 (H−10)
瓦64 (H−10)
瓦65 (H−10)
瓦66 (H−10)
瓦67 (H−10)
瓦68 (H−10)
瓦69 (H−10)
瓦70 (H−10)
0 1：5 10cm

Fig.44 瓦62～70

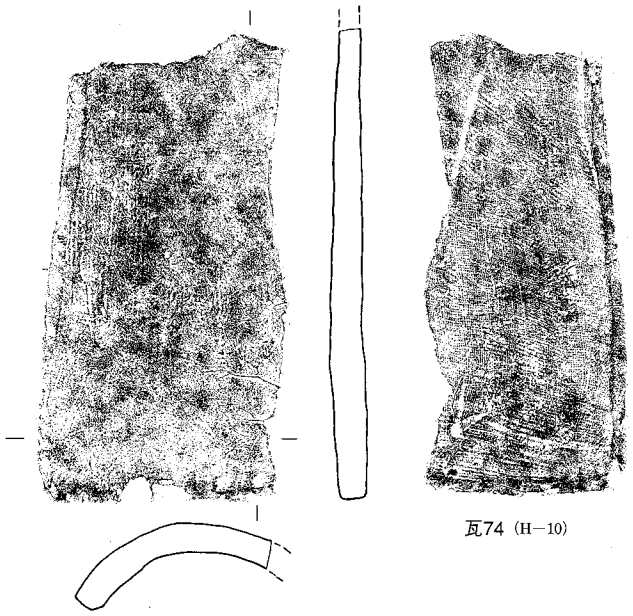


瓦71 (H−10)

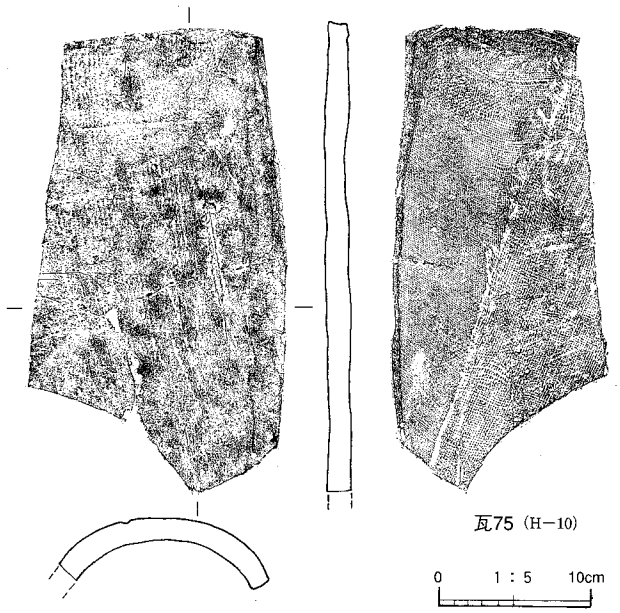




瓦72 (H−10)



瓦74 (H−10)



瓦75 (H−10)

0 1：5 10cm

Fig.45 瓦71・72・74・75

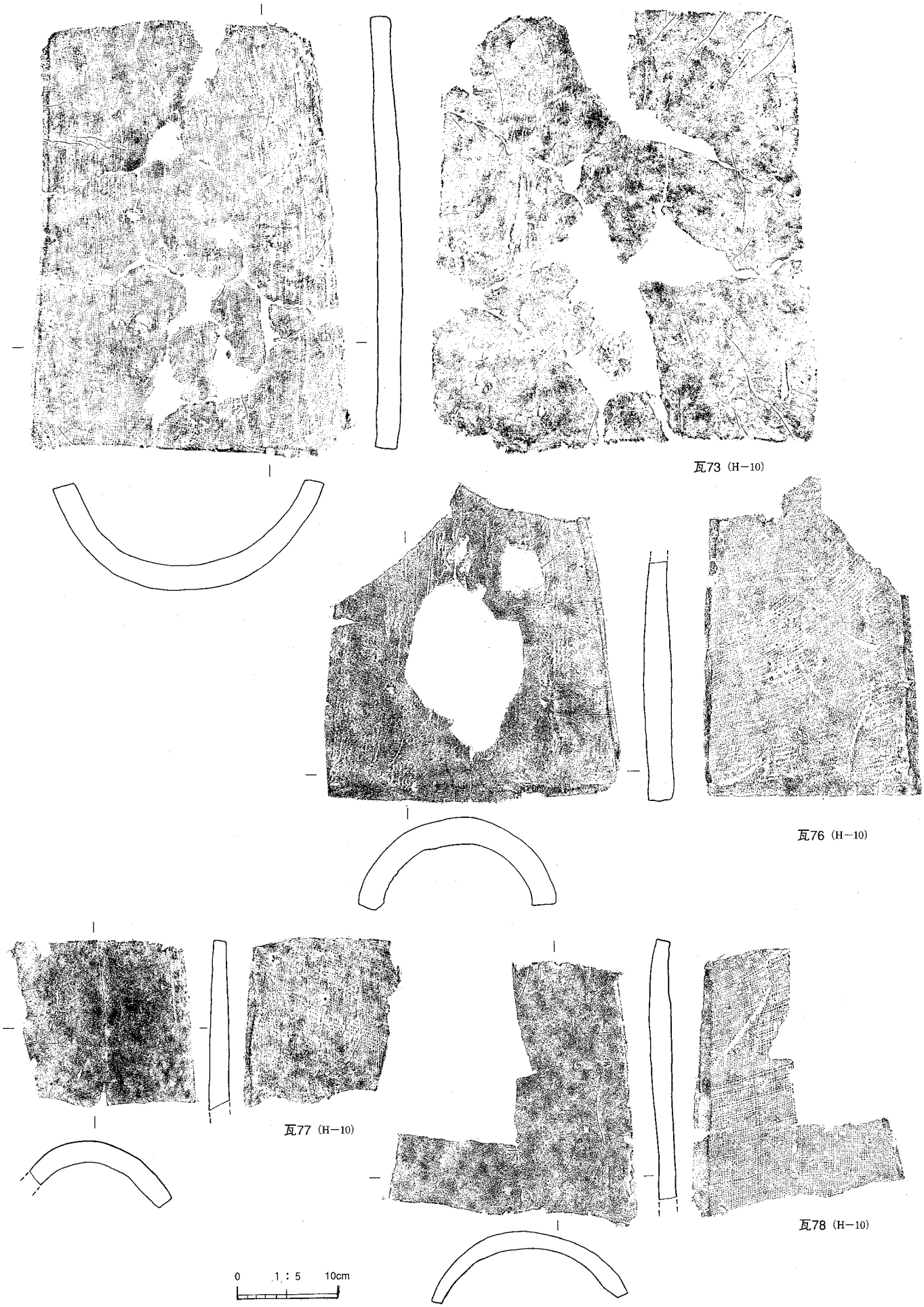


Fig.46 瓦73・76~78

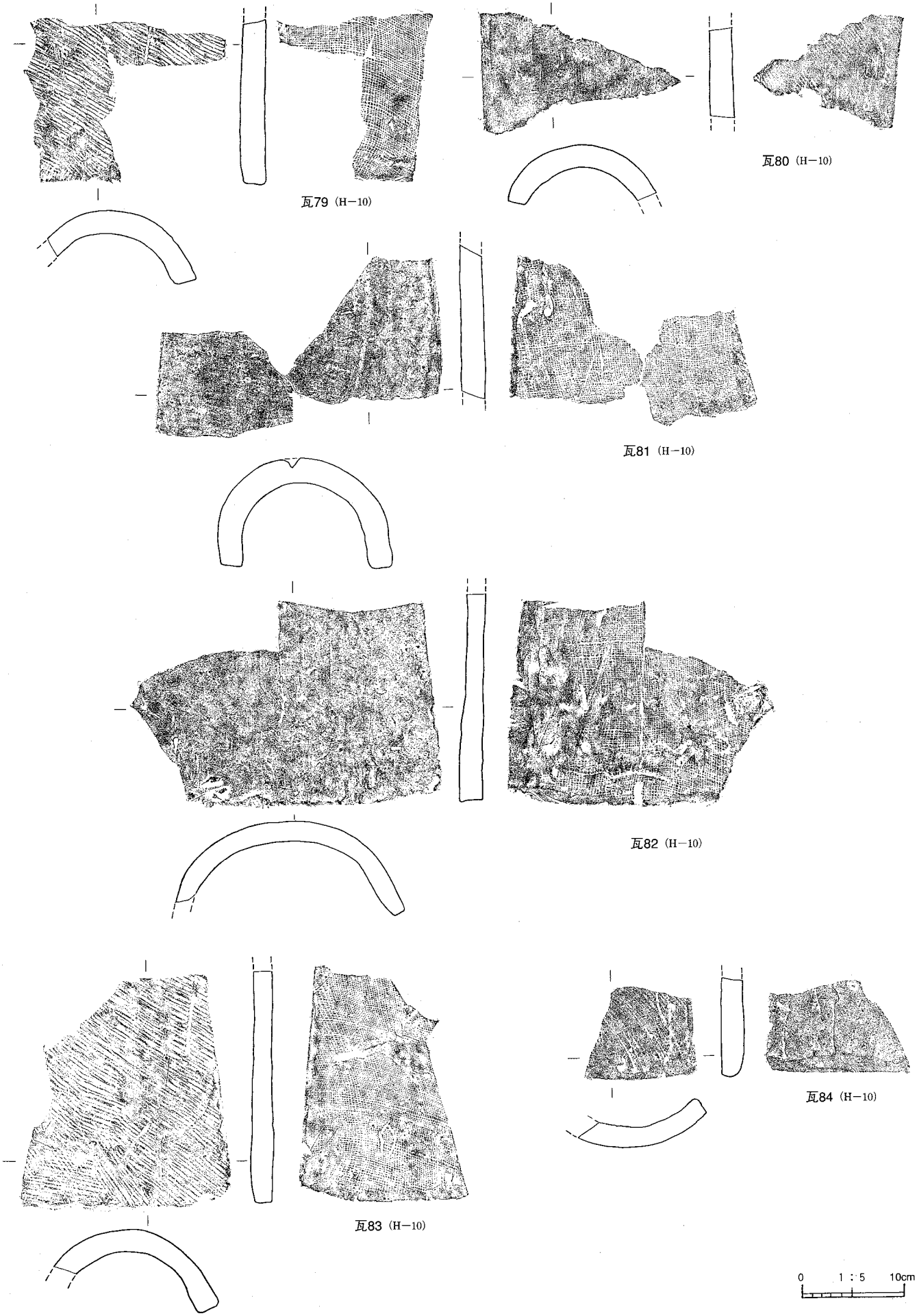


Fig.47 瓦79～84

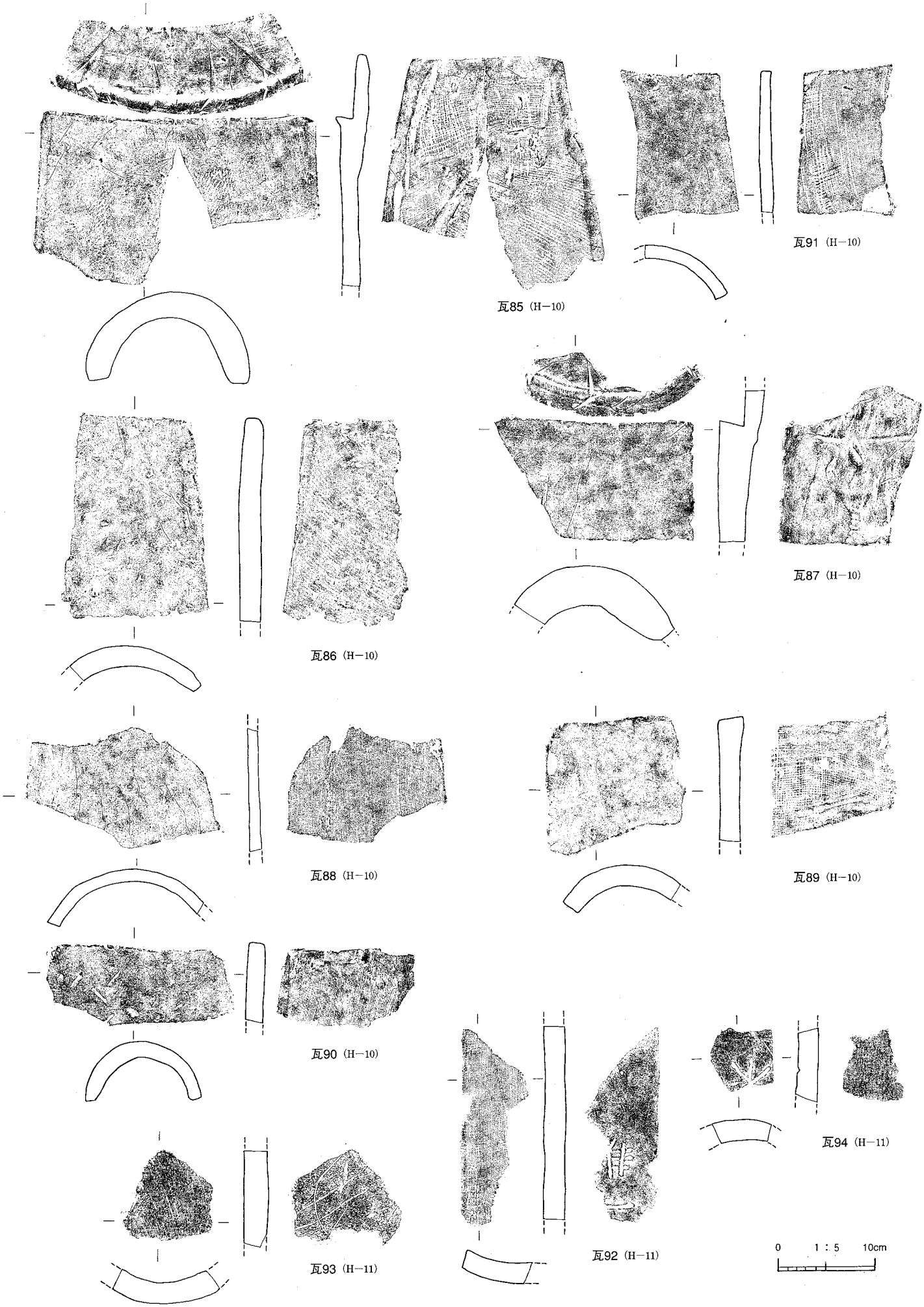

瓦85 (H−10)
瓦91 (H−10)
瓦86 (H−10)
瓦87 (H−10)
瓦88 (H−10)
瓦89 (H−10)
瓦90 (H−10)
瓦93 (H−11)
瓦92 (H−11)
瓦94 (H−11)
0 1：5 10cm

Fig.48 瓦85～94

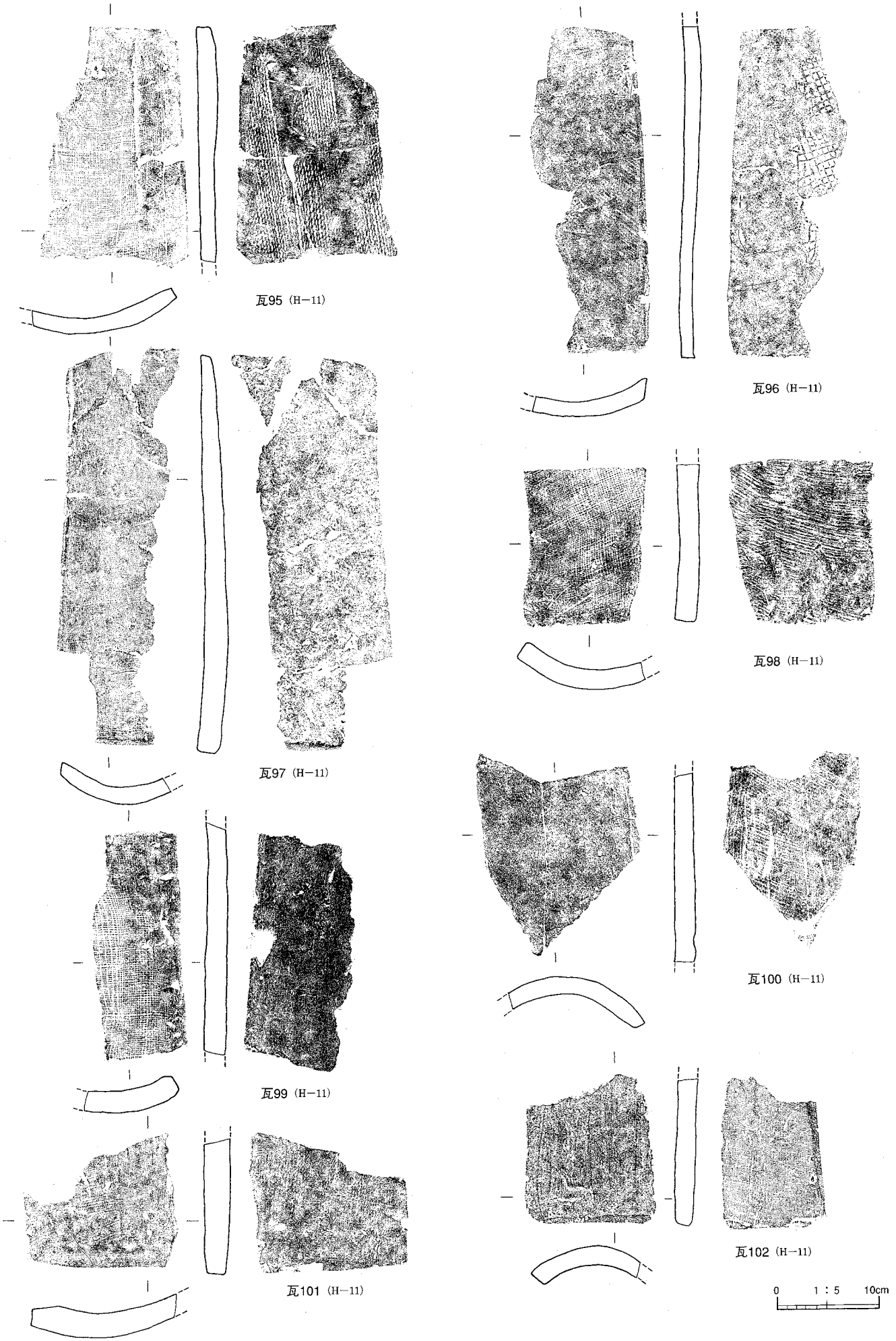
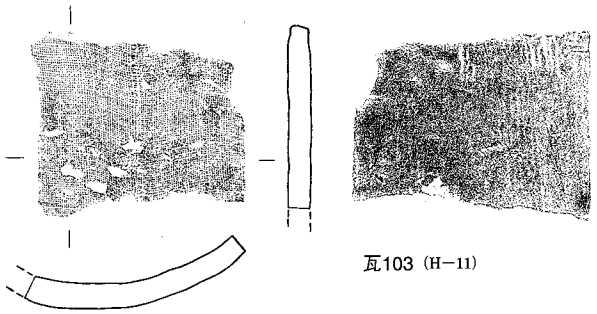
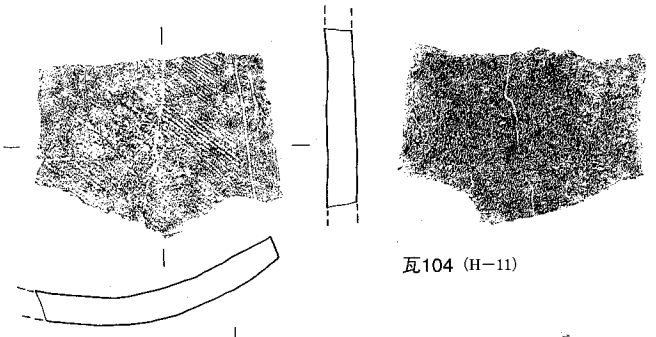


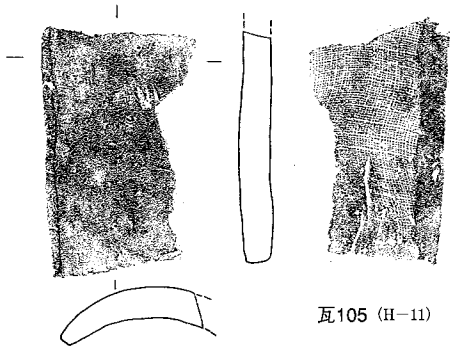
Fig.49 瓦95～102



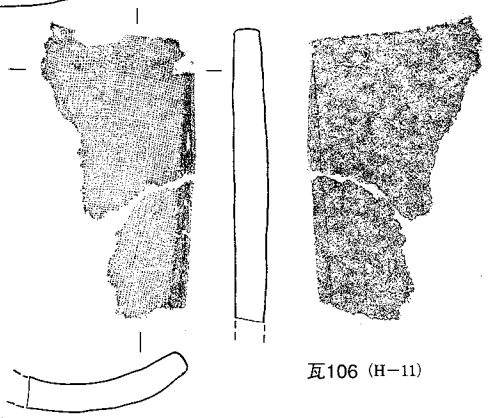
瓦103 (H−11)



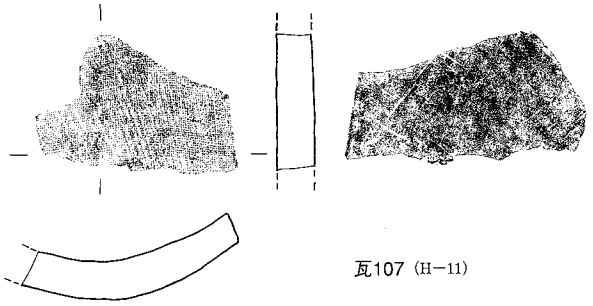
瓦104 (H−11)



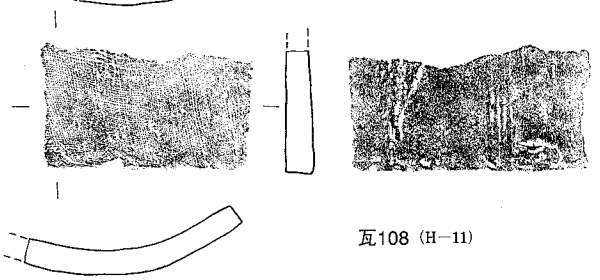
瓦105 (H−11)



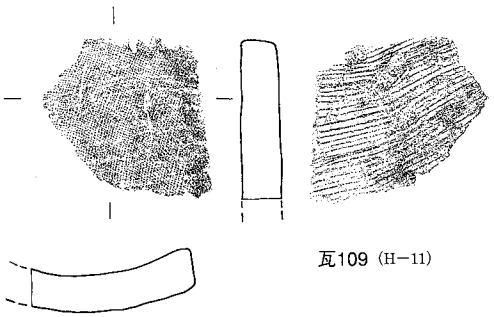
瓦106 (H−11)



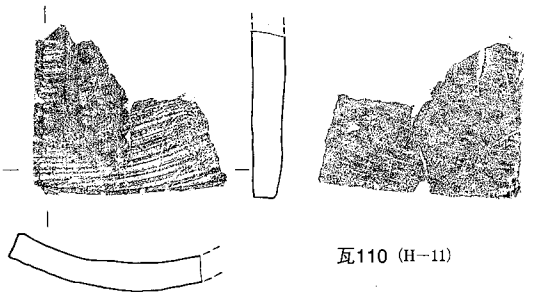
瓦107 (H−11)



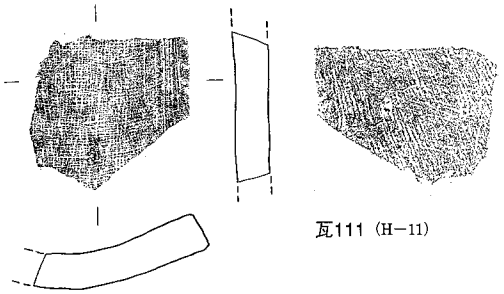
瓦108 (H−11)



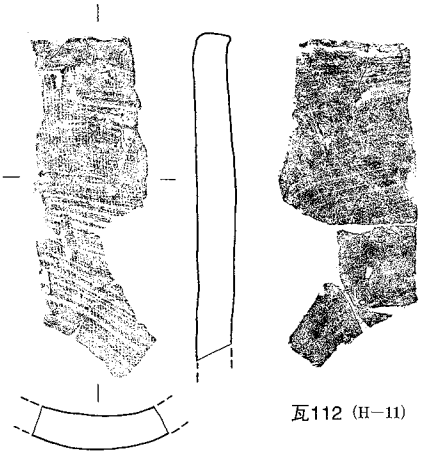
瓦109 (H−11)



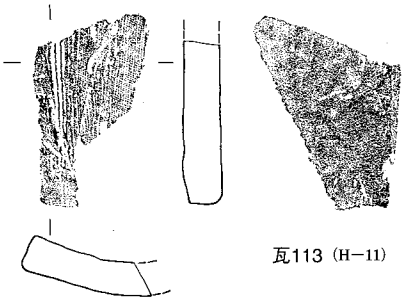
瓦110 (H−11)



瓦111 (H−11)



瓦112 (H−11)



瓦113 (H−11)

0 1：5 10cm

Fig.50 瓦103～113

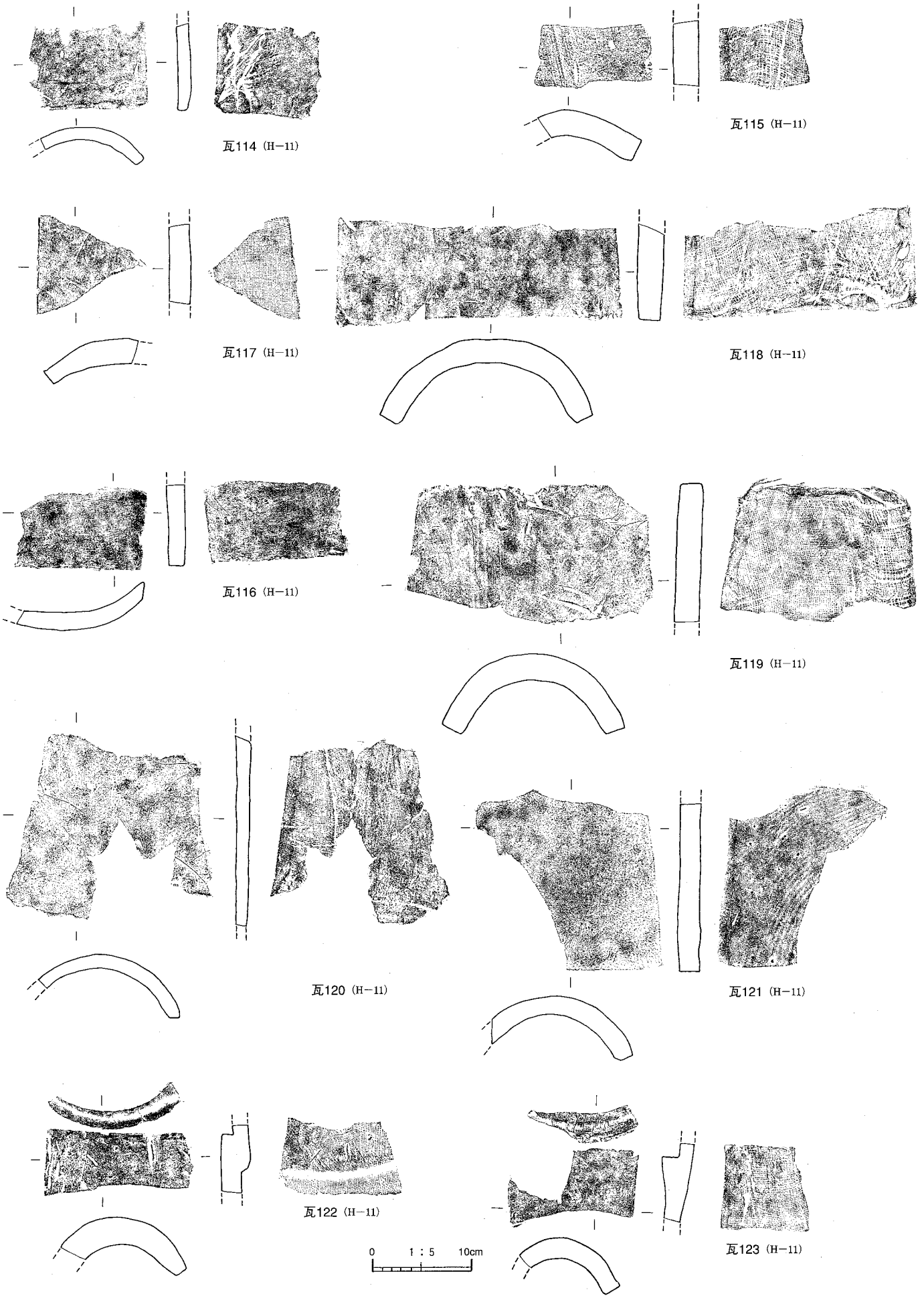


Fig.51 瓦114～123

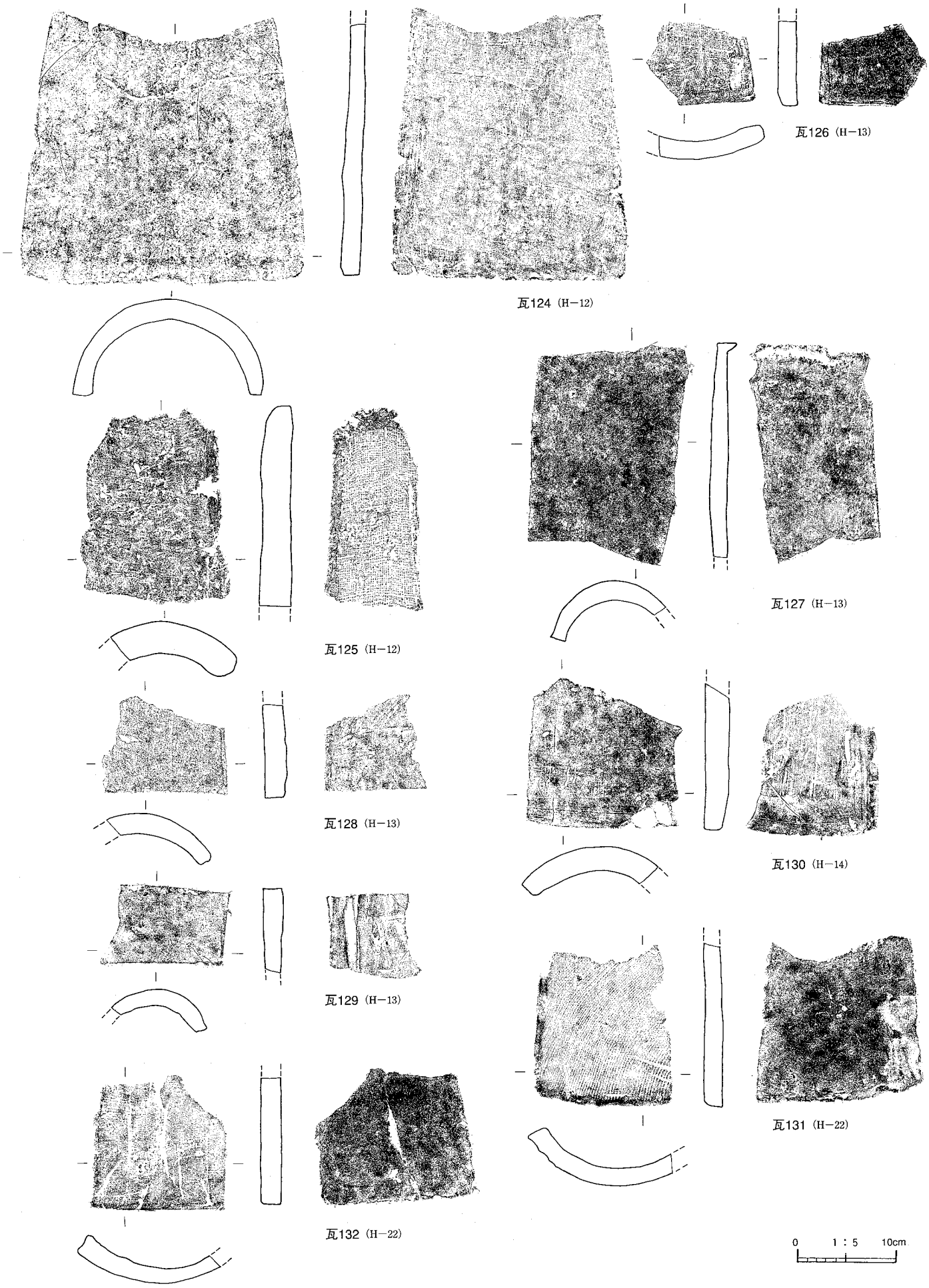


Fig.52 瓦124～132

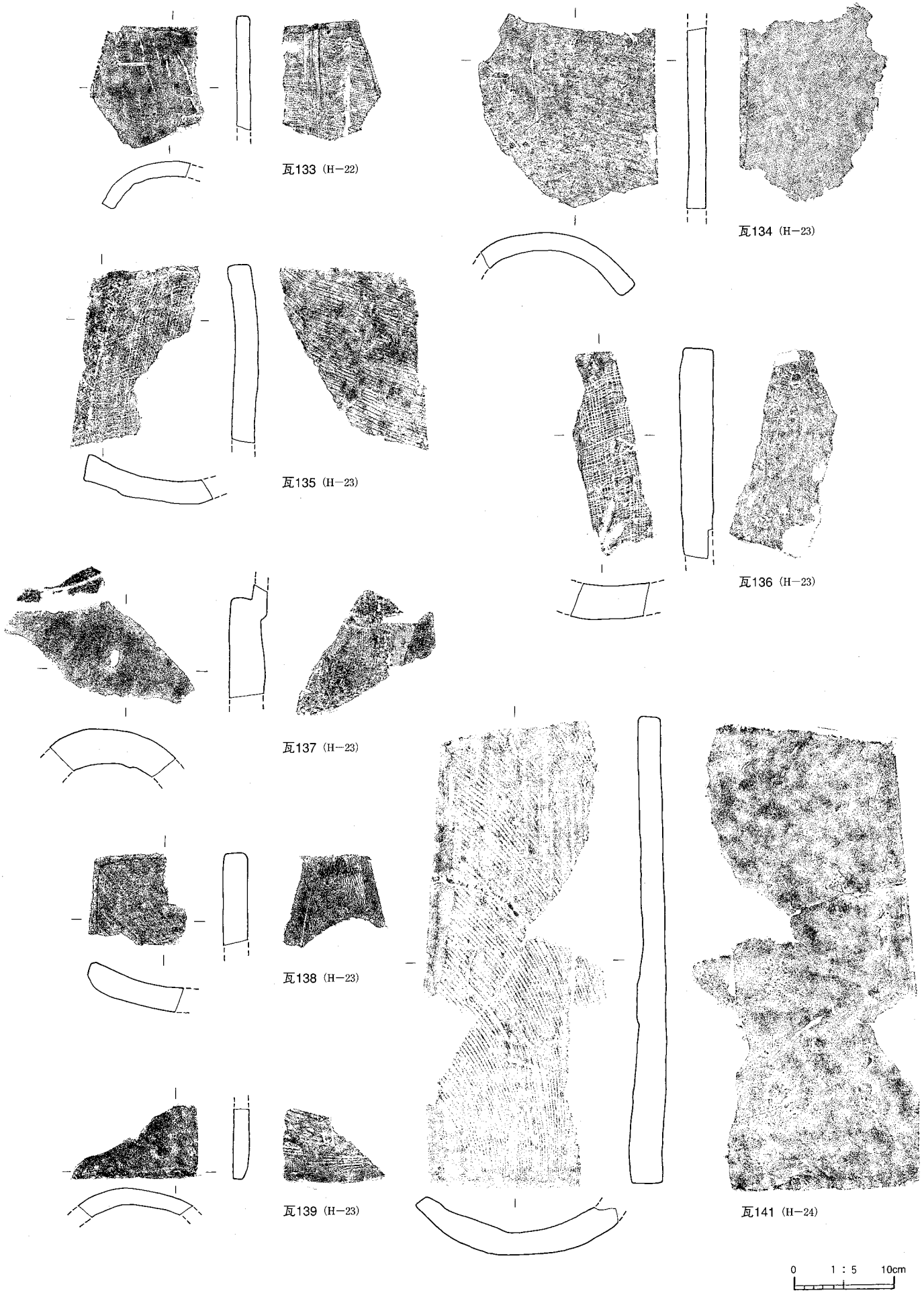


Fig.53 瓦133～139・141

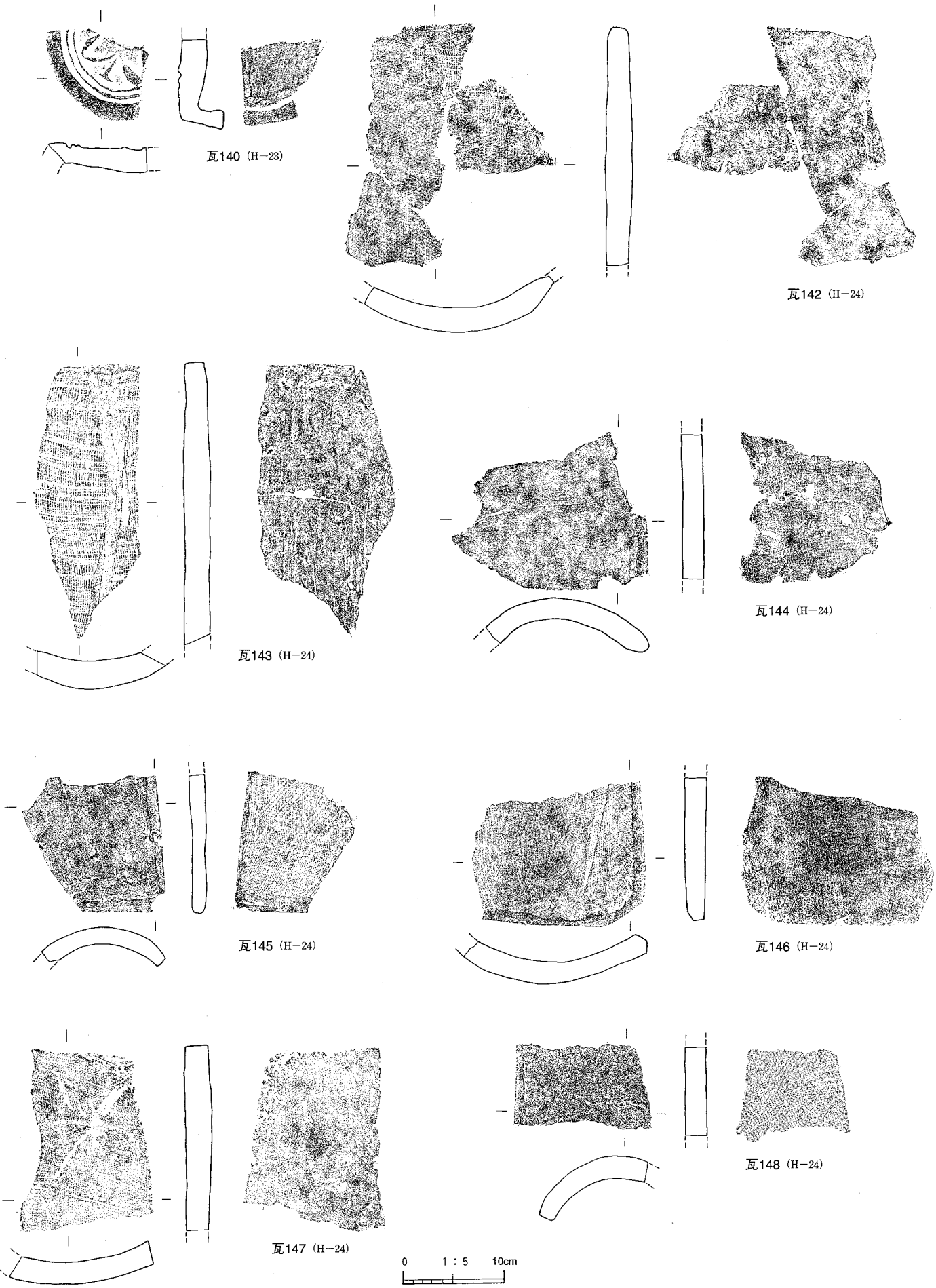
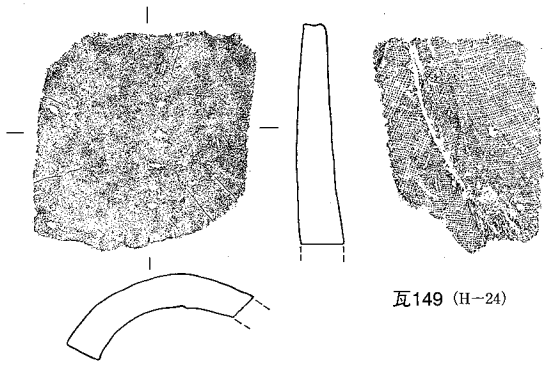
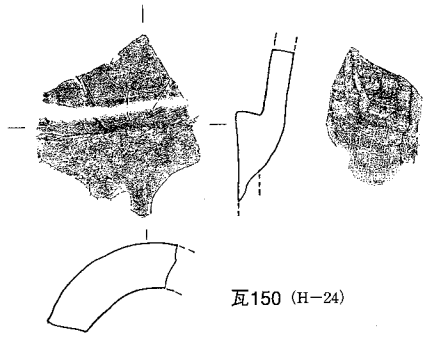


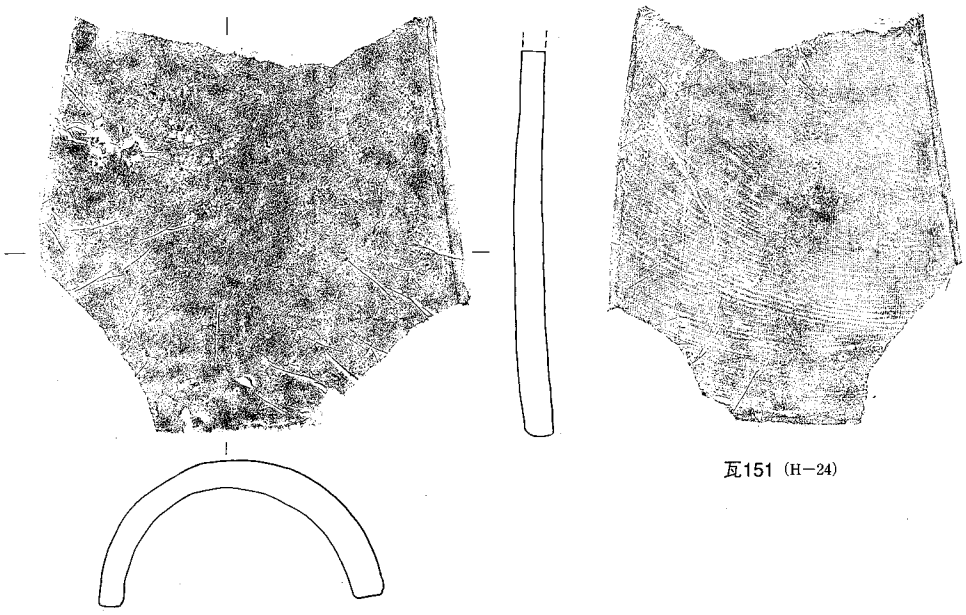
Fig.54 瓦140・142～148



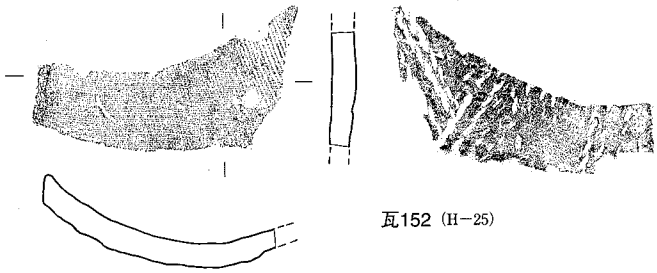
瓦149 (H−24)



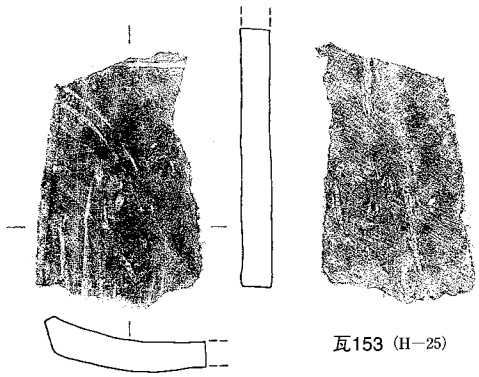
瓦150 (H−24)



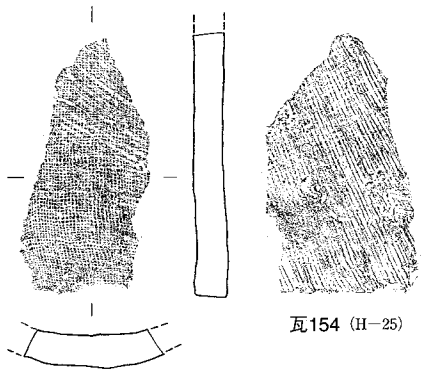
瓦151 (H−24)



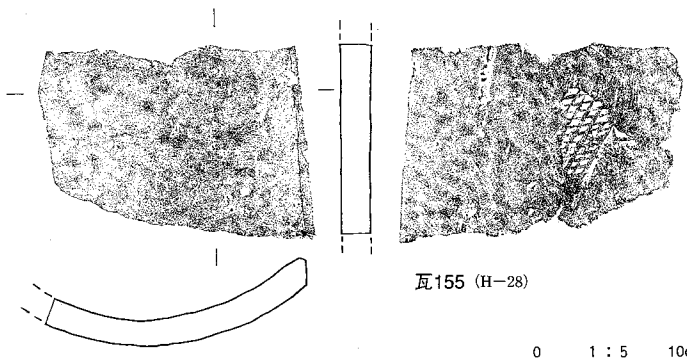
瓦152 (H−25)



瓦153 (H−25)



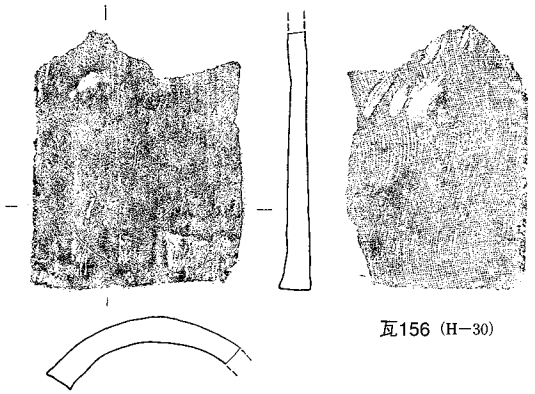
瓦154 (H−25)



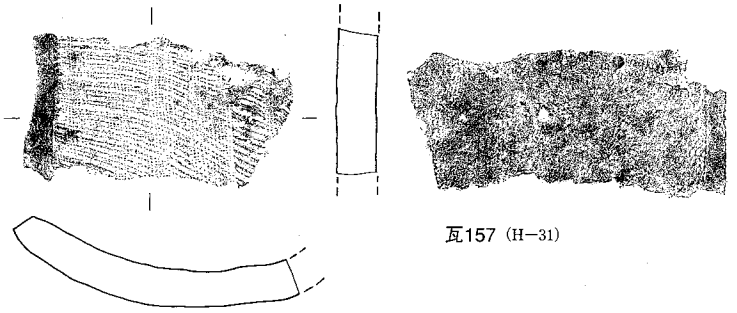
瓦155 (H−28)

0 1：5 10cm

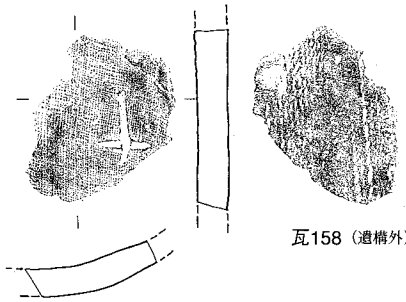
Fig.55 瓦149～155



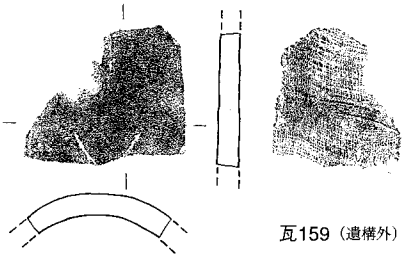
瓦156（H−30）



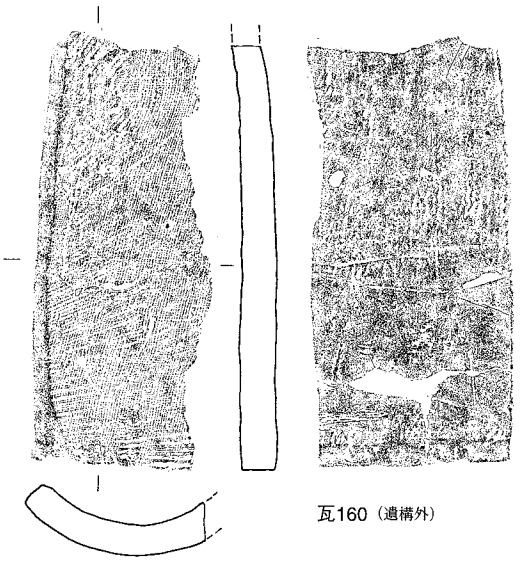
瓦157（H−31）



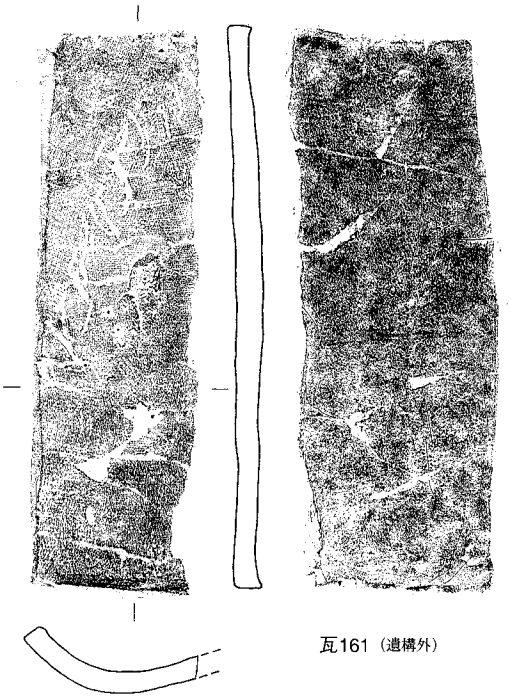
瓦158（遺構外）



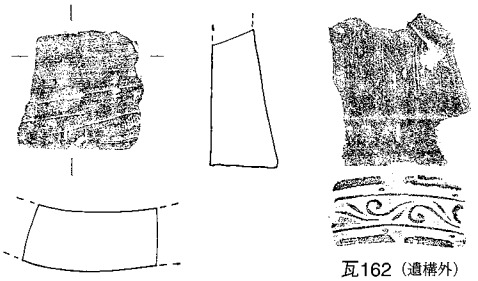
瓦159（遺構外）



瓦160（遺構外）



瓦161（遺構外）



瓦162（遺構外）

0　1：5　10cm

Fig.56　瓦156～162

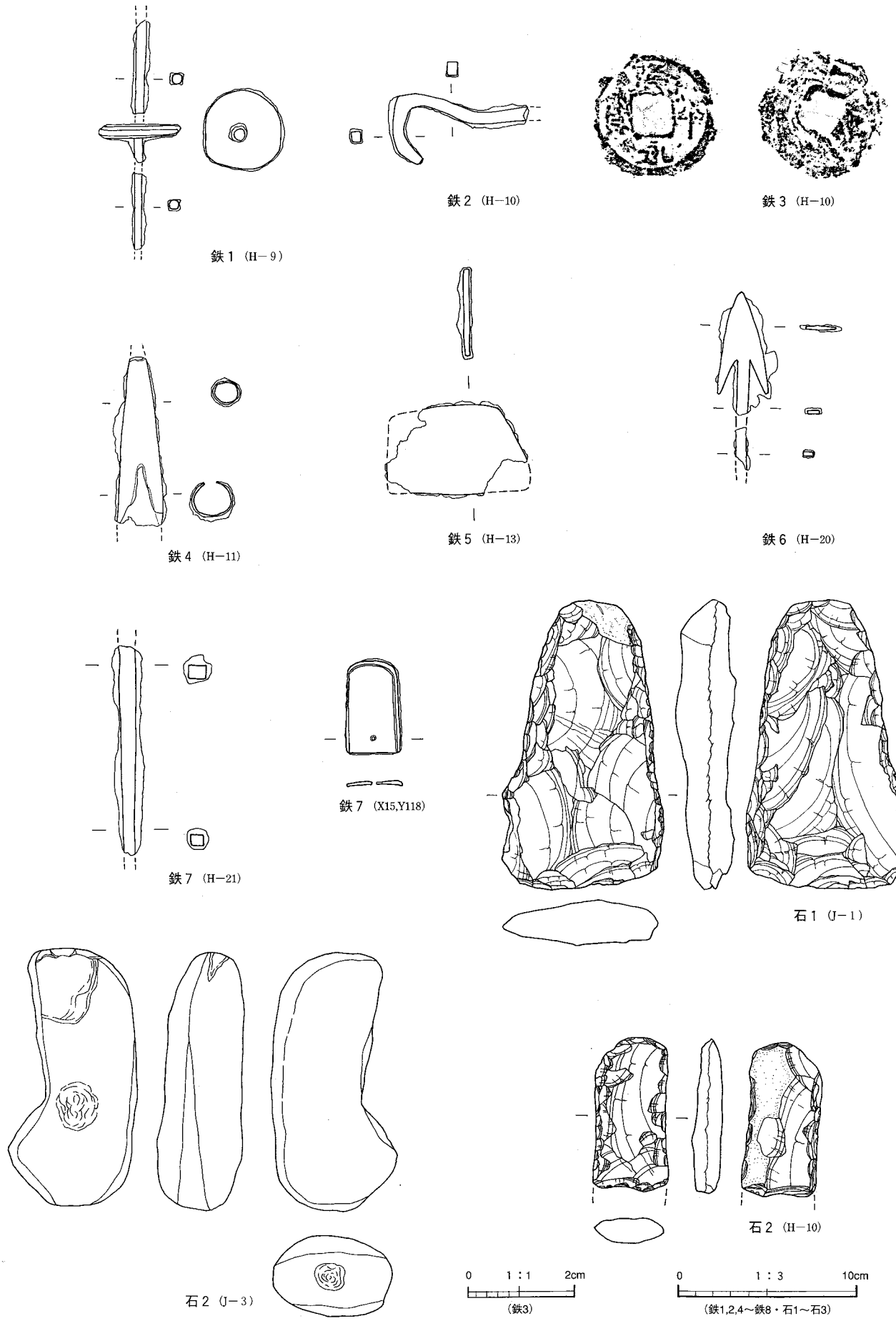
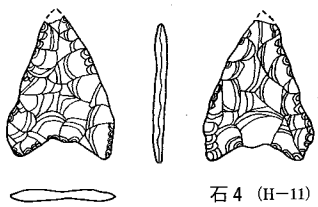
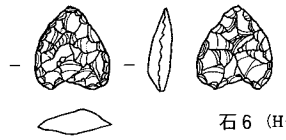


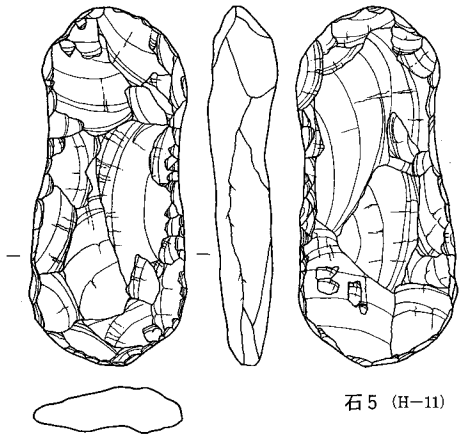
Fig.57 鉄製品、古銭、石器



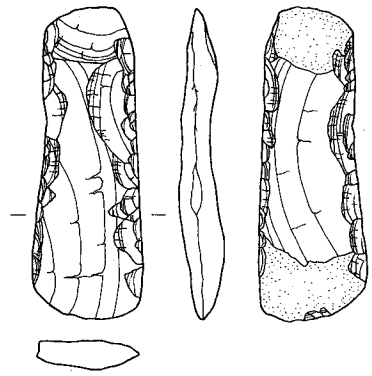
石4 (H−11)



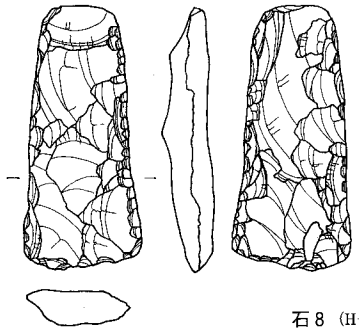
石6 (H−12)



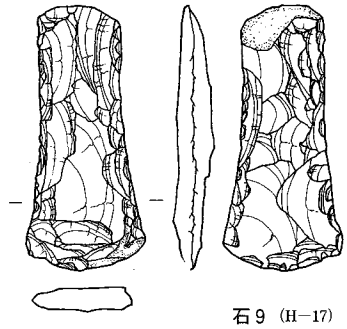
石5 (H−11)



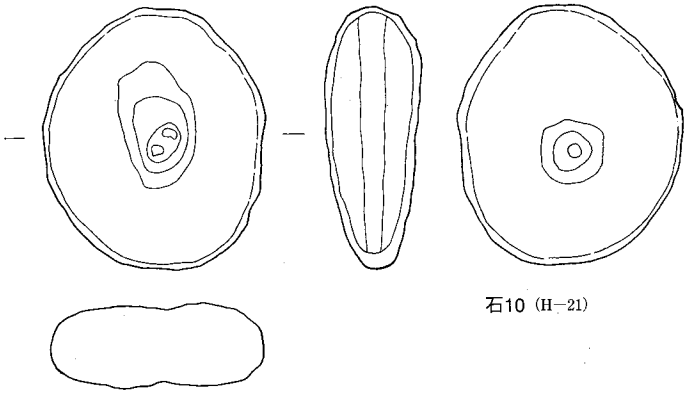
石7 (H−14)



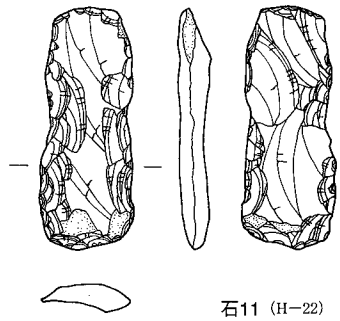
石8 (H−17)



石9 (H−17)



石10 (H−21)



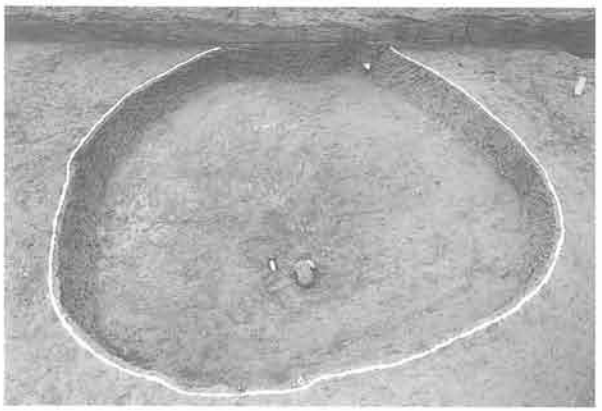
石11 (H−22)

0 1：1 2cm
(石4・石6)

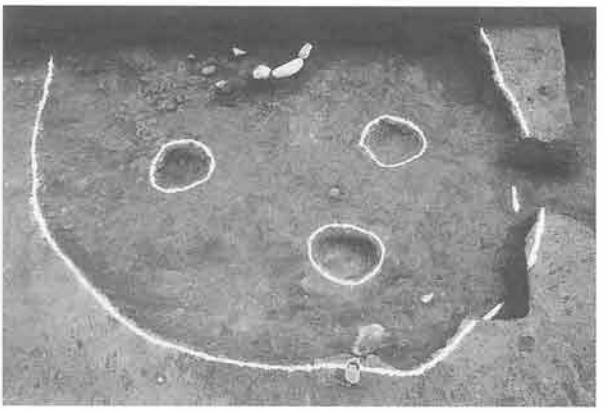
0 1：3 10cm
(石5・石7～石11)

Fig.58 石器

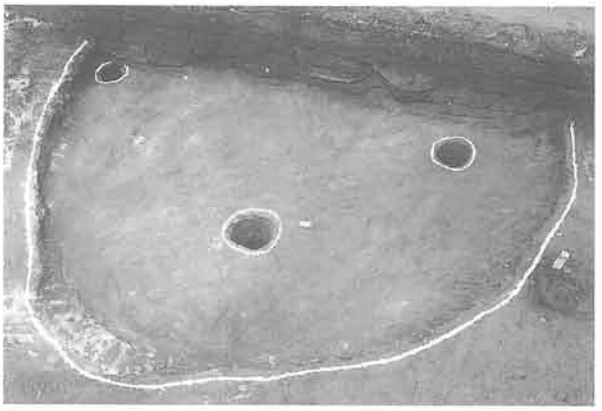
調査区中央部全景（南から）



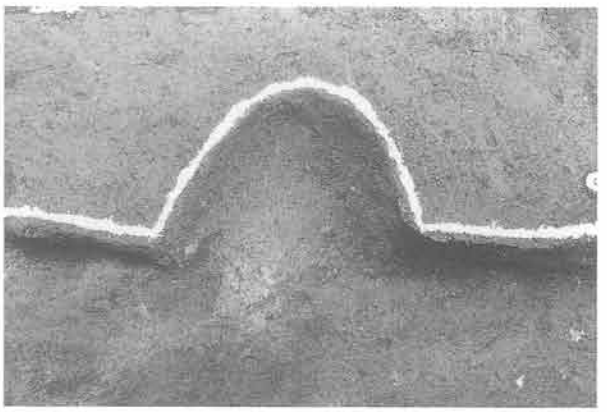
J－1号住居跡全景（東から）



J－2号住居跡全景（西から）



J－3号住居跡全景（東から）



H－2号住居跡竈全景（西から）

H－3号住居跡全景（西から）

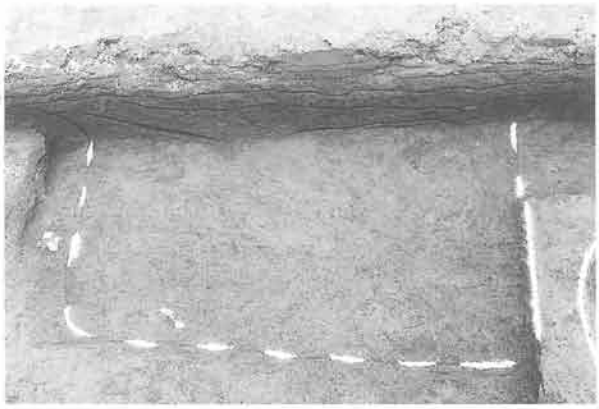
H－3号住居跡竈全景（西から）

H－3号住居跡遺物出土状況（西から）

H－3号住居跡遺物出土状況（西から）

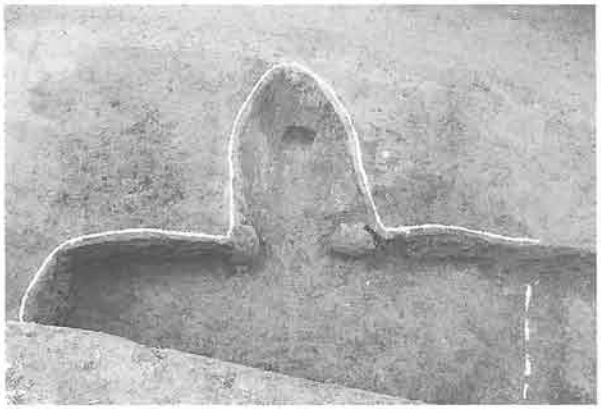
H－4号住居跡全景（西から）

H－4号住居跡竈全景（西から）

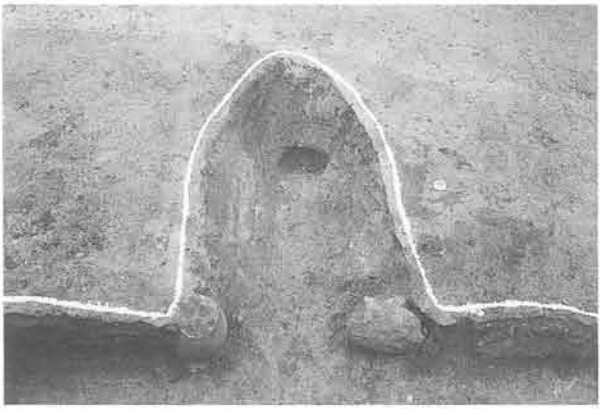


H－5号住居跡全景（西から）

H－7号住居跡竈全景（西から）



H－6号住居跡全景（西から）

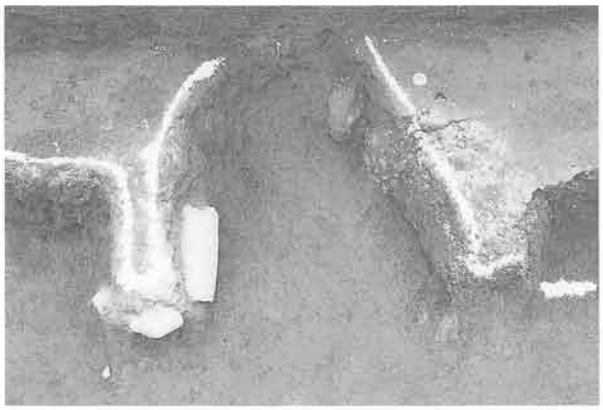


H－6号住居跡竈全景（西から）

H－6号住居跡遺物出土状況（西から）

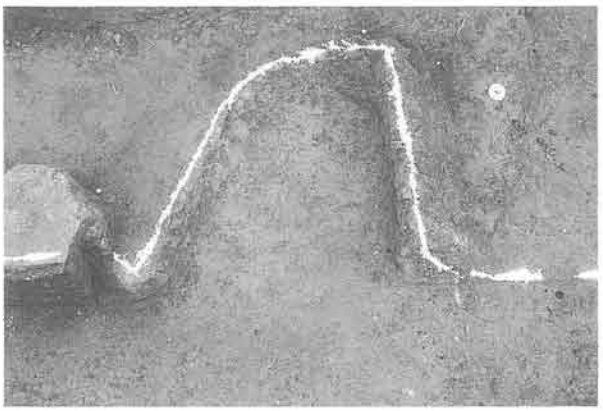
H－9号住居跡遺物出土状況（西から）

H－8号住居跡全景（西から）



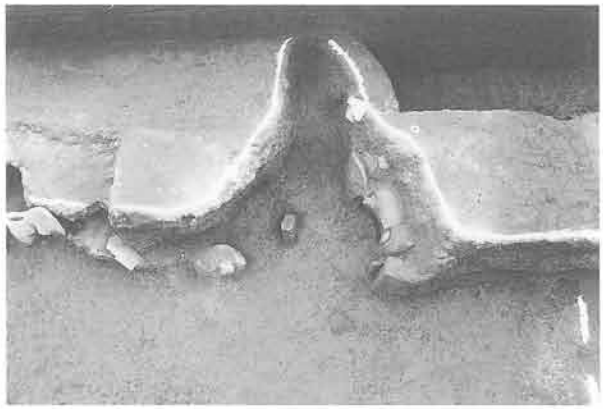
H－8号住居跡竈全景（西から）

H－9号住居跡全景（西から）



H－9号住居跡竈全景（西から）

H－10号住居跡全景（西から）

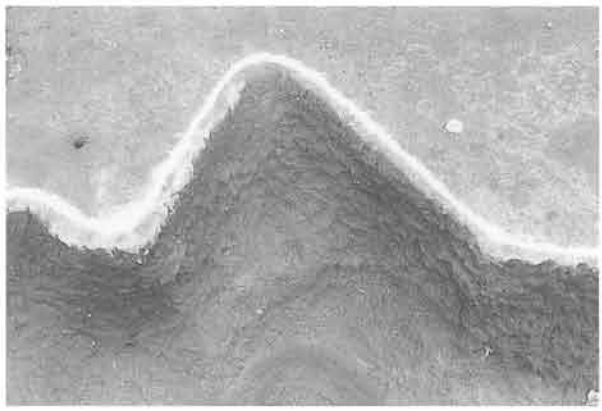


H－10号住居跡竈全景（西から）

H－10号住居跡遺物出土状況（西から）

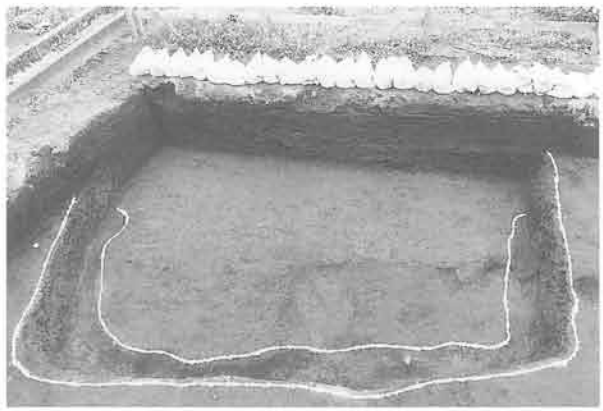
H－11号住居跡遺物出土状況（西から）

H－11号住居跡全景（西から）

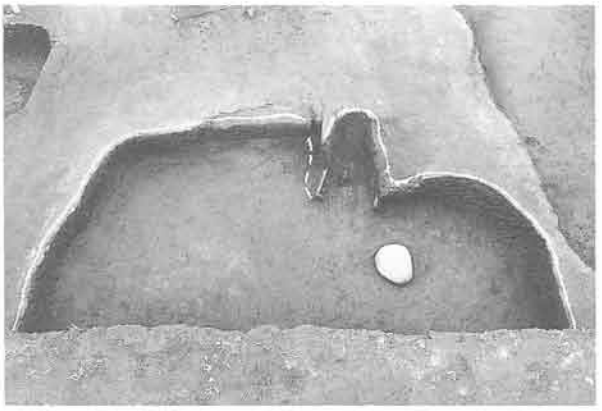


H－11号住居跡竈全景（西から）

H－11号住居跡遺物出土状況（北から）

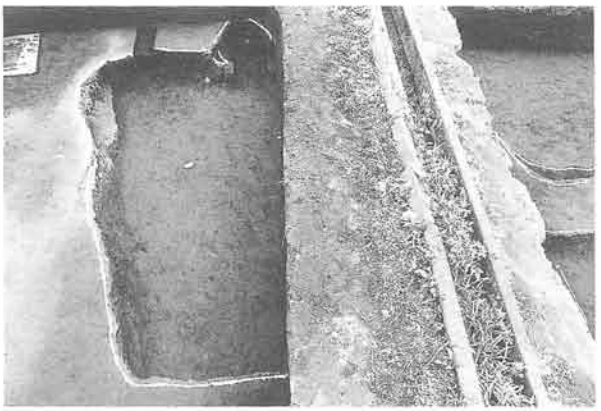


H－15号住居跡全景（西から）



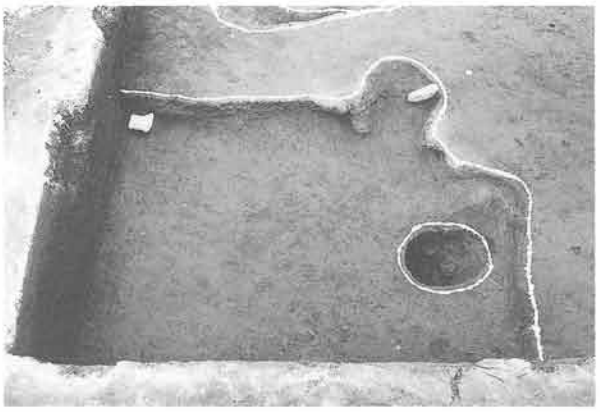
H－12号住居跡全景（西から）

H－12号住居跡竈全景（西から）



H－13号住居跡全景（西から）

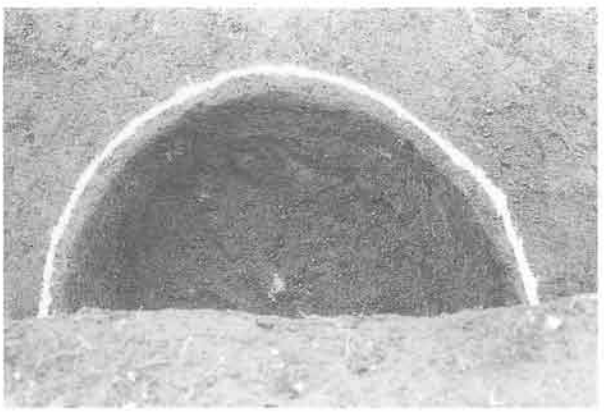
H－13号住居跡竈全景（西から）



H－14号住居跡全景（西から）

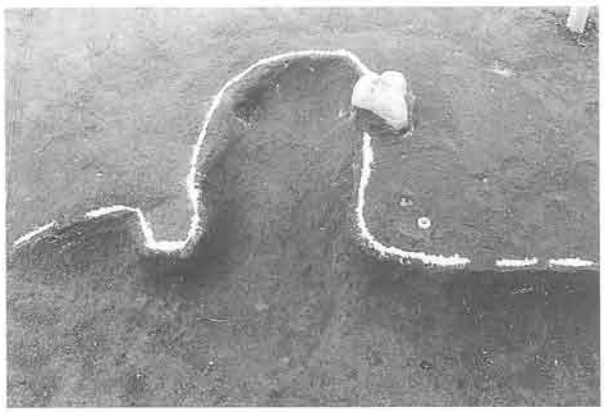
H－14号住居跡竈全景（西から）

H－14号住居跡遺物出土状況（南から）

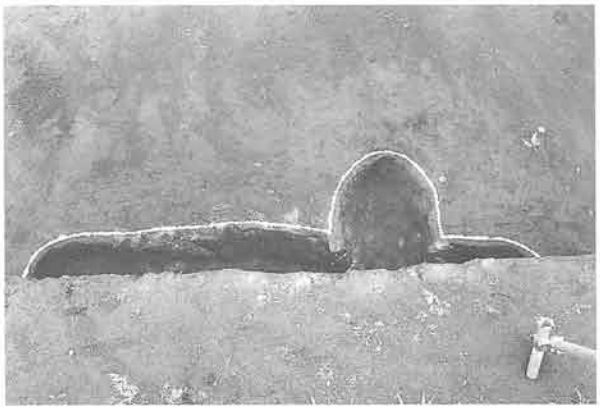


H－16号住居跡竈全景（西から）

H－17号住居跡全景（西から）



H－18号住居跡竈全景（西から）



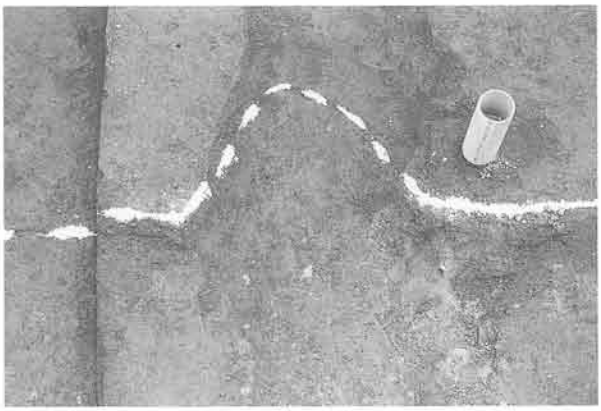
H－19号住居跡全景（西から）

H－19号住居跡竈全景（西から）

H－20号住居跡全景（西から）

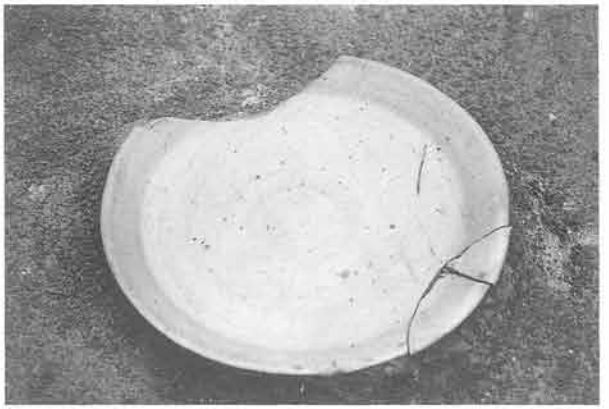
H－21号住居跡全景（西から）

H－22号住居跡全景（西から）

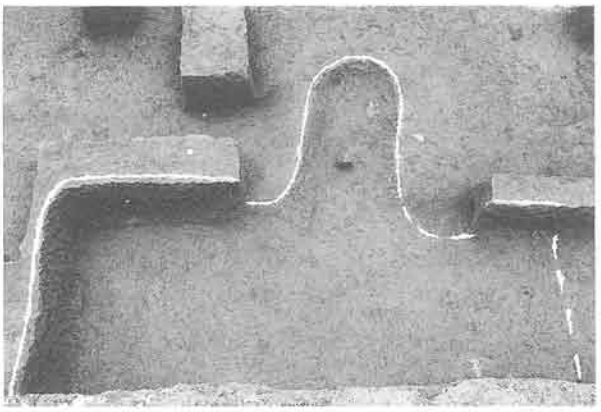


H－22号住居跡竈全景（西から）

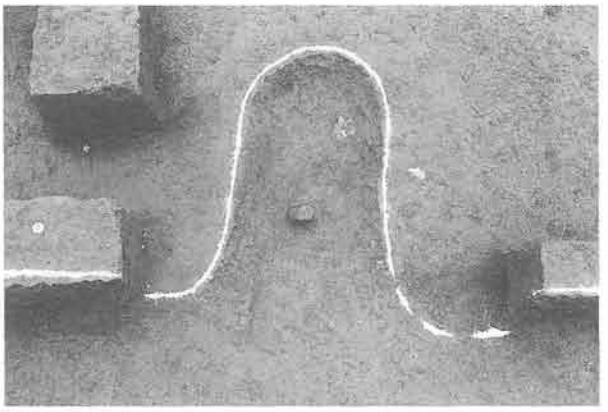
H－22号住居跡遺物出土状況（南から）



H－26号住居跡遺物出土状況（西から）

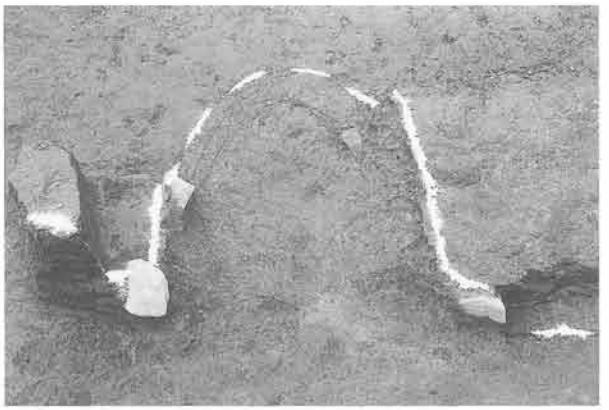


H－23号住居跡全景（西から）

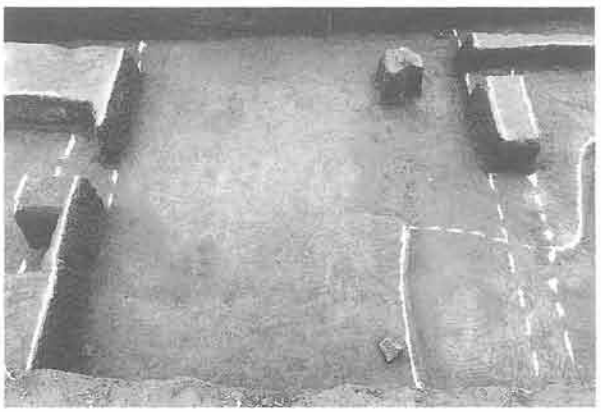


H－23号住居跡竈全景（西から）

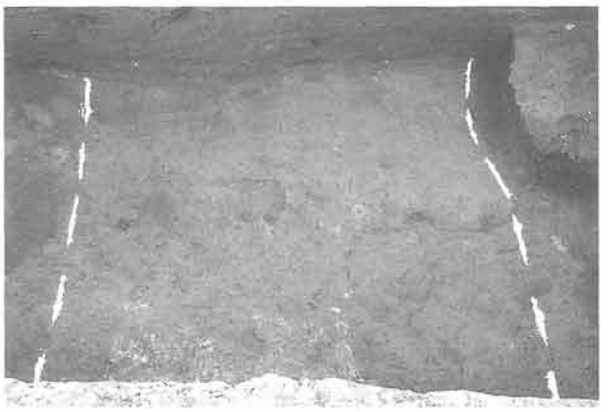
H－24号住居跡全景（西から）



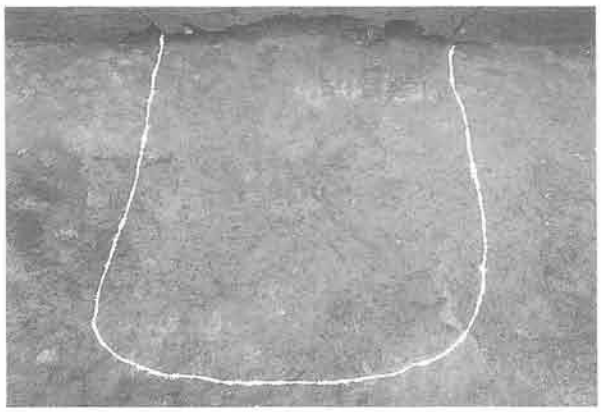
H－24号住居跡竈全景（西から）



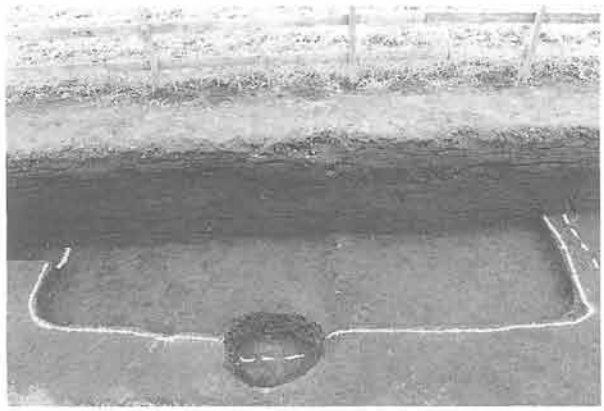
H－25号住居跡全景（西から）



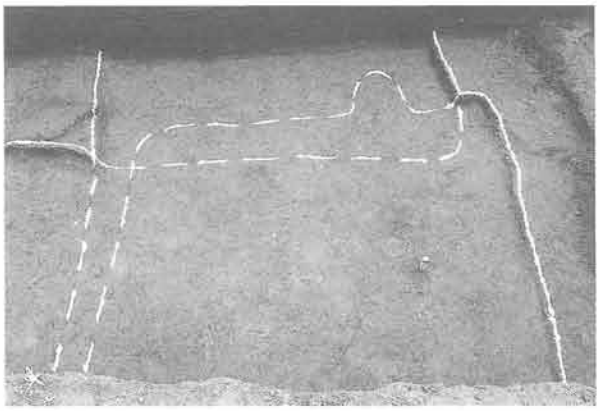
H－26号住居跡全景（西から）



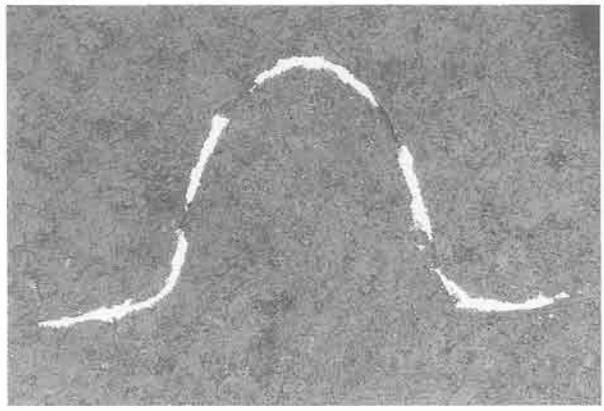
H－27号住居跡全景（西から）



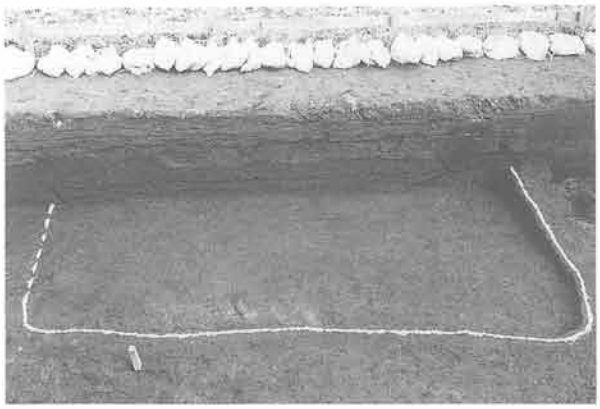
H－28号住居跡全景（西から）



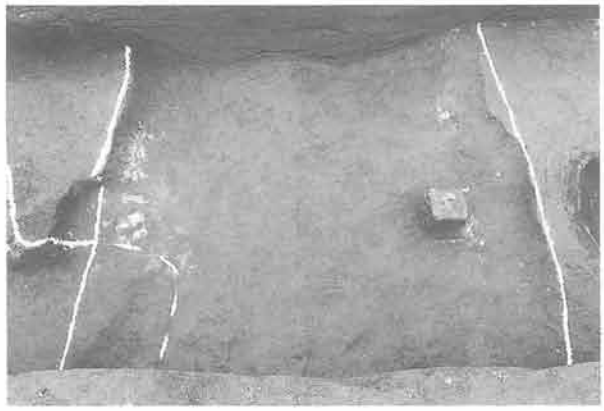
H－29・30号住居跡全景（西から）



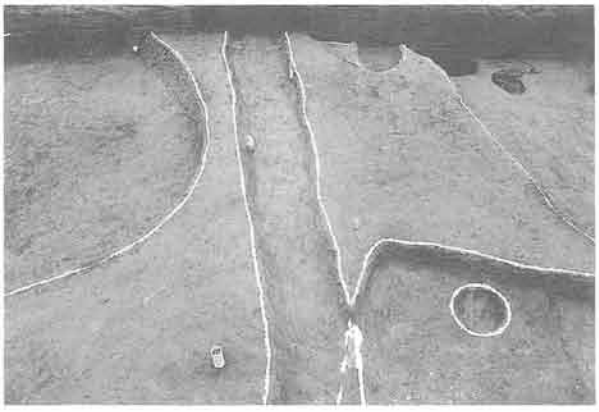
H－29号住居跡竈全景（西から）



H－31号住居跡全景（西から）



W－１号溝跡（西から）



W－２号溝跡全景（東から）

調査を終えて

縄2（J－1）

縄3（J－1）

縄4（J－1）

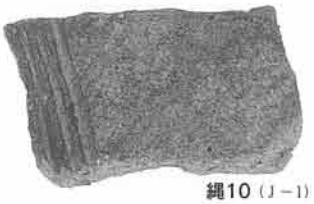
縄5（J－1）

縄6（J－1）

縄7（J－1）

縄8（J－1）

縄9（J－1）


縄10（J－1）

縄11（J－2）

縄12（J－2）

縄13（J－2）

縄14（J－2）

縄15（J－2）

縄1（J－1）

縄17（J－3）

縄18（J－3）

縄16（J－3）

縄19（J－3）

縄20（J－3）

縄21（遺構外）

縄22（遺構外）

縄23（遺構外）

縄24（遺構外）

縄25（遺構外）

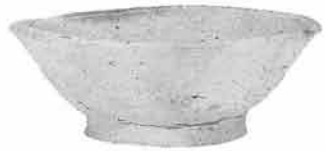
縄26（遺構外）

1（H－2）

2（H－3）

3（H－3）

4（H－3）

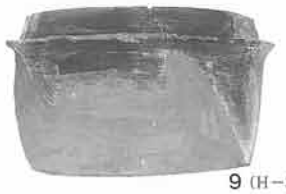

5（H－3）

10（H－3）

6（H－3）

7（H－3）

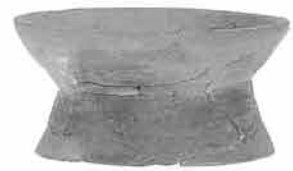
17（H－6）


9（H－3）

12（H－4）

13（H－4）

14（H－5）


15（H－5）

11 (H-3)

18 (H-6)

20 (H-6)

19 (H-6)

16 (H-6)

21 (H-8)

22 (H-8)

23 (H-8)

24 (H-8)

25 (H-8)

26 (H-9)

27 (H-9)

28 (H-9)

29 (H-9)

30 (H-9)

31 (H-9)

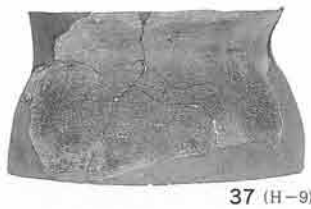
32 (H-9)

33 (H-9)

PL. 12

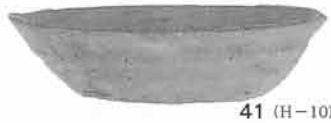
34 (H−9)

35 (H−9)


37 (H−9)

38 (H−10)

39 (H−10)

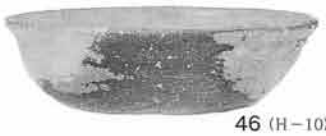

41 (H−10)

42 (H−10)

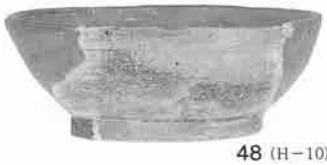
43 (H−10)

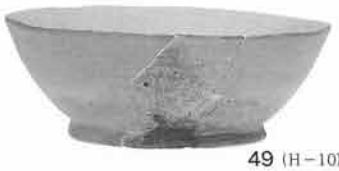
44 (H−10)

45 (H−10)

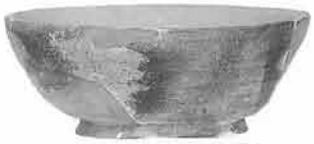

46 (H−10)

47 (H−10)


48 (H−10)


49 (H−10)

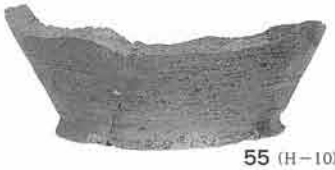
50 (H−10)

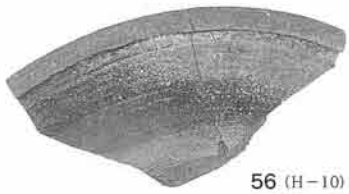

51 (H−10)

52 (H−10)

53 (H−10)

54 (H−10)


55 (H−10)


56 (H−10)

57 (H−10)

58 (H−11)

59 (H−11)

60 (H−11)

61 (H−11)

62 (H−11)

63 (H−11)

64 (H−11)

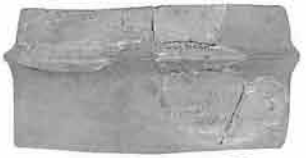
67 (H−11)

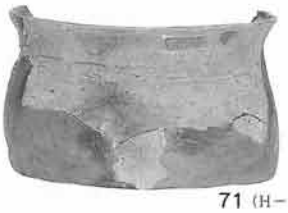
65 (H−11)

66 (H−11)

68 (H−11)

69 (H−11)


70 (H−11)


71 (H−11)

72 (H−11)

73 (H−12)

74 (H−12)

75 (H−12)

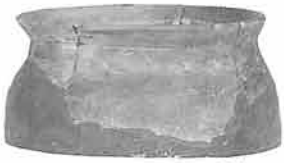
79 (H−12)

76 (H−12)

77 (H−12)

80 (H−12)

78 (H−12)

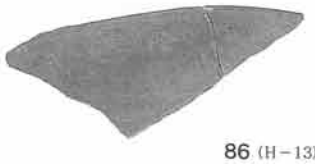

81 (H−12)

82 (H−13)

83 (H−13)

84 (H−13)

85 (H−13)


86 (H−13)

87 (H−14)

88 (H−14)

89 (H−14)

90 (H−14)

92 (H−14)

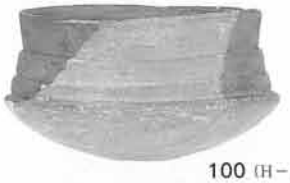
94 (H−15)

95 (H−15)

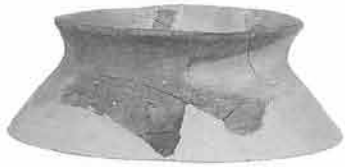
97 (H−15)

98 (H−15)

99 (H−17)


100 (H−17)

101 (H−17)


107 (H−17)

103 (H−17)

104 (H−17)

106 (H−17)

110 (H−20)

112 (H−20)

113 (H−21)

114 (H−21)

115 (H−21)

116 (H−21)

117 (H−21)

118 (H−22)

119 (H−22)

121 (H−23)

122 (H−23)

105 (H−17)

123 (H−23)

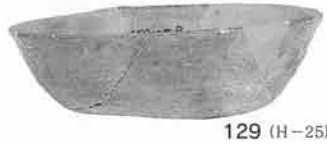
126 (H−24)

120 (H−22)

127 (H−24)

131 (H−25)

128 (H−24)

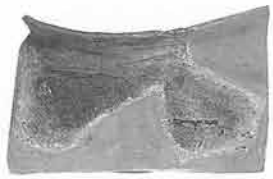

129 (H−25)

130 (H−25)

179 (H−31)

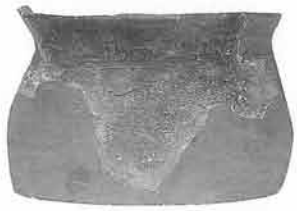
133 (H−26)

134 (H−26)


135 (H−26)

136 (H−27)

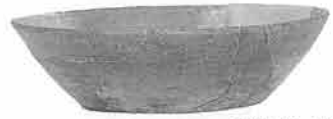
137 (H−27)


138 (H−27)

139 (H−28)

140 (H−29)

142 (H−31)


143 (H−31)

146 (X15Y118)

瓦4 (H−4)

瓦4 (H−4)

瓦3 (H−4)

瓦3 (H−4)

瓦7 (H−8)

瓦7 (H−8)

瓦5 (H−4)

瓦5 (H−4)

瓦7 (H−8)

瓦7 (H−8)

瓦7 (H−8)

瓦7 (H−8)

瓦8 (H−8)

瓦8 (H−8)

瓦8 (H−8)

瓦16 (H−8)

瓦16 (H−8)

瓦10 (H−8)

瓦20 (H−8)

瓦19 (H−8)

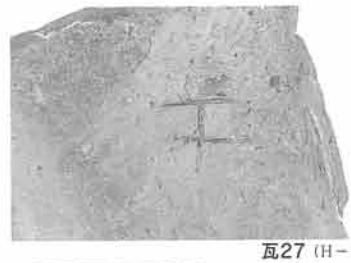
瓦19 (H−8)

瓦23 (H−9)

瓦27 (H−10)

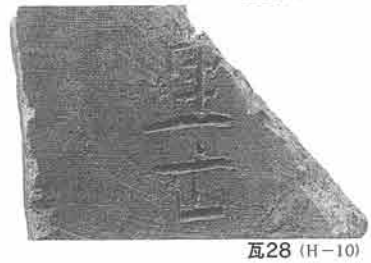
瓦27 (H−10)

瓦34 (H−10)


瓦27 (H−10)

瓦28 (H−10)

瓦28 (H−10)


瓦28 (H−10)

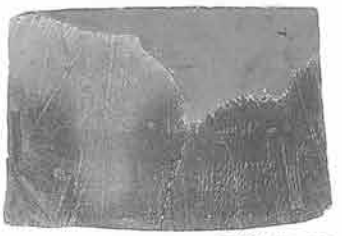
瓦29 (H−10)

瓦29 (H−10)

瓦29 (H−10)

瓦31 (H−10)

瓦32 (H−10)



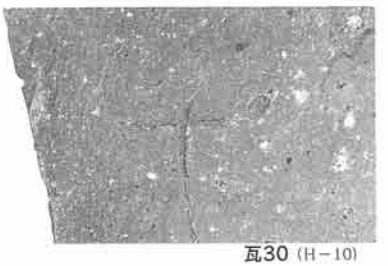
瓦32 (H−10)

瓦32 (H−10)

瓦33 (H−10)

瓦33 (H−10)

瓦30 (H−10)



瓦30 (H−10)

瓦36 (H−10)

瓦36 (H−10)

瓦35 (H−10)

瓦48 (H−10)

瓦52 (H−10)

瓦38 (H−10)

瓦38 (H−10)

瓦37 (H−10)

瓦68 (H−10)

瓦68 (H−10)

瓦42 (H−10)

瓦68 (H−10)

瓦67 (H−10)

瓦73 (H−10)

瓦69 (H−10)

瓦69 (H−10)

瓦69 (H−10)

瓦75 (H−10)

瓦72 (H−10)

瓦72 (H−10)

瓦87 (H−10)

瓦70 (H−10)

瓦70 (H−10)

瓦78 (H−10)

瓦70 (H−10)

瓦74 (H−10)

瓦74 (H−10)

瓦83 (H−10)

瓦76 (H−10)

瓦76 (H−10)

瓦90 (H−10)

瓦82 (H−10)

瓦82 (H−10)

瓦96 (H−11)

瓦122 (H−11)

瓦122 (H−11)

PL. 22

瓦92 (H−11)

瓦92 (H−11)

瓦85 (H−11)

瓦93 (H−11)

瓦92 (H−11)

瓦95 (H−11)

瓦93 (H−11)

瓦93 (H−11)

瓦94 (H−11)

瓦94 (H−11)

瓦94 (H−11)

瓦127 (H−13)

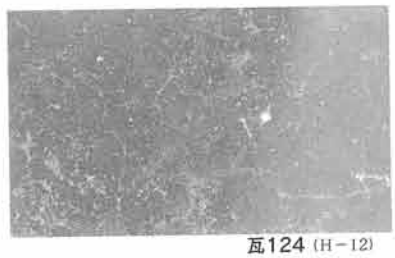
瓦119 (H−11)

瓦119 (H−11)

瓦146 (H−24)

瓦124 (H−12)

瓦124 (H−12)


瓦124 (H−12)

瓦131 (H−22)

瓦147 (H−24)

瓦143 (H−24)

瓦140 (H−23)

瓦141 (H−24)

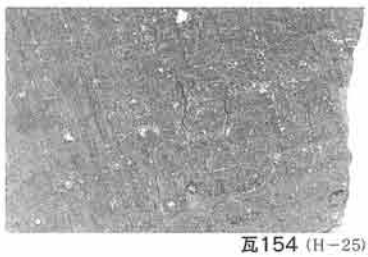
瓦150 (H−24)

瓦140 (H−23)

瓦151 (H−24)

瓦154 (H−25)

瓦154 (H−25)


瓦154 (H−25)

瓦155 (H−28)

瓦159 (遺構外)

瓦162 (遺構外)

瓦162 (遺構外)

瓦158 (遺構外)

瓦162 (遺構外)

瓦158 (遺構外)

瓦158 (遺構外)

鉄1 (H－9)

鉄2 (H－10)

鉄3 (H－10)

鉄4 (H－11)

鉄5 (H－13)

鉄6 (H－20)

鉄7 (H－21)

鉄8 (X15Y118)

石1 (J－1)

石2 (J－3)

石3 (H－10)

石4 (H－11)

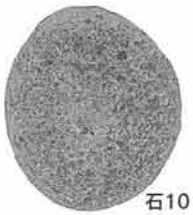
石5 (H－11)

石6 (H－12)

石7 (H－14)

石8 (H－17)

石9 (H－17)


石10 (H－21)

石11 (H－22)

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン　モトソウジャオミヨンイセキ
書名	元総社蒼海遺跡群　元総社小見Ⅳ遺跡
副書名	平成15年度　一般県道　足門前橋線バイパス（西毛広域幹線道路　国分寺工区）緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	髙橋　一彦　・　髙坂　麻子
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－2
発行年月日	西暦2004年３月12日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャ 元総社 オミヨンイセキ 小見Ⅳ遺跡	マエバシシ 前橋市 モトソウジャマチ 元総社町	10201	15A107	36°23′34″	139°01′33″	20030618 ～ 20030801	586.56㎡	一般県道足門前橋線バイパス(西毛広域幹線道路)緊急地方道路整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社 小見Ⅳ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡３軒	縄文土器、石器	なし
		古墳時代	竪穴住居跡１軒	土師器	
		奈良時代	竪穴住居跡１軒	土師器、須恵器	
		平安時代	竪穴住居跡24軒	須恵器、石器、鉄器、瓦	
		中世	溝２条		
		その他	土坑１基 他		

元総社蒼海遺跡群
元総社小見Ⅳ遺跡

2004年３月５日　印刷
2004年３月12日　発行

編集発行　前橋市埋蔵文化発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印 刷 所　上越印刷工業株式会社